

経済学科

開設科目	ミクロ経済学 Ia	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	寺地伸二				

授業の概要 ミクロ経済学の基本的な理論とその応用について講義をします。わたしたちの身の回りの経済現象を経済学の分析道具を使って解明していきます。はじめは難しそうな経済学独自の用語や概念がでてくると思いますが、しっかり出席して学習しましょう。

授業の一般目標 経済学の用語の意味を理解する。経済学的思考ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経済学の用語の意味を理解する。 思考・判断の観点：経済学の用語を用いて、経済の仕組みを考える。 関心・意欲の観点：経済問題に関心をもつようになる。 態度の観点：周りの人に迷惑になるので私語をしない。

授業の計画（全体）テキストに従って授業をします。前半は需要と供給の理論を中心に学び、市場の働きを理解します。後半は、企業の行動と消費者の行動を学習します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ミクロ経済学とは
- 第 2 回 項目 需要と供給
- 第 3 回 項目 弾力性とその応用
- 第 4 回 項目 需要、供給および政府の政策
- 第 5 回 項目 市場の効率性
- 第 6 回 項目 課税の費用
- 第 7 回 項目 外部性
- 第 8 回 項目 公共財
- 第 9 回 項目 生産の費用
- 第 10 回 項目 競争企業における企業
- 第 11 回 項目 独占
- 第 12 回 項目 生産要素市場
- 第 13 回 項目 消費者行動 その一
- 第 14 回 項目 消費者行動 その二
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）中間・期末試験を実施して、授業の理解度をみる。

メッセージ 授業の内容で分からないことがあれば、必ず質問しましょう。

開設科目	ミクロ経済学 I b	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	石田成則				

授業の概要 ミクロ経済学の基本的な理論とその応用について講義します。わたしたちの身の回りの経済現象を経済学の分析道具を使って解明していきます。はじめは難しそうな経済学独自の用語や概念がでてくると思いますが、しっかり出席して学習しましょう。

授業の一般目標 経済学の用語の意味を理解する。経済学的思考ができるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経済学の用語の意味を理解する。 思考・判断の観点：経済学の用語を用いて、経済の仕組みを考える。 関心・意欲の観点：経済問題に関心をもつようになる。 態度の観点：周りの人に迷惑になるので、私語をしない。

授業の計画（全体）テキストに従って授業します。前半は需要と供給の理論を中心に学び、市場の働きを理解します。後半は、企業の行動と消費者の行動を学習します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ミクロ経済学とは
- 第 2 回 項目 需要と供給
- 第 3 回 項目 弾力性とその応用
- 第 4 回 項目 需要、供給および政府の政策
- 第 5 回 項目 市場の効率性
- 第 6 回 項目 課税の費用
- 第 7 回 項目 外部性
- 第 8 回 項目 公共財
- 第 9 回 項目 生産の費用
- 第 10 回 項目 競争市場における企業
- 第 11 回 項目 独占
- 第 12 回 項目 生産要素市場
- 第 13 回 項目 消費者行動 その一
- 第 14 回 項目 消費者行動 その二
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）中間・期末試験を実施して、授業の理解度をみる。

メッセージ 授業の内容で分からないことがあれば、必ず質問しましょう。

開設科目	マクロ経済学 Ia	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山田正雄				

授業の概要 マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的（マクロ的）視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されているのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。

授業の一般目標 1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身につける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 GDP
- 第 3 回 項目 失業率と物価水準の測定
- 第 4 回 項目 消費関数
- 第 5 回 項目 45 度線分析
- 第 6 回 項目 乗数効果
- 第 7 回 項目 均衡予算乗数の定理
- 第 8 回 項目 投資関数
- 第 9 回 項目 貨幣供給と貨幣需要
- 第 10 回 項目 貨幣市場の均衡
- 第 11 回 項目 IS 曲線
- 第 12 回 項目 LM 曲線
- 第 13 回 項目 IS-LM 分析
- 第 14 回 項目 財政政策と金融政策
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験および出席で判定する。出席は加点要素とし最大 10 点加点する。

教科書・参考書 教科書：マクロ経済学 I, 馬田哲次, 自費出版, 2005 年

メッセージ ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問ですから、少しずつ理解を積み上げていくことが大切です。

開設科目	マクロ経済学 Ib	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山田正雄				

授業の概要 マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的（マクロ的）視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されているのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。

授業の一般目標 1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身につける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 GDP
- 第 3 回 項目 失業率と物価水準の測定
- 第 4 回 項目 消費関数
- 第 5 回 項目 45 度線分析
- 第 6 回 項目 乗数効果
- 第 7 回 項目 均衡予算乗数の定理
- 第 8 回 項目 投資関数
- 第 9 回 項目 貨幣供給と貨幣需要
- 第 10 回 項目 貨幣市場の均衡
- 第 11 回 項目 IS 曲線
- 第 12 回 項目 LM 曲線
- 第 13 回 項目 IS-LM 分析
- 第 14 回 項目 財政政策と金融政策
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験および出席で判定する。出席は加点要素とし最大 10 点加点する。

教科書・参考書 教科書：マクロ経済学 I, 馬田哲次, 自費出版, 2005 年

メッセージ ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問ですから、少しずつ理解を積み上げていくことが大切です。

開設科目	マクロ経済学 Ic	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的（マクロ的）視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されるのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。/検索キーワード マクロ経済学 景気循環 経済政策

授業の一般目標 1．マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身に付ける。 2．短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3．経済の国際的な依存関係を正確に知るために、開放マクロ経済学の基本を身につける。 4．マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。

授業計画（授業単位）/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 国民経済計算
- 第 3 回 項目 消費関数
- 第 4 回 項目 4 5 度線モデル
- 第 5 回 項目 投資関数
- 第 6 回 項目 貨幣市場
- 第 7 回 項目 IS-LM 分析 1
- 第 8 回 項目 IS-LM 分析 2
- 第 9 回 項目 中間テスト
- 第 10 回 項目 国際マクロ 1
- 第 11 回 項目 国際マクロ 2
- 第 12 回 項目 労働市場
- 第 13 回 項目 総需要・総供給分析
- 第 14 回 項目 総需要・総供給分析
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験（中間・期末）および出席で判定する。中間試験 40%、期末試験 60%、出席で最高 10 点加点。

教科書・参考書 教科書：「マクロ経済学講義 2005 年度版」, 馬田, 自費出版, 2005 年

メッセージ ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問ですから、少しずつ理解を積み上げていくことが大切です。

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	政治経済学 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	植村高久				

授業の概要 政治経済学 (マルクス経済学) の原理の骨格を理解すること、および経済体制としての資本主義の歴史的変遷と現代的な種々の問題について基礎的な点を理解することを課題にする。マルクスの経済学は現代の主流派経済学とは違ったやり方で経済活動を解明しようとするもので、資本主義の歴史的变化を捉えようとする視点とそれに適した分析用具をもつことが、特徴である。古くなったとはいえ、資本主義の発展段階や経済的变化、さらに不況などの経済変動を捉えることを得意とする。この授業では、こうしたマルクス経済学の特徴を理解するとともに、その特徴を生かして、資本主義とは何であるかを歴史に即しながら概観し、あわせて現代の経済問題への展望も試みる。

授業の一般目標 現代経済の動きや諸現象について、政治経済学の用語を用いて概略説明できること。政治経済学の用語について、そのあらましを説明できること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：政治経済学の基本的な用語を理解し、適切に使用できる。思考・判断の観点：経済的諸現象について、経済学的思考法に基づいて、把握しようとする。関心・意欲の観点：様々な経済現象に興味をもって継続的に観察できる。技能・表現の観点：経済学的な用語を含む平易な文献を自力で読むことができる。

授業の計画 (全体) 前半部分は理論の提示であり、後半は資本主義の歴史的発展と変貌の分析である。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 政治経済学とは何か：古典派とマルクス 内容 政治経済学と新古典派の違い、政治経済学の主要内容の紹介
- 第 2 回 項目 2. 商品と貨幣・市場の論理 内容 資本主義の主要要素である市場の仕組みの基本を示す。
- 第 3 回 項目 3. 資本 内容 資本 (営利企業) の特徴とその意義を示す。授業外指示 第 1 回レポート出題
- 第 4 回 項目 4. 労働・価値・剰余価値 内容 賃金や利潤などの所得の内容を労働価値説に基づいて解明する。
- 第 5 回 項目 5. 資本と技術革新 内容 資本はなぜ技術革新に熱心なのか、またその効果は何かを示す。授業外指示 第 2 回レポート出題
- 第 6 回 項目 6. 資本蓄積 (1) 内容 資本主義の拡大・成長の過程を労働力との関連で解明する
- 第 7 回 項目 7. 資本蓄積 (2) 内容 前回の続き。授業外指示 第 3 回レポート出題
- 第 8 回 項目 8. 産業革命と近代社会 (1) 内容 産業革命に至る資本主義の発展を解明。
- 第 9 回 項目 1. 政治経済学とは何か：古典派とマルクス 政治経済学と新古典派の違い、政治経済学の主要内容の紹介。 2. 商品と貨幣・市場の論理 資本主義の主要要素である市場の仕組みの基本を示す。 3. 資本 資本 (営利企業) の特徴とその意義を示す。第 1 回レポート出題。 4. 労働・価値・剰余価値 賃金や利潤などの所得の内容を労働価値説に基づいて解明する。 5. 資本と技術革新 資本はなぜ技術革新に熱心なのか、またその効果は何かを示す。第 2 回レポート出題。 6. 資本蓄積 (1) 資本主義の拡大・成長の過程を労働力との関連で解明する。 7. 資本蓄積 (2) 前回の続き。第 3 回レポート出題。 8. 資本主義の歴史的要素 資本主義の前提条件である伝統社会の解体・近代国民国家の成立と世界経済について説明する。 9. 産業革命と近代社会 資本主義の自立化の起点である産業革命の影響について解説。第 4 回レポート出題。 10. 大企業と組織された資本主義 (1) 19 世紀後半からの寡占的資本主義の特徴を解明する。 11. 大企業と組織された資本主義 (2) 前回の続き。 12. 大恐慌と世界経済の解体 1920 年代～40 年代の危機的な資本主義の時代を示す。第 5 回レポート出題。 13. 組織された資本主義の黄金時代 戦後の黄金時代 (1950～1970) を解明する。 14. グローバル化の下の資本主義 1970 年代から現代までの新自由主義的な資本主義の特徴を示す。第 6 回レポート出題。定期試験
9. 産業革命と近代社会 (2) 内容 資本主義の自立化の起点である産業革命の影響について解説 授業外指示 第 4 回レポート出題

- 第 10 回 項目 10. 大企業と組織された資本主義 (1) 内容 19 世紀後半からの寡占的資本主義の特質を解明する。
- 第 11 回 項目 < 第 11 週 > 11. 大企業と組織された資本主義 (2) 前回の続き。 内容 前回の続き。
- 第 12 回 項目 12. 大恐慌と世界経済の解体 内容 1920 年代～30 年代の危機的な資本主義の時代を示す。
授業外指示 第 5 回レポート出題
- 第 13 回 項目 13. 組織された資本主義の黄金時代 内容 戦後の黄金時代 (1950～1970) を解明する。
- 第 14 回 項目 14. グローバル化の下での資本主義 内容 1970 年代から現代までの新自由主義的な資本主義の特徴を示す。 授業外指示 第 6 回レポート出題
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法 (総合) 定期試験を中心にして評価するが (70%)、これに宿題 (練習問題のレポート) を加える (30%)。 質問票を提出してもらい、これで出席をチェックする。 欠席は 3 回を超えると受講放棄と見なす。 なお、読んだ質問票は 1 回につき 5 点を加点する。 定期試験は、比較的短い分量の記述式を中心にする。

教科書・参考書 教科書：テキストの代わりに毎回プリントを配布する。プリントは後からは配布しないので、各自でファイル等を用意して確実に保管しておくこと。

メッセージ 確実に出席し、ちゃんと授業を聞いていて、練習問題レポートを提出していればなんとか合格はできます。ともかくは、遅刻しないで毎回出席することを心がけて下さい。

連絡先・オフィスアワー uemura@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	政治経済学 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	植村高久				

授業の概要 「政治経済学 II」は、「マルクス経済学」を中心にした経済理論を学ぶ授業である。授業の狙いは、「政治経済学 I」の内容を基礎にして、市場経済というシステムがどのような性格を持ち、どのような働きを持っているのかを理解することにある。/ 検索キーワード 市場、貨幣、情報、限定合理性

授業の一般目標 資本主義のシステムの挙動が概略説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的なタームについて説明できる。 思考・判断の観点：資本主義の動作原理を念頭において、現実の経済現象をある程度推論できる。 関心・意欲の観点：経済現象を経済理論を用いて説明してみようとする意欲がある。 態度の観点：通常の経済理論の説明に対し、いつでも違った説明がありうるとする批判的な立場を理解できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 政治経済学の 枠組み 内容 政治経済学の特質を歴史性、社会関係の特質、経済的利益優先 という見地から 理解する。
- 第 2 回 項目 2. 市場の理論 内容 乏しい情報と弱い情報処理能力 という当事者の 特質から、貨幣 を用いた交換と 売買という制度 を説明する。
- 第 3 回 項目 3. 貨幣と商品流通 内容 貨幣交換媒介物 としての意義と 実際の市場の仕 組みを説明する。
- 第 4 回 項目 4. 消費と貨幣に 対する合理性 内容 貨幣に関連し、 際限のない消費 をどう考えるか を検討する。 授業外指示 レポート第 1 回
- 第 5 回 項目 5. 貨幣の権力 内容 貨幣を通じた人 間の支配など貨 幣が社会的力を 帯びることを理 解する。
- 第 6 回 項目 6. 資本とは何か 内容 資本 (営利企業) の一般的特質を 「利潤を得る」 という点から説 明する。
- 第 7 回 項目 7. 利潤率均等化 とその障害 内容 営利という資本 の特質は、利潤 率の高低に応じ た規則的な動き を引き起こす。 この原理と結果 を明らかにする とともに、実際 にはこの原理が 動作困難である ことを理解する。
- 第 8 回 項目 8. 商人と商業資本 内容 資本の最も基本 的な形である商 人とその現代的 な形である商業 資本、及び商業 資本が作り出す 市場構造と競争 の特質を説明する。
- 第 9 回 項目 9. 利子つき資本 内容 金貸しも古くからある資本であるが、利潤ではなく「利子」を得る。この「利子」の意味を示し、金貸しの特質を明らかにする。 授業外指示 レポート第 2 回
- 第 10 回 項目 10. 近代的信用制度 内容 現代の銀行は利子つき資本 (金貸し) と根本的に異なったものであり、決済制度と「信用」に基づくものである。この特質を示す。
- 第 11 回 項目 11. 産業資本 内容 製造業や農業を担う資本を産業資本と呼ぶ。その動作原理や生存の条件を示し、資本主義の基本的な特性を検討する。
- 第 12 回 項目 12. 資本による生産 内容 資本による生産は、著しい特質を持つ。この特質を資本の動作原理から説明する。
- 第 13 回 項目 13. 調整と再生産 内容 資本による生産が実際に需要と供給の関係を通じて、どのように調整されるか、あるいはそれが維持され続けるかを説明する。
- 第 14 回 項目 14. 資本蓄積 内容 利潤の再投資による資本の膨張を資本蓄積というが、資本蓄積が労働供給との間に持つ緊張関係を説明する。
- 第 15 回 項目 15. 競争と技術変化 内容 技術変化は資本蓄積、物価・景気に影響を与える。ここでは、そうした影響が全体としての資本主義の状況に与える影響を考察する。 授業外指示 レポート第 3 回

成績評価方法 (総合) 出席を質問票でチェックしています。欠席は 3 回までとします。評価は定期試験中心 (70%) 程度。レポート (宿題) 30% で、質問票を読んだ人は 1 回 2.5 点を加点します。試験の形式は論述式です。

教科書・参考書 教科書：プリントを授業時に配布します。

メッセージ 内容は経済理論としては平易な方だと思います。しっかり授業に出ていれば、誰でも理解できます。

連絡先・オフィスアワー Phone:083-933-5593 e-mail:uemura@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ミクロ経済学 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	寺地伸二				

授業の概要 ゲーム理論を用いた、ミクロ経済学の戦略的アプローチを学びます。かつてミクロ経済学は市場の分析が主でしたが、最近では組織や制度の分析に関心が移ってきています。組織や制度を分析するには、ゲーム理論が不可欠です。この授業では、簡単な二人ゲームを使って、ゲーム理論の初歩を学びます。

授業の一般目標 ゲーム理論の基礎を身につける。ゲーム理論を使って、現実の問題を分析できるようになる。

授業の計画（全体） 主に二人のプレイヤーを想定し、展開型ゲームと戦略型ゲームを学ぶ。実際の問題にゲーム理論を応用する。

成績評価方法（総合） 期末試験を実施して、授業の理解度をみる。

教科書・参考書 参考書：ミクロ経済学 戦略的アプローチ, 梶井厚志・松井彰彦, 日本評論社, 2000年；入門—ゲーム理論 戦略的思考の科学, 佐々木宏夫, 日本評論社, 2003年；入門ゲーム理論と情報の経済学, 神戸伸輔, 日本評論社, 2004年；ゲーム理論と蒟蒻問答, 金子守, 日本評論社, 2003年

メッセージ 授業で分からないことがあれば、必ず質問しましょう。

開設科目	マクロ経済学 II	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中村 保				

授業の概要 1．現在各国が直面しているマクロ経済問題について学習する。 2．短期のマクロ経済に関する政策論争を学習することを通して、現実のマクロ経済問題への理解を深める。 3．マクロ経済学の基礎となっているミクロ経済学の理解を通して、マクロとミクロの関係とそれぞれの有用性を確認する。

授業の一般目標 1（初歩的ではあるが）数学という分析ツールを使ってより厳密にマクロ経済現象を分析できるようになる。 2．マクロ経済分析に必要なミクロ経済学の基礎を身に付けて、より深いレベルでマクロ経済学を理解できるようになる。 3．現実の経済政策について経済学の基礎理論にしっかりと立脚した議論できるようになる。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 安定化政策 (1)
- 第 3 回 項目 安定化政策 (2)
- 第 4 回 項目 政府負債と財政赤字 (1)
- 第 5 回 項目 政府負債と財政赤字 (2)
- 第 6 回 項目 消費 (1)
- 第 7 回 項目 消費 (2)
- 第 8 回 項目 投資 (1)
- 第 9 回 項目 投資 (2)
- 第 10 回 項目 貨幣供給と貨幣需要 (1)
- 第 11 回 項目 貨幣供給と貨幣需要 (2)
- 第 12 回 項目 経済変動の理論の発展 (1)
- 第 13 回 項目 経済変動の理論の発展 (1)
- 第 14 回 項目 わかっていること、いないこと
- 第 15 回 項目 期末試験

教科書・参考書 教科書：マクロ経済学 II, N.G. マンキュー, 東洋経済新報社, 2004 年 / 参考書：コア・テキストマクロ経済学, 宮尾 龍蔵, 新世社, 2005 年

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーについては最初の授業の際に伝えます。

開設科目	経済理論史	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中尾訓生				

授業の概要 経済科学の形成過程で捨象されていったものを経済理論に取り込む。よって現代社会の分析に有効な理論を構築する。まずスミス、リカード、マルサス、マルクスを紹介する。マルサスの人口論、ケネーの自然論は現代的観点から、すなわち生態系保護の視点から重要である。生態系の破壊をもたらした市場経済の特質を説明する。講義は人間復興を唱えるものである。

授業の一般目標 経済科学の形成過程で捨象されていったものを経済理論に取り込む。よって現代社会の分析に有効な理論を構築する。まずスミス、リカード、マルサス、マルクスを紹介する。マルサスの人口論、ケネーの自然論は現代的観点から、すなわち生態系保護の視点から重要である。生態系の破壊をもたらした市場経済の特質を説明する。講義は人間復興を唱えるものである。

開設科目	統計学入門 ^a	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	野村淳一				

授業の概要 統計学とは具体的に何を明らかにするための学問であるかを解説する。講義では理論の解説は最小限にとどめ、具体的な応用例を多く解説・計算しながら、統計学的センスを養うよう努める。ジャンボ宝くじの期待賞金額の計算、池にいる魚の数の推定、学習塾の効果の検証など、電卓を用いて実際に計算・考察してみる。また、社会科学で用いられる社会調査(アンケート調査等)を利用する際の注意点も併せて解説する。

授業の一般目標 統計学の基礎的な理論を習得し、統計学の見方・考え方を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 基本的な統計学の理論を理解している。 思考・判断の観点: 統計学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。 態度の観点: 分からないところを積極的に質問する。

授業の計画(全体) 1. 記述統計のはなし 2. 確率のはなし 3. 推測統計のはなし

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 講義概要、成績評価方法、データ、文字表記方法
- 第 2 回 項目 記述統計のはなし(1) 内容 平均、分散、標準偏差、総和記号の公式、最大値、最小値
- 第 3 回 項目 記述統計のはなし(2) 内容 メディアン、四分位数、平均・分散の性質、分散の簡便式
- 第 4 回 項目 記述統計のはなし(3) 内容 度数分布表、ヒストグラム、度数曲線、相対度数、連続型変数、離散型変数、分布の定義
- 第 5 回 項目 比較の方法 内容 クロスセクション・データと時系列データ、時系列グラフ、変動係数、標準化変量
- 第 6 回 項目 関係を見る 内容 散布図、相関係数、線形関係、最小2乗法、決定係数、単回帰
- 第 7 回 項目 確率のはなし 内容 事象の演算法則、確率の定義、条件付確率、統計的独立、確率変数、確率密度関数
- 第 8 回 項目 確率分布のはなし(1) 内容 正規分布、標準正規分布表の見方、一様分布、確率分布に基づく確率計算
- 第 9 回 項目 確率分布のはなし(2) 内容 順列、組合せ、階乗、2項分布、正規近似、連続性補正
- 第 10 回 項目 母集団と標本のはなし 内容 社会調査の注意点、無作為抽出、無作為標本、期待値・分散の定義、期待値の計算
- 第 11 回 項目 期待値のはなし 内容 期待値オペレータの性質、確率分布の期待値、標本分布、標本平均の期待値と分散
- 第 12 回 項目 推定のはなし 内容 推定量と推定値、点推定、区間推定、不偏性、一致性、有効性、大数の法則、中心極限定理
- 第 13 回 項目 推定精度のはなし 内容 母比率と標本比率、母比率の区間推定、テレビ視聴率の信頼性、標本数の決め方
- 第 14 回 項目 検定のはなし 内容 仮説検定の考え方、有意水準
- 第 15 回 項目 予備 内容 予備

成績評価方法(総合) 期末試験によって判定する。ただし、講義毎の質問書、小テスト提出などによる加点を考慮する。評価割合は期末試験 80%、質問書・小テスト 20%。

教科書・参考書 教科書: 入門統計学, 木下宗七, 有斐閣ブックス, 1996年; 経済統計学と同じ教科書です。 / 参考書: 「社会調査」のウソ リサーチ・リテラシーのすすめ, 谷岡一郎, 文春新書, 2000年

メッセージ ルートの計算できる電卓を用意すること。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週3回、1時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	統計学入門b	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 数値情報（データ）とそれが示す意味について統計学的考え方をを用いながら、統計学がどのような学問であるかを平易に解説する。特に、社会、経済の中で利用されている事例を数多く示し、統計的な考え方や統計学を用いた判断を行えるように授業を構成する予定である。統計学は一般的に統計的記述と統計的推測を主として取り上げているので、この授業では、これらの基礎をできるだけ具体的に解説する。

授業の一般目標 統計的な考え方を理解し、社会や経済において活用されている統計データの数値情報としての意味を把握できる。統計学を理解する上で必要な以下の7つについて、かならず身につける。
 (1) 文字式と総和記号の使い方に慣れる。(2) 基準を調整して比較を正しく行うことができる。(3) 相関関係と因果関係の違いを理解できる。(4) 正規分布表を正しく用いることができる。(5) 社会調査の結果を正しく解釈することができる。(6) 期待値の計算ができる。(7) 標本と母集団の関係を理解することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：統計学の考え方や統計用語、使用する統計値の算出方法を正しく理解している。思考・判断の観点：統計手法を正しく適用し、それから得られた結果を正確に判断することができる。関心・意欲の観点：社会で利用されている様々な統計の利用に関心を持ち、授業で得た知識を生活の場面でも認識できる。また、経済学を学ぶ中でも、実際にどのように活用できるかといった点も考えることができる。態度の観点：授業内で出す課題に積極的に取り組む。

授業の計画（全体）この授業では記述統計と推測統計を扱う。はじめにデータの特徴を検討できる代表値、平均や分散、標準偏差がどのような意味をもっているか解説する。さらに社会や経済で用いられている統計データと統計手法がどのような観点で利用されているかを具体的に解説する。2つの変数の関係性、複数の変数についての比較について取り扱い方と考え方を紹介する。次に確率と確率分布、さらに調査として重要な母集団と標本について解説する。最後に推定や推定の精度、さらに授業の進み方次第であるが、検定の簡単な事例を紹介する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 成績評価方法、データ、文字表記法、統計学とはどのような学問か、どのような利用がされているかを解説する
- 第 2 回 項目 記述統計のはなし（1） 内容 平均、分散、標準偏差、総和記号の公式、最大値、最小値
- 第 3 回 項目 記述統計のはなし（2） 内容 メディアン、四分位数、平均と分散の性質、分散の簡便式、チェビシェフの定理
- 第 4 回 項目 記述統計のはなし（3） 内容 度数分布表、ヒストグラム、度数曲線、相対度数、連続型変数、離散型変数、分布の定義
- 第 5 回 項目 比較の方法 内容 変動係数、標準化変量、偏差値、クロスセクションデータと時系列データ
- 第 6 回 項目 変数の関係性 内容 散布図、相関係数、線形関係、最小二乗法、決定係数、単回帰分析の事例
- 第 7 回 項目 母集団と標本のはなし 内容 無作為抽出、無作為標本の性質、
- 第 8 回 項目 確率のはなし 内容 事象の演算法則、確率の定義、条件付確率、統計的独立、確率変数、確率密度関数
- 第 9 回 項目 確率分布のはなし（1） 内容 正規分布、標準正規分布、一様分布
- 第 10 回 項目 確率分布のはなし（2） 内容 順列、組合せ、階乗、2項分布
- 第 11 回 項目 期待値のはなし 内容 確率分布の期待値 標本分布、標本平均の期待値と分散
- 第 12 回 項目 推定のはなし 内容 推定量と推定値、点推定、区間推定
- 第 13 回 項目 推定精度のはなし 内容 母比率と標本比率、母比率の区間推定、標本数の決め方
- 第 14 回 項目 仮説検定の考え方

第 15 回 項目 仮説検定の実例

成績評価方法 (総合) 基本的に学期末試験により評価する。ただし、授業中に行う小テストについては、全体の評価に対する割合は低い評価に加える予定である。

教科書・参考書 教科書：イラスト・図解 確率・統計のしくみがわかる本, 長谷川勝也, 技術評論社, 2000年 / 参考書：第1回目の授業で、参考書リストを配布する。

メッセージ 統計学は毎回の授業の内容を理解し、積み上げていくことによって、次の授業の内容を理解できることが多く含まれています。ですから、出席すること、授業内容を理解するための参加が大変重要です。また、出席票等を利用して、個々の学生さんの疑問に答えられる様に務める予定です。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	経済統計学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	野村淳一				

授業の概要 本講義のねらいは統計学の基本的な分析道具について直感的な理解を与え、現実に統計学が応用されている文献を読みこなす基礎を与えることである。したがって、数学的に厳密な解説や証明は行わない。また直感的な理解を優先するので、説明において厳密には不正確な場合が存在する。後半では、2変数の関係を単回帰分析によって検証するための理論をできるだけ具体例を用いて解説する。統計学を習得するには、本来実際のデータを用いてコンピュータにより実習を重ねる必要があるが、本講義では時間的・空間的制約のためコンピュータ実習は行わない。ただし各自が自習できるように資料を用意する予定である。

授業の一般目標 統計学の基礎的な理論を修得し、統計学の見方・考え方を理解する。統計的手法を現実の経済データに応用し、得られた結果を正しく解釈・考察できるようにする。2変数の関係を扱うための理論を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な統計学の理論を理解している。思考・判断の観点：統計学的手法を正しく適用し、結果を判断できる。態度の観点：分からないところを積極的に質問する。

授業の計画(全体) 1. 統計学の復習 2. 統計的推測 3. 単回帰分析

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 講義概要、成績評価方法
- 第2回 項目 1変数の統計的記述 内容 統計学入門の復習
- 第3回 項目 1変数の統計的推測(1) 内容 母集団・標本、確率変数、確率分布、期待値
- 第4回 項目 1変数の統計的推測(2) 内容 標本抽出、標本分布、中心極限定理、正規分布、t分布
- 第5回 項目 1変数の統計的推測(3) 内容 推定量の性質、点推定、区間推定
- 第6回 項目 1変数の統計的推測(4) 内容 母平均の検定、母比率の検定
- 第7回 項目 1変数の統計的推測(5) 内容 母分散の検定、母平均の差の検定、適合度の検定
- 第8回 項目 2変数の統計的記述(1) 内容 散布図、相関係数
- 第9回 項目 2変数の統計的記述(2) 内容 最小2乗法、決定係数
- 第10回 項目 2変数の確率分布 内容 条件付確率、統計的独立、ベイズ定理、積率、積率母関数
- 第11回 項目 最小2乗推定量の性質(1) 内容 期待値、分散
- 第12回 項目 最小2乗推定量の性質(2) 内容 最良線型不偏推定量、一致性
- 第13回 項目 最小2乗推定量の性質(3) 内容 t検定
- 第14回 項目 単回帰分析 内容 分析方法、評価方法、問題点
- 第15回 項目 予備 内容 予備

成績評価方法(総合) 期末試験によって判定する。ただし、講義毎の質問書、レポート提出などによる加点を考慮する。評価割合は期末試験80%、質問書・レポート20%。

教科書・参考書 教科書：入門統計学, 木下宗七, 有斐閣ブックス, 1996年 / 参考書：計量経済学, 山本拓, 新世社, 1995年; 計量経済学の教科書です。

メッセージ ルートの計算ができる電卓を用意すること。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週3回、1時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	計量経済学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	野村淳一				

授業の概要 計量経済学では2変数以上の関係を重回帰分析によって検証するための理論をできるだけ具体例を用いて解説する。本講義のねらいは計量経済学の基本的な分析道具について直感的な理解を与え、現実に計量経済学が応用されている文献を読みこなす基礎を与えることである。したがって、数学的に厳密な解説や証明は行わない。後半では、重回帰分析の応用である連立方程式モデルについて学習する。現実の経済を理解するためには、様々な要因で決定される複数の変数間の相互依存関係を分析する必要があり、その記述方法のひとつが連立方程式モデルである。実際にモデル分析をするためには、パソコンを用いる必要があるが、本講義では時間的・空間的な制約のため、パソコン演習は行わない。

授業の一般目標 多変数の関係を扱うための計量経済学の理論を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。経済理論を統計学的手法で検証する方法を習得する。様々な要因で決定される複数の変数間の相互依存関係を分析する方法を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な計量経済学の理論を理解している。 思考・判断の観点：計量経済学的手法を正しく適用し、結果を判断できる。 態度の観点：分からないところを積極的に質問する。

授業の計画(全体) 1. 重回帰分析 2. 重回帰分析の応用 3. 同時方程式モデル

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 講義概要、成績評価、前回試験結果の分析
- 第2回 項目 単回帰分析 内容 経済統計学の復習
- 第3回 項目 重回帰分析(1) 内容 多重共線性、自由度修正済み決定係数
- 第4回 項目 重回帰分析(2) 内容 F検定
- 第5回 項目 クロスセクション・データ(1) 内容 ダミー変数
- 第6回 項目 クロスセクション・データ(2) 内容 不均一分散
- 第7回 項目 時系列データ(1) 内容 トレンド変数、見せかけの相関
- 第8回 項目 時系列データ(2) 内容 系列相関、分布ラグ・モデル
- 第9回 項目 時系列データ(3) 内容 構造変化、単位根・共和分分析
- 第10回 項目 同時方程式モデル(1) 内容 識別性、誘導型
- 第11回 項目 同時方程式モデル(2) 内容 間接最小2乗法、2段階最小2乗法
- 第12回 項目 同時方程式モデル(3) 内容 モデルの解法、政策シミュレーション
- 第13回 項目 マクロ計量モデル 内容 分析方法、評価方法、問題点
- 第14回 項目 予備 内容 予備
- 第15回 項目 予備 内容 予備

成績評価方法(総合) 期末試験によって判定する。ただし、講義毎の質問書、レポート提出などによる加点を考慮する。評価割合は期末試験80%、質問書・レポート20%。

教科書・参考書 教科書：計量経済学, 山本拓, 新世社, 1995年

メッセージ ルートの計算ができる電卓を用意すること。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週3回、1時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	経済情報処理概論 a	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	藤井美知子				

授業の概要 情報処理の基礎的な概念を解説し、コンピュータを情報処理の道具として、活用できることを目的として表計算 (Excel) の授業を行なう。 / 検索キーワード 表計算、データ処理、グラフ、関数、データベース

授業の一般目標 各種データの表作成や集計、計算、グラフ作成およびデータベースの機能を備えた表計算ソフト (Excel) の使い方をマスターすることによって、データの処理、分析方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：表計算の関数を説明できる。 思考・判断の観点：与えられた問題に対して問題解決を行うための手法が説明できる。 関心・意欲の観点：問題に対して、適切な表を作成することが配慮できる。

授業の計画 (全体) Excel のグラフの作成、関数の使い方などを説明後、演習問題を解いて表計算の機能を理解する。演習問題のうち何問かをレポート提出する。メールでのレポート提出を行い、問題についてはその都度指示する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 表計算ソフト (Excel) の基本操作、文字の入力練習、表作成から保存
- 第 2 回 項目 表の編集、グラフ作成と印刷 以下、3 回目から 15 回目まで演習問題を行う
- 第 3 回 項目 統計関数 (AVERAGE、MAX、MIN) 書式設定、グラフ作成
- 第 4 回 項目 規則的データの入力、絶対セルの利用
- 第 5 回 項目 順位付け、数学/三角関数
- 第 6 回 項目 並べ替え
- 第 7 回 項目 論理関数
- 第 8 回 項目 検索行列関数
- 第 9 回 項目 データベース関数
- 第 10 回 項目 複数シートの利用、各種関数の利用
- 第 11 回 項目 分析ツールの利用
- 第 12 回 項目 ABC 分析、近似曲線の利用、回帰分析、ゴールシーク等の利用
- 第 13 回 項目 まとめ練習問題
- 第 14 回 項目 まとめ練習問題
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) Excel のグラフの作成、関数の使い方などを説明後、演習問題を解いて表計算の機能を理解する。演習問題のうち何問かをレポート提出する。メールでのレポート提出を行い、問題についてはその都度指示する。

教科書・参考書 教科書：30 時間でマスター Excel 2003, , 実教出版, 2004 年; 教科書の購入については 1 回目の授業時間に指示します。また教科書以外の練習問題も行います。 / 参考書：Windows 関係の入門書、Excel の本等

メッセージ 1 クラス 50 名以内で行いますので、受講希望者は必ず 1 回目は出席してください。レポート提出は E-mail で行います。また、授業時間中にできなかった質問については E-mail で行なってください。実習が中心ですので、欠席した場合は必ず進んだ所まで友達に聞いて補っておいってください。遅刻をしないようにしてください。毎回出欠席のチェックを行いません。

連絡先・オフィスアワー E-mail : fujii@ube-c.ac.jp

開設科目	経済情報処理概論 b	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	藤井美知子				

授業の概要 情報処理の基礎的な概念を解説し、コンピュータを情報処理の道具として、活用できることを目的として表計算 (Excel) の授業を行なう。 / 検索キーワード 表計算、データ処理、グラフ、関数、データベース

授業の一般目標 各種データの表作成や集計、計算、グラフ作成およびデータベースの機能を備えた表計算ソフト (Excel) の使い方をマスターすることによって、データの処理、分析方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：表計算の関数を説明できる。 思考・判断の観点：与えられた問題に対して問題解決を行うための手法が説明できる。 関心・意欲の観点：問題に対して、適切な表を作成することが配慮できる。

授業の計画 (全体) Excel のグラフの作成、関数の使い方などを説明後、演習問題を解いて表計算の機能を理解する。演習問題のうち何問かをレポート提出する。メールでのレポート提出を行い、問題についてはその都度指示する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 表計算ソフト (Excel) の基本操作、文字の入力練習、表作成から保存
- 第 2 回 項目 表の編集、グラフ作成と印刷 以下、3 回目から 15 回目まで演習問題を行う
- 第 3 回 項目 統計関数 (AVERAGE、MAX、MIN) 書式設定、グラフ作成
- 第 4 回 項目 規則的データの入力、絶対セルの利用
- 第 5 回 項目 順位付け、数学/三角関数
- 第 6 回 項目 並べ替え
- 第 7 回 項目 論理関数
- 第 8 回 項目 検索行列関数
- 第 9 回 項目 データベース関数
- 第 10 回 項目 複数シートの利用、各種関数の利用
- 第 11 回 項目 分析ツールの利用
- 第 12 回 項目 ABC 分析、近似曲線の利用、回帰分析、ゴールシーク等の利用
- 第 13 回 項目 まとめ練習問題
- 第 14 回 項目 まとめ練習問題
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 定期試験、レポート内容等で評価します。指示されたレポートは全部提出してください。また欠席が多い場合は単位が出ません。

教科書・参考書 教科書：30 時間でマスター Excel 2003, , 実教出版, 2004 年; 教科書の購入については 1 回目の授業時間に指示します。また、教科書以外の練習問題もします。 / 参考書：Windows 関係の入門書、Excel の本等

メッセージ 1 クラス 50 名以内で行いますので、受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席してください。レポート提出は E-mail で行います。また、授業時間中にできなかった質問については E-mail で行ってください。実習が中心ですので、欠席した場合は必ず進んだ所まで友達に聞いて補って お願いいたします。遅刻をしないようにしてください。毎回出欠席のチェック を行ないます。

連絡先・オフィスアワー E-mail : fujii@ube-c.ac.jp

開設科目	経済数学 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 この講義の目的はミクロ経済学で使われている数学の概説である。具体的には、2変数関数の取り扱いに慣れ、効用最大化問題・支出最小化問題を解いて需要を数学的に定めることである。一部ではあるが、国家公務員 I 種、II 種、地方公務員上級試験の問題も簡単に解説する。内容は必ずしも易しくない。共通教育の数学概論程度の予備知識は必要である。この講義を取るにより自分の経済学の幅が広がる。

授業の一般目標 ミクロ経済学の理解に必要な数学を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 具体的な関数の偏導関数が計算できる。2. ヘッセ行列式と縁付きヘッセ行列式の計算ができる。3. 効用最大化問題・支出最小化問題を解くことができる。 **思考・判断の観点:** 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 **関心・意欲の観点:** 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

授業の計画 (全体) 最初に 1 変数関数の微分を復習し、次に多変数関数の微分の計算練習をする。また、必要最低限の行列式の計算方法を説明する。道具としてはこれでそろそろ。次に最大化問題・最小化問題を説明する。次に、陰関数定理の応用して無差別曲線と限界代替率を説明する。以上の準備の下で効用最大化問題・支出最小化問題の解法とこれらの解のミクロ経済学における意味を説明する。時間の許す範囲内で国家公務員、地方公務員上級試験の関連問題の解説をする。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 変数関数の微分 その 1 内容 基本的関数の導関数。小テスト
- 第 2 回 項目 1 変数関数の微分 その 2 内容 合成関数の微分の練習。小テスト
- 第 3 回 項目 偏微分 その 1 内容 多変数関数, 偏微分。小テスト
- 第 4 回 項目 偏微分 その 2 内容 偏微分の計算練習。小テスト
- 第 5 回 項目 全微分, Chain rule 内容 小テスト
- 第 6 回 項目 オイラーの同次関数の公式とその応用 内容 小テスト
- 第 7 回 項目 最大・最小問題 その 1 内容 最大・最小の必要条件。小テスト
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 最大・最小問題 その 2 内容 弾力性, 特に需要の価格弾力性。小テスト
- 第 10 回 項目 最大・最小問題 その 3 内容 最大・最小の十分条件, ヘッセ行列。小テスト
- 第 11 回 項目 陰関数定理 内容 無差別曲線, 限界代替率。小テスト
- 第 12 回 項目 効用最大化問題, 支出最小化問題 内容 条件付き最大最小問題。小テスト
- 第 13 回 項目 効用最大化問題, 支出最小化問題の必要条件 内容 ラグランジュの未定乗数法。小テスト
- 第 14 回 項目 効用最大化問題・支出最小化問題の十分条件 内容 2 階の条件。小テスト
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法 (総合) 中間試験と期末試験の平均が 60 点以上が合格。演習問題を自分で解かねば合格点は取れない。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは、授業内容の理解の確認で、成績とは無関係である。遅刻・欠席をしないように。テキストの誤植指摘に最大 20 点与える。

教科書・参考書 教科書: 経済数学 I 第 3 版, 柏木 芳美, 2004 年; 生協で販売する。

メッセージ 演習問題を着実に解くこと。分からないことは質問すること。遅刻・欠席をしないこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	経済数学 II	区分	講義	学年	2~4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 線形計画法，産業連関論などで用いられる線型代数について概説する。内容は，連立 1 次方程式の掃き出し法による解法，行列，行列式，固有値などである。予備知識は高等学校の数学 I 程度の知識があればよい。線型代数と微積分は数学的に書かれたものを読むときには仮定されることが多いのでしっかり身につけるように。

授業の一般目標 経済学の理解に必要な程度の線型代数の基礎知識を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 連立 1 次方程式を掃き出し法で解くことができる。 2. 行列の基本的な演算ができる。 3. 行列式の基本的な性質を理解し計算ができる。 4. 固有値，固有ベクトルを求めることができる。 思考・判断の観点： 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点： 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

授業の計画（全体） 連立 1 次方程式の 3 種類の解及び掃き出し法による解法を説明する。次に，行列の四則演算を説明する。特に割り算（逆行列）は注意を要する。次に，行列式の定義とその計算方法を説明する。応用としてクラメールの公式を利用した連立 1 次方程式の解法を説明する。最後に，固有値と固有ベクトルという産業連関論などで必要となる概念について簡単に説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 連立 1 次方程式の解法 その 1 内容 簡単な連立 1 次方程式，3 種類の解。小テスト
- 第 2 回 項目 連立 1 次方程式の解法 その 2 内容 掃き出し法，ランク。小テスト
- 第 3 回 項目 行列の演算（和，差，スカラー倍） 内容 小テスト
- 第 4 回 項目 行列の積，巾 内容 小テスト
- 第 5 回 項目 基本変形 内容 小テスト
- 第 6 回 項目 正則行列，逆行列（行列の割り算） その 1 内容 逆行列と正則行列の定義。小テスト
- 第 7 回 項目 正則行列，逆行列（行列の割り算） その 2 内容 逆行列の求め方，正則行列の性質。小テスト
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 行列式の定義 内容 小テスト
- 第 10 回 項目 行列式の基本性質 その 1 内容 行列式の定義，基本的性質。小テスト
- 第 11 回 項目 行列式の基本性質 その 2 内容 よく使う行列式の性質。小テスト
- 第 12 回 項目 行列式の計算 内容 小テスト
- 第 13 回 項目 クラメールの公式 内容 小テスト
- 第 14 回 項目 固有値と固有ベクトル 内容 小テスト
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法（総合） 中間試験と期末試験の平均が 60 点以上が合格。当然の事ながら毎回出す演習問題を自分で解かねば合格点は取れない。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは，テストという名前を付けているが実際には周りの人と相談してもよく，授業内容の理解の確認である。遅刻・欠席をしないように心懸けること。テキストの誤植指摘に最大 20 点与える。

教科書・参考書 教科書： 経済数学 II, 柏木芳美, , 2004 年； 生協で販売する。

メッセージ 演習問題を着実に解くこと。分からないことは質問すること。遅刻・欠席をしないこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。 オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	産業連関論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中谷孝久				

授業の概要 一国の経済活動は多くの企業や家計などによってなされている。産業連関論は企業の活動を中心にして一国の経済活動を捉える。その際、企業の活動をいくつかの産業の活動としてまとめて表現する。したがって、企業間の取引は産業間の取引として表現できるので、産業同士の関連も併せて検討することができる。この産業同士の取引を中心に一国の経済活動を一覽にした表が産業連関表である。産業連関分析では、産業連関表をデータソースとして分析する方法である。この分析方法の基本について講義する。/ 検索キーワード 投入・産出分析、産業連関分析、産業連関表、投入構造、販路構造、付加価値、最終需要、生産誘発、投入高、産出高、中間生産物、最終生産物、投入係数、波及効果、国内総生産

授業の一般目標 産業間の取引を核として経済活動全体を記述したものが「産業連関表」である。まず、産業連関表の構造や仕組みを理解する。次に、基本的な産業連関モデルを理解した上で、実際の産業連関表を用いた実証分析を把握する。このような理解を通じて、経済活動の全体的な構造や仕組みの理解を深める。

授業の計画(全体) この講義では、産業連関表・産業連関分析・地域産業連関分析の基本的事項を取り扱う。産業連関分析は理論的側面と実証的側面とを併せ持っている。この講義では、実証的な側面に重点をおき、Excelによる実証分析も紹介する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 経済活動と産業連関
- 第2回 項目 投入・産出関係
- 第3回 項目 産業連関表
- 第4回 項目 産業連関表の構造
- 第5回 項目 投入構造と販路構造
- 第6回 項目 付加価値構造と最終需要構造
- 第7回 項目 産業連関データ
- 第8回 項目 中間テスト
- 第9回 項目 産業連関モデル
- 第10回 項目 生産誘発モデル
- 第11回 項目 波及効果分析
- 第12回 項目 Excel 演習
- 第13回 項目 地域産業連関モデル
- 第14回 項目 地域波及効果分析
- 第15回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 出席(講義態度を含めて)、小テスト、定期試験などを総合的に判断して、単位認定・成績評価を行う。

教科書・参考書 教科書: 教科書は特に使用しないが、講義でプリントを配布する。講義はこのプリントを中心に行い、パワーポイントで補足する。/ 参考書: 産業連関分析入門, 宮澤健一, 日本経済新聞社, 1995年; 他の参考書については、講義でプリントにより解説を加えながら紹介する。

メッセージ 必ずしも必須ではないが、PCとExcelの基本的操作を習得しておくことが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 質問・相談があれば、講義の終わった後、時間を取ります。メールで質問も受けられますが、予めその旨を伝えてください。

開設科目	経済成長論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中村 保				

授業の概要 1．経済成長及び経済発展に関する基本的な事実についての知識を身に付ける。 2．経済成長及び経済発展の基礎的理論としての新古典派成長モデルをきちんと理解する。 3．1980年代後半以降急速に発展した内生的成長理論の考え方・エッセンスを学ぶ。 4．最後に理論と現実との整合性及びギャップについて考える。

授業の一般目標 1．経済成長及び経済発展の尺度、経験的な事実及び各国間の違いについて理解する。 2．簡単な数学モデルを用いて経済成長及び発展の多くの側面を説明出来るようになる。 3．研究開発投資と経済成長の関係、経済政策と経済成長の関係について議論できるようになる。 4．理論の有用性とともにその限界についても正しく認識できるようになる。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 第 1 章 序論:経済成長についての事実
- 第 3 回 項目 第 2 章 ソロー・モデル (1)
- 第 4 回 項目 第 2 章 ソロー・モデル (2)
- 第 5 回 項目 第 2 章 ソロー・モデル (3)
- 第 6 回 項目 第 3 章 新古典派成長モデルの経験的応用 (1)
- 第 7 回 項目 第 3 章 新古典派成長モデルの経験的応用 (2)
- 第 8 回 項目 第 4 章 アイデアの経済学
- 第 9 回 項目 第 5 章 成長のエンジン
- 第 10 回 項目 第 6 章 成長と開発の単純なモデル (1)
- 第 11 回 項目 第 6 章 成長と開発の単純なモデル (2)
- 第 12 回 項目 第 7 章 インフラストラクチャーと経済の長期的パフォーマンス
- 第 13 回 項目 第 8 章 他の経済成長理論
- 第 14 回 項目 第 9 章 経済成長を理解する
- 第 15 回 項目 期末試験

教科書・参考書 教科書：「経済成長理論入門 新古典派から内生的成長理論へ」、チャールズ・ジョーンズ、日本経済新聞社、1999年 / 参考書：経済成長論 OECD 諸国における要因分析、OECD 編集、中央経済社、2005年

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーについては最初の授業の際に伝えます。

開設科目	経済政策総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	塚田広人				

授業の概要 今、日本と世界の経済とそれを取り巻く社会は大きく変わりつつあります。(たとえば、1990年前後の冷戦体制の終了、1980年代以降の世界の急速なボーダーレス化などを想起してください。)この変化の過程では政府の行う経済政策が大きな役割を果たしています。それは国民の望む社会を実現するための強力な手段となります。その使い方次第で、私たちの社会は大きく変わっていきます。なかでも今、先進工業化諸国では、これまで試みられてきた政府の政策のあり方が強い関心を持って問い直されています。(たとえば政府の財政赤字の拡大傾向、公共事業に対する批判、郵政事業民営化、国立大学の法人化などの動きを想起してください。)これらの問題を考えるための第一歩として、この講義では政府の経済政策とはそもそも何か。なぜ生まれてきたのか。何を対象とするのか。何を指すべきなのか。どのような手段があるのか。どのような問題が残されているのか、などの基本的な問題について考えます。(経済、経営、国経、観光はもちろん、経法の学生にも参考になると思います。) / 検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性 福祉国家

授業の一般目標 概要に示した基本的論点について考えることで、日本を含む先進工業化諸国が今後進んでいくべき道を考える手がかりを得ることを目指します。

授業の計画(全体) 次の順で考えていきます。 経済の基本的仕組みは生産と分配である。では、今、そこで何が問題となっているのか? そこでは分配ルールが特に重要となっているがそれはなぜか? 分配ルールはどんな風に、誰によって作られるのか? 分配ルールは何を目指して作られるのか? 分配ルールは誰のためのものなのか? 自然資源はどのように分けたいのか? 労働成果はどのように分けたいのか? まずは働いている人の中でどのように?(公正性を基準として考えます。) 労働成果は、働けない人にどのように分けたいのか?(慈恵性を基準として考えます。) 加えて、余裕があれば、こうした検討を元に、現在の日本で問題となっている経済政策上の課題について触れてみたいと思います。(日本経済の不況脱出策、空洞化対策、新しい国際的協力 政策などがトピックとなります。)

成績評価方法(総合) 出席、予習ノート、期末試験を総合する。

教科書・参考書 教科書：社会システムとしての市場経済，塚田広人，成文堂，1998年；入手方法は授業の最初に指示する。なお、講義の最後では <http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ht/educationfee.htm> に掲載している論文も使う。

メッセージ 楽しく、しっかり学ぶ授業にしたいと思います。

連絡先・オフィスアワー 933 - 5558 ht@yamaguchi-u.ac.jp A棟424号室 水曜日1時半～3時 (在室時はいつでも可) <http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ht/mypage2.htm> も参照のこと。

開設科目	金融経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 この講義では、初めて金融論を学ぶ学生諸君を対象にして、現実の金融現象を理解するために必要な基礎的な学力を育成することを目標としている。よって、できるかぎり「なぜこの理論を学ばなければならないのか」、あるいは、「理論がどのように現実を説明しているのか」がよくわかるような解説を心がけたいと考えている。 / 検索キーワード マネー、金融機関、金融政策、銀行

授業の一般目標 金融論の基礎的知識の習得 国民経済というマクロ的視点を身につける 金融経済に関する統計データを正しく把握する力を身につける 貨幣の役割、利子率とはなにかなど、貨幣理論の基礎を理解する 我が国の金融市場や金融システムの概略を理解する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 金融システムと資金チャンネル
- 第 3 回 項目 金融システムと資金チャンネル
- 第 4 回 項目 間接金融
- 第 5 回 項目 間接金融
- 第 6 回 項目 金融市場
- 第 7 回 項目 金融市場
- 第 8 回 項目 中間テスト 1
- 第 9 回 項目 市場型間接金融
- 第 10 回 項目 市場型間接金融
- 第 11 回 項目 公的金融
- 第 12 回 項目 金融システムと実物経済
- 第 13 回 項目 金融システムと実物経済
- 第 14 回 項目 戦後日本の資金チャンネル
- 第 15 回 項目 中間テスト 2

成績評価方法（総合） 中間テスト 30%（二回） 後期末テスト 70%（テスト期間中に実施）

教科書・参考書 教科書：金融システム論, 岡村秀夫、田中敦、野間敏克、藤原賢哉、有斐閣, 2005年

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	金融システム論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	貞木展生				

授業の概要 わが国では、「金融革新」が主張され、「金融制度」が大幅に変革してきている。たとえば、銀行業と証券業の間に存在していた「垣根」が徐々に除去されてきている。また、郵便局が郵政公社へと変革し、更には、保険業の他の分野との境界線が薄れて、金融関連業界は「相互乗り入れ」をして、「金融の自由化」が形式的に完成の域へ到達しようとしている。それではわが国の金融システムはどこへ行くのであろうか。「間接金融方式」の金融システムを特徴とするわが国の金融システムはどのようなのであろうか。「直接金融方式」への転換はどのようなになるのであろうか。「金融政策」による効果をどのようにして評価すればよいのであろうか。戦後のわが国の金融システムの推移を「資金循環勘定」を通じて実証的に検討するとともに、金融システムの変革が金融政策の効果へどのような影響をもたらすのであろうかという理論的な検討をする。

授業の一般目標 マクロ経済学の一般的な理解の下に、LM曲線の意義を再検討する。「直接金融方式」の下でのLM曲線と「間接金融方式」の下でのLM曲線は異なるのであろうか、それとも同種と考えてよいのであろうか。この検討をするために、「資金循環勘定」の説明を通じて、金融システムの実証的分析を展開する。それは戦後の日本経済の展開過程の説明になるであろう。すなわち、高度経済成長期、ニクソンショックとオイルショックによる低迷期、バブル経済の展開と崩壊、それに伴うデフレ経済の進行、これらの典型的な事態を金融の側面から検討する。特に80年代以降の「金融革新の進行」には特別な注目が必要であろう。「所得倍増計画」、「人為的低金利政策」、「総需要管理政策」、「所得政策」、「インフレターゲット論」等々、さまざまな経済政策が提示され、そして実施されてきた。すべてについて講義はできないが、必要に応じて理論的・実証的に説明したい。

授業の計画(全体) (1)マクロ経済学の復習:特にIS-LM分析について(2)「貨幣供給の外生性」と財政収支(3)「所得循環」と「資金循環」の意義(4)「資金循環勘定」の説明(5)資金循環の実証的分析:金融システムの実体(6)「金融政策」のあり方(7)日本経済の将来展望 これらの項目を講義する予定です。学生諸君の理解度に応じて講義の進捗速度は不定です。ノート講義をするので、しっかりメモをしてください。

成績評価方法(総合) 主として、期末テストにより評価する。

教科書・参考書 教科書:『所得循環と資金循環』, 貞木展生, 日本経済評論社, 1999年; 在庫が存在しない場合は、教科書を指定せず。

メッセージ マクロ経済学についての知識があることを前提に講義をします。「資金循環勘定」のデータは、日本銀行のHPから入手できます。インターネットで確認してください。

開設科目	財政学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	藤井大司郎				

授業の概要 <古川先生に最小限ご記入頂く箇所> 以下は例示です。 現代の財政学は公共部門=政府の経済学と呼んでよいほどの広範な体系をもっている。財政学(総論)はその体系の導入部、基礎的分野を論ずるものである。 用意した講義ノートに基づき、板書及びスライドを用いて講じてゆく。まとまった小単元が終わる度に「復習問題」を提示することで、授業のポイントとなることを示唆するとともに、復習の手助けにする。また、大きな単元が終わる度に「目次」ノートを配付する予定。 財政の理論を習得しようとする者は、公共政策論をこの財政学の必ずあとに履修することで体系的学習が完結しよう。

授業の一般目標 <古川先生に最小限ご記入頂く箇所> 以下は例示です。 財政とは何か。なぜ財政活動が求められるのか。現代において、財政活動を通じて目指される政策目的はどのようなものがあるか。そのための手段には何があり、どのように用いられるのか。以上のような問題を考察してゆくことを目標としている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: <古川先生に最小限ご記入頂く箇所> 最低限、左のチェック欄をチェックするか否かをご判断ください。この文章記入欄は何も書かれなくても結構です。 以下の各観点についても同様です。 <以上の説明文は、最終的に削除願います。>

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 第 1 章 内容 財政とは何か 授業外指示 復習問題の提示
- 第 2 回 項目 第 1 章 内容 財政とは何か 授業外指示 復習問題の提示
- 第 3 回 項目 第 2 章 内容 国民経済と財政 授業外指示 復習問題の提示
- 第 4 回 項目 第 2 章 内容 国民経済と財政 授業外指示 復習問題の提示
- 第 5 回 項目 第 3 章 内容 公共財と資源配分 授業外指示 復習問題の提示
- 第 6 回 項目 第 3 章 内容 公共財と資源配分
- 第 7 回 項目 第 3 章 内容 公共財と資源配分 授業外指示 復習問題の提示
- 第 8 回 項目 第 3 章 内容 公共財と資源配分
- 第 9 回 項目 第 4 章 内容 租税と所得分配 授業外指示 復習問題の提示
- 第 10 回 項目 第 4 章 内容 租税と所得分配
- 第 11 回 項目 第 4 章 内容 租税と所得分配 授業外指示 復習問題の提示
- 第 12 回 項目 第 4 章 内容 租税と所得分配
- 第 13 回 項目 第 5 章 内容 財政手段の政策効果 授業外指示 復習問題の提示
- 第 14 回 項目 第 5 章 内容 財政手段の政策効果
- 第 15 回 項目 第 5 章 内容 財政手段の政策効果 授業外指示 復習問題の提示
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) < 古川先生に最小限ご記入頂く箇所 > 以下は例示です。 期末試験の成績で成績を評価する。

開設科目	公共政策論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 なぜ政府は税金をとるのか？なぜ政府は公的年金制度を整備するのか？政府は景気対策のために力を注ぐべきなのか？政府は民間経済に対して、さまざまな規制をかけるべきか否か？本講義では、以上のようなトピックを、簡単なミクロ・マクロ経済学や新聞記事を利用しながら、丁寧に講義します。
 / 検索キーワード 税金・公的年金・政治と財政・規制

授業の一般目標 今までに履修した経済学を、現実的な問題分析や問題解決のために利用できるようになること。 時事的な問題・出来事を、経済学の論理で考えられるようにすること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1年次に履修した、簡単なミクロ経済学・マクロ経済学の考え方を、現実の諸問題分析に応用できること。 思考・判断の観点： 時事的な問題を論理的に、経済学を利用しながら論じられること。

授業の計画（全体） 課税・公的年金・景気対策の是非・規制と経済活動のトピックを、毎回配布する講義ノート、資料、パワーポイントを利用して講義。

成績評価方法（総合） 中間試験と期末試験の2回のみで評価。中間試験と期末試験の合計点から平均点を算出。その平均点を評点とする。なお出席はとらない。従って出席点は全く考慮しない。

教科書・参考書 参考書： 現代経済学入門 財政, 井堀 利宏, 岩波書店, 1996年；参考書の購入の必要はない。 また1年次に利用したミクロ・マクロ経済学のテキストも、参考書として利用可能。

メッセージ 政治と財政、政府の問題、税金・公的年金問題を少し理論的に考えてみたい方の出席をお待ちしています。

連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本財政論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 この講義では日本財政が抱える諸問題を、講義ノート・資料・パワーポイントを利用しながら講義する。今年度扱う諸問題は、次のとおり。財政赤字は家庭・企業にどのような影響をもたらすのか？少子化と高齢化は、日本財政にとってまずい現象なのか？日本の歳出入は持続可能な状態であるのか？ / 検索キーワード 財政赤字・日本の歳出入・少子高齢化

授業の一般目標 日本財政が抱える諸問題を、自身で明確に感じ取られるようになること。新聞・ニュースで見聞きする財政問題への理解を深められるようにすること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 日本財政の抱える問題点を、自身の言葉で指摘できること。 **思考・判断の観点：** 日本財政の抱える問題点に対する処方箋を、自身の言葉で述べられること。

授業の計画（全体） 毎回配布する講義ノート・資料・パワーポイントを利用して、次のトピックを講義する。財政赤字は家庭・企業にどのような影響をもたらすのか？少子化と高齢化は、日本財政にとってまずい現象なのか？日本の歳出入は持続可能な状態であるのか？

成績評価方法（総合） 中間試験と期末試験の2回のみで評価。中間試験と期末試験の合計点から平均点を算出。その平均点を評点とする。なお出席を全くとらない。従って出席点は全く考慮しない。

教科書・参考書 参考書：教科書を指定しない。なお参考書は初回講義時に指定する。

メッセージ 日本財政の抱える問題点を、わかりやすく講義します。そして自身の将来と日本財政が密接に関わっている点を、理解していただければと思います。

連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	地域経済論	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	未定				

開設科目	地域福祉社会学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 地域社会と福祉の関わりについて、高齢者福祉をテーマに考えていく。マスコミによって連日のように「高齢化の危機」が叫ばれている。では一体、高齢化とはわれわれの社会にどのような変化をもたらすのだろうか。本講義では、高齢者のおかれている現状とこれまでの日本の高齢者福祉政策の変遷とを明らかにし、今後「いかなる超高齢社会が目指されているのか」について考察を進める。その際、地域社会の役割変化に着目し、新たなコミュニティのあり方を考える。また、ジェンダー視点を有効な分析手段として使用するため、ジェンダー概念についても詳しく講義する。 / 検索キーワード 地域福祉・介護・高齢者福祉・ジェンダー

授業の一般目標 1. 日本の高齢化状況と高齢者の生活を知る 2. 社会政策としての高齢者福祉の成立を理解する 3. 国家・市場・家族・地域と高齢者介護との関連について理解を深める 4. 現行の高齢者福祉政策に関する知識を得る 5. 自分の生きていく社会状況として高齢化を理解する

授業の計画(全体) 高齢化の状況・高齢者の生活・社会福祉の概念・福祉国家の成立・近代社会と高齢者観(尊厳死にみる個人と共同体)・日本における高齢者福祉の変遷・地域福祉の展開と動向・高齢者福祉と家族機能・高齢者福祉におけるNPO・高齢者介護とジェンダー・ボランティアと地域福祉・福祉ミックス論・公的介護保険制度・比較福祉国家論などのテーマを毎回設定する。授業では、統計データの提示によって状況の理解を促したり、視覚メディアも利用しながら思考を深めてもらう。

成績評価方法(総合) 出席と課題提出、学期末試験(授業内容を網羅した内容・論述あり・持ち込み不可)による総合評価。テキストを使用しない講義のため、出席を欠格条件とする。配点は、授業内外レポート30%・定期試験70%とする。

教科書・参考書 教科書：特定のテキストは使用せず、必要なデータ等についてはコピーを配布する。 / 参考書：授業テーマに沿って、理解を深めるのに適した文献を随時提示する。

メッセージ 社会の高齢化を「自分の問題」として、当事者意識を持ちながら受講をしてもらうことを望みます。

連絡先・オフィスアワー E-mail:nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 10:00 - 11:00

開設科目	ジェンダー論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 ジェンダー (gender) とは、生物学的な性差を意味するセックス (sex) とは異なり、社会・文化的な性差を意味するもの。私たちは何故、身体的な性差によって当たり前のように、男なら「男らしく」、女なら「女らしく」振る舞っているのだろうか。そこに必然性はあるのか。また、広く社会における男女関係を規定している「性別役割分業」という考え方に、私たちの生き方はどこまでしぼられているのだろうか。本講義では、生活の様々な場面に織り込まれているジェンダー構造を可視的にすることを試み、ジェンダーが私たちの生活や選択に与える影響とその帰結を考察する。 / 検索キーワード ジェンダー、性別役割分業

授業の一般目標 ジェンダー論(授業)の目的 (1)ジェンダー構造とは何か?を知る (2)自分のなかにあるジェンダー構造を意識化する。(3)日常生活(社会)に潜むジェンダー構造を意識化する。(4)ジェンダー構造が引き起こす社会問題について理解を深める。(5)(応用として)「当たり前(本質的なもの)」とされている様々なものが、実は社会的に作られた物(社会制度)である、ということを理解する。以上を目標として授業をおこないます。価値観はひとそれぞれですが、その価値観がどのように社会によって創られ、その価値観が再生産されることによって、社会的にどのような問題が発生するのか、について考察・理解してもらおうのが、授業目標達成の最低ラインです。

授業の計画(全体) まず、「ジェンダー」とは何か?という基本的な問題意識を共有することから始める。そして、私たちが日常生活をおくっている社会のあらゆる場面に潜んでいる「ジェンダー」について明らかにし、その現状や問題点を自分自身の事柄として考えていく。また、ジェンダー視点を取り入れることで、具体的な日々の社会的経験が、さまざまな領域での「学問」として体系的に研究されてるということをよりリアルに感じてもらいたい。

成績評価方法(総合) 出席と課題提出、学期末試験(授業内容を網羅した内容・論述あり・持ち込み不可)による総合評価。テキストを使用しない講義のため、出席を欠格条件とする。配点は、授業内外レポート 30%・定期試験 70%とする。

教科書・参考書 教科書: 特定のテキストは使用せず、必要なデータ・資料等についてはコピーを配布する。 / 参考書: 授業テーマに沿って、理解を深めるのに適した参考文献については適宜提示する。

メッセージ 本講義は女性学と男性学両方の視点を含むものです。「当たり前」とされていることを「疑う」ことができる社会学的思考を基礎としています。

連絡先・オフィスアワー E-mail nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 水曜日 10:00 - 11:00

開設科目	日本経済史総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 本講義では、明治維新以降の近代日本経済史を取り扱う。近代日本は、幕末の開国により世界資本主義体制の下に強制的に編入され、「後進資本主義国」として出発することになった。その日本が、産業革命を成功させ、経済的発展を成し遂げた事実は周知の通りである。本講義では、そうした近代日本の経済発展のプロセスを具体的に明らかにするとともに、資本主義社会の形成過程や特質、その将来像についても検討していく。 / 検索キーワード 経済史、資本主義社会、明治維新、産業革命

授業の一般目標 1. 現在我々が生きる資本主義社会の歴史的特徴を把握する。 2. 日本経済史に関する様々な視点・学説について理解する。 3. 日本の経済発展のプロセスや要因を具体的に把握する。 4. 日本経済の歴史を学ぶことを通じて、現代の経済社会を分析するのに必要な幅広い視野を養う。

授業の計画(全体) 1, 配布プリント・資料をもとにした講義形式で授業を進める。 2, 資本主義社会の成立と展開について、一般的な流れを概観する。 3, それをふまえた上で、日本ではどの様に資本主義社会が成立し展開していったのかを、時代を追って具体的に解明していく。 4, 日本の資本主義社会の特質について考察する。 5, 日本資本主義論争など、日本経済史に関する諸学説、あるいは近年の新視点を紹介する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 近代日本経済史の課題
- 第 2 回 項目 資本主義社会の歴史的特徴
- 第 3 回 項目 資本主義社会の形成と発展
- 第 4 回 項目 開港と幕末の経済
- 第 5 回 項目 明治維新と経済的変革
- 第 6 回 項目 殖産興業政策とその行き詰まり
- 第 7 回 項目 松方財政と日本経済
- 第 8 回 項目 企業勃興と企業家
- 第 9 回 項目 日本の産業革命
- 第 10 回 項目 第一次世界大戦と日本経済
- 第 11 回 項目 恐慌の時代～1920年代
- 第 12 回 項目 世界恐慌と高橋財政
- 第 13 回 項目 十五年戦争下の日本経済とその破綻
- 第 14 回 項目 日本資本主義論争と新しい視点
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 学期末試験は論述形式。講義中、数回程度の小レポートを課す。期末試験 65%、小レポート 20%、出席 15% により成績を評価する。ただし出席の悪い場合は、この基準に関係なく不合格とする場合がある。

教科書・参考書 教科書：テキストは特に指定しない。毎回単元毎に、アウトラインの資料プリントを配布する。 / 参考書：概説日本経済史 近現代[第2版]、三和良一、東京大学出版会、2002年；日本資本主義百年の歩み、大石嘉一郎、東京大学出版会、2005年；経済史入門(日経文庫)、川勝平太、日本経済新聞社、2003年；この他の参考文献は、授業中、適宜紹介する。

メッセージ 2005年以前入学の学生で、すでに「経済史総論」の単位を取った者は、この科目は受講できないので注意すること。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566、E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋経済史総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古賀大介				

授業の概要 わたしたちは、今、資本主義経済と仕組みの中で生きています。皆さんは、いつ、どこで、どのようにして、この仕組みが生まれてきたか知っていますか？ 実は、この仕組みは、今から約200年前にヨーロッパ・イギリスで生まれたものです。では、なぜ世界中のどこでもなく約200年前のヨーロッパ・イギリスで生まれたのでしょうか？ そして、どのように世界中に広がっていったのでしょうか？ 人々の生活をどのように変えてきたのでしょうか。本講義では、こうした疑問に答えていくのと同時に、現在わたしたちが「常識」だと思っていることが、どのように作られてきたかを紹介し、発想の柔軟性を養っていききたいと思います。

授業の一般目標 1．現代の資本主義社会が、どのような歴史的変遷を経て成立してきたのかを、グローバルな視点から理解する。 2．歴史(経済史)をツールとして、柔軟な思考を養う。

授業の計画(全体) (1)オリエンテーション - 何のために歴史を学ぶのか (2)すべての国は「先進国」に? - 近代化論 (3)「発展途上国」は存在しない!? - 「世界システム論」 (4)神が支配した中世ヨーロッパの世界 (5)産業資本家のご先祖様探し (6)中間テスト (7)世界で最初の工業国家 - イギリス (8)世界に広がる工業化 (9)100年前のグローバル経済 (10)第一次世界大戦のインパクト (11)世界恐慌とその克服 (12)高度成長と社会主義 (13)われわれはどこに向かうのか? (14)予備

成績評価方法(総合) 定期テスト100% 本講義では出席を欠格要件にはしていません。ただし、出席者には、出席点を差上げます。具体的には、毎回、授業の終わりに出席票を配布し、皆さんには質問・コメント等を書いてもらいますが、これを加点の対象とします。まじめに出席し、いいコメント、質問を書けば、単位取得はさほど難しくありません。

教科書・参考書 参考書：あなたが歴史と出会うとき、堺憲一、名古屋大学出版会、1989年

メッセージ この授業は、昨年の西洋経済史Aと内容的に同じです。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A208(古賀研究室)

開設科目	日本経済史各論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	木部和昭				

授業の概要 本講義では、第一次大戦とそれに続く恐慌の時代の日本経済の歴史について取り扱う。第一次世界大戦により日本経済は急成長を遂げたが、その後の戦後反動恐慌によって不況に突入し、1920年代の10年間は長期不況に苦しむことになった。しかしこの時代、現代につながる重要な変化が日本経済の中に芽生えたのも事実である。本授業では、日本経済にとって大きな転機であったこの時代を深く掘り下げてみるため、具体的な経過と共に、この時代を象徴する企業家や政治家、あるいは当時の山口県の経済状況など、多面的に取り上げていきたい。また、1920年代の恐慌の時代は、現代のバブル崩壊とそれに続く平成不況に酷似した局面が多く、両者の比較も行う予定である。／検索キーワード 経済史、資本主義社会、第一次世界大戦、恐慌、高橋是清、金子直吉

授業の一般目標 1. 第一次世界大戦から、戦後恐慌、1920年代の相次ぐ恐慌の時代、高橋財政による昭和恐慌脱出までの歴史の流れを理解する。 2. この時代に形成された、現代の日本経済の源流となる要素は何であったかを把握する。 3. 経済の歴史の中で、企業家や財政担当者などの「人」の果たした役割について考える。 4. 日本経済の歴史を学ぶことを通じて、現代の経済社会を分析するのに必要な幅広い視野を養う。

授業の計画（全体） 1, 配布プリント・資料をもとにした講義形式で授業を進める。 2, 第一次世界大戦から、戦後恐慌、1920年代の相次ぐ恐慌の時代、高橋財政による昭和恐慌脱出までの歴史の流れを概観する。 3, それをふまえた上で、この時代を象徴する鈴木商店と金子直吉について取り上げ、その功績と失敗の要因を分析する。 4, 高橋是清による財政政策を詳細に見ながら、現代的な財政政策手法の確立とその限界点を明らかにする。 5, この時期、地方レベルでも経済産業構造に大きな変化が見られたことを、山口県の事例から具体的にとりあげる。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 第一次世界大戦・1920年代の重要性
- 第2回 項目 第一次世界大戦直前の日本経済
- 第3回 項目 第一次世界大戦と日本経済
- 第4回 項目 1920年恐慌（戦後恐慌）の勃発
- 第5回 項目 慢性不況の1920年代
- 第6回 項目 関東大震災と金融恐慌
- 第7回 項目 昭和恐慌の勃発と高橋財政
- 第8回 項目 高橋財政の評価
- 第9回 項目 神戸鈴木商店と金子直吉(1)
- 第10回 項目 神戸鈴木商店と金子直吉(2)
- 第11回 項目 第一次世界大戦以降の山口県経済の発展
- 第12回 項目 現代との比較(1) バブル崩壊と平成不況
- 第13回 項目 現代との比較(2) 1920年代との比較
- 第14回 項目 戦前からの教訓に何を学ぶか
- 第15回 項目 試験

成績評価方法（総合） 学期末試験は論述形式。講義中、数回程度の小レポートを課す。期末試験 65%、小レポート 20%、出席 15% により成績を評価する。ただし出席の悪い場合は、この基準に関係なく不合格とする場合がある。

教科書・参考書 教科書：テキストは特に指定しない。毎回単元毎に、アウトラインの資料プリントを配布する。／参考書：概説日本経済史 近現代[第2版]、三和良一、東京大学出版会、2002年；日本資本主義百年の歩み、大石嘉一郎、東京大学出版会、2005年；昭和の恐慌（昭和の歴史2）、中村政則、小学館、1994年；この他の参考文献は、授業中、適宜紹介する。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566、E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

経営学科

開設科目	経営学総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 経営学総論は、経営学科の基盤科目である。そこで、経営学の最も基本的な理論、思考、専門用語について、分かりやすく、また事例を豊富に使って解説し、学生に会得してもらうように、ゆったりと事業を進める。 / 検索キーワード 自分が会社を作るとしたら？を考える。

授業の一般目標 学生が経営ビジネスについて、プレゼンテーションできるように、基礎学力の養成をはかる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：事例問題を提示し、学生に意見を求める。

そのことから、学生の知識・理解度について、評価資料にする。

思考・判断の観点：事例問題を示し、学生の判断を求める。

例えば、公害問題について、判断と思考力を評価する。 関心・意欲の観点：出席を重視し、また発言を重視する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営学とは何か（ 1 ）
- 第 2 回 項目 経営学とは何か（ 2 ）
- 第 3 回 項目 経営史
- 第 4 回 項目 経営組織（ 1 ）
- 第 5 回 項目 経営組織（ 2 ）
- 第 6 回 項目 戦略論（ 1 ）
- 第 7 回 項目 戦略論（ 2 ）
- 第 8 回 項目 戦略論（ 3 ）
- 第 9 回 項目 国際経営（ 1 ）
- 第 10 回 項目 国際経営（ 2 ）
- 第 11 回 項目 人事管理論（ 1 ）
- 第 12 回 項目 人事管理論（ 2 ）
- 第 13 回 項目 生産管理論（ 1 ）
- 第 14 回 項目 マーケティング（ 1 ）
- 第 15 回 項目 マーケティング（ 2 ）
- 第 16 回 項目 財務管理（ 1 ）
- 第 17 回 項目 財務管理（ 2 ）
- 第 18 回 項目 情報管理（ 1 ）
- 第 19 回 項目 情報管理（ 2 ）
- 第 20 回 項目 経営計画（ 1 ）
- 第 21 回 項目 経営計画（ 2 ）
- 第 22 回 項目 経営コントロール（ 1 ）
- 第 23 回 項目 経営コントロール（ 2 ）
- 第 24 回 項目 財務報告（ 1 ）
- 第 25 回 項目 財務報告（ 2 ）
- 第 26 回 項目 企業監査（ 1 ）
- 第 27 回 項目 企業監査（ 2 ）
- 第 28 回 項目 リスク管理（ 1 ）
- 第 29 回 項目 リスク管理（ 2 ）
- 第 30 回 項目 企業の社会的責任

成績評価方法（総合） 定期試験を重視し、くわえて、出席、発言、質問、あるいはレポートを評価対象にする。

教科書・参考書 教科書： 経営学を, 山口大学経営学科編, 中央, 2005 年

メッセージ 図書館で、ビジネス関係の資料をよく見る。

開設科目	経営管理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 経営管理論は、戦略、組織、管理に関わる基本的で重要な問題について、また事例を提示し、解説しながら学生に説明していく。 / 検索キーワード 日経新聞のビジネス記事をよくみる。

授業の一般目標 戦略と組織について、事例問題を提示し、それについて分析できる能力を要請する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的経営問題の理解から、個別問題の理解への展開をしようとする。 個別問題の解決方法の考え方から、経営の思考力を診断する。 思考・判断の観点： 事例問題を示し、学生に意見を求め、判断力と指導力について、評価する。 関心・意欲の観点： 出席を求め、発言を評価する。

授業の計画（全体） 基本的な経営思考の到達度を、見ながら、個別問題の解決を始動刷る。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 科学的管理法
- 第 2 回 項目 人間関係論
- 第 3 回 項目 人間関係論
- 第 4 回 項目 組織管理
- 第 5 回 項目 組織管理
- 第 6 回 項目 リーダーシップ論
- 第 7 回 項目 リーダーシップ論
- 第 8 回 項目 分社制
- 第 9 回 項目 分社制
- 第 10 回 項目 研究開発管理
- 第 11 回 項目 研究開発管理
- 第 12 回 項目 知識管理
- 第 13 回 項目 知識管理
- 第 14 回 項目 個別事例
- 第 15 回 項目 個別事例

成績評価方法（総合） 定期試験を重視しながら、授業の出席と発言を評価する。

教科書・参考書 教科書： 長谷川光圀「企業組織論の展開」千倉出版、2000年

メッセージ 戦略の立案を試みる。

開設科目	経営管理論(旧)	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 企業活動の合理化を課題とする経営管理の諸問題を、経営管理の構造と関連させながら考察することによって、経営管理の基礎概念を理解させる。 / 検索キーワード 最近の経営問題に、注目すること

授業の一般目標 経営管理について、発展史的に取上げ、合理的側面と、非合理的側面の融合する組織構造と過程を体系的に取上げ、理解させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 管理の基礎的知識を習得し、活用できる。 思考・判断の観点： 管理の問題について、正当な理解と思考を養い、主張できる。 態度の観点： 出席を100パーセントにし、意欲的の質問する。

授業の計画(全体) 経営管理論は、基礎理論的理解と現実の実践的理解の両面について理解が求められる。この講義も、その点を目標にしながら、展開される。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 経営管理の原点 内容 成り行き管理
- 第2回 項目 経営管理の原点 内容 科学的管理法
- 第3回 項目 経営管理の原点 内容 科学的管理法とファヨール
- 第4回 項目 経営管理の組織構造 内容 管理組織の構造—ウエーバー
- 第5回 項目 経営管理の組織構造 内容 管理組織の構造—進化
- 第6回 項目 経営管理の組織構造 内容 管理組織の構造—進化
- 第7回 項目 経営管理の組織構造の形態 内容 職能別組織
- 第8回 項目 経営管理の組織構造の形態 内容 事業部制
- 第9回 項目 経営管理の組織構造の形態 内容 マトリックス組織
- 第10回 項目 経営管理の非合理的問題 内容 人間関係論
- 第11回 項目 経営管理の非合理的問題の対応 内容 リーダーシップ論
- 第12回 項目 経営管理の非合理的問題の対応 内容 リーダーシップ論
- 第13回 項目 管理組織による非合理的問題の組織的調整 内容 リッカートの組織的調整
- 第14回 項目 経営管理のナレッジ論 内容 組織の再生とナレッジ
- 第15回 項目 経営管理のナレッジ論 内容 新しいナレッジの創造

教科書・参考書 教科書： 特に、指定しない、 / 参考書： その都度、紹介する。、、

メッセージ 出席は100パーセントであること

連絡先・オフィスアワー 電話5542 研究室長谷川 オフィスアワー(水曜日)

開設科目	労務管理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	内田恭彦				

授業の概要 人々がいきいきと働くことが出来、なおかつ企業間競争においても人材の力を最大限に発揮でき、持続的な優位性を築くことができるような人材のマネジメントのあり方についての基本的考えと歴史的変遷、個別システムおよび今日的課題と方向性について理論と現実の双方から理解を深めていくものです。 / 検索キーワード 労務管理、戦略的人的資源管理、人材ポートフォリオ・マネジメント

授業の一般目標 1. 労務管理および背景理論の習得 2. 労務管理の個別制度の考え方の理解 3. 人材ポートフォリオ・マネジメントに関する理解

授業の計画(全体) 本授業は大きく3つの部分から構成される。第1は労務管理に関する基本的知識および背景理論を扱う。第2は労務管理の個別テーマ(雇用、人事考課、給与、昇進・昇格、能力開発など)について説明する。第3は人々の価値観の多様化、および企業側の競争環境を前提として新たな潮流と考えられている人材の類型管理(人材ポートフォリオ・マネジメント)を取り上げる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業全体の概要説明 労務管理とは何か
- 第2回 項目 科学的管理法と労務管理1
- 第3回 項目 人間関係論と労務管理
- 第4回 項目 モティベーション理論と労務管理
- 第5回 項目 人的資源論、取引費用論と労務管理
- 第6回 項目 資源ベースの戦略論と労務管理
- 第7回 項目 雇用管理
- 第8回 項目 人事考課
- 第9回 項目 賃金管理
- 第10回 項目 能力開発
- 第11回 項目 専門職制度・キャリア開発
- 第12回 項目 福利厚生・労使関係
- 第13回 項目 人材ポートフォリオ・マネジメント1
- 第14回 項目 人材ポートフォリオ・マネジメント2
- 第15回 項目 人材ポートフォリオ・マネジメント3

成績評価方法(総合) 中間試験25%、期末試験60%、小テスト(出席を兼ねる)15%

教科書・参考書 教科書: 入門人的資源管理, 奥林康司(編著), 中央経済社, 2003年 / 参考書: 正社員時代の終焉(仮) 大久保幸夫(編) 日経BP社(2006年3月出版予定)

メッセージ 未来に向けてよりよい人と企業の間を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています

開設科目	財務管理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 財務の基礎知識の習得

授業の一般目標 企業財務だけではなく個人の財務に関する基礎知識の習得をめざします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：財務の基礎知識を習得できているか 思考・判断の観点：財務の知識を使って企業分析などができるか 技能・表現の観点：レポートを目的を明確にして書けるか

授業の計画（全体）財務管理とは何か、財務分析、時間の価値、株式・債券評価、投資決定、資本コスト
資金調達、運転資本管理

成績評価方法（総合）レポートと小テスト、前期試験で決定

教科書・参考書 教科書：未定 / 参考書：講義の中で紹介します

連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	生産管理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	千秋隆雄				

授業の概要 製品開発には、多大な時間と設備投資が必要であり、市場の将来動向を見据えた開発計画が重要である。また、製品化においては、市場ニーズの把握と技術のロードマップを基にした製品化計画と量産化に向けた製造現場での生産管理や、物流、収益確保に亘るSCM (Supply Chain Management) の考え方と手法が重要である。本科目では、空気調和機などの製品開発・設計・製造の事例に基づいた考え方と手法を講義し、討論・演習問題によって受講者の理解を深める。 / 検索キーワード 経営ビジョン、製品力、QCD, 技術のロードマップ、タクトタイム、サイクルタイム、標準時間、発注方式、MRP, BOM, 2ピン方式、外注管理、在庫管理、品質管理、工程能力指数、設備管理、MTBF, MTR, SCM

授業の一般目標 製造業が継続的に発展するために、Q (品質)、C (コスト)、D (納期) の制約条件のもとで、市場ニーズに即応した製品を開発、量産化していく基幹のプロセスを理解する。具体的には、技術の動向、社会の潮流から製品戦略を立案し技術のロードマップを作成する方法、製造現場での生産管理 (生産計画、作業管理、資材調達、在庫管理、原価管理、品質管理) の仕組み、物流のあり方を理解し、各種管理の手法を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 製造業における製品開発から物流に至る生産管理体系と機能を説明できる。・事業戦略、技術のロードマップの意義を説明できる。・製造現場での作業管理手法、プル型、プッシュ型生産方式を説明できる。・資材調達の仕組み、在庫管理、原価管理の手法を説明できる。・品質管理、設備管理の手法を説明できる。・物流のあり方を含むSCM (Supply Chain Management) の概要を説明できる。 思考・判断の観点：・事業戦略、技術開発の目標を立案できる。・生産効率向上策、ムダの排除について指摘できる。・作業の標準時間を測定し、作業工程表を計画できる。・資材の最適調達方法 (MRP法、カンバン方式) に基づく発注量を計算できる。・製品の原価構成と原価低減を理解し、損益分岐点を計算できる。・不良の発生原因探索、改善の方法を指摘できる。・設備故障率を定量的に評価できる。 関心・意欲の観点：・実務レベルの生産管理に関心を広げ、製造業における全体最適化に関する意識を高める。・実務遂行の中で、生産管理上の問題発生時に、総合的な判断のもとで課題を抽出できる。 態度の観点： 製造業における生産管理の役割を積極的に考察し、生産管理技術者あるいは経営者として、生産管理のあるべき姿を考えることができる。

授業の計画 (全体) 生産管理の製造業内での位置付けから始まり、生産管理の個別課題である製品開発のプロセス、製造現場での作業管理・工程管理・生産計画、資材調達方法、外注管理、在庫発生メカニズム、原価管理、品質管理、設備管理、技能者育成、物流について講義する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営戦略と生産管理の位置付け 内容 製品の競争力 マーケティングと生産オペレーションの融合 製造中心の生産管理から開発・原価管理中心の生産管理へ
- 第 2 回 項目 製品開発と技術のロードマップ 内容 革新技術、社会の潮流、技術動向と事業戦略 ロードマップ作成
- 第 3 回 項目 製品開発手順 内容 製品開発の手順 開発のマイルストーン 製品開発体験談
- 第 4 回 項目 製造現場の生産管理 内容 生産管理機能 生産リードタイム 部品別能力票
- 第 5 回 項目 製造現場の生産管理 内容 小テスト 標準作業の改善、能率
- 第 6 回 項目 生産計画システム 内容 生産量予測と日程計画
- 第 7 回 項目 資材調達システム 内容 発注方式 生産計画に基づくプッシュ型発注 (MRP) 部品表 (BOM)
- 第 8 回 項目 資材調達システム 内容 現場管理のプル型発注 (2ピン方式)、カンバン 外注管理と下請法 授業外指示 レポート (BOM作成とMRP計算)
- 第 9 回 項目 在庫管理 内容 在庫発生メカニズム 最適在庫点

- 第10回 項目 原価管理 内容 原価構成、原価の仕組み 損益計算 小テスト
- 第11回 項目 品質管理 内容 品質の基本的な考え方 Q Cの評価ツールの作成法(1)
- 第12回 項目 品質管理 内容 Q Cの評価ツールの作成法(2) 授業外指示 レポート(管理図作成)
- 第13回 項目 品質管理 内容 工程能力指数 公差設計
- 第14回 項目 設備管理 安全管理 技能者育成 内容 故障の定量評価 保全の仕組み 労働安全衛生法 職業能力開発促進法
- 第15回 項目 サプライチェーンマネジメント(SCM)の概要 内容 SCMの仕組み 需要変動対応の生産システムと物流在庫の事例 倉庫拠点位置の適正化(演習を含む)

成績評価方法(総合) 主に、小テスト、授業内演習、授業外レポートで評価する。また、知識伝授型の講義のため出席率を加味する。

教科書・参考書 教科書：教員の作成したプリントを使用する。

連絡先・オフィスアワー senshu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際経営論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	有村貞則				

授業の概要 企業の国際化は輸出入から始まり、次いで海外に自らの子会社を設けて直接、現地で事業活動を行う多国籍化の段階、さらには全世界に広がった事業活動の拠点を最適にネットワーク化していく段階へと発展していきます。そして、その発展段階ごとに一国内で事業活動を行っていた時とは異なる経営管理上の問題に直面します。この講義では、理論と事例を踏まえながら、こうした国際経営に特有の経営管理問題とその解決策、および今後の展望について学習します。

授業の一般目標 1．国際経営に特有の経営管理問題について理解。 2．国際経営の基礎理論習得。 3．国際経営の事例研究 4．国際経営の今後の展望について予測

授業の計画（全体） 国際経営に特有の経営管理問題について体系的に理解した後、既存理論と事例を踏まえながら個別問題について理解を深める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨン 内容 国際化、多国籍化、グローバル化
- 第 2 回 項目 国際化の方法と進展 内容 間接輸出、直接輸出、海外生産投資、グローバルネットワークへ
- 第 3 回 項目 国際化のための戦略と組織 内容 グローバル統合戦略 vs マルチドメステック戦略
- 第 4 回 項目 国際化戦略の事例 1 内容 ヤオハン
- 第 5 回 項目 国際化戦略の事例 2 内容 良品計画
- 第 6 回 項目 親会社の海外子会社管理体制の変遷 内容 ストップフォード & ウェルズの研究をもとにした米国企業モデルの紹介
- 第 7 回 項目 日本企業の事例 1 内容 松下電器
- 第 8 回 項目 日本企業の事例 2 内容 ソニー
- 第 9 回 項目 グローバル構造を超える組織 内容 グローバルマトリックス構造と地域統括本社制
- 第 10 回 項目 海外派遣者管理 内容 海外派遣者の成功・失敗と家族問題
- 第 11 回 項目 日本企業の海外派遣者管理の実態 内容 各種調査結果を通して日本企業の海外派遣者管理の現状と問題点を考察する。
- 第 12 回 項目 異文化経営 内容 異文化経営の基礎理論紹介
- 第 13 回 項目 ダイバーシティ・マネジメント 1 内容 現地適応戦略としてダイバーシティ・マネジメントの基礎理論
- 第 14 回 項目 ダイバーシティ・マネジメント 2 内容 在米日系企業とダイバーシティ・マネジメント
- 第 15 回 項目 ダイバーシティ・マネジメント 3 内容 日本企業の内なる国際化を進めるためのダイバーシティ・マネジメント

成績評価方法（総合） 期末テスト

開設科目	経営戦略論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	大久保隆弘				

授業の概要 企業経営を取り巻く環境は刻々と変化している。東アジア諸国の台頭、ボーダレス化と国際的な産業間競争の激化、IT技術などイノベーションの急速な進展、急激な国内人口の高齢化・少子化や顧客の多様化など、社会・経済や産業の構造的な転換が複雑に進む中で、企業経営の舵取りが一層難しい時代になっている。この時代にあって企業経営を成功に導くためには、環境変化に適合し、事業の方向性を見極め、技術や人材、資金やインフラなどの経営資源を有効に活用し、競合企業も意識しながら、戦略的に経営課題に対処していかねばならない。本科目は、戦略的な経営を行うための基礎的な経営理論の習得とともに製造業、サービス業などの事例ケースを中心とした教材を用いて、経営課題を実践的に解決する能力を養うのを目的とする。

授業の一般目標 この科目を受講し、以下のような実力が身に付くと、この科目の目指す学習目標に到達したと考えられる。(1)企業経営における経営戦略の意義、重要性の理解(2)企業環境分析と重要課題の抽出の手法の習得(3)企業の成長戦略、競争戦略の理論的フレームワーク、応用手法の習得(4)戦略体系にそった経営計画の立案に関する方法の理解(5)企業経営のトータルシステムをデザインし、経営資源を有効に活用する「仕組み」やビジネスモデルの構築方法についての理解(6)企業の事例研究による企業経営と経営戦略の実際についての理解

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経営戦略の基本的理論に関する体系や応用についての知識が説明できる。具体的には、経営理念・ビジョンの役割、環境分析の手法とその意義、競争戦略、成長戦略に関する基本的な理論を説明できる。また、組織やマネジメント、情報システムなどのトータル的な経営の仕組みについて説明できる。思考・判断の観点：経営理論や企業事例研究の修得を通じて経営の総合的な見地から、経営者としての立場で戦略的な意思決定について評価と応用ができる。関心・意欲の観点：社会経済と経営環境、産業動向と企業経営に関する興味と関心を高めるとともに、経営には戦略的なアプローチが重要であり、その思考方法や理論体系、経営の実際についての問題意識を高める。態度の観点：企業経営をより身近なものと考えるとともに、経営の戦略的な側面を考察する姿勢や習慣を身につける。技能・表現の観点：事例ケースを読み、その中から対象企業の優れている点や課題を抽出する。自分で把握した問題点を整理し表現できる。

授業の計画(全体) 個別の機能戦略や事業戦略を束ねて、全体最適の思想から企業経営の方向を明確にして、適切な手段を講じるのが、経営戦略である。そのための理論的な考え方と実践における様々な事例を通じて、「経営戦略とは何か」を理解するのが本科目の目的である。具体的には、経営理念・ビジョンと経営戦略の関係、経営戦略の基本的な理論体系と内容、戦略の実行と組織マネジメント、経営システムとビジネスモデル等について、理論的背景と今日的な課題を講義する。また、製造業、サービス業、流通業などの実際の経営事例を4回程度扱い、企業経営において、どのような意思決定が行われているかを体験的に理解する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目・オリエンテーション・「経営戦略とは何か」内容 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 経営理念、経営ビジョン、経営戦略の関係 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第2回 項目 企業環境変化と経営戦略 内容 & # 8226; 企業環境変化と経営戦略・ビジョンと経営戦略体系 & # 8226; 全体戦略と事業戦略、機能別戦略 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第3回 項目 事業ドメイン 内容 & # 8226; 企業環境変化と経営戦略 & # 8226; SWOT分析 & # 8226; 戦略市場経営 & # 8226; プロダクトライフサイクル & # 8226; 事業ポートフォリオの概念(市場ライフサイクルと競争力) 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第4回 項目 成長戦略1 内容 & # 8226; コア・コンピタンスと成長領域 & # 8226; アンゾフのマトリクス 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること

- 第 5 回 項目 成長戦略 2 内容 & # 8226; 多角化と企業成長 & # 8226; 非関連多角化 & # 8226; 戦略アライアンス、M & A 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第 6 回 項目 競争戦略 内容 & # 8226; M・E ポーターの競争戦略(コストリーダーシップ、差別化、集中の概念、5 フォース分析、価値連鎖) & # 8226; フィリップコトラー：リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャーの競争戦略 & # 8226; デファクトスタンダード、標準化の競争 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第 7 回 項目 経営システムとビジネスモデル 内容 & # 8226; トータル経営システム(技術、人材、資金、組織、システム、) ・事業システム & # 8226; ビジネスモデル(利益を生む事業の仕組み) ・IT とビジネスモデル 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第 8 回 項目 中間試験 内容 設問回答方式の記述試験 授業外指示 経営理論を用いた企業経営における応用問題
- 第 9 回 項目 組織戦略 内容 ・企業変革と組織論(企業組織の今日的状況) & # 8226; 組織の変遷(階層型組織から自律分散型組織へ) & # 8226; 機能別組織、事業部制、事業本部制、カンパニー制、グループ経営 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第 10 回 項目 技術経営 内容 ・MOT とは何か ・イノベーションと経営 ・組織学習と技術進化 ・プロセスイノベーションとプロダクトイノベーション & # 8226; ものづくりと組織学習 & # 8226; 破壊的イノベーション & # 8226; 技術戦略と投資 授業外指示 事後に講義ノートを復習すること
- 第 11 回 項目 事例研究 内容 シャープ株式会社 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 12 回 項目 事例研究 内容 キヤノン株式会社 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 13 回 項目 事例研究 内容 ヤマト運輸株式会社 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 14 回 項目 事例研究 内容 トリンプ・インターナショナル・ジャパン株式会社 授業外指示 事前に事例ケースを読んでおくこと
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 例題に関する論文記述 授業外指示 企業事例に対する論述問題

成績評価方法 (総合) 1) 試験を中間、期末の 2 回実施する。2) 所定の出席に満たない場合は単位を与えないことがある

教科書・参考書 教科書： 毎回講義プリントと補助教材を配布、事例研究においては、ケース教材を配布。
 / 参考書： 最強の「ジャパンモデル」、柳原一夫、大久保隆弘、ダイヤモンド社、2002 年； シャープの「ストック型」経営、柳原一夫、大久保隆弘、ダイヤモンド社、2004 年； ヤマトは我なり！、大久保隆弘、ダイヤモンド社、2003 年； 早朝会議革命、大久保隆弘、日経 B P 社、2003 年； 競争の戦略、M・E・ポーター、ダイヤモンド社、1982 年； M・E・ポーター「競争優位の戦略」、ダイヤモンド社、1985 年 D・A・アーカー 「戦略立案ハンドブック」東洋経済新報社、2002 年なども参考図書。プリントを配布。

メッセージ 製造業の経営企画部門、MBA、経営コンサルタント等の実務経験から、理論だけではなく、事例を豊富に盛り込んだ内容にしたいと思っています。

連絡先・オフィスアワー e-mail： tokubo@yamaguchi-u.ac.jp 通常、常盤キャンパス大学院技術経営研究科に所在

開設科目	投資論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 証券市場の仕組みと分析

授業の一般目標 投資論に関する基礎知識の習得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：専門知識の習得 思考・判断の観点：専門知識に基づき分析・判断できるか

授業の計画（全体） 投資とは、時間価値、企業分析、株式市場、債券、ポートフォリオ、行動ファイナンス デリバティブ

成績評価方法（総合） 後期試験・レポート・小テスト

教科書・参考書 教科書：入門証券論，榊原，有斐閣，2005年

開設科目	経営史	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古川澄明				

授業の概要 授業の概要 歴史に学ばない者は、また現在を知らない。周知の名言です。いま私たちがどのようなビジネス社会に暮らしているかを認識することは、将来の就職先を選ぶ上でも、またビジネスの世界に身を置いて活躍する上でも、非常に重要なことでしょう。現代の企業社会の目まぐるしい変化が、身近には雇用構造の変化に伴う求人態様の変化となって現れています。そうした激変の波に飲み込まれて自分の進むべき進路を見失わないためにも、経営史、つまりビジネス・ヒストリー（Business History）に学ぶ意義は小さくないでしょう。アメリカのハーバード大学で20世紀中葉にビジネス・ヒストリーの教育研究体制が確立された背景には、そうした理由もあるように思います。半世紀を経て、国際ビジネスはますます全世界を巻き込み、各国間の時間・情報・移動の距離を縮め、生態系環境を激変させ、伝来の社会を席卷するなかにあって、みなさんが自分の進路を見失わないためにも、それに学ぶ意義は、よりいっそう大きくなっています。現在の世界経済を動かし社会の変化に大きな影響力を及ぼしている国際ビジネスの世界では、何が起きているのでしょうか。現在の国際ビジネスの実状に目を向け、その特徴を概観するなかで、国際ビジネスの進化のプロセスを歴史的視点から見つめ直すのが、この講義のテーマです。日本をはじめとする世界の企業・経営システムには、何が起きているのか。何が変化しつつあるのか。そもそも国際ビジネスを展開する企業は、いかなる状況下で歴史的に変貌してきたのか。またどこへ向かって更なる変貌を遂げようとしているのか。現代企業は、大企業だけでなく、中小企業を含めて、どのような方向へ歩もうとしているのか。そうした疑問を解き明かすために、企業と経営の歴史を遡り、現代企業・経営システムを生み出してきた歴史的プロセスを検討することにします。そして、国際ビジネスの更なる進化への方向を展望してみたいと思います。具体的な事例も、とくに自動車産業を中心に取り上げます。 / 検索キーワード 国際ビジネスの進化、現代企業の系譜

授業の一般目標 (1) 現代国際ビジネスを展開する企業の事業展開や戦略について、何が問題になっているかを知る。(2) 現代企業が歴史的にどのようなプロセスをへて進化・発展してきたのかについて、理解する。(3) 現代企業の経営戦略と組織がどのようにして進化・発展してきたかについて、理解する。(4) 現代企業のサバイバル競争とマネジメントの基礎問題について、理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 企業経営史の基礎知識を身に付ける。とくに現代企業とそのマネジメントの出現及び進化について、理解を深めること。 思考・判断の観点： 現代のマネジメントとはどのようなものか。それは、どのような進化を辿って今日に至ったのかを理解し、企業経営の諸問題を把握する思考力を養うこと。 関心・意欲の観点： 企業とマネジメントの歴史的進化について、関心を持ち、積極的にビジネス社会について、そのシステムを知ろうとする意欲が必要である。 態度の観点： 授業では、完全出席し、積極的に学ぶ姿勢が重要である。積極的な質問や問題提起は大歓迎である。 技能・表現の観点： 積極的に質問し、あるいは問題提起を行い、自分の見解を理路整然と表明できることが望ましい。 その他の観点： 講義では、パワーポイントを使う。受講ノートを自分の理解力と要点要約力を身に付けてもらいたいとの観点から、敢えて印刷物は配布しない。受講者は、単に書き取り作業をするのではなく、意識的に講義内容の要点を理解し、それをノートに書き留める訓練をしていただきたい。

授業の計画(全体) 授業は、一応、以下のような内容を取り扱う予定ですが、状況に応じて、新しい話題やビデオ等を活用した情報等も提供しますので、必ずしも、下記のプログラム通りではありません。 1. 現代企業と国際ビジネス (1) 国際ビジネスの実状と歴史的進化のプロセス (2) 現代国際ビジネスと企業をどのように理解すべきか 2. 現代企業の誕生と進化の歴史的プロセス (3) 現代企業誕生への遡源 (4) 現代企業誕生と市場拡大 (5) 新産業の出現と新ビジネス (6) 巨大企業の出現と企業システムの変化 (7) 経営学と経営者 (8) 戦争、革命、恐慌、体制転換と企業 (9) イノベーションとビジネス (10) イノベーションとビッグ・ビジネス誕生 (11) 科学技術と企業 (12) 特許と大企業 (13) 企業の組織的研究開発 (14) 国際技術移転 3. 経営戦略の進化

と組織 4 . 市場とマーケティング 5 . 経営組織の形成と進化 6 . 労務管理の発達と進化 7 . 財務管理の発達と進化 8 . 経営理念と企業カルチャー

成績評価方法 (総合) 期末試験実施 (自筆ノートのみ持ち込み可)。成績には、出席度合いを反映させます。またその都度の小テストやレポートを課すことがある場合、それらも同様に成績評価に反映させます。質問・討論時間を設けますので、積極的に質問・討論をして、勉強意欲を示した方を高く評価し、成績に大きく反映します。

教科書・参考書 教科書：『経営学をやさしく学ぶ』山口大学経済学部経営学科編、中央経済社、2005年の中の「経営史」は必読です。 / 参考書：『現代経営史』藤井・井上編、古川他9名執筆、ミネルヴァ書房、1999年

メッセージ グローバル・ビジネスの現状と歴史に関心を持ち、自分がかかるビジネス社会にどのように関わっていくのかを考えてほしい。

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に、面会可

開設科目	企業論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	河村 榮				

授業の概要 企業は中期経営計画で戦略を構築し、予算で経営資源の最適配分をはかりながら、成長と適正な利益を確保し、雇用維持と企業価値の最大化につとめている。企業行動の理論的考察と同時に Case Study で実際の企業戦略を学習することにより実践的な応用力を習得する。 / 検索キーワード 企業は常に成長している

授業の一般目標 企業が直面している諸問題(社会的責任、企業統治、組織形態など)を通して、経営の基礎知識と実践力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 企業生成の歴史及び企業が抱える諸問題を学習することにより、経営戦略、財務戦略、労務戦略などを理解する 思考・判断の観点: 問題に直面した場合に、自分で解決できる考察力を養う

授業の計画(全体) 授業ではなるべく実例を取り上げ、「企業は誰のため、何のためにあるのか」という点の考察をしたい

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 概要とガイダンス
- 第 2 回 項目 経営理念と経営方針
- 第 3 回 項目 CSR とコンプライアンス
- 第 4 回 項目 経営と企業価値
- 第 5 回 項目 経営とリスクマネジメント
- 第 6 回 項目 経営と組織
- 第 7 回 項目 経営計画の作成
- 第 8 回 項目 財務戦略
- 第 9 回 項目 事例研究(1) 内容 キャノンと Bridgestone の事例を取り上げる
- 第 10 回 項目 資金調達と資本戦略
- 第 11 回 項目 事例研究(2) 内容 Bridgestone の M & A に関する資金調達と B/S のスリム化を取り上げる
- 第 12 回 項目 海外戦略と M & A
- 第 13 回 項目 事例研究(3) 内容 Bridgestone の Firestone 買収を取り上げる
- 第 14 回 項目 企業の牽制機能
- 第 15 回 項目 事例研究(4) まとめ 内容 企業の不祥事を基に牽制機能の役割を考える

成績評価方法(総合) 中間・期末レポート 100%

教科書・参考書 教科書: 適宜指定する / 参考書: 適宜紹介する

メッセージ 実社会での経験を基に、実例を中心とした内容にします

連絡先・オフィスアワー 内線: 5601,9066

開設科目	新事業創造論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中村 伸一				

授業の概要 この授業では、ビジネスにおいて、なぜ新事業を創造する事やプロジェクトを興す事が重要なのかを実例や講義を通して学び、実際にビジネス・プランを作成していきます。具体的には、基本的な組織、経営理論を講義にて学習し、ビジネス・プラン作成においては、ビジネス情報の収集や社会情勢からビジネスアイデアを考え、アイデアをデザイン化し、ビジネス・プランとしてプレゼンテーションができるまでを行います。/検索キーワード 創業、ベンチャー、新事業、事業計画、ビジネス・プラン、プロジェクト

授業の一般目標 1. ビジネス情報の収集方法を習得する。 2. ビジネス・デザインを理解する。 3. 自ら考えたアイデアをもとにビジネス・プランを作成するとともに、その内容を第三者に発表して理解させることができること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 組織形態の概要を知ること。経営（収支や経費等）に関する概要を知ること。 思考・判断の観点： ビジネス・アイデアをデザインしていく思考力と、プランに落していく判断力をつける。 関心・意欲の観点： 常に情報収集や社会情勢を把握しようとする意欲 その中から、ビジネスチャンスを見つけ、ビジネス・アイデアとしてプラン化できること。 態度の観点： インディペンデント（自立）した観点で、判断していく事。 技能・表現の観点： さまざまなツールを利用して、自らの考えを他人に理解してもらえようようにすること。 その他の観点： コミュニケーションにより、人とのつながりを作る

授業の計画（全体） この授業は、講義と実習があります。講義では、講師が実際のビジネスから学んだ事を、実例を織り混ぜながら進めていきます。実習では、アイデア デザイン プラン プレゼンテーションという段階を進んで、事業もしくは、ビジネス・プロジェクトを生み出していきます。ビジネスにおいては、コミュニケーションを円滑に行うことや自分の考えを持つことが重要ですので、授業の中にこの2つの要素を盛り込んでいきます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 事業を起こす 内容 事例と会社設立方法
- 第 3 回 項目 ビジネス・アイデアの考え方 内容 情報収集の方法や関心ごとを洗い出す
- 第 4 回 項目 ビジネス・アイデアの発表 (1) 授業外指示 事前にアイデアを考えておくこと
- 第 5 回 項目 ビジネス・アイデアの発表 (2)
- 第 6 回 項目 ビジネス・デザイン（組織面） 内容 ビジネスを行うにあたってのプロジェクト思考と組織体系について
- 第 7 回 項目 ビジネス・デザイン（会計面） 内容 事業計画を作るための収支について
- 第 8 回 項目 ビジネス・プラン作成方法
- 第 9 回 項目 ビジネス・プラン作成実習
- 第 10 回 項目 ビジネス・プランのプレゼンテーション (1) 内容 学生によるプレゼン。
- 第 11 回 項目 ビジネス・プランのプレゼンテーション (2) 内容 学生によるプレゼン。
- 第 12 回 項目 ビジネス・プランの修正 (1)
- 第 13 回 項目 ビジネス・プランの修正 (2)
- 第 14 回 項目 最終プレゼンテーション
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 1. 出席 2. 授業での発表・質問 3. ビジネス・アイデアの内容 4. ビジネス・プランの内容 5. プレゼンテーション

教科書・参考書 教科書： 当面、用いる予定はないが、必要となったときはそのときに知らせる。

メッセージ この事業では、教科書に無い、実際に会社を運営する上で起こることも講義の中に織り交ぜながら進めていきます。アイデアは、自分で考えるだけでは生まれてきません。学生同士で議論する場も作っていきますので、議論に参加しない学生には単位を出しません。モチベーションが高く、好奇心のある学生でないと授業についてこれません。この点を十分に踏まえた上で、履修するか否かを判断してください。

開設科目	多国籍企業論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	有村貞則				

授業の概要 多国籍企業とは海外に自らの子会社を設立して事業活動を展開している企業のことです。この講義では、なぜ企業は多国籍化するのか、多国籍化によって生じる問題点や課題などについて理論と事例を交えながら学習します。

授業の一般目標 1．多国籍化の理論の習得 2．日本企業の多国籍化の歴史と現状を振り返る。 3．小売業の多国籍化について考える。 4．多国籍企業の今後について展望する。

授業の計画(全体) 多国籍化とは何かを具体的に紹介した後に、多国籍化について説明した理論を学習する。次いで日本企業の多国籍化の歩みを時代別・産業別に振り返り、日本の多国籍企業の今後について展望する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の全体計画と履修上の注意、および期末テストについての説明
- 第 2 回 項目 多国籍化とは 内容 具体例を踏まえながら、多国籍化と国際化はどのように違うのか、なぜ企業は多国籍化するのか、などについて考える。
- 第 3 回 項目 多国籍企業論 1 内容 ハイマー理論
- 第 4 回 項目 多国籍企業論 2 内容 ハイマー理論の続き
- 第 5 回 項目 多国籍企業論 3 内容 パーノン理論
- 第 6 回 項目 多国籍企業論 4 内容 パーノン理論の続き
- 第 7 回 項目 日本企業の多国籍化の歩み 1 内容 戦前
- 第 8 回 項目 日本企業の多国籍化の歩み 2 内容 戦後から 1984 年まで
- 第 9 回 項目 日本企業の多国籍化の歩み 3 内容 1985 年以降
- 第 10 回 項目 小売業の多国籍化 1 内容 製造業の多国籍化との違いについて説明
- 第 11 回 項目 小売業の多国籍化 2 内容 日本の小売業の多国籍化の動向
- 第 12 回 項目 小売業の多国籍化 3 内容 事例研究
- 第 13 回 項目 外資小売業の日本進出 1 内容 全体動向
- 第 14 回 項目 外資小売業の日本進出 2 内容 事例研究
- 第 15 回 項目 外資小売業の日本進出 3 内容 事例研究

成績評価方法(総合) 期末テスト

開設科目	経営工学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	橋本寛				

授業の概要 最短経路問題、PERT、流量問題などのネットワークで表現される計画問題を取り上げ、それらの解法と応用について平易に解説する。

授業の一般目標 最短経路問題、PERT、流量問題などの基本的なネットワーク計画問題を理解するとともにそのアルゴリズムの考え方について学ぶ。

授業の計画(全体) 最短経路問題(様々な解法、行列演算、Warshallの方法など)、PERT(最早開始時刻、最遅終了時刻、総余裕、クリティカルパスなど)、流量問題(最大流量、最小カット、解法など)

成績評価方法(総合) 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：使用しない。

メッセージ 出席して理解するのが能率的

連絡先・オフィスアワー 経済学部A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	情報科学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	成富敬				

授業の概要 情報技術の理解をとおして、情報の収集・分析・加工・発信・活用がどのようになされるのかについて述べる。また、電子商取引やネットワーク犯罪等、最近の話題についても学習する。

授業の一般目標 情報技術や情報の収集・分析・加工・発信・活用がどのようになされるのかについて理解する。

授業の計画(全体) 1. コンピュータ 2. ネットワーク 3. プログラミング 4. データ構造とアルゴリズム 5. データベース 6. 情報システム 7. 最近の話題その他

成績評価方法(総合) 試験(70%)と出席(30%)で評価する。

開設科目	情報処理論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	成富敬				

授業の概要 経営科学におけるいろいろな問題を取りあげ、数理的あるいはコンピュータを用いたアプローチ方法について学習する。

授業の一般目標 経営科学におけるいろいろな問題に対する数理的あるいはコンピュータを用いた解決方法を習得する。

授業の計画(全体) 1. データの処理と分析 2. コンピュータによる問題解決 3. 最適化 4. 需要予測 5. 意思決定 6. 在庫管理

成績評価方法(総合) 試験(70%)と出席(30%)で評価する。

メッセージ 情報科学の単位を修得しているかまたはプログラミングの基礎を習得していること。

開設科目	経営数学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	渋谷綾子				

授業の概要 経営に関わる問題を、数学を使って分析する手法を学ぶ。損益分岐点分析や資源配分問題（資源制約下での最適化問題）には確立した分析手法が存在する。それらの理論を理解し、簡単な数値例を用いて納得のいく解を得る経験を積み重ねる。筆算や電卓では解けない問題もあるので、演習室でパーソナル・コンピュータを使用することもある。 / 検索キーワード 損益分岐点分析、関数、グラフ、資源配分問題、線形計画法

授業の一般目標 数学を使った分析によって、経営に関わる様々な概念とそれらの相互作用に対する理解を深め、論理的思考力も養う。経営に関わる色々な量が、経営全体にどのようなインパクトを与えるかについても考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：利益、費用、収益（率）、資金の時間的価値、経営資源の制約下での最適化等の問題に関して正しい分析ができるようにする。問題を関数やグラフで表現して解を得る一般的な数学の知識と、問題全体から数量化できる側面を正しく抽出できる洞察力も身につける。 思考・判断の観点：経営に関わる問題の数量的な要因を正しく取り扱ったうえでの判断ができる。 関心・意欲の観点：さまざまな“量”が、“経営”にどのような影響力をもつかについて関心があることが望ましい。 態度の観点：計算問題を解く場面では、個々人の計算の速さが授業進行に大きく影響を与える。授業進行の流れに乗るには、適度な緊張感が必要である。

授業の計画（全体） 1次関数を使用した損益分岐点分析について、数と関数に関する一般的な理解を深める。資金の時間的価値を投資判断に適用する問題に合わせて、金利計算の仕組みを学ぶ。電卓では解けない問題を計算機（パーソナル・コンピュータ）で解くことも経験する。資源制約下での最適化にあわせて数理計画問題（線形計画問題）の基本を学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営の意思決定と数学について 内容 損益分岐点分析、金利の計算、資源配分、在庫管理などの概要を知る
- 第 2 回 項目 損益分岐点分析その 1 内容 直線のグラフと交点について。
- 第 3 回 項目 損益分岐点分析その 2 内容 What If 分析について
- 第 4 回 項目 資金の時間的価値と時間換算その 1 内容 現価、年価、終価の計算
- 第 5 回 項目 資金の時間的価値と時間換算その 2 内容 現価係数、終価係数、年金現価係数、年金終価係数、資本回収係数、減債基金係数
- 第 6 回 項目 投資計画案の評価その 1 内容 複数の投資案の比較 - 排他的選択と追加収益率 -
- 第 7 回 項目 投資計画案の評価その 2 内容 投資の収益性を計算機を用いて計算する
- 第 8 回 項目 関数と数列について 内容 各関数の特性とグラフについて
- 第 9 回 項目 数列と級数 内容 数列の和と極限
- 第 10 回 項目 資源配分問題と線形計画問題 内容 線形計画問題の基礎
- 第 11 回 項目 線形計画問題の解法と感度分析 内容 図的解法、単体法、感度分析等
- 第 12 回 項目 ネットワークの数式化 内容 ネットワークを線形計画問題として定式化する
- 第 13 回 項目 ベクトルと行列 内容 多変数の問題とベクトル表現、行列の演算に関する一般的な知識
- 第 14 回 項目 在庫問題 内容 在庫問題と微分法の関係
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 理解が不十分な点を復習する

成績評価方法（総合） 定期試験 70%、授業時の小テスト 20%、態度 10%

教科書・参考書 教科書：基礎から学ぶ経営科学 - 文系の論理的な問題解決法 - , 高井徹雄編著, 税務経理協会, 2005年

連絡先・オフィスアワー E-mail : shibuya@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは授業時間中にお知らせします。

開設科目	経営統計	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	渋谷綾子				

授業の概要 「平均」や「分散」といった統計学の諸概念が、不確実性下での意思決定でどのように扱われているかを、ファイナンス分野のモデルを通して学ぶ。

授業の一般目標 経営分野で統計学が重要な役割を演じている例として、数理モデルを用いた資産配分問題を扱う。まず、株式銘柄の収益率の特性に配慮した分散投資によって、投資リスクを小さくできることを学び、リスクと期待収益率の関係から効率的フロンティア（有効フロンティア）を理解する。その後、マーコヴィッツによって提案された平均分散モデルや、80年代に流行したCAPM等について学ぶ。このようなモデルと統計学の諸概念の関係を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：統計に関わる様々な概念と、それがファイナンスモデルでどのように利用されているかについての知識と理解を身につける 思考・判断の観点：各モデルの長所と欠点について、そのモデルが前提している条件との関わりを通して考察することで思考力を鍛える。

授業の計画（全体） 平均・分散・標準偏差・共分散・相関係数等の基本概念を確認したあと、投資資産の収益率が正規分布するとの仮定のもとでのファイナンスモデルを学ぶ。主に、過去の収益率の平均を期待収益率、分散をリスク、ととらえる平均分散モデルについて学び、その欠点を改良するために提案された他のモデルについても概観する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 基本概念 - 平均・分散・標準偏差 -
- 第3回 項目 基本概念 - 相関係数と回帰分析 -
- 第4回 項目 基本概念 - 相関行列、共分散等 -
- 第5回 項目 正規分布と様々な分布
- 第6回 項目 分散投資について
- 第7回 項目 ポートフォリオの期待収益率とリスク
- 第8回 項目 平均・分散モデル
- 第9回 項目 平均・分散モデル
- 第10回 項目 平均・分散モデル
- 第11回 項目 平均・分散モデル
- 第12回 項目 シングル・ファクターモデルとCAPM
- 第13回 項目 平均・絶対偏差モデル
- 第14回 項目 期待効用最大化と平均・分散・歪度モデル
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 定期試験70%、小テスト・授業内レポート30%の割合で評価する。小テストや授業内レポートは予告なしに実施するので、欠席すると減点になることがある。

教科書・参考書 教科書：理財工学I - 平均・分散モデルとその拡張 - , 今野浩, 日科技連出版社, 1995年

連絡先・オフィスアワー shibuya@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは授業時間中にお知らせします。

開設科目	会計学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	篠原淳				

授業の概要 会計原則、会計の基礎概念の把握した上で、財務諸表が企業の実態をどのように示す構造となっているのか。また会計ビッグバンとよばれた会計制度の大幅な変更により、どのような変化が生じたのかについて考えていきたい。 / 検索キーワード 財務諸表、会計基準、国際化

授業の一般目標 会計の役割を理解し、利害関係者にとって有用な情報とはどのようなものを把握してもらう。

授業の計画(全体) テキストに沿って進める。

成績評価方法(総合) 出席や課題提出、試験を総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：会計学の基礎, 氏原, 税務経理協会, 2005年

メッセージ 積極的な参加を望みます。

連絡先・オフィスアワー a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	税務会計論	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	未定				

開設科目	会計監査 1	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉水 佐知子				

授業の概要 現在の監査の中心である財務諸表監査が生成されることになった歴史的背景を学習するとともに、財務諸表監査の監査計画段階から監査報告書発行までの一連の監査手続について理解をする。

授業の一般目標 会計監査の用語の習熟、監査契約の締結、監査計画の策定から報告書作成・発行までの流れを理解するとともに外部監査人としての公認会計士の社会的役割についても理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：財務諸表監査で用いられている専門用語についての説明ができる。

授業の計画（全体） 財務諸表監査の生成の歴史、監査人の適格性について学習した後、監査実施のプロセス（監査計画、監査手続、監査報告書）の順に授業を進めていきます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 財務諸表監査の枠組み 内容 財務諸表監査の意義
- 第 2 回 項目 財務諸表監査の生成と発展 内容 財務諸表監査の生成と発展及び日本における財務諸表監査制度の発展
- 第 3 回 項目 監査の目的と監査人の適格性 内容 二重責任の原則及び公認会計士法及び規律規則に基づく監査人の独立性等
- 第 4 回 項目 監査計画 内容 監査契約の締結から、監査計画の策定
- 第 5 回 項目 リスク・アプローチ 内容 リスクアプローチの解説
- 第 6 回 項目 内部統制 内容 COSO の内部統制についての説明
- 第 7 回 項目 試査とサンプリング 内容 試査とは
- 第 8 回 項目 監査要点と監査手続 内容 6 つの監査要点及び合理的な基礎を得るための監査手続
- 第 9 回 項目 監査調書 内容 作成目的及び作成要件
- 第 10 回 項目 監査証拠 内容 監査証拠と合理的な監査証拠等
- 第 11 回 項目 合理的保証 内容 監査基準における保証の意味及び合理的な保証の意味すること等
- 第 12 回 項目 実質的判断 内容 平成 14 年の監査基準改訂で明示された実質的判断とは及び実質的判断と監査人の責任
- 第 13 回 項目 重要性の判断 内容 監査上の重要性とは。重要性の判断が適用される監査の局面とは
- 第 14 回 項目 監査報告書 1 内容 証券取引法監査及び商法特例法監査の下における監査報告書様式の理解
- 第 15 回 項目 監査報告書 2 内容 監査報告書の種類

成績評価方法（総合） 成績評価は試験が 70%、出席が 30%。

教科書・参考書 教科書：新版監査論を学ぶ、八田進二編著、同文館出版 / 参考書：監査小六法、日本公認会計士協会編、中央経済社、2005 年；参考書等に関しては、必要に応じ授業においてお知らせします。

メッセージ 監査の対象は財務諸表であるため、貸借対照表、損益計算書及びキャッシュフロー計算書等の基本財務諸表の知識があることが前提となります。したがって、最低、簿記 1 又は会計学を履修していることが必要です。

連絡先・オフィスアワー 在室中はいつでも質問にお答えします。

開設科目	会計監査 2	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	吉水 佐知子				

授業の概要 監査に関して基礎的な知識があることを前提に授業は進められます。授業の中心は、会計監査論1で取り上げなかった、現代監査の課題、その他の監査関連問題（内部監査、監査役監査等）や監査の国際的な動向等になります。

授業の一般目標 国際的な動向を踏まえ、現代監査が抱えている問題について理解すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：財務諸表監査の他、内部監査や監査役監査についても理解すること及び現代監査の問題点の把握を行うこと。

授業の計画（全体） 会計監査論1で監査手続の一連の流れを理解していることを前提に、会計監査論2においては、その周辺問題を取り上げることになります。授業内容は、主に1) 中間監査、2) 内部監査、3) 監査役監査、4) 監査の国際的な動向（国際監査基準、米国監査基準）、5) 現代監査の課題の順に進行していく予定です。

成績評価方法（総合） 成績の評価方法は、出席30%と成績（期末試験のみ）70%です。

教科書・参考書 教科書：新版監査論を学ぶ, 八田進二編著, 同文館出版, 2005年；必要に応じて授業中にお知らせします。

メッセージ 会計監査論1を履修後に履修してください。

連絡先・オフィスアワー 在籍中はいつでも質問にお答えします。

開設科目	簿記 1 a	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村 弘				

授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記 3 級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。

授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3 0 0 0 社に関する有価証券報告書を読む基礎をすることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的・貸借対照表とは、損益計算書とは
- 第 2 回 項目 損益計算書とは、取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表、商品売買の記帳、引取運賃および発送費
- 第 4 回 項目 引取運賃および発送方費、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿、伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ、売上原価の計算
- 第 10 回 項目 英米式決算法、精算表
- 第 11 回 項目 貸倒引当金、減価償却
- 第 12 回 項目 固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越
- 第 13 回 項目 費用および収益の繰延・見越、消耗品
- 第 14 回 項目 現金過不足、有価証券、引出金
- 第 15 回 項目 財務諸表の作成、精算表の作成

成績評価方法 (総合) 試験 8 0 %、出席 2 0 %

教科書・参考書 教科書： A L F A 3 級, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005 年

開設科目	簿記 1 b	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村 弘				

授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記 3 級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。

授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3 0 0 0 社に関する有価証券報告書を読む基礎をすることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的・貸借対照表とは、損益計算書とは
- 第 2 回 項目 損益計算書とは、取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表、商品売買の記帳、引取運賃および発送費
- 第 4 回 項目 引取運賃および発送費
- 第 5 回 項目 現金および預金記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿、伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ、売上原価の計算
- 第 10 回 項目 英米式決算法、精算表
- 第 11 回 項目 貸倒引当金、減価償却
- 第 12 回 項目 固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越
- 第 13 回 項目 費用および収益の繰延・見越、消耗品
- 第 14 回 項目 現金過不足、有価証券、引出金
- 第 15 回 項目 財務諸表の作成、精算表の作成

成績評価方法 (総合) 試験 8 0 %、出席 2 0 %

教科書・参考書 教科書： A L F A 3 級, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005 年

開設科目	簿記 1 c	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村 弘				

授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記 3 級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。

授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3 0 0 0 社に関する有価証券報告書を読む基礎をすることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的、貸借対照表とは、損益計算書とは
- 第 2 回 項目 損益計算書とは、取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表、商品売買の記帳、引取運賃および発送費
- 第 4 回 項目 引取運賃および発送費、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿、伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ、売上原価の計算
- 第 10 回 項目 英米式決算法、精算表
- 第 11 回 項目 貸倒引当金、減価償却
- 第 12 回 項目 固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越
- 第 13 回 項目 費用および収益の繰延・見越、消耗品
- 第 14 回 項目 現金化不足、有価証券、引出金
- 第 15 回 項目 財務諸表の作成、精算表の作成

成績評価方法 (総合) 試験 8 0 %、出席 2 0 %

教科書・参考書 教科書： A L F A 3 級, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005 年

開設科目	簿記 1 d	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松尾 篤 (野村弘)				

授業の概要 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記 3 級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。

授業の一般目標 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3 0 0 0 社に関する有価証券報告書を読む基礎をすることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 簿記の目的、貸借対照表とは、損益計算書とは
- 第 2 回 項目 損益計算書とは、取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表、商品売買の記帳、引取運賃および発送費
- 第 4 回 項目 引取運賃および発送費、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿、伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ、売上原価の計算
- 第 10 回 項目 英米式決算法、精算表
- 第 11 回 項目 貸倒引当金、減価償却
- 第 12 回 項目 固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越
- 第 13 回 項目 費用および収益の繰延・見越、消耗品
- 第 14 回 項目 現金化不足、有価証券、引出金
- 第 15 回 項目 財務諸表の作成、精算表の作成

成績評価方法 (総合) 試験 8 0 %、出席 2 0 %

教科書・参考書 教科書： A L F A 3 級, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005 年

メッセージ なお、授業の最後の部分を、前期担当者の野村が担当することがある。

開設科目	簿記 2	区分	講義	学年	2~4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山下訓				

授業の概要 簿記 1 に続いて、いわゆる日商 2 級の商業簿記の水準を習得することが、この授業の概要である。

授業の一般目標 いわゆる日商 2 級の商業簿記の水準を習得する。ただし、本支店会計の部分は授業の進行を見て範囲に含めるかどうか決める。 1 簿記一巡手続 2 現金預金取引 3 有価証券取引 4 債権債務取引 5 手形取引 6 引当金取引 7 商品売買取引 8 特殊商品売買取引 9 固定資産取引 10 損益取引 11 株式会社取引 12 税金 13 決算

教科書・参考書 教科書：新検定 簿記講義 2 級 商業簿記 平成 18 年度版, 加古・渡部, 中央経済社, 2006 年 / 参考書：新財務諸表論, 田中弘, 税務経理出版, 2005 年

メッセージ 原則として、簿記 1 を履修していることを前提としている。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 受講者と相談して決める。

開設科目	簿記 3	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山下訓				

授業の概要 簿記 2 に続いて、この授業では、連結会計財務諸表を作成する。

授業の一般目標 連結財務諸表、すなわち、連結損益計算書、連結貸借対照表、連結剰余金計算書、連結キャッシュ・フロー計算書を作成できるようにする。

授業の計画(全体) 1 100%子会社 2 少数株主が存在する場合 3 段階法と一括法 4 部分時価評価法と全部時価評価法 5 内部取引相殺消去 6 未実現損益消去 7 増資 8 持分法 9 株式交換、会社分割 10 キャッシュ・フロー計算書 11 税効果会計

教科書・参考書 教科書：財務会計 第5版, 広瀬義州, 中央経済社, 2005年; 第4版でもいい。

メッセージ 昨年度の会計学に利用した、教科書の『財務会計 第5版』を原則として利用する。第4版でもいい。ただ教科書を必ずしも用意しなくてもいいようにプリントを用意するが、あった方がいい。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 受講者と相談して決める。

開設科目	商業簿記特論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	河田				

授業の概要 公認会計士や税理士といった国家資格取得の土台となる日商簿記1級の内容のうち、商業簿記・会計学を中心に学習します。簿経理事務に必要な会計知識だけではなく、財務諸表を読む力、基礎的な経営管理や分析力を身につけることを目標とします。この商業簿記特論は財務会計特論と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。また、商業簿記特論は職業会計人コースの必修科目です。

授業の一般目標 日商簿記1級の内容のうち商業簿記・会計学を中心に学習し、11月検定での合格を目指します。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 総論・企業会計原則・簿記一巡
- 第2回 項目 一般販売・特殊商品売買
- 第3回 項目 長期請負工事
- 第4回 項目 棚卸資産
- 第5回 項目 固定資産・減損会計・繰延資産
- 第6回 項目 引当金・退職給付会計・社債
- 第7回 項目 資本・合併会計・会社分割
- 第8回 項目 確認テスト1
- 第9回 項目 金融資産・金融負債
- 第10回 項目 為替換算会計
- 第11回 項目 税効果会計
- 第12回 項目 本支店会計
- 第13回 項目 連結会計
- 第14回 項目 キャッシュフロー会計
- 第15回 項目 確認テスト2

成績評価方法(総合) 試験60% 確認テスト20% 出席20%

教科書・参考書 教科書: ALFA 商業簿記・会計学, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005年

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この商業簿記特論は財務会計特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

開設科目	財務会計特論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	河田				

授業の概要 日商簿記1級の内容のうち、商業簿記・会計学を中心に学習します。この財務会計特論は商業簿記特論と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。詳細は、商業簿記特論を参照して下さい。なお、財務会計特論は職業会計人コースの必修科目です。

メッセージ なお、1)授業は9月始めから12月までです。2)試験は通常の試験期間中に行う予定です。3)この財務会計特論は商業簿記特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

開設科目	工業簿記特論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	岩崎				

授業の概要 公認会計士や税理士といった国家資格取得の土台となる日商簿記1級の内容のうち、工業簿記・原価計算を中心に学習します。簿記経理実務に必要な知識だけでなく、基礎的な経営管理や分析力を身につけることを目標とします。この工業簿記特論は原価計算特論と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。また、工業簿記特論は職業会計人コースの必修科目です。

授業の一般目標 日商簿記1級の内容のうち、工業簿記・原価計算の内容をマスターし、11月検定での合格を目指します。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 原価・営業量・利益関係の分析
- 第2回 項目 予算編成
- 第3回 項目 事業部制
- 第4回 項目 業務的意志決定
- 第5回 項目 構造的意志決定
- 第6回 項目 戦略的原価計算
- 第7回 項目 単純個別原価計算・原価の費目別計算
- 第8回 項目 確認テスト1
- 第9回 項目 部門別個別原価計算
- 第10回 項目 部門別計算
- 第11回 項目 実際総合原価計算
- 第12回 項目 全部原価計算・直接原価計算
- 第13回 項目 工程別総合原価計算・組別・等級別総合原価計算
- 第14回 項目 標準原価計算
- 第15回 項目 確認テスト2

成績評価方法(総合) 試験60% 出席20% 確認テスト20%

教科書・参考書 教科書: ALFA 工業簿記・原価計算, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2005年

メッセージ なお、1)授業は9月始めから12月までです。2)試験は通常の試験期間中に行う予定です。3)この工業簿記特論は原価計算特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

開設科目	原価計算特論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	岩崎				

授業の概要 日商簿記1級の内容のうち、工業簿記・原価計算を学習します。この原価計算特論は工業簿記特論と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。詳細は、工業簿記特論を参照して下さい。なお、原価計算特論は職業会計人コースの必修科目です。

メッセージ なお、1)授業は9月始めから12月までです。2)試験は通常の試験期間中に行う予定です。3)この原価計算特論は工業簿記特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

開設科目	法人税法 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	香田一憲				

授業の概要 法人税は、法人が一事業年度に得た所得（もうけ）に対して課される国税です。ここでいう所得（もうけ）とは、損益計算書上の当期利益とはその範囲が若干異なるので、これを調整した上で、法人税額を計算することになります。このような調整項目を中心に学習します。この法人税法 I は法人税法 II と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。

授業の一般目標 納付税額の計算・条文理解を中心に、法人税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 会社計算と税務計算・別表四の作成（記入例）
- 第 2 回 項目 減価償却（通常・期中事業供用）・交際費等の損金不算入
- 第 3 回 項目 減価償却（通算・簿価・認容）
- 第 4 回 項目 受取配当等の益金不算入
- 第 5 回 項目 寄附金の損金不算入
- 第 6 回 項目 租税公課・納税充当金
- 第 7 回 項目 確認テスト 1・別表四の作成（留保・社外流出）・税額計算の概要
- 第 8 回 項目 試験研究費の特別控除
- 第 9 回 項目 受取配当等の益金不算入（証券投資信託）・同族会社・留保金課税の判定
- 第 10 回 項目 留保金課税
- 第 11 回 項目 減価償却（無形減価償却資産・償却可能限度額・少額減価償却資産・一括償却資産）
- 第 12 回 項目 貸倒引当金（一括評価）
- 第 13 回 項目 所得税額控除
- 第 14 回 項目 使途秘匿金
- 第 15 回 項目 確認テスト 2

成績評価方法（総合） 試験 60 % 出席 20 % 確認テスト 20 %

教科書・参考書 教科書：法人税法一般テキスト・チェック, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2006 年

メッセージ なお、1) 授業は 9 月始めから 12 月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この法人税法 I は法人税法 II と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

開設科目	法人税法 II	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	香田一憲				

授業の概要 法人税法の基礎的な内容を学習します。この法人税法 II は法人税法 I と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。詳細は、法人税法 I を参照して下さい。

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この法人税法 II は法人税法 I と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

開設科目	相続税法 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	小林多恵子				

授業の概要 死亡した人が残した財産を引き継いだ場合に課される国税（相続税）と、他人から財産の贈与を受けた場合に課される国税（贈与税）について定めているのが相続税法です。人が死亡した時に、「誰がどの位の割合で財産を相続するのか？」などの学習をします。この相続税法 I は相続税法 II と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。

授業の一般目標 税額の計算・手続等一連の流れ・財産評価を中心に相続税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 正しく相続人・法定相続人の判定が出来る。 2 . 正確に相続税の計算が出来る。 3 . 正確に贈与税の計算が出来る。

授業の計画（全体） ・相続税・贈与税の計算の基礎 ・遺産の分割協議がまとまらない時の計算方法 ・財産評価 1 ・財産評価 2

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 贈与税の計算 内容 計算方法 < BR > 非課税
- 第 2 回 項目 相続税の計算 内容 税額控除の計算の基礎 2
- 第 3 回 項目 未分割の計算 内容 特別受益者の相続分
- 第 4 回 項目 みなし相続財産 内容 生命保険金等と生命保険規約に関する権利
- 第 5 回 項目 債務控除 内容 納税義務者の種類に伴う債務控除の範囲
- 第 6 回 項目 法定相続人の数 内容 法定相続人の養子の参入制限
- 第 7 回 項目 相続税の計算 内容 未成年者控除・障害者控除
- 第 8 回 項目 相続税の計算 内容 外国税額控除・贈与税額控除
- 第 9 回 項目 定例試験 内容 定例試験
- 第 10 回 項目 財産評価 内容 株式の評価
- 第 11 回 項目 みなし相続財産 内容 契約に基づかない定期金に関する権利
- 第 12 回 項目 措置法の減額 内容 特定事業用資産の減額計算
- 第 13 回 項目 みなし相続財産 内容 弔慰金の計算
- 第 14 回 項目 財産評価 内容 取引相場のない株式の評価
- 第 15 回 項目 定例試験 内容 定例試験

成績評価方法（総合） 試験 60 % 出席 20 % 確認テスト 20 %

教科書・参考書 教科書：相続税法一般テキスト・チェック, 大原簿記学校 教育開発部, 大原簿記学校, 2006 年 / 参考書：相続税法令通達集, 税務経理協会, 税務経理協会, 2005 年

メッセージ なお、1) 授業は 9 月始めから 1 2 月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この相続税法 I は相続税法 II と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

開設科目	相続税法 II	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	小林多恵子				

授業の概要 相続税法の基礎的な内容を学習します。この相続税法 II は相続税法 I と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。詳細は相続税法 I を参照して下さい。

メッセージ なお、1) 授業は9月始めから12月までです。2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。3) この相続税法 II は相続税法 I と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。

開設科目	消費税法	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	小林多恵子				

授業の概要 消費税は、商品の販売や建物賃貸など、お店が取引を行った場合に課される国税です。消費税にはこれらの取引の代金に5%が上乗せされますが、中には消費税が上乗せされないような取引もあります。その見分ける基準を中心に学習します。

授業の一般目標 税額の計算・手続等一連の流れを理解することを中心に、消費税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。

授業の計画(全体) ・控除税額の計算の基礎 ・課税売上割合が95%未満の計算 ・納税義務の判定 ・課税の対象・非課税・免税

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 控除税額 内容 課税仕入の範囲
- 第2回 項目 控除税額 内容 売上返還・貸倒れ
- 第3回 項目 定例試験 内容 定例試験
- 第4回 項目 課税標準 内容 みなし譲渡・低額譲渡
- 第5回 項目 課税標準 内容 交換・代物弁済・負担付贈与
- 第6回 項目 控除税額 内容 課税売上割合の計算
- 第7回 項目 控除税額 内容 個別対応方式・一括比例配分方式
- 第8回 項目 控除税額 内容 仕入返還・引取り還付
- 第9回 項目 定例試験 内容 定例試験
- 第10回 項目 納税義務の判定 内容 基準期間と課税売上高
- 第11回 項目 課税の対象 内容 課税の対象・応用
- 第12回 項目 非課税取引 内容 非課税・応用1
- 第13回 項目 非課税取引 内容 非課税・応用2
- 第14回 項目 免税取引 内容 輸出免税・応用
- 第15回 項目 控除税額 内容 課税売上割合・応用

成績評価方法(総合) 試験60% 出席20% 確認テスト20%

教科書・参考書 教科書：消費税法一般テキスト・チェック, 大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2006年 / 参考書：消費税法規通達集, 日本税理士会連合会 編, 中央経済社, 2005年

メッセージ なお、1)授業は9月始めから12月までです。2)試験は通常の試験期間中に行う予定です。

開設科目	工業簿記	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤田 智丈				

授業の概要 企業にはヒト・モノ・カネといった様々な資源があり、会計の世界ではそれら全ての資源を金額（貨幣価値）で表現します。企業では投入された労働力や材料などが、次々と形を変えて最終製品・サービスへと作られていきますが、このプロセスがどのように進み、どこにどれくらいお金が使われたのかということをはっきりとさせる手段が工業簿記と呼ばれるものです。

授業の一般目標 製品やサービスを作るプロセスを貨幣価値で表現していく考え方や手法を身につける。実践としては、日商簿記検定試験2級レベルの考え方・計算手法を身につけることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：簿記の「勘定」は無意味に存在しているのではなく、実際の物作りの流れを反映したものになっています。そのような流れに対応させて勘定の繋がりを理解してください。 技能・表現の観点：勘定の流れを理解し、正確な計算をできるようになってください。

授業の計画（全体） まず工業簿記の基本的な考え方や計算手法を知ってもらい、それから詳細な各論を解説していきます。

成績評価方法（総合） 基本的に期末試験で評価しますが、出席も加味します。

教科書・参考書 教科書：新検定簿記講義2級工業簿記 平成18年版、岡本清・廣本敏郎、中央経済社、2005年

開設科目	原価計算論 1	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中田範夫				

授業の概要 原価計算の基礎についてテキストに基づきながら講義する。

授業の一般目標 原価計算の基礎的知識を習得することを目標とする。

授業の計画(全体) テキストに従いながら原価計算の基本的知識を講義する。工業簿記の知識を必要とするので、受講しておくこと。

成績評価方法(総合) 試験と出席で評価する。

教科書・参考書 教科書：最新例解原価計算(増補改訂版), 溝口一雄著, 中央経済社, 1988年; 原価計算論2でも上記のテキストを使用する。

開設科目	原価計算論 2	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中田範夫				

授業の概要 原価計算の目的には財務会計目的と管理会計目的とがある。原価計算論 1 では主に財務会計目的のための原価計算を講義する。これに対して、原価計算論 2 では管理会計目的のための原価計算を講義する。具体的には、意思決定と業績評価のための原価情報作成について講義する。標準原価計算、直接原価計算、品質原価計算、活動基準原価計算、ライフサイクルコストリング、などについて講義する。

授業の一般目標 原価計算についての応用的な知識を習得することを目標とする。

授業の計画（全体） 標準原価計算と直接原価計算についてはテキストに従いながら講義する。品質原価計算、活動基準原価計算、ライフサイクルコストリングについては資料を配布しながら講義する。

成績評価方法（総合） 試験・出席およびレポートで評価する。

教科書・参考書 教科書：最新例解原価計算（増補改訂版）、溝口一雄著、中央経済社、1988 年；原価計算論 1 でも同じテキストを使用している。

開設科目	管理会計論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤田 智丈				

授業の概要 企業は消費者に満足してもらえる商品やサービスを提供するという競争を戦っています。この激しい競争に勝ち抜くためには、より大きな価値をより少ないコストで実現する必要があります。管理会計論では、そのための様々なマネジメント手法や意思決定分析を学びます。

授業の一般目標 管理会計の内容は大きく2種類に分かれます。一つめは、利益獲得という組織目標を実現するためにどのようなマネジメントの仕組みを作るか、従業員のやる気を引き出すためにどうやって動機付けしていくか、といったマネジメントに関する内容。二つめは、経営者や管理者の意志決定、従業員の業務遂行などにおいて、どのような会計情報が役に立つか、どのように分析すればよいのか、といった意思決定支援に関する内容。これらの内容について、基本的な考え方を理解し、分析をできるようになることを目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 管理会計の基礎となる考え方、分析手法を身につけること。 **思考・判断の観点：** 私たちが普段は客として利用している店や企業は、何を考え、どのようにして儲けようとしているのか、といった身の回りにあるビジネスを分析できるようになること。また、会計情報を用いて事例分析をできるようになること。 **関心・意欲の観点：** 授業で習う知識や事例をきっかけとして、ビジネス関連のニュースや雑誌に興味を持ち、そのような情報を理解できるようになること。

授業の計画（全体） まず、管理会計の前提となる基本的な経営学を復習します。それから予算管理という管理会計の主要テーマについて詳しくみていきます。さらに、現代のビジネスでは必須となった戦略という観点から管理会計を展開します。具体的には、BSCや原価企画、ABC / ABMといったマネジメント手法をとりあげます。また、意志決定のための分析として、資源配分や投資決定等の分析をします。

成績評価方法（総合） 期末試験（中間試験）とレポートにより評価します。

教科書・参考書 教科書：管理会計・入門 新版（有斐閣アルマ）、浅田孝幸 他、有斐閣、2005年

開設科目	流通論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	藤田健				

授業の概要 生産と消費の懸隔を架橋する流通は、近年、大きな変革期を迎えている。コンビニエンス・ストアの台頭、大手スーパー・百貨店の不振や倒産、中小卸売業の淘汰、零細小売業の減少、メーカーの流通系列化の揺らぎ、流通の情報化など、流通は日々変化し続け複雑さを増している。そこで本講義では、近年激しく変化する流通現象への関心を高めるとともに、現実を理解するための理論的な考え方を学ぶ。 / 検索キーワード 流通, 商業, マーケティング

授業の一般目標 1. 流通論を体系的に修得する。 2. 流通現象を理論的に理解できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：流通論の体系と個別理論を理解する。 関心・意欲の観点：流通現象への関心を高め、理論的な視点から理解する。

授業の計画(全体) 1. 流通の実態 2. 流通の役割 3. 分析アプローチを学ぶ 4. 流通フローの分析

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション：流通の分析視角 内容 流通論の講義概要，分析視角を学ぶ
- 第 2 回 項目 流通の実態 内容 ケース(1)，ケース(2)
- 第 3 回 項目 流通の実態 内容 ケース(3)，ビデオ学習
- 第 4 回 項目 生産と消費の懸隔 内容 流通の社会的役割は何か
- 第 5 回 項目 商人の存立根拠 内容 なぜ商人が存在するのか
- 第 6 回 項目 流通へのアプローチ(1) 内容 機能別アプローチと商品別アプローチ
- 第 7 回 項目 流通へのアプローチ(2) 内容 行動システム・アプローチと流通成果
- 第 8 回 項目 前半の復習 内容 ケース(4)，ビデオ学習
- 第 9 回 項目 商流の分析(1) 内容 取引コストの経済学，継続的取引
- 第 10 回 項目 商流の分析(2) 内容 戦略的提携，協力・信頼関係の形成
- 第 11 回 項目 商流の分析(3) 内容 垂直的流通システム，マーケティング
- 第 12 回 項目 商流の分析(4) 内容 マーケティング・チャネルの構築と維持
- 第 13 回 項目 物流と情報流の分析 内容 ロジスティクスと情報技術
- 第 14 回 項目 後半の復習 内容 ビデオ学習
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 全体の復習

成績評価方法(総合) 期末試験(70%)，レポート(20%)，出席(10%)

教科書・参考書 教科書：現代流通，矢作敏行，有斐閣アルマ，1996年 / 参考書：ビジネスエッセンシャルズ(5)流通，大阪市立大学商学部編，有斐閣，2003年

メッセージ 流通システム講座の基礎科目に位置づけられます。マーケティング論，商品学等を体系的に勉強したい人は，ぜひ受講してください。なお，授業中の私語は厳禁です。

連絡先・オフィスアワー A棟3階306研究室

開設科目	マーケティング論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 本講義では、マーケティングについての基本的概念、分析枠組みについて、理解を深めてもらうことを目的とする。マーケティングは、市場問題の解決策として、20世紀初頭アメリカで誕生し、日本に導入されたのは1950年代で、比較的新しい学問である。しかしながら、現在では、マーケティングは、商品経済社会における企業の基本的な行動指針であり、企業の経営行動の理解にとって、必要不可欠な知識となってきたといえる。本講義では、マーケティングの2つの側面を取り扱いたい。第1は、マーケティング現象を企業の中の管理でみる側面である。ここでは、マーケティングの観点のもとに、企業全体をどのようにコントロールするかということが、問題となってくる。第2は、マーケティング現象を社会全体でみる側面である。ここでは、他のマーケティング主体との競争関係の中で、企業のマーケティングに関わる行動を考察することになる。本講義を通じて、このような2つの視角から、企業行動について合理的な判断や考え方ができる能力を養ってもらえればと思う。

授業の一般目標 マーケティング現象を理解するための基本枠組みと基本概念、分析方法を修得する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 21世紀のマーケティング
- 第2回 項目 顧客満足、顧客価値
- 第3回 項目 企業の戦略計画
- 第4回 項目 マーケティング環境
- 第5回 項目 消費者市場の分析(1)
- 第6回 項目 消費者市場の分析(2)
- 第7回 項目 マーケティング・リサーチ(1)
- 第8回 項目 マーケティング・リサーチ(2)
- 第9回 項目 競争への対応
- 第10回 項目 市場細分化
- 第11回 項目 製品ライフサイクル
- 第12回 項目 製品政策
- 第13回 項目 価格政策
- 第14回 項目 流通チャネル政策
- 第15回 項目 販売促進政策

教科書・参考書 教科書：コトラーのマーケティング・マネジメント 基本編, コトラー, ピアソン・エデュケーション, 2002年

メッセージ 流通論もあわせて履修することが、望ましい。

開設科目	マーケティング戦略論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 この講義の目的は、マーケティング戦略について理解を深め、マーケティング戦略を策定できるスキルを身につけることである。マーケティングにおける戦略論は、もともと経営学における戦略論のフレームワークを土台にして、構築された。マーケティング戦略論が、企業の生き残りをかけた市場競争下で、極めて有効な企業戦略であることは、言うまでもないことである。企業を取り巻く将来の不確定要因が増す現代においては、企業の戦略的思考、市場におけるマーケティング戦略を構築することの重要性が、増す一方である。この講義では、マーケティング戦略を理解するために、次のような問題に焦点を当てて考えていきたい。(1)企業は、どのように市場を選択するのか?(2)選択した市場をどのように分析するのか?(3)分析した市場にどのように接近するのか?(4)企業は、マーケティング展開に対して、消費者の反応をどのようにフィード・バックするのか? 以上のような諸課題を、理論と事例から追求していきたい。

授業の一般目標 1. マーケティング戦略について理解を深める。 2. マーケティング戦略を策定できるスキルを身につける。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 マーケティング戦略への招待
- 第 2 回 項目 事業機会の選択
- 第 3 回 項目 事業領域の選択
- 第 4 回 項目 標的市場の選択
- 第 5 回 項目 市場データ分析(1)
- 第 6 回 項目 市場データ分析(2)
- 第 7 回 項目 消費者行動分析(1)
- 第 8 回 項目 消費者行動分析(2)
- 第 9 回 項目 競争分析
- 第 10 回 項目 流通分析
- 第 11 回 項目 製品対応
- 第 12 回 項目 価格対応
- 第 13 回 項目 コミュニケーション対応
- 第 14 回 項目 競争対応
- 第 15 回 項目 市場との対応

教科書・参考書 教科書：和田充夫、恩蔵直人、三浦俊彦, マーケティング戦略, 有斐閣アルマ, 2000年

メッセージ マーケティング戦略論を受講する時には、事前に流通論、マーケティング論を履修済みであることが、望ましい。

開設科目	商品学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 商品をめぐる諸問題を理解するための枠組みを、解説する。

授業の一般目標 商品をめぐる諸問題を知り、理論的枠組みを使って理解する。

授業の計画(全体) 幾つかの商品をめぐる問題の実際を説明し、その問題を理論的に捉えるための枠組みを解説する。いわゆる「講義」と呼ばれる形式で進める。

成績評価方法(総合) 原則として、定期試験100%。レポート等を課す場合がある。

教科書・参考書 教科書：教科書は、ない。/ 参考書：講義中に、適宜、紹介する。

メッセージ 初回の講義の際に、詳しいレジユメを配布して、講義内容、進め方についての説明を行う。履修希望者は、必ず出席すること。

開設科目	保険論 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	石田成則				

授業の概要 保険の基礎理論として、保険構造論と保険市場論を講義する。保険構造論では、まず、その根幹を成す原理・原則と特殊技術、さらに付保危険の要件を理解する。つぎに、保険価格＝保険料率の決定過程を付保危険の分類と関連づけ、それにより、保険の本質的機能である、危険評価機能と危険分散機能を理解する。最後に、保険の機能を現実にもとめて理解するために、保険類似制度と保険の分類について学ぶ。保険市場論では、保険市場の需要・供給分析のために、保険商品の財・サービスとしての特徴ならびに、リスク資産の取引市場としての特殊性を考える。また保険国営論と強制加入制度である社会保険についても、その制度概要と課題を学習する。

授業の一般目標 保険やリスクマネジメントの一般原則を理解する。また、周辺領域であるファイナンスや財務理論も一部摂取することで、保険と金融の融合化や保険事業のイノベーションについてもその動向を理解する。このような基礎理論の理解に上り、保険経営の実態や運用、リスクマネジメントの事例を学習することにより応用力を身に付ける。それにより、企業・行政府のリスクマネージャーや金融機関のリスクアナリストを目指す学生を養成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 保険とリスクマネジメントの基礎理論と事例研究を通じた実態を理解する。 思考・判断の観点： リスクマネジメント・サイクルなどの生産や製造過程におけるリスク管理の思考法を習得する。

授業の計画（全体） 1. 食品事故や交通事故など日常生活を取り巻く危険・リスクについて分かりやすく説明します。 2. テロや財務破綻など企業経営を取り巻く危険・リスクについて分かりやすく説明します。 3. 危険に対処するためのリスクマネジメント手法について、リスクコントロールとリスクファイナンスに分けてお話しします。 4. リスクコントロールとリスクファイナンスの具体的内容について、回避・予防・転嫁について具体事例を解説します。 5. 転嫁の重要な事例として、保険制度を取り上げて、その仕組みを分かりやすくお話しします。 6. 保険制度が成り立つために必要とされる要件を説明します。 7. 保険制度の対象となる保険事故とは何か、具体事例を取り上げて説明します。 8. 保険の価格である、保険料（率）について説明します。とくに、特性料率制と経験料率制について、理解を深めます。 9. 保険制度の社会的役割を、危険評価機能と危険分散機能という文言を使って説明します。 10. 賭け事・賭博や頼母子講などの保険類似制度について、その概略を説明し、保険制度への理解を深めます。 11. 保険制度を、生命保険、損害保険そして社会保険に分けて説明します。 12. 生命保険を取り上げて、その種類と役割を分かりやすく解説します。 13. 損害保険を取り上げて、その種類と役割を分かりやすく解説します。 14. 社会保険を取り上げて、その種類と役割を分かりやすく解説します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 リスク分析 1
- 第 2 回 項目 リスク分析 2
- 第 3 回 項目 リスクマネジメントの方法論 1
- 第 4 回 項目 リスクマネジメントの方法論 2
- 第 5 回 項目 リスクマネジメントの方法論 3
- 第 6 回 項目 保険の基礎理論 1
- 第 7 回 項目 保険の基礎理論 2
- 第 8 回 項目 保険の基礎理論 3
- 第 9 回 項目 保険制度の構造
- 第 10 回 項目 保険価格について
- 第 11 回 項目 保険の機能について
- 第 12 回 項目 保険の限界
- 第 13 回 項目 社会保険 1

第 14 回 項目 社会保険 2

第 15 回 項目 社会保険 3

成績評価方法 (総合) 期末試験と日常点

国際経済学科

開設科目	国際経済学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田淵太一				

授業の概要 この講義は、国際経済学のうち、とりわけ国際貿易理論を概説します。たんに通常のテキストブックに記述された内容を修得するだけでなく、通説を理論史や現実の世界経済に照らし合わせて、批判的に捉える考え方も紹介します。/ 検索キーワード 比較優位, リカード, ヘクシャー=オリーン, ケインズ

授業の一般目標 国際経済学のうち国際貿易理論の基本概念を把握したうえで、理論史や現実の世界経済の動きから既存の理論に欠けている点を批判的に捉えることを目標とする。

授業の計画(全体) 前半で比較優位の原理にもとづく貿易モデルを解説したうえで、後半ではそれらを理論史ならびに現実の世界経済に照らして批判的に捉えなおす。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨン
- 第 2 回 項目 比較優位 1-1 内容 リカード・モデル 1
- 第 3 回 項目 比較優位 1-2 内容 リカード・モデル 2
- 第 4 回 項目 比較優位 2-1 内容 ヘクシャー=オリーン・モデル 1
- 第 5 回 項目 比較優位 2-2 内容 ヘクシャー=オリーン・モデル 2
- 第 6 回 項目 比較優位 3-1
- 第 7 回 項目 比較優位 3-2
- 第 8 回 項目 貿易理論史 1
- 第 9 回 項目 貿易理論史 2
- 第 10 回 項目 貿易理論史 3
- 第 11 回 項目 現実の世界経済との対比 1
- 第 12 回 項目 現実の世界経済との対比 2
- 第 13 回 項目 規模の経済と貿易理論 1
- 第 14 回 項目 規模の経済と貿易理論 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 学期末試験 60%, 通常点 40%

教科書・参考書 教科書: 貿易・貨幣・権力, 田淵太一, 法政大学出版局, 2006年 / 参考書: 世界経済論, 本山美彦, ミネルヴァ書房, 2006年

メッセージ 基礎理論のたんなるトレーニングでなく、批判的に理論を捉える思考のプロセスを身につける授業です。

連絡先・オフィスアワー 連絡方法, オフィスアワーは初回の授業で公表します。

開設科目	国際マクロ経済学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田淵太一				

授業の概要 この講義は、国際経済学のうち、とりわけ国際金融論の基本概念を概説します。たんに通常のテキストブックに記述された内容を修得するだけでなく、通説を理論史や現実の世界経済に照らし合わせて、批判的に捉える考え方も紹介します。／検索キーワード 国際収支、為替レート、開放マクロ経済学

授業の一般目標 国際経済学のうち国際金融論の基本概念を把握したうえで、理論史や現実の世界経済の動きから既存の理論に欠けている点を批判的に捉えることを目標とする。

授業の計画（全体） 前半で国際収支・為替レート・開放マクロ経済学の基礎理論を解説したうえで、後半ではそれらを理論史ならびに現実の世界経済に照らして批判的に捉えなおす。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN
- 第 2 回 項目 国際収支 1
- 第 3 回 項目 国際収支 2
- 第 4 回 項目 為替レート 1
- 第 5 回 項目 為替レート 2
- 第 6 回 項目 為替レート 3
- 第 7 回 項目 開放マクロ経済学 1
- 第 8 回 項目 開放マクロ経済学 2
- 第 9 回 項目 理論史 1
- 第 10 回 項目 理論史 2
- 第 11 回 項目 現実の世界経済との対比 1
- 第 12 回 項目 現実の世界経済との対比 2
- 第 13 回 項目 貨幣史と権力 1
- 第 14 回 項目 貨幣史と権力 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 学期末試験 60％，通常点 40％

教科書・参考書 教科書：貿易・貨幣・権力，田淵太一，法政大学出版局，2006年／参考書：世界経済論，本山美彦，ミネルヴァ書房，2006年

メッセージ 基礎理論のたんなるトレーニングでなく，批判的に理論を捉える思考のプロセスを身につける授業です。

連絡先・オフィスアワー 連絡方法，オフィスアワーは初回の授業で公表します。

開設科目	貿易論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田淵太一				

授業の概要 この講義は国際貿易理論を概説し、発展途上国を中心とする世界経済の現状に照らし合わせて、批判的に捉える考え方を紹介します。 / 検索キーワード 比較優位, リカード, 開発経済学

授業の一般目標 比較優位の原理を中心に国際貿易理論の基本概念を把握したうえで、開発や現実の世界経済の動向から既存の理論に欠けている点を批判的に捉えることを目標とする。

授業の計画(全体) 第1部 リカード・モデルとリカード原典の対比, 第2部 貿易理論と開発, 第3部 リカード・モデルと現実の世界経済の対比

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション
- 第2回 項目 リカード・モデルとリカード原典との対比1
- 第3回 項目 リカード・モデルとリカード原典との対比2
- 第4回 項目 リカード・モデルとリカード原典との対比3
- 第5回 項目 リカード・モデルとリカード原典との対比4
- 第6回 項目 貿易論と開発1
- 第7回 項目 貿易論と開発2
- 第8回 項目 貿易論と開発3
- 第9回 項目 貿易論と開発4
- 第10回 項目 現実の世界経済との対比1
- 第11回 項目 現実の世界経済との対比2
- 第12回 項目 現実の世界経済との対比3
- 第13回 項目 現実の世界経済との対比4
- 第14回 項目 貿易と権力
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 学期末試験 80%, 通常点 20%

教科書・参考書 教科書: 貿易・貨幣・権力, 田淵太一, 法政大学出版局, 2006年 / 参考書: 世界経済論, 本山美彦, ミネルヴァ書房, 2006年

メッセージ 基礎理論のたんなるトレーニングでなく、批判的に理論を捉える思考のプロセスを身につける授業です。

連絡先・オフィスアワー 連絡方法, オフィスアワーは初回の授業で公表します。

開設科目	国際金融論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	瀧口治				

授業の概要 国際金融の理論を説明すると同時に、最近の通貨危機等の国際金融現象について解説する。/
 検索キーワード 国際収支、為替レート、通貨危機

授業の一般目標 (1) 国際金融現象に関わる理論を理解する。(2) 近年の通貨危機を理解する。(3) 安定的通貨制度のあり方について議論できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 国際金融の理論を理解する。近年の通貨危機を説明できる。 思考・判断の観点： 今後の国際金融制度について、自分の意見を述べることができる。

授業の計画(全体) 国際金融の理論を説明すると同時に、最近の通貨危機等の国際金融現象について解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国際収支 1
- 第 3 回 項目 国際収支 2
- 第 4 回 項目 為替政策 1(購買力平価)
- 第 5 回 項目 為替政策 2(金利平価)
- 第 6 回 項目 為替政策 3(マンデル・フレミング・モデル)
- 第 7 回 項目 為替政策 4(政治経済学的考察)
- 第 8 回 項目 国際金融市場とデリバティブ 1
- 第 9 回 項目 金融自由化と金融危機 1
- 第 10 回 項目 金融自由化と金融危機 2
- 第 11 回 項目 金融自由化と金融危機 3
- 第 12 回 項目 金融自由化と金融危機 4
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 定期試験(70%)とレポート(30%)で判断する。

教科書・参考書 教科書： 新版 国際金融論, 尾上修悟 編, ミネルヴァ書房, 2003 年

メッセージ 積極的な授業への参加を期待します。

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際金融論(旧)	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教官	瀧口治				

授業の概要 国際金融の理論を説明すると同時に、最近の通貨危機等の国際金融現象について解説する。なお、国際金融論(火5・6時限2単位)のシラバスも必ず見ること。 / 検索キーワード 国際収支、為替レート、通貨危機、欧州通貨統合

授業の一般目標 (1) 国際金融現象にかかわる理論を理解する。(2) 近年の通貨危機について知識を深め、安定的通貨制度のあり方について自分の見解を述べる。(3) 欧州通貨統合について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：国際金融の理論を理解する。近年の通貨危機を説明できる。欧州通貨統合の歴史を説明できる。 思考・判断の観点：今後の国際金融制度について、自分の意見を述べるができる。

授業の計画(全体) 国際金融の理論を説明すると同時に、最近の通貨危機等の国際金融現象について解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 欧州通貨統合1
- 第3回 項目 欧州通貨統合2
- 第4回 項目 欧州通貨統合3
- 第5回 項目 欧州通貨統合4
- 第6回 項目 欧州通貨統合5
- 第7回 項目 戦後の国際通貨体制1
- 第8回 項目 戦後の国際通貨体制2
- 第9回 項目 戦後の国際通貨体制3
- 第10回 項目 戦後の国際通貨体制4
- 第11回 項目 発展途上国と国際金融1
- 第12回 項目 発展途上国と国際金融2
- 第13回 項目 発展途上国と国際金融3
- 第14回
- 第15回

成績評価方法(総合) 定期試験(70%)とレポート(30%)で判断する。

教科書・参考書 教科書：新版 国際金融論, 尾上修悟 編, ミネルヴァ書房, 2003年

メッセージ 積極的な授業への参加を期待します。

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際投資論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	藤原貞雄				

授業の概要 国際投資とは、その名の通り、企業もしくは個人あるいは政府が国際間で行う投資のことである。国際投資は、利息や配当、あるいは値上がり益を得るために行われる証券投資（間接）と現地会社を設立あるいは経営することを目的とした直接投資とに分類することができる。授業においては直接投資に関する事柄を取り上げる。

授業の一般目標 授業の目標は、日本及びアジアの直接投資についての現実を知ることにより重点を置き、それらを整理し理解するための理論について講義は最小限に止め、多くを国際経済学などの基礎的な講義に期待する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 直接投資行動に関する基本的な知識を獲得する それらがもたらすさまざまな正負の効果に関する基本的知識を獲得する 試験でチェックする **思考・判断の観点：** 企業・産業の行動、政府の政策についての自身の評価、判断、予測できるようになる。レポートでチェックする **関心・意欲の観点：** 毎回提出する講義への質問・感想票で確認する。レポートで確認する。 **態度の観点：** 出席頻度、講義中の態度、質問へ回答できるかどうかで確認する。

授業の計画（全体） 全体 1 産業経済省の「海外事業活動報告書」（配布）で現状を認識する。 2 日本自動車産業を軸にグローバルな経営活動の現状を認識する（資料配付、パワーポイント）。 3 直接投資がもたらす日本への影響について現状を認識する（資料配付、パワーポイント）

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 国際投資とはなにか、何を対象とするのか、参考文献紹介
- 第 2 回 項目 日本の海外直接投資の現状（1） 内容 経済産業省「海外事業活動報告書」2004年版
- 第 3 回 項目 日本の海外直接投資の現状（2） 内容 経済産業省「海外事業活動報告書」2004年版
- 第 4 回 項目 日本の海外直接投資の現状（3） 内容 経済産業省「海外事業活動報告書」2004年版
- 第 5 回 項目 日本の海外直接投資の現状（4） 内容 経済産業省「海外事業活動報告書」2004年版
- 第 6 回 項目 国際経営（1） 内容 日本的生産システムの海外移転 米国のケース
- 第 7 回 項目 国際経営（2） 内容 日本的生産システムの海外移転 中国のケース
- 第 8 回 項目 国際経営（3） 内容 日本的生産システムの海外移転 中国のケース
- 第 9 回 項目 国際経営（4） 内容 日本企業における海外経営人材の養成
- 第 10 回 項目 海外直接投資と日本経済（1） 内容 自動車産業のケース
- 第 11 回 項目 海外直接投資と日本経済（2） 内容 自動車産業のケース
- 第 12 回 項目 海外直接投資と日本経済（3） 内容 自動車産業のケース
- 第 13 回 項目 海外直接投資と日本経済（4） 内容 自動車産業のケース
- 第 14 回 項目 海外直接投資と日本経済（5） 内容 まとめ 21世紀の日本経済と海外直接投資
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 開講回数3分の2以上出席者のみを評価対象とする。レポート（2回）50% 最終試験50% 講義への積極的態度（質問感想票など）で加点する。

教科書・参考書 教科書：とくに教科書を指定しない。参考文献一覧は初回講義で配布する。配付資料を保存すること / 参考書：とくに教科書を指定しない。参考文献一覧は初回講義で配布する。配付資料を保存すること

連絡先・オフィスアワー ブログを開設する予定。アドレスは初回講義で知らせる。

開設科目	国際運輸論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	澤喜司郎				

授業の概要 わが国のように、原油などの燃料や石炭・鉄鉱石などの原材料、多くの食料品を海外からの輸入に依存している国にとって、国際海運はライフライン（生命線）と言われています。つまり、日本の国際海上輸送は私たち日本人の生命にかかわる問題なのです。そこで、本年度は国際海運をテーマに講義します。かつて、わが国は海運国と呼ばれ、世界の海で日本船が活躍していましたが、外航日本籍船は1970年の1,508隻から2000年には134隻に減少し、外航船員数も1985年の22,536人から1999年には3,703人に減少してしまいました。なぜ、日本船と外航船員は減少してしまったか、このような状態で本当に日本人の生命は守られるのか、という問題などについて講義します。なお、この講義では上に記された問題を考えることによって、同時に現代日本の政治・経済の主要な問題であり課題である構造改革問題やリストラ問題、安全保障問題を考えることとなります。

授業の一般目標 国際海運の基礎知識を習得しつつ、国際海運をテーマにミクロ経済学及びマクロ経済学の基礎理論を復習し、同時に国際政治・経済やわが国の政治・経済を見る目を養う。

授業の計画（全体） 講義の概要は以下の通りであるが、一部変更することもあることをお断りしておく。

1. 海と船（海運市場の概要）
2. 必要な船の量はどのように決まるのか（貿易量と海運需要量の関係）
3. 先進国船はなぜ途上国船に負けたのか（海運保護政策と国家の利益）
4. 日本船は何故なくなったのか（海の多国籍化としての便宜置籍）
5. 便宜置籍によって誰が得をするのか（海運資本輸出と国内分配）
6. 日本人船員はどこへ行ったのか（外国人船員の雇用と日本人船員の失業）
7. 若い頃に勉強した船員は高給取り（過剰船員の発生と出向）
8. 日本にとって、世界にとって何が最適か（自由化と日本の海運政策）など。

成績評価方法（総合） 試験 70%、出席 30%

教科書・参考書 教科書：国際海運経済学、澤喜司郎、海文堂出版、2001年

開設科目	物流論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	澤喜司郎				

授業の概要 本年度は、物流において重要な役割を担うノードとしての港湾を取り上げます。重化学工業政策を基盤として顕著な発展をみせた高度経済成長期が終焉し、国際化や情報化とともに成立した成熟化社会の下では、港湾は港湾本来の生産的視点とは別の角度から位置づけられることになり、そこには(1)港湾域及び港湾に隣接する臨海部を都市の活性化のために活用する、(2)港湾域を一般の市民に開かれた豊かで潤いのあるウォーターフロントとして創造する、(3)地球環境を守る視点で港湾環境を保全し創造するとともに環境共存型港湾を建設するという課題があり、それが港湾行政の今日的な課題になっています。本講義では、日本経済を基底に港湾社会の政策と理論について講義する予定です。

授業の一般目標 港湾と港湾物流に関する基礎知識を習得するとともに、近年の日本経済について復習しつつ、今日の港湾をめぐる諸問題について理解を深める。

授業の計画(全体) 講義の概要は以下の通りであるが、一部変更することもあることをお断りしておく。

1. 海と港
2. 港湾整備事業と評価制度
3. 港湾整備事業の変遷と財政政策
4. 港湾の管理運営制度に関する検討の方向
5. 港湾の整備計画と今後の役割
6. 戦後の日本の港と港湾労働
7. 港湾運送における産業連関と需要構造
8. 国際分業における港湾の物流拠点化
9. 輸入促進地域の現状と課題
10. 地域物流の現状と問題点
11. 都市観光の対象としてのウォーターフロントなど。

成績評価方法(総合) 試験 70%、出席 30%

教科書・参考書 教科書：現代日本経済と港湾, 小林照夫他編, 成山堂書店, 2001年

開設科目	貿易実務(旧)	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	上羽博人				

授業の概要 日本経済は深く貿易に依存していますが、そこには煩雑な貿易実務があります。現在、貿易実務は貿易システムの変化、交通手段の発達、経済のグローバル化にともない、簡素化、世界共通化の方向にあります。この講義では、物品を国際間で円滑に取引(商流)、移動(物流)させるために必要な基本的な貿易実務の知識、実務を習得します。/検索キーワード INCOTERMS 信用状 通関 船荷証券 海上保険

授業の一般目標 (1) 貿易実務に関する国際条約、国際ルールの理解 (2) 貿易手続き(輸出・輸入)(売買契約、代金決済、リスク・マネジメント、貿易管理、物流)の理解 (3) 貿易書類(船積関係書類、通関関係書類など)の作成

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 貿易手続き(売買契約、代金決済、リスク・マネジメント、貿易管理、物流)の実態を理解し、貿易実務の全体構造を習得。 思考・判断の観点: 売買契約、取引商品、取引相手国ごとに異なる貿易実務を適切に行なう知識を習得。 関心・意欲の観点: 貿易に興味を持つとともに、貿易実務に関する資格試験(通関士試験、貿易実務検定、国際物流管理士など)に挑戦。

授業の計画(全体) 日本の貿易の実態、貿易実務の全体構造、それぞれの実務の内容を順番に説明し、最終的に各自が基本的な実務(船積関係書類、通関関係書類の作成)ができるように実習を行ないます。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 貿易と貿易実務の概要 内容 貿易、多国籍企業、貿易管理、貿易実務の概要 授業外指示 最近の貿易関係の事故、事件の資料を読んでおいてください。 授業記録 1つの項目は2週連続(午前2時間、午後2時間)です(合計30回)。
- 第 2 回 項目 国際条約、国際ルール 内容 売買契約、代金決済、リスクマネジメント、貿易管理、物流に関する法令とルールの概要
- 第 3 回 項目 INCOTERMS 内容 貿易条件(INCOTERMS)13項目 授業外指示 以下の項目は授業前に教科書を読んでおいてください。
- 第 4 回 項目 売買契約 内容 契約前手続き、契約手続き(信用状あり、信用状なし)など
- 第 5 回 項目 代金決済 内容 荷為替手形決済(信用状、D/P、D/A) 送金決済など
- 第 6 回 項目 リスクマネジメント 内容 貨物損害保険、貿易保険、運送責任、為替予約、クレーム処理、ロジスティクスなど
- 第 7 回 項目 貿易管理 内容 関税関係法令、他法令など
- 第 8 回 項目 国際物流 内容 物流手段、運送契約、船荷証券、運送状など
- 第 9 回 項目 輸出貿易手続き(手続きの構造) 内容 輸出手続き(売買契約、代金決済、リスクマネジメント、貿易管理、物流)の全体構造と関係など 授業外指示 以下の項目は配布する貿易書類を見ておいてください。
- 第 10 回 項目 輸出貿易手続き(輸出関係書類) 内容 輸出関係書類(売買契約書、荷為替手形、保険証券、輸出申告書、船荷証券など)の内容と関係など
- 第 11 回 項目 輸入貿易手続き(手続きの構造) 内容 輸入手続き(売買契約、代金決済、リスクマネジメント、貿易管理、物流)の全体構造と関係など
- 第 12 回 項目 輸入貿易手続き(輸入関係書類) 内容 輸入関係書類(売買契約書、荷為替手形、保険証券、輸入申告書、船荷証券)の内容と関係など
- 第 13 回 項目 船積関係書類の作成 内容 売買契約書、信用状など
- 第 14 回 項目 船積関係書類の作成 内容 INVOICE、PACKING LIST、輸出申告書、船荷証券など
- 第 15 回 項目 試験
- 第 16 回
- 第 17 回

- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) ・貿易実務の内容は幅広く複雑なので、欠席すると分からなくなります。このため、授業態度・授業への参加度や出席を重視します。(出席確認を毎日の午前の授業と午後の授業の 2 回行います。どこで行うかは授業の進み方により異なります。) ・成績は試験、授業態度・授業への参加度、出席など総合的に評価します。 試験(講義の最後の日に行います) = 約 60% 授業態度や授業への参加度 = 約 10% 出席 = 約 30%

教科書・参考書 教科書： 図解 貿易実務ハンドブック (ベーシック版 第 2 版), 日本貿易実務検定協会(編), 中央書院, 2005 年

メッセージ 将来、製造業、貿易商社、国際運送業界(船会社、航空会社など)など、貿易取引、国際物流分野へ就職希望のある方、通関士試験、貿易実務検定を受験される予定の方には、役立つ講義になります。

連絡先・オフィスアワー weber@yokohama-pc.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	現代世界経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	河野真治				

授業の概要 現在の世界経済について、様々なトピックを取り上げながら概観していく。取り上げるテーマは、WTO や地域主義などの貿易体制、多国籍企業と直接投資、国際通貨問題、貧困と援助、地球環境問題などである。 さらに、トータルな世界経済の動向について、三極間の競争(米、欧、アジア)や情報化の影響、グローバリゼーション、国際的寡占化などについても検討する。

授業の一般目標 目標は、世界経済に関する日々の新聞報道が、文句なしに読めるようになることである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界経済に関する一般的知識を得ること。 関心・意欲の観点：世界経済に興味を持ち、毎日新聞を読むようになること。

授業の計画(全体) 1 この授業で何を学ぶか 2 世界の貿易問題 3 直接投資と多国籍企業
4 国際通貨体制 5 世界経済の諸問題(環境、貧困、人口) 6 世界経済の見方(アメリカ体制、三極構造、グローバル化)

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業計画
- 第 2 回 項目 GATT/WTO について
- 第 3 回 項目 地域主義について
- 第 4 回 項目 EU について
- 第 5 回 項目 多国籍企業(1)
- 第 6 回 項目 多国籍企業(2)
- 第 7 回 項目 多国籍企業(3)
- 第 8 回 項目 国際通貨体制とドル
- 第 9 回 項目 世界の貧困と援助
- 第 10 回 項目 世界の人口問題
- 第 11 回 項目 地球環境問題
- 第 12 回 項目 世界経済の基本構造
- 第 13 回 項目 グローバリゼーション
- 第 14 回 項目 情報化と世界経済
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 毎回の授業で行う小レポートが 60 点、期末テストが 40 点、で評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は使わない。 / 参考書：1 回目の講義で紹介する。

開設科目	国際関係論(旧)	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	大林洋五				

授業の計画(全体)(1)「社会主義世界体制」の崩壊=東西対立の終焉と、新しい世界秩序への模索
 東西対立のための組織の変容 - NATO, EEC (EC EU) 旧社会主義諸国の、「再生への苦闘
 「社会主義市場経済」論 残された東西対立 - 朝鮮半島 etc. (2)南北問題 - 発展途上国 vs. 先進工業
 国 旧植民地・従属国 vs. 宗主国からの変容 領土、国防、貿易、金融、資源、環境、.....問題での基
 本的対立 (3)エスニック対立 宗教、言語、民族、部族、人種..... 国際関係と国内のエスニック
 対立 (4)紛争解決の方法 - 平和的、協力による 戦争と平和、国際機関の役割 (5)「抑止力」とは
 なにか 「戦わずして勝つ」、「戦わずして敵を拒む」 「抑止」か? 「促進」か? (6)軍備競争と軍
 備縮小(軍縮) 部分的軍縮と全面的軍縮「軍備撤廃」(7)軍事同盟 - その目的と効果 中立主義
 (8)「世界国家」の理念と批判 世界帝国 - 恒久平和か、世界支配か 世界連邦の運動 (9)異なっ
 た価値観への寛容 内政不干渉と国際協力

教科書・参考書 教科書：使用しない。 / 参考書：世界地図(アトラス)を用意してほしい。(高校社
 会で使用したもの、もしくは最近多い「紛争世界地図」のようなものでもよい)

メッセージ 講義中、講義後の質問歓迎。知識を増やすのみでなく、複眼的な、物の見方を。

連絡先・オフィスアワー (FAX)083-924-9683(自宅)による質問を歓迎する。

開設科目	アメリカ経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	河野真治				

授業の概要 90年代アメリカの「ニューエコノミー」について検討する。90年代はアメリカの「一人勝ち」といわれ、好況期が戦後2番目といわれるほど長期に継続し、「ニューエコノミー」が叫ばれたが、この主張を批判し、アメリカ経済の長期衰退傾向は継続していることを論証する。同時に、アメリカ経済の制度的特徴についても、説明する。

授業の一般目標 アメリカ経済の一般的特徴を理解し、今の状況を把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：アメリカ経済について一般的知識を獲得するとともに、90年代の「ニューエコノミー」論について理解する。

授業の計画(全体) 1 この授業で何を学ぶか 2 戦後アメリカ経済の衰退 3 90年代の「繁栄」と「ニューエコノミー」論 4 「ニューエコノミー」論批判 5 経常赤字論争 6 再びアメリカ経済の衰退

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業計画
- 第2回 項目 戦後アメリカ経済と衰退(1)
- 第3回 項目 戦後アメリカ経済と衰退(2)
- 第4回 項目 90年代の繁栄
- 第5回 項目 「ニューエコノミー」論
- 第6回 項目 IT革命
- 第7回 項目 グローバリゼーション
- 第8回 項目 貿易収支と国際競争力
- 第9回 項目 株価上昇とバブル論
- 第10回 項目 経常収支赤字は継続できるか
- 第11回 項目 プッシュ政権と双子の赤字
- 第12回 項目 米中経済関係
- 第13回 項目 自動車産業の衰退
- 第14回 項目 アメリカ経済の衰退再論
- 第15回

成績評価方法(総合) 毎回の小レポートが60点、期末テストが40点、で評価する。

教科書・参考書 教科書：教科書は使わない。 / 参考書：1回目の講義で指示する。

開設科目	ヨーロッパ経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	豊嘉哲				

授業の概要 ヨーロッパ統合の歴史を理解する。

授業の一般目標 ヨーロッパ統合の歴史を理解し、それに対する意見を述べることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：ヨーロッパ統合の歴史に関する知識を身につける。 思考・判断の観点：ヨーロッパ統合の歴史に関して自分の見解を述べる。

授業の計画（全体） ヨーロッパ統合が進められる過程で、どのような政策が実施されてきたかを解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 ヨーロッパ統合の出発
- 第 3 回 項目 関税同盟と共通農業政策
- 第 4 回 項目 EU の組織
- 第 5 回 項目 市場統合の進展 1
- 第 6 回 項目 市場統合の進展 2
- 第 7 回 項目 通貨統合 1
- 第 8 回 項目 通貨統合 2
- 第 9 回 項目 通貨統合 3
- 第 10 回 項目 構造政策
- 第 11 回 項目 EU 拡大 1
- 第 12 回 項目 EU 拡大 2
- 第 13 回 項目 EU の対外関係
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 定期試験とレポート。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：外務省 HP <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eu/index.html>

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代日本社会事情	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河野 笙子				

授業の概要 現代日本に特徴的な社会経済的問題を新聞や雑誌等の記事を通して様々な角度から取り上げます。テーマ別に編集された切り抜き記事コピー集の読解を中心に授業を進め、他国、他地域との比較文化論的な観点からの掘り下げも行います。 / 検索キーワード 時事日本語、現代日本社会、現代日本経済

授業の一般目標 (1) 経済学部で学ぶ外国人留学生に必要な基礎的知識・社会常識を身につける。(2) 時事日本語に対する読解力を身につける。(3) 時事問題に対する分析力を養う。(4) 現代日本社会に対する理解と認識を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 . 時事問題の読解ができる。 2 . 取り上げられたテーマについての説明ができる。 思考・判断の観点： 1 . 時事問題の背景や問題点などについて自分の意見が言える。 関心・意欲の観点： 1 . 現代社会で起きている様々な問題に関心を持つ。 態度の観点： 1 . 時事問題について問題意識を持って考えることができる。 技能・表現の観点： 1 . 時事問題についての論述が日本語でできる。

授業の計画(全体) 選ばれた15のテーマを主要記事の読解を中心に進める。一緒に収められている関連記事も取り上げながら全体的な解説を行い、内容確認の後、話し合いや意見交換を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 グローバル文化社会 内容 異文化理解と外国人問題
- 第 2 回 項目 若者の自立と雇用問題 内容 フリーターと失業問題
- 第 3 回 項目 ワークシェアリング 内容 労働の分かち合い
- 第 4 回 項目 サービス残業 内容 過労社会の実態
- 第 5 回 項目 日本型雇用慣行と成果主義 内容 過渡期の日本型雇用慣行
- 第 6 回 項目 郵政民営化 内容 民営化の問題点
- 第 7 回 項目 経済学と環境問題 内容 経済発展と環境問題
- 第 8 回 項目 セーフガード 内容 緊急輸入制限措置と自由貿易
- 第 9 回 項目 コンビニ社会 内容 変貌する消費社会
- 第 10 回 項目 IT 社会 内容 IT の功罪
- 第 11 回 項目 肖像権と著作権 内容 権利の侵害と保護
- 第 12 回 項目 個人情報保護問題 内容 情報保護とメディア規制
- 第 13 回 項目 裁判員制度 内容 司法制度改革
- 第 14 回 項目 男女共同参画社会 内容 男女平等問題
- 第 15 回 項目 現代日本の諸相 内容 討論

成績評価方法(総合) 毎回、主要記事の内容に関する質疑応答を行う。その後の話し合いや意見交換への参加度も重視される。出席率は勿論重要であり、特別な理由がない限り、7割以下の学生には単位を与えない。最後に、自分が最も関心の高かったテーマについて、1200字~1600字程度のレポートを作成し指定期日までに提出する。レポートを提出しない場合も単位は与えられない。

メッセージ 留学生の皆さんが楽しく有意義で実り多い学生生活を送れるよう、多方面から協力していきたいと思っています。質問や相談があれば気軽に C 103 室(留学生指導室)をお訪ねください。

連絡先・オフィスアワー k-shoko@yamaguchi-u.ac.jp 電話 (933)5562 研究室:経済学部 C103 室 オフィスアワー:木曜日 14時30分~16時

開設科目	国際協力論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	今津武				

授業の概要 グローバル化が進む中で、地球規模の課題（Global Issues）に対しては、先進国から開発途上国への一方方向の支援ではなく、問題解決のためには開発途上国側の参画が不可欠（本来の「国際協力」の枠組み）であり、また政府レベルから地域社会間の協力へと支援チャンネルが多様化するといった変化も見られるようになった。本講座ではこうした世界情勢を展望し先進諸国と途上国の関係の今後のあり方を議論し、日本の国際社会に対するメッセージとしての政府開発援助（ODA）を概観する。／検索キーワード 国際協力、政府開発援助（ODA）、国際協力機構（JICA）

授業の一般目標 「何故、途上国支援が必要なのか？」を考え、「途上国支援」が日本を含む先進諸国の未来に向けたあるべき姿や進むべき道を模索する上で、大きな示唆を与えるものであることを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 貧困を中心とする世界の途上国の課題とそのことに対する日本の取り組みにつき説明できる。 思考・判断の観点： 開発途上国の課題やそのことが日本を含む先進国のあり方にどのように影響を与えるかといった点を踏まえ、21世紀の世界の方向性を自らの考えとして説明する。 関心・意欲の観点： 日常生活における国際社会との関わりに関心を持つ。 態度の観点： 自らも参加できる国際協力活動に関心を持つ。

授業の計画（全体） (1)「国際協力」や「途上国支援」を考えるために必要な基礎知識を、歴史的背景、実施体制・方法、最近の潮流までを含み講義する。(2)可能な限り現場での経験や事例を含んだ講義とする。そのためJICA中国国際センターとの連携講義とし、援助事業に携わるJICA職員、専門家、青年海外協力隊員として派遣経験のある方々を、講師として依頼する。(3)開発途上国の問題と日本の国際社会における役割との関係をより多くの人々に理解していただくため、学外への「開放授業」とする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 本講座の目標と実施方法・スケジュール説明、講義内容への希望聴取。途上国との関わりの中で考えたこと（35年間の途上国支援業務を省みて）
- 第 2 回 項目 途上国援助の歴史と最近の潮流 内容 東西冷戦や南北問題を踏まえ、今途上国援助がどのような状況にあるかを説明。
- 第 3 回 項目 グローバル・イシューとMDGs 内容 21世紀に入りグローバル化が加速してきたが、そうした中で国際社会は地球社会に向けてどのような取り組みをしているかを説明。
- 第 4 回 項目 日本の政府開発援助（ODA）の歴史と政策 内容 第2次世界大戦後の日本の復興は欧米諸国の支援で実現した。そうした経験を持つ日本のODAの歴史と政策を、他の援助国を比較しつつ説明。
- 第 5 回 項目 ODAの実施体制と予算 内容 日本のODAの仕組みとその予算などについて、世界と比較して説明。
- 第 6 回 項目 資金協力の実施と課題/テスト1 内容 ODAの中から無償資金協力、有償資金協力（借款）について説明。第5週までの講義内容についてその理解度を測るための小テストを実施。
- 第 7 回 項目 国際協力機構（JICA）の歴史と役割 内容 日本の技術協力と無償資金協力を担うJICAについての説明。（JICA職員を予定）
- 第 8 回 項目 技術協力の内容と課題 内容 技術協力の仕組みと現在までの成果、今後の課題を説明。（JICA職員を予定）
- 第 9 回 項目 JICA国内事業とパートナー・シップ 内容 JICAが地方自治体、NGO、大学などどのように連携して事業を進めているかの説明。（JICA職員を予定）
- 第 10 回 項目 国際協力の現場からの報告 内容 技術協力専門家経験者等からの現地活動報告。
- 第 11 回 項目 青年海外協力隊の活動 内容 青年海外協力隊経験者からの活動報告。
- 第 12 回 項目 開発途上国の問題と日本の役割 内容 11週までの講義を基に、途上国支援における日本の役割について、学生間でグループ討議を行う。

- 第 13 回 項目 グループ討議結果の発表/小テスト 2 内容 JICA 関係者からの講義のについてその理解度を測るための小テストを実施。グループ討議結果の発表。
- 第 14 回 項目 途上国援助の将来的意義 内容 途上国支援が日本をはじめとする先進諸国を含めた地球社会にとってどのような意味を持つのかを説明。
- 第 15 回 項目 学生からの発表 内容 13 週までに提出を求めたレポートに基づき、学生からこの授業で学んだ点の発表。

成績評価方法 (総合) (1) 授業の中で小テストを 2 回実施する。(2) 日本の国際貢献に関する 3000 字程度のレポートを作成し、最終授業時に提出する。(3) 出席が所定の回数に満たない場合は、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：教官の作成するレジメを使用する。/ 参考書：国際協力用語集(第 3 版), 国際開発ジャーナル社, 2004 年; 地球市民をめざして, 栗木千恵子, 中央公論新社, 2001 年; グローバル 8 つの物語 国際協力の足跡を追って, 青木公他, 国際開発ジャーナル社, 1999 年; 転機の海外援助, 緒方貞子編, NHK 出版, 2005 年; 途上国ニッポンの歩み 江戸から平成までの経済発展, 大野健一, 有斐閣, 2005 年

メッセージ 開発途上国のことや日本の政府開発援助(O D A)については、よく理解できないとの声がかかります。本講義では国際協力やボランティア事業に携わった方々の現場からの報告を取り入れました。教官も 35 年余途上国との関係で仕事をしてきましたので、分かり易く途上国の問題を考えるヒントを提供します。受講者がそれぞれの立場で途上国の課題や日本の役割についての意見交換を活発に行える授業にしたいと考えています。

連絡先・オフィスアワー E-mail:imazu@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:経済学部 C 棟 2 階(C-218) オフィスアワー:金曜日 午後 1 時 30 分 ~ 4 時 30 分

開設科目	国際地域統合論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	尹春志				

授業の概要 現在、経済のグローバル化が叫ばれるなか、世界中で自由貿易協定、地域協定の締結が進められています。それは、従来、多角主義を通商政策の基本としてきた日本も例外ではありません。この講義では、なぜいま自由貿易協定、地域協定がなのか、そして日本の通商政策はこの点でどのように変容しているのかについて検討を行います。 / 検索キーワード WTO、自由貿易協定、地域協定、東アジア共同体

授業の一般目標 現在の世界経済の政治経済を見るうえで、自由貿易協定、地域協定の締結の動きは欠かすことのできない題材です。この講義では、こうした論点を詳細に検討することを通じて、現在のグローバル経済の力学関係を理解することを目標とするものです。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：世界経済の基礎的な構造について理解する。 思考・判断の観点：日本の通商政策を展望する力を養う。 技能・表現の観点：レポート課題を通じて、大学生としての文章作法を身につける。

授業の計画（全体） 講義は、板書と口述をもとに行い、必要に応じてプリントを配布する。まずは、地域統合の現状、既存の理論から開始し、欧州、米州、日本と東アジアの順に具体的な地域統合の実態について講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로 内容 講義全体の説明
- 第 2 回 項目 世界の地域統合の現状 (1) 内容 グローバル化と地域化
- 第 3 回 項目 世界の地域統合の現状 (2) 内容 なぜ地域統合が増殖するのか
- 第 4 回 項目 経済統合の理論 (1) 内容 国際経済学の議論
- 第 5 回 項目 経済統合の理論 (2) 内容 国際政治経済学の議論
- 第 6 回 項目 欧州の地域統合 (1) 内容 欧州統合の理念
- 第 7 回 項目 欧州の地域統合 (2) 内容 欧州経済圏の実態
- 第 8 回 項目 欧州の地域統合 (3) 内容 欧州と中東欧諸国
- 第 9 回 項目 米州の地域統合 (1) 内容 北米自由貿易地域
- 第 10 回 項目 米州の地域統合 (2) 内容 米国の通商政策と米州自由貿易地域構想
- 第 11 回 項目 日本と東アジアの地域統合 (1) 内容 日本の通商政策と東アジア
- 第 12 回 項目 日本と東アジアの地域統合 (2) 内容 日本の自由貿易協定戦略
- 第 13 回 項目 日本と東アジアの地域統合 (3) 内容 東アジアの自由貿易協定
- 第 14 回 項目 日本と東アジアの地域統合 (4) 内容 東アジア共同体を巡る議論
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 講義内容の理解度を測るために、最大 3 回の授業外レポートを課し、それに期末試験を加味して全体の評価とする。評価の基準は、講義内容の理解におかれるが、発展的な内容については加算する。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない。 / 参考書：必要に応じて随時指示する。

開設科目	経済発展論(旧)	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	松井範惇				

授業の概要 経済発展に関する主要なトピックについて学びます。途上国の経済成長、開発、貧困、工業化、農業発展、国際的側面、援助などについて研究する。特に、貧困、飢餓、飢饉について、それらの関係・原因・対策などについて総合的に考え、理論的な考察を行う。また、この授業では、単なる講義形式はとらず、出席者(つまり受講者)全員が、読み、書き、考え、討論に参加し、小試験を受けることによって、自ら考え、学ぶ態度を身につける、ことを目指す。自分の考えを発表し、読んだことをまとめて書く作業・能力は、一生 極めて大事です。/ 検索キーワード 開発、農業、工業化、貧困、飢餓、飢饉、アジア・アフリカ

授業の一般目標 開発途上国の諸問題について、自分で考えられるよう、より一層興味を持てるようにします。

授業の計画(全体) 1. 序、貧困、開発、飢餓 2. 人口 3. 緑の革命 4. 工業発展 1 5. 工業発展 2 6. 貿易とFDI 7. 飢饉の本質 8. 飢饉の理論: 気候と人口、エンタイトルメント・アプローチ 9. 天然資源、開発、政府 10. 戦争、国際関係 11. 中国 12. ODA 13. アジア経済危機 14. アジア経済の新動態 15. まとめ

成績評価方法(総合) 出席: 10%、小試験(2): 25%、25%、期末試験(または、プロジェクト) 40%

教科書・参考書 教科書: 開発経済学入門, 渡辺利夫, 東洋経済新報社, 2001年; 飢饉の理論, デブロー, 東洋経済新報社, 1999年

メッセージ 発展途上国のことについて好奇心の旺盛な人、学ぶことを学びたい人、大歓迎ですから、しっかりついてきて下さい。

連絡先・オフィスアワー 933 - 5530 npmatsui@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	東南アジア経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松井範惇				

開設科目	開発とジェンダー	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	横田伸子				

授業の概要 経済のグローバル化とともに、先進国、開発途上国を問わず女性の労働力化が急速に進展している。しかし、女性労働は、男性労働に対して「補助的」であったり、インフォーマルな労働として労働市場に編入された結果、差別的な低賃金や劣悪な待遇下におかれている。本講義では、「ジェンダーの視角」から、女性が「開発」や「経済発展」にどのように動員されてきたかを見ることで、「開発と貧困」の問題を新たに捉え直すことを目的とする。 / 検索キーワード ジェンダー、経済のグローバル化、性別役割分業、開発、経済発展、女性の労働力化

授業の一般目標 「ジェンダーの視角」から、女性が「開発」や「経済発展」にどのように動員されてきたかを見ることで、「開発と貧困」の問題を新たに捉え直すことを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1 「ジェンダー」という概念を正しく理解する。 2 「開発」や「経済発展」における女性の動員のされ方や役割について正しく理解する。 思考・判断の観点： 1 「ジェンダー」の概念を用いて、「開発」や「経済発展」における女性の動員のされ方や役割について論理的に説明できる。 関心・意欲の観点： 日常生活や一般社会に潜む「ジェンダー構造」について意識的に知ろうとする。 態度の観点： 講義に対する質問や自分の意見を提示するなど、講義に積極的に参加する。 技能・表現の観点： 「開発」や「経済発展」における女性の動員のされ方や役割について論理的に説明し、叙述できる。

授業の計画(全体) 1 「ジェンダー」という概念の説明 2 「近代家族の形成」とグローバリゼーション 3 . 日本における女性の就業と社会政策 4 . 国際連合の女性政策の展開過程 5 . 開発体制と女性動員 - 韓国の農村開発を中心に -

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「ジェンダー」という概念 (1) 内容 「ジェンダー」という概念の新しさと意義について説明する
- 第 2 回 項目 「ジェンダー」という概念 (2) 内容 「ジェンダー」という概念の新しさと意義について説明する
- 第 3 回 項目 「近代家族」の形成とグローバリゼーション (1) 内容 産業革命以降の「近代家族」の形成と意味について論じる
- 第 4 回 項目 「近代家族」の形成とグローバリゼーション (2) 内容 戦後フォードイズム体制の下での「近代家族」体制の強化と福祉国家について論じる
- 第 5 回 項目 「近代家族」の崩壊とグローバリゼーション 内容 グローバリゼーションの進展の中で「近代家族」がどのように崩壊していったのか、それとともに福祉国家体制がいかに後退しているのかについて論じる
- 第 6 回 項目 日本における女性の就業と社会政策 (1) 内容 日本における女性の就業の特徴について論じる
- 第 7 回 項目 日本における女性の就業と社会政策 (2) 内容 日本における女性の就業の特徴について論じる
- 第 8 回 項目 日本における女性の就業と社会政策 (3) 内容 日本における女性の働き方を特徴づける社会政策について試みる
- 第 9 回 項目 国際連合の女性政策の展開過程 (1) 内容 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で発展途上国の女性が「開発」にいかにか巻き込まれてきたのか歴史的に見る
- 第 10 回 項目 国際連合の女性政策の展開過程 (2) 内容 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で発展途上国の女性が「開発」にいかにか巻き込まれてきたのか歴史的に見る

- 第 11 回 項目 国際連合の女性政策の展開過程 (3) 内容 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で発展途上国の女性が「開発」にいかにか巻き込まれてきたのか歴史的に見る
- 第 12 回 項目 国際連合の女性政策の展開過程 (4) 内容 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で発展途上国の女性が「開発」にいかにか巻き込まれてきたのか歴史的に見る
- 第 13 回 項目 開発体制と女性の動員 - 韓国の農村開発を中心に - (1) 内容 開発国家において女性が開発にいかにか動員され、どのような役割を果たしてきたのかについて、韓国の農村開発を例に取ってみてみる。
- 第 14 回 項目 開発体制と女性の動員 - 韓国の農村開発を中心に - (2) 内容 開発国家において女性が開発にいかにか動員され、どのような役割を果たしてきたのかについて、韓国の農村開発を例に取ってみてみる。
- 第 15 回 項目 開発体制と女性の動員 - 韓国の農村開発を中心に - (3) 内容 開発国家において女性が開発にいかにか動員され、どのような役割を果たしてきたのかについて、韓国の農村開発を例に取ってみてみる。

成績評価方法 (総合) 1 . 試験とレポート、講義に対する質問や意見などを総合的に判断する。 2 . 出席を重視する。 3 . 試験 60 %、授業への参加度 10 %、レポート 10 %、出席 20 %

教科書・参考書 参考書：男女共同参画社会を作る, 大沢真理, NHK ブックス, 2002 年；開発とジェンダー, 大沢真理他編, , 2002 年；福祉国家とジェンダー, 大沢真理編, 明石書店, 2003 年；後発工業国における女性労働と社会政策, 村上薫編著, アジア経済研究所, 2002 年

メッセージ 近年さかんに行われている「ジェンダー研究」は、性別を超えて人間としての生き方を根本から問い直す学問です。「自分らしく生きる」とはどういうことなのか、この授業で一緒に考えてみませんか。

連絡先・オフィスアワー E-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済学部 A 棟 425 オフィスアワーはとくに設けませんが、質問等があるときは在否を確認の上、訪ねてきてください。

開設科目	東アジア経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	尹春志				

授業の概要 東アジアは、歴史上まれに見る急成長をとげ、世界の工場といわれるまでになっている。この経済成長の過程には、日本経済と日本企業が重要な役割を果たしてきた。この講義では、東アジア地域の経済構造を、主に生産、貿易、投資、企業活動の観点から、可能な限り統計的な数値を用いて分析し、日本と東アジア経済の関係についての理解を深めることを目的としている。

授業の一般目標 東アジア経済は、どのように発展してきたのか、またそれは日本経済や日本企業とどのような関係にあるのかを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 東アジア経済についての基本的な特徴を知り、日本と東アジアの経済的な結びつきを理解する。 思考・判断の観点： 地域経済の分析に必要な統計数値とその読み方について学ぶ。

授業の計画（全体） 講義は、口述筆記形式で板書を多様する。また理解を深めるために、統計データや図表を付したプリントを配布する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로 内容 講義全体の説明
- 第 2 回 項目 東アジアの経済成長の特徴 内容 輸出志向工業化
- 第 3 回 項目 東アジアの経済発展パターン (1) 内容 雁行形態論
- 第 4 回 項目 東アジアの経済発展パターン (2) 内容 雁行形態論
- 第 5 回 項目 東アジアの経済発展パターン (3) 内容 雁行形態論
- 第 6 回 項目 東アジア価値連鎖論 (1) 内容 新国際分業とグローバル価値連鎖
- 第 7 回 項目 東アジア価値連鎖論 (2) 内容 繊維産業
- 第 8 回 項目 東アジア価値連鎖論 (3) 内容 IT 関連財産業
- 第 9 回 項目 東アジア価値連鎖論 (4) 内容 自動車産業
- 第 10 回 項目 東アジアにおける日系多国籍企業
- 第 11 回 項目 東アジアにおける日系多国籍企業
- 第 12 回 項目 東アジアにおける国家の役割
- 第 13 回 項目 中国経済と日本 (1)
- 第 14 回 項目 中国経済と日本 (2)
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 授業内容を理解しているかどうか、それを論理的な文章で表現できているかどうかで評価を行う。例年の試験で多く見受けられるのは、板書したことを羅列する答案である。しかし、板書するものは、要約的なものにすぎないので、それを丸暗記して書き移すだけでは十分ではない。板書した内容を自ら文章で論じる力が試験合格の最低基準である。

教科書・参考書 教科書： 特に指定しない。 / 参考書： 授業中に必要に応じて指示する。

開設科目	東アジア社会経済	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	李海峰				

授業の概要 東アジア社会経済は世界的に注目されています、経済の発展と共に社会はどのように変化しているのか、マクロ的には国際社会経済との関連を考察しながら、市場経済化に伴う経済社会の変化を統計データ、実態調査から検討する、/検索キーワード 東アジア経済、社会の変化、

授業の一般目標 中国の社会経済と国際化の実態分析を通して、中国と日本および他の東アジア諸国との経済、ビジネスにおける競争・協力関係を検討し、国際的に活躍できる人材の育成をめざす。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 計画経済から市場経済への転換
- 第 2 回 項目 中国経済の発展と東アジアの社会経済
- 第 3 回 項目 中国と ASEAN
- 第 4 回 項目 中国と香港・台湾
- 第 5 回 項目 中国の情報技術産業の育成
- 第 6 回 項目 中国の自動車産業
- 第 7 回 項目 社会主義市場経済と国有企業の改革
- 第 8 回 項目 中国の金融システムの変革と現状
- 第 9 回 項目 中国の株式市場
- 第 10 回 項目 世界市場環境と中国
- 第 11 回 項目 欧米、日本企業の中国への進出、競争
- 第 12 回 項目 消費生活から見た中国の社会経済変化
- 第 13 回 項目 地域的、階層的格差の拡大
- 第 14 回 項目 開発と環境汚染
- 第 15 回 項目 東アジア社会経済の今後の課題

教科書・参考書 教科書：講義の際に指示する / 参考書：講義の際に指示する

メッセージ 東アジア社会経済の変化を考察し、日本経済の今後を考えよう、

連絡先・オフィスアワー 研究室

開設科目	韓国経済論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	横田伸子				

授業の概要 1. 第二次世界大戦後の世界資本主義体制の構造変化の中で、東アジア地域では、韓国、台湾が「東アジアの奇跡」と呼ばれる高度成長を遂げた。本講義では、1960年代後半以降の韓国経済の発展のメカニズムを、国内的条件、国際的条件の両側面から歴史的に見ていく。とくに、開発政策を通じて強力な国家が果たした役割と、その結果、韓国経済・社会の構造外貨に変わったかについて注目したい。2. 1997年の東アジア経済危機後の東アジアの就業体制及び社会福祉体制の変化を韓国と日本の比較を通してみる。この際、ジェンダーの視角を交えて考察する。 / 検索キーワード 韓国経済、組立型工業化、就業体制、社会福祉体制、ジェンダーの視角、経済危機

授業の一般目標 1. 韓国の経済発展メカニズムについて考える。2. 日韓の就業体制と社会福祉体制の変化を歴史的、構造的に捉える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に理解する。2. 日韓の就業体制の特徴と共通点を歴史的・構造的に理解する。3. 日韓の社会福祉体制の特徴と共通点を歴史的・構造的に理解する。思考・判断の観点：1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に説明できる。2. 日韓の就業体制の特徴と共通点を体系立てて説明できる。3. 日韓の社会福祉体制の特徴と共通点を体系立てて説明できる。関心・意欲の観点：1. 経済だけでなく、日常的に韓国の政治、文化、歴史や社会について関心を持つ。2. 歴史的に、同じ東アジア文化圏にある日本と韓国を比較・対照する視点を持つ。態度の観点：1. 本講義に対して質問や自分の意見を提示するなど、講義に積極的に参加する。技能・表現の観点：1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に叙述できる。2. 日韓の就業体制の特徴と共通点を体系立てて叙述できる。3. 日韓の社会福祉体制の特徴と共通点を体系立てて叙述できる。

授業の計画(全体) 1. 韓国経済を見る視角 2. 韓国経済の発展メカニズムに対する分析 3. 「IMF 経済危機」と韓国の就業体制と「失われた10年」以降の日本の就業体制の比較 4. 「IMF 経済危機」以降の韓国の社会福祉体制と「失われた10年」以降の日本の社会福祉体制比較

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 韓国経済を見る視角 内容 韓国の経済発展を様々な立場の論者がどのように見てきたのかを紹介する。その中で本講義の視角を定めていく。
- 第2回 項目 韓国の農地改革と農村開発 内容 韓国の経済発展の始発点で、韓国の農地改革が農村開発及び経済発展にどのような役割を果たしたのかを見る。
- 第3回 項目 1950年代の韓国の工業化 内容 高度経済成長の前段階の1950年代の工業化を通して、発展の前提条件がどのように形成されたかを見る。
- 第4回 項目 開発体制の成立と「組立型工業化」(1) 内容 韓国における政府主導型の開発体制と発展戦略である「組立型工業化」の仕組みを詳しく見ていく。
- 第5回 項目 開発体制の成立と「組立型工業化」(2) 内容 韓国における政府主導型の開発体制と発展戦略である「組立型工業化」の仕組みを詳しく見ていく。
- 第6回 項目 農村開発とセマウル運動(1) 内容 1950年代から60年代にかけて形成された農村開発の発展条件は、70年代のセマウル運動という農村振興運動によって一気に開花させられた。その展開過程を跡づける。
- 第7回 項目 農村開発とセマウル運動(2) 内容 1950年代から60年代にかけて形成された農村開発の発展条件は、70年代のセマウル運動という農村振興運動によって一気に開花させられた。その展開過程を跡づける。
- 第8回 項目 「韓国型」重化学工業化(1) 内容 韓国の高度経済成長は、重化学工業化によって主導された。このような急速な重化学工業化がなぜ可能であったのか? 「韓国型」重化学工業化戦略を考察する。

- 第 9 回 項目「韓国型」重化学工業化(2) 内容 韓国の高度経済成長は、重化学工業化によって主導された。このような急速な重化学工業化がなぜ可能であったのか?「韓国型」重化学工業化戦略を考察する。
- 第 10 回 項目 1970 年代の韓国の都市化と労働市場 内容 1970 年代の韓国の高度経済成長を支えたのは、農村から都市へ大量に流入した「低賃金」労働力であった。韓国の「低賃金体制」の実態を「都市下層」という概念を用いて論じる。
- 第 11 回 項目 労働者大闘争と韓国の労働市場の構造変化 内容 韓国労働運動史上の画期をなした 1987 年の「労働者大闘争」以前と以降の労働市場構造の変化を考察する。
- 第 12 回 項目「IMF 経済危機」と経済構造改革(1) 内容 1997 年の「IMF 経済危機」を契機に展開された経済構造改革について、主に金融改革と財閥改革を中心に見ていく。
- 第 13 回 項目「IMF 経済危機」と経済構造改革(2) 内容 1997 年の「IMF 経済危機」を契機に展開された経済構造改革について、主に金融改革と財閥改革を中心に見ていく。
- 第 14 回 項目 1990 年代以降の日韓「就業体制」の比較分析 内容 1990 年代以降、経済のグローバル化が進展し、日韓ともに労働市場が急速に柔軟化した。この過程で、人々の「働き方」を規定する「就業体制」は、日韓両国でどのように変化したのか、とくにジェンダーの視角から考察したい。
- 第 15 回 項目 1990 年代以降の日韓の「社会福祉体制」の比較分析 内容 1990 年代以降、日韓両国で労働市場が急速に柔軟化し、労働力の非正規化が進んだ。これと同時に新貧困の登場と「社会的排除」が社会問題化する。これに対し、日韓両国では、いかなる「社会福祉体制」を構築したのか、ジェンダーの視角から考察する。

成績評価方法(総合) 1. 試験とレポート、講義に対する質問や意見などを総合的に判断する。 2. 出席を重視する。 3. 試験 60%、レポート 10%、授業への参加度 10%、出席 20%。

教科書・参考書 参考書：韓国の経済, 隅谷三喜男, 岩波書店, 1976 年; 韓国の工業化 - 発展の構図 -, 服部民夫, アジア経済研究所, 1987 年; NIES - 世界システムと開発 -, 平川均, 同文館, 1992 年; 韓国・先進国経済論, 深川由紀子, 日本経済新聞社, 1997 年; 東アジアの福祉戦略, 大沢真理編, ミネルヴァ書房, 2004 年

メッセージ 韓国社会経済の発展のダイナミクスの源を、政治経済的な側面だけでなく、歴史や文化、あるいは人々の生活の実態の中から探ってみたいと思います。

連絡先・オフィスアワー e-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーはとくに設けません。質問等があるときは、在否を確認の上、研究室を訪ねてきてください

開設科目	中国経済論(旧)	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教官	陳建平				

授業の概要 1970年代末から20数年間にわたり、中国は改革開放路線を押し進める一方、経済成長を維持してきた。かつて同じ計画経済システムを採用した旧ソ連諸国や東欧諸国に比べて、中国の経済状況が比較的良好的なパフォーマンスを示し得たのは、ひとえに漸進的な改革路線と対外開放路線のおかげだと言っても過言ではない。しかし、改革開放までの約30年間わたる計画経済時代の投資蓄積がなければ、中国の経済成長がこれほどまでに長期に継続できたとも思えない。本講義では、新中国建国後の社会主義計画経済時代の経済発展を振り返り、ここ20年の中国の改革開放路線の展開を軸に、社会主義市場経済体制の確立に向けての歩みと、経済成長のダイナミズムを検証し、21世紀の中国の課題と展望について考える。 / 検索キーワード 中国経済、東アジア社会

授業の一般目標 中国経済の歴史や現状についての知識を習得し、改革前の計画経済期と改革後の改革開放期との関係を理解し、国際経済における中国経済の位置付けや中国経済の今後の見通しについて、自分の意見が言える。

授業の計画(全体) 一、歴史と現在 1、工業化の進展 2、社会主義化と計画経済 3、改革開放と市場化 二、発展と課題 1、農村経済の発展と三農問題 2、国有企業改革 3、地域政策と地域格差 4、財政体制と中央地方の関係 5、失業、貧困および所得格差 6、人口と社会保障 三、世界の中の中国 1、貿易大国の実像 2、中国の対外投資 3、兩岸三地 香港、台湾と中国大陸 4、北東アジアと中国 四、中国経済の行方

成績評価方法(総合) 出席、課題レポート、期末試験を総合して評価する。

教科書・参考書 教科書：中国経済論, 加藤弘之・上原一慶, ミネルヴァ書房, 2004年 / 参考書：中国経済入門 [第2版] 世界の工場から世界の市場へ, 南亮進・牧野文夫, 日本評論社, 2005年; 日本人のための中国経済再入門, 関志雄, 東洋経済新報社, 2002年

メッセージ よくノートをとって、必ず整理しておくように。また、メディア等における中国関係の情報にも関心を持つように。

開設科目	中国経済事情	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	李海峰				

授業の概要 中国経済は1980年から先進国の市場経済の導入、いわゆる「改革・開放」政策が実施されて以来、25年間のGDPの平均成長率は9.5%で、世界およびアジア経済において無視できない存在となっている。「世界の工場」とされていた中国はもはや「世界の市場」となりつつある。この講義は中国の市場環境に日本、欧米など先進国、地域の企業がどう適応していくのかを考えながら、中国経済の事情を分析する。/ 検索キーワード 中国経済、市場環境、日本企業、経営戦略

授業の一般目標 中国経済事情の実態分析を通して、日本の企業は中国の市場にどう適応していくのか、その経営戦略を検討し、国際的に活躍できる人材の育成をめざす。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 中国の国土と人口構造
- 第2回 項目 「改革・開放」政策の実施と経済高度成長
- 第3回 項目 国内の経済格差
- 第4回 項目 市場開放と規制緩和
- 第5回 項目 行政組織と外資の参入
- 第6回 項目 技術導入と外資企業の直接投資
- 第7回 項目 産業構造の変化
- 第8回 項目 国有企業の改革と社会問題
- 第9回 項目 農村の近代化と農村市場
- 第10回 項目 金融システムの改革
- 第11回 項目 華人経済ネットワークと中国経済
- 第12回 項目 日中経済関係と日本企業の経営環境
- 第13回 項目 西部開発と経済高度成長の持続
- 第14回 項目 中国市場の変化とアジア経済、世界経済
- 第15回 項目 中国消費市場の展望と日本企業の今後の課題

教科書・参考書 教科書：中国の大衆消費社会, 李海峰, ミネルヴァ書房; 講義の際に教科書配布/ 参考書：開かれた中国巨大市場, 岩黒・藤田, 蒼蒼社; 参考書、資料などは講義の際に随時配布、指示する

メッセージ 国際経営戦略を考えよう、

連絡先・オフィスアワー 研究室

經濟法学科

開設科目	法学 Ia	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 私達は国家や社会の一員として生活している。一人一人の人間は自由でなければならないが、社会生活への責任も果たさなければならない。法はこのような人間社会の調整役を行ない、一定のルールを定めて円滑な社会生活を可能にしている。

授業の一般目標 本講義は、「法とは何か」といったことから始めて、社会政策や個人の生活がどのような法的枠組みの下に営まれているのかについて概観し、現代社会における法のあり方を大まかにつかんでもらうための講義である。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 「法」について 内容 「法」について
- 第 3 回 項目 憲法 (1) 内容 憲法とは何か / 基本的人権
- 第 4 回 項目 憲法 (2) 内容 統治権のあり方
- 第 5 回 項目 行政と法 (1) 内容 行政
- 第 6 回 項目 行政と法 (2) 内容 行政による権利侵害とその救済手段
- 第 7 回 項目 市民と法 (1) 内容 近代市民法の諸原則・その現代的修正
- 第 8 回 項目 市民と法 (2) 内容 違法な行為による権利侵害とその救済
- 第 9 回 項目 市民と法 (3) 内容 家族と法
- 第 10 回 項目 犯罪と法 内容 刑法・刑事訴訟法の基本原則
- 第 11 回 項目 労働と法 内容 労働法の基本原則
- 第 12 回 項目 福祉と法 内容 社会保障の法的枠組み
- 第 13 回 項目 政治活動と法 内容 公職選挙法・政治資金規正法・政党助成法
- 第 14 回 項目 国際法 内容 国際法概念や仕組み・国際人権保障
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 筆記試験による

教科書・参考書 教科書：法学入門〔第 5 版補訂 2 版〕, 末川 博, 有斐閣, 2005 年

メッセージ 一緒に頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。（研究室：経済学部 A 棟 408 室）

開設科目	法学 Ib	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	青 達朗				

授業の概要 この講義は、法律の各専門科目を学ぶために必要不可欠な法律に関する基本的な用語・概念を理解すると共に、社会においてどのような法律が存在し機能しているかを説明することにより、教養としての法律学（経済社会における法的問題に対する処理能力）の基礎を学習する。

授業の一般目標 法学の基本的な考え方、概念、実定法の体系等について理解することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：法律学の基礎的知識の習得。 思考・判断の観点：法的な問題処理能力の涵養。 関心・意欲の観点：社会に生起する法的問題を問題として把握する。

授業の計画（全体） 1．はじめに 2．法とは何か 3．法の適用 4．法の体系

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 法学を学ぶ目的 法学の全体像
- 第 2 回 項目 法とは何か
- 第 3 回 項目 法の適用 (1) 法と裁判
- 第 4 回 項目 法の適用 (2) 裁判の基準となるもの
- 第 5 回 項目 法の適用 (3) 法の解釈
- 第 6 回 項目 法の体系（法の分類）
- 第 7 回 項目 国家と法 (1) 憲法 (2) 行政法
- 第 8 回 項目 犯罪と法 (1) 刑法 (2) 構成要件 (3) 刑事手続
- 第 9 回 項目 家族生活と法 民法（親族・相続）
- 第 10 回 項目 財産関係と法 (1) 取引の主体 (2) 取引の客体 (3) 契約 (4) 不法行為
- 第 11 回 項目 労働と法 (1) 社会法 (2) 労働法の体系
- 第 12 回 項目 その他の実定法 (1) 経済法 (2) 社会保障法 (3) 税法 (4) その他
- 第 13 回 項目 国際社会と法 (1) 国際法の必要性 (2) 国際法上の権利義務 (3) 国際法と国内法 (4) 国際法の発達
- 第 14 回 項目 法の発展 その他
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験（短答式）による。各回の講義内容から必ず一問出題する。8 回以上欠席した者については期末試験の受験資格を認めない（受験しても不合格となる）。

教科書・参考書 教科書：現代法学入門（第 4 版）、伊藤正巳他編、有斐閣、2005 年

メッセージ 法学は無味乾燥であり、最初は知識を習得することから始まります。授業に出席し真面目に講義を聴くこと。全てはそこから出発です。

連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	法学 Ic	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有田謙司				

開設科目	法学 IIa	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平中貫一				

授業の概要 この授業は経済学部の基盤科目の一つであり、この授業を履修することで、専門科目としての法律学のうち私法に属する科目の学習に必要な基礎知識を得ることができる。内容としては、民法総則が中心となるが、あわせて損害賠償法についてごく初歩的なことがらも扱う。

授業の一般目標 民法総則の基礎知識を習得し、あわせて損害賠償法についてごく初歩的なことについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：民法の位置づけを理解する。法律用語を正確に理解する。民法総則に関する諸概念・諸制度を理解する。債務不履行や不法行為法についてごく初歩的な知識を身につける。

授業の計画（全体） 学習する項目は以下の通り。公法と私法、一般法と特別法、実体法と手続法、法源（制定法、慣習、条理、判例）、民法の基本原則（個人の平等と権利主体性、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則）とその修正、私権行使についての原則（公共の福祉の原則、信義則、権利濫用の禁止）、権利能力（自然人、法人）、意思能力、行為能力、意思表示と法律行為、任意規定と強行規定、無効と取消の区別、無効原因と取消原因についての概観、代理、無権代理と表見代理、条件と期限、時効、債権とは何か、債務不履行、不法行為

開設科目	法学 IIb	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	三間地光宏				

授業の概要 この授業は経済学部の基盤科目の一つであり、この授業を履修することで、専門科目としての法律学のうち私法に属する科目の学習に必要な基礎知識を得ることができる。内容としては、民法総則が中心となるが、あわせて損害賠償法についてのごく初歩的なことがらも扱う。

授業の一般目標 民法総則の基礎知識を習得し、あわせて損害賠償法についてごく初歩的なことについて理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：民法の位置づけを理解する。法律用語を正確に理解する。民法総則に関する諸概念・諸制度を理解する。債務不履行や不法行為法についてごく初歩的な知識を身につける。 思考・判断の観点：事実に法を当てはめて答えを導き出す能力を身につける。 関心・意欲の観点：きちんと予習・復習をする習慣を身につける。 態度の観点：私語などにより授業を妨害しない。

授業の計画（全体） 学習する項目は以下の通り。公法と私法、一般法と特別法、実体法と手続法、法源（制定法、慣習、条理、判例）、民法の基本原則（個人の平等と権利主体性、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則）とその修正、私権行使についての原則（公共の福祉の原則、信義則、権利濫用の禁止）、権利能力（自然人、法人）、意思能力、行為能力、意思表示と法律行為、任意規定と強行規定、無効と取消の区別、無効原因と取消原因についての概観、代理、無権代理と表見代理、条件と期限、時効、債権とは何か、債務不履行、不法行為

成績評価方法（総合） 期末試験による。

教科書・参考書 教科書：未定。 / 参考書：民法1総則・物権総論（第3版）、内田貴、東京大学出版会、2005年；スタートライン債権法（第4版）、池田真朗、日本評論社、2005年

連絡先・オフィスアワー 連絡先メールアドレスは第一回目の授業の際に伝える。オフィスアワーについては未定。

開設科目	法学 IIc	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	一ノ澤直人				

授業の概要 この授業は経済学部の基盤科目の一つであり、この授業を履修することで、私法分野における法的思考ができるようになるための入門科目である。内容としては、民法総則を中心として、私法上の体系全体について学習する。

授業の一般目標 民法総則の基礎知識の理解を中心に、私法上の体系を概観し、私法上の考え方の基本を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：私法上の体系、基本的な概念を理解する。 思考・判断の観点：基本的な法的思考の方法を知る。

授業の計画（全体） 学習する項目は以下の通り。公法と私法、一般法と特別法、実体法と手続法、法源（制定法、慣習、条理、判例）、民法の基本原則（個人の平等と権利主体性、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則）とその修正、私権行使についての原則（公共の福祉の原則、信義則、権利濫用の禁止）、権利能力（自然人、法人）、意思能力、行為能力、意思表示と法律行為、任意規定と強行規定、無効と取消の区別、無効原因と取消原因についての概観、代理、無権代理と表見代理、条件と期限、時効、債権とは何か、債務不履行、不法行為

成績評価方法（総合） 試験によって評価する

教科書・参考書 教科書：開講時に連絡する / 参考書：六法必携。他の参考文献は適宜講義時に紹介する。

開設科目	憲法 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	立山紘毅				

授業の概要 憲法学全般のうち、総論および統治機構について講義を行う。ここでは、単に基本原理を学ぶだけでなく、その実態にも十分目を向けていく。したがって、単なる暗記科目ではないことに留意されたい。同時に、近年よく議論される憲法訴訟論もこの講義で扱う。

授業の一般目標 外国における制度・理論・実態の比較を通じて、通説・最高裁判例も学問的な見地から厳しく吟味していくこととする。したがって、「法科大学院向け教科書」と称するものが往々にして行っているような「最高裁判決の『解釈』」では終わらないことに留意されたい。これを通じて、真に応用的能力というべきものを養うことを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：憲法の基本的原理・思考法の習得と、その応用的な発展。 思考・判断の観点：基本原理から実際に生じうる問題への応用的な展開。 関心・意欲の観点：現実に生起する問題を「憲法の眼」から批判的に考察するに足り関心。 態度の観点：出席が真摯であるか、自主的に質問等を発するかどうか。 技能・表現の観点：正確で論理的な日本語読み書き能力。これは法律学のみならず大学教育全般の問題である。 その他の観点：法律学以外の多方面・他分野への旺盛な関心が必要である。

授業の計画（全体） 基本的に講義を中心として行うが、かなり頻繁に指名して発言を求められることがある。その問答を通じて問題の所在を明らかにし、応用的な能力を養って行くので、日頃から予習・復習をしっかりやっておくとともに、折々の話題や問題について新聞等で関心を広げておくこと。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 憲法の基本原理（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 2 回 項目 憲法の基本原理（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 3 回 項目 憲法の基本原理（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 4 回 項目 国民主権と国法体系の変動（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 5 回 項目 国民主権と国法体系の変動（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 6 回 項目 国民主権と国法体系の変動（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 7 回 項目 国民主権の理想と実態（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 8 回 項目 国民主権の理想と実態（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 9 回 項目 国民主権の理想と実態（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 10 回 項目 国民主権の理想と実態（4） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 11 回 項目 国民主権の理想と実態（5） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 12 回 項目 国民主権の理想と実態（6） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 13 回 項目 平和主義の理想と現実（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 14 回 項目 平和主義の理想と現実（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 15 回 項目 平和主義の理想と現実（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読

成績評価方法（総合） 原則として、期末試験だけで評価する。実社会では「結果がすべて」というのが一般的である。

教科書・参考書 教科書：芦部信喜『憲法』（岩波書店） / 参考書：小六法または模範六法の持参は必須。また、毎日、新聞を読むこと。

メッセージ 先輩からのうわさどおり、評価は相当厳しいので心してかかること。

連絡先・オフィスアワー tateyama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	憲法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	立山紘毅				

授業の概要 憲法 I を受講・単位取得を前提として、人権論について講義を行う。ここでは、単に基本原理を学ぶだけでなく、その実態にも十分目を向けていく。したがって、単なる暗記科目ではないことに留意されたい。

授業の一般目標 外国における制度・理論・実態の比較を通じて、通説・最高裁判例も学問的な見地から厳しく吟味していくこととする。したがって、「法科大学院向け教科書」と称するものが往々にして行っているような「最高裁判決の『解釈』」では終わらないことに留意されたい。これを通じて、真に応用的能力というべきものを養うことを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：憲法の基本原理・思考法の習得と、その応用的な発展。思考・判断の観点：基本原理から実際に生じうる問題への応用的な展開。関心・意欲の観点：現実に生起する問題を「憲法の眼」から批判的に考察するに足り関心。態度の観点：出席が真摯であるか、自主的に質問等を発するかどうか。技能・表現の観点：正確で論理的な日本語読み書き能力。これは法律学のみならず大学教育全般の問題である。その他の観点：法律学以外の多方面・他分野への旺盛な関心が必要である。

授業の計画（全体） 基本的に講義を中心として行うが、かなり頻繁に指名して発言を求めることがある。その問答を通じて問題の所在を明らかにし、応用的な能力を養って行くので、日頃から予習・復習をしっかりやっておくとともに、折々の話題や問題について新聞等で関心を広げておくこと。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人権論・総論（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 2 回 項目 人権論・総論（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 3 回 項目 人権論・総論（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 4 回 項目 人権論・総論（4） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 5 回 項目 平等原則（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 6 回 項目 平等原則（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 7 回 項目 平等原則（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 8 回 項目 自由権（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 9 回 項目 自由権（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 10 回 項目 自由権（3） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 11 回 項目 自由権（4） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 12 回 項目 自由権（5） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 13 回 項目 自由権（6） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 14 回 項目 社会権（1） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読
- 第 15 回 項目 社会権（2） 授業外指示 予習・復習・新聞等の閲読

成績評価方法（総合） 原則として、期末試験だけで評価する。実社会では「結果がすべて」というのが一般的である。

教科書・参考書 教科書：芦部信喜『憲法』（岩波書店） / 参考書：小六法または模範六法の持参は必須。また、毎日、新聞を読むこと。

メッセージ 先輩からのうわさどおり、評価は相当厳しいので心してかかること。

連絡先・オフィスアワー tateyama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	民法 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平中貫一				

授業の概要 契約の基礎を講義する。主たる内容は法律行為、契約総論・各論及び債務不履行である。

授業の一般目標 契約法の基礎の修得

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 契約法に関する基礎的な知識を修得させる。

開設科目	民法I b (旧)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	三間地光宏				

授業の概要 この講義では契約法を学習する。同時に開講される「民法I」を契約法の基礎編と位置づけるなら、「民法Ib」は契約法の発展編・応用編・演習編という位置づけになる。なお、この授業では毎回課題を出す予定であるが、課題の量は昨年度私が担当した「法学2」より多いものとなる。

授業の一般目標 契約に関する民法上のルールを理解すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 契約に関する諸概念・諸制度をきちんと理解する。 思考・判断の観点： 契約をめぐる具体的な紛争が法的にはどのように扱われるべきか判断できるようになること。

関心・意欲の観点： きちんと予習・復習する習慣を身につける。 態度の観点： 私語等により授業を妨害しない。

授業の計画(全体) 第一部 1 契約の成立について 2 履行がなされない場合について 3 契約の効力が否定される場合について 第二部 1 贈与 2 売買 3 消費貸借・使用貸借・賃貸借 4 雇用・請負・委任

成績評価方法(総合) 期末試験による。

教科書・参考書 教科書： 未定。 / 参考書： 民法I 総則・物権総論(第3版), 内田貴, 東京大学出版会, 2005年; スタートライン債権法(第4版), 池田真朗, 日本評論社, 2005年; 民法IV 債権各論(第3版), 藤岡康宏ほか, 有斐閣, 2005年; 判例講義民法I 総則・物権(補訂版), 奥田昌道・安永正昭編, 悠々社, 2005年; 判例講義民法II 債権(補訂版), 奥田昌道・安永正昭編, 悠々社, 2005年

メッセージ 受講の際には必ず六法を持参すること。法学2を履修済みであることが望ましい。民法Iと同時履修することが望ましい。

連絡先・オフィスアワー 連絡用メールアドレスは第一回目の授業の際に配布するプリントに記載。オフィスアワーについては未定。

開設科目	民法 III	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	油納健一				

授業の概要 債権総論・担保物権の基本を講義する。

授業の一般目標 学生諸君が債権総論・担保物権における各問題についての判例・通説を理解すること、知識だけでなく法的に考える能力を身につけることの2点である。

授業の計画(全体) 1. 債権の分類 2. 相殺 3. 責任財産の保全 4. 債権譲渡 5. 多数当事者の債務関係 6. 保証 7. 抵当権 8. 質権

成績評価方法(総合) 学期末試験は、事例論述式の問題を中心とし、講義に出席しない者には合格できない内容(友達から借りたノートを見て勉強しても合格できない内容)にする。試験の持込については、指定した教科書のみとする。また、試験の範囲は、講義の中で話したことすべて(雑談を除く)とする。

就職活動等で講義に出席できない者(4回生以上)のみ、レポート提出によって平常点を与えようと考えている。ただし、レポートの量は2万字以上で質は上級レベルのものでないと受けつけない。なお、3分の2以上出席しなければ、定期試験の受験を認めない。雑談・筆談する者など講義を妨害するものは不合格とする。

教科書・参考書 教科書：最初の講義で提示する。

メッセージ 私の講義では、講義中に受講生に対して質問することがある。答える義務はなく、答えられなくても減点等は考えていないが、よく答えられる学生や真面目に勉強している学生には平常点を与えることにしたい。また、出席人数が少なければ、よく答えられた学生にのみ出席カードを配布して、平常点を付けることも考えている。

連絡先・オフィスアワー E-mail: yuno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	民法 V	区分	講義	学年	2~4年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藪本知二				

開設科目	刑法総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法総論はどのような内容を持つかを理解して貰う。刑法の意義、性質、機能、犯罪の成立要件、構成要件論、違法論、責任論、共犯論、刑罰論の順に考察していく。

授業の一般目標 刑法総論の内容を考察することにより、刑法総論の学問的体系を理解して貰う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：刑法総論の内容について理解して貰う。刑法総論がどのような学問的体系を持つかを理解して貰う。 思考・判断の観点：法的思考という観点から、刑法総論の具体的な事案を考察し、刑法理論が具体的な事案の解決にどのように適用されているかを見ていく。

授業の計画（全体） 刑法の意義、性質、機能、犯罪の成立要件、構成要件論、違法論、責任論、共犯論、刑罰論の順に考察していく。具体的な内容については最初の授業時間に講義要項を配布する。

成績評価方法（総合） 学期末試験とミニテスト、出席状況を総合して行う。

教科書・参考書 教科書：刑法総論講義案, 安里全勝, 成文堂, 2005年；演習ノート刑法総論, 齊藤誠二編, 法学書院, 2005年

開設科目	刑法各論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法各論の内容を理解して貰う。刑法は犯罪と刑罰を規定する法律であるが、刑法各論の授業は具体的な犯罪の内容を考察することになる。最初の授業の時に講義要項を配布し、それにしたがって授業を行う。

授業の一般目標 具体的な犯罪の考察において不可欠となる保護法益、行為の主体、行為の客体等を考察していく。具体的には判例を考察し、刑法理論がどのように適用されていくかを見ることにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：刑法各論の内容を理解して貰う。犯罪は具体的な罪名を持つ。そこで、それらの犯罪に刑法理論がどのように適用されていくかを理解して貰う。 思考・判断の観点：法的思考の観点から、刑法理論が具体的事案にどのように適用されていくかを理解して貰う。

授業の計画（全体） 個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪の順に考察することにする。具体的には、それぞれ重要な問題について考察していく。最初の授業において講義要項を配布し、それにしたがって授業を行う。

成績評価方法（総合） 学期末試験とミニテスト、授業への出席状況を総合して行う。

教科書・参考書 教科書：刑法各論講義ノート，日高義博著，勁草書房，2005年；演習ノート刑法各論，岡野光男編，法学書院，2003年

開設科目	商法 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	一ノ澤直人				

授業の概要 本講義のねらいは、商法の社会的機能や体系の理解してもらうことにある。この講義では、商法を企業法として把握し、企業組織法、企業取引法の入門として、商法総則・商行為、会社法総論を中心に概観する。

授業の一般目標 企業法の入門となるよう基本的な体系の理解、制度の趣旨等を明確にするような講義にし、商法の学習の基礎となるようにしたい。

授業の計画（全体） 講義は、商法の意義・対象・歴史的役割を明確にし、企業組織法として、商業使用人、代理商、営業、商号、商業帳簿、商業登記など商法総則部分を中心に、会社法の総論部分を合わせて検討する。私企業の諸形態として会社について扱うが、入門的な概略にとどめ、詳細は会社法の講義による。企業取引法については、多様化する商取引について、商法の商行為を中心に企業取引法が果たすべき機能を明らかにしつつ、基礎的な事項を検討していきたい。

成績評価方法（総合） 基本的に試験によって評価する。

教科書・参考書 教科書：六法必携 / 参考書：他の参考文献は講義中に随時紹介します

メッセージ 民法・商法の各部の講義内容との関連をも十分意識して、自己の履修計画全体とのバランスを考えて、無理のない参加を望む。企業法について関心のある意欲的な学生の受講を期待する。講義の前にテキスト等について読み、自分なりの疑問点をもって講義に望んでください。

連絡先・オフィスアワー 随時講義において連絡する。

開設科目	商法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中村美紀子				

授業の概要 本講義では、わたしたちの社会生活と密着した存在である会社企業について、その組織と活動を規制する会社法の内容を、新「会社法」に即して概説します。新「会社法」は2005年6月に国会で成立し、本年5月には施行されるものです。それは、形式面では「会社法」を現代化するという側面と、実質面では会社法を「現代化」するという側面をもっています。本講義では、そのような具体的改正点を交え、会社とは何かから始まり、会社の中心をなす株式会社について、その設立、運営、財務、解散などを平易に解説するように努めたいと考えています。/ 検索キーワード 会社法・商法・有限会社法・商法特例法・企業法

授業の一般目標 受講生が会社法制度の仕組みについて理解し、判例を通じて法解釈学のエッセンスにも接することを目標とします。入門編から入り、受講生の理解度に合わせた進度を設定し、中・上級編にまで考察を深めていきたいと思えます。双方向の授業を目指すつもりです。

授業の計画（全体） まず、新会社法改正点の概説から入り、会社法の序論的説明の後、株式会社について個別の論点を概説します。教科書を中心にレジュメ、参考資料等を使用し講義を進めます。場合によっては視聴覚教材等も利用します。コメントシートを活用し、当日の内容のまとめ、質問、感想、要望等を受け付け、出欠の管理をするつもりです。受講生が100名以上の場合はMoodle Systemを利用することもあり得ます。なお、以下の授業計画は講義の全体の流れを示しており、受講生の学習の進度に合わせて講義実施週の変更もあり得ます。

授業計画（授業単位）/ 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション～会社の概念
- 第2回 項目 会社の形態
- 第3回 項目 株式会社の設立
- 第4回 項目 株式と株主(1) 株式の概念
- 第5回 項目 株式と株主(2) 株式譲渡
- 第6回 項目 株式取引の実際
- 第7回 項目 株式会社の機関(1) 分化と相互関係
- 第8回 項目 株式会社の機関(2) 株主総会
- 第9回 項目 株式会社の機関(3) 取締役会、代表取締役および監査役等
- 第10回 項目 株式会社の機関(4) 委員会設置会社
- 第11回 項目 株式会社の機関(5) 役員等の義務と責任(1)
- 第12回 項目 株式会社の機関(6) 役員等の義務と責任(2)
- 第13回 項目 会社の計算
- 第14回 項目 募集株式・新株予約権・社債
- 第15回 項目 解散および清算

成績評価方法（総合） 定期試験の評価割合は70%、コメントシート（=出席）の評価割合は30%。

教科書・参考書 教科書：テキストブック新「会社法」、末永敏和[編著]、中央経済社、2005年 / 参考書：会社法判例百選、江頭・岩原・神作・藤田[編]、有斐閣、2006年

メッセージ 2006年六法必携、出席回数は自己管理で把握してください。

連絡先・オフィスアワー 研究室C棟209、オフィスアワー火曜日10:20～11:50。

開設科目	商法 III	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村美紀子				

授業の概要 本講義では、有価証券の一種である手形および小切手を規制する手形法および小切手法を取り扱います。その中でもわが国取引界で重要な地位を占める約束手形を中心に据えます。手形および小切手は企業取引の決済手段であり企業活動に重要な制度ですが、近年、これらを巡る大きな紛争も目立たなくなってきたと言われていています。その重要性の減少があるのかもしれませんが、しかしながら、依然として手形や小切手は取引界で発行されていますし、その基礎知識の修得は企業実務では避けて通れないことでしょう。本講義では、技術的な性格から複雑な法律関係が発生する手形および小切手について、その法制度の仕組みおよび実際の働きについて概説することとします。 / 検索キーワード 有価証券法・手形法・小切手法

授業の一般目標 受講生が手形法および小切手法制度の仕組みおよび実際の働きについて理解し、手形および小切手をめぐる経済的状況を把握し、法解釈学のエッセンスにも接することを目標とします。入門編から入り、受講生の理解度に合わせた進度を設定し、中・上級編にまで考察を深めていきたいと思えます。双方向の授業を目指すつもりです。

授業の計画（全体） まず有価証券の意義から入り、手形および小切手の有価証券のなかでの位置づけを確認します。手形法・小切手法の序論的説明の後、約束手形について個別の論点を概説します。教科書を中心にレジュメ、参考資料等を使用し講義を進めます。場合によっては視聴覚教材等も利用します。コメントシートを活用し、当日の内容のまとめ、質問、感想、要望等を受け付け、出欠の管理をするつもりです。受講生が 100 名以上の場合は Moodle System を利用することもあり得ます。なお、以下の授業計画は講義の全体の流れを示しており、受講生の学習の進度に合わせて講義実施週の変更もあり得ます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション～有価証券法概論
- 第 2 回 項目 手形・小切手の法律関係の概要
- 第 3 回 項目 手形行為および小切手行為
- 第 4 回 項目 約束手形の記載事項
- 第 5 回 項目 白地手形
- 第 6 回 項目 約束手形の振出の意義および性質
- 第 7 回 項目 約束手形の振出人の署名
- 第 8 回 項目 約束手形の裏書の意義および方式
- 第 9 回 項目 約束手形の裏書の効力
- 第 10 回 項目 約束手形の振出・裏書の不完全 (1)
- 第 11 回 項目 約束手形の振出・裏書の不完全 (2)
- 第 12 回 項目 約束手形の振出・裏書の不完全 (3)
- 第 13 回 項目 約束手形の振出・裏書の不完全 (4)
- 第 14 回 項目 約束手形の支払・遡求・手形保証等
- 第 15 回 項目 為替手形・小切手

成績評価方法（総合） 定期試験の評価割合は 70%、コメントシート（＝出席）の評価割合は 30%。

教科書・参考書 教科書：手形法・小切手法 基礎と展開（第 2 刷）、末永敏和、中央経済社、2003 年 / 参考書：手形小切手判例百選 [第 6 版]、落合誠一・神田秀樹 [編]、有斐閣、2004 年

メッセージ 六法必携、出席回数は自己管理で把握してください。

開設科目	商法 IV	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	吉川信将				

授業の概要 商取引法は私達が生活するうえで不可欠な経済活動を規制対象としており、とても身近な領域を取り扱っています。しかし、企業を中心とする現代の経済活動は専門化・高度化が進み、それに応じて商取引法に分類される諸法令も細分化されています。また、内容的には実務的なものが多く含まれていますので、授業では商取引法の理念やこれらが適用される場面についてできるだけ具体例を取り上げて解説します。

授業の一般目標 経済活動を行ううえで、必要となる主要な取引法について理解を深めることを目標とします。

授業の計画(全体) 1 講義項目 商取引法概説/商人間の売買/消費者契約/販売信用取引/特定商取引/ファイナンス・リース/商品・サービスの流通に関する営業/運送営業/電気通信事業/倉庫営業/保険業/信託業 2 講義方法 教科書、参考書をベースに口述中心で実施します。適宜、具体的事例に関する資料を配布します。

成績評価方法(総合) 出席状況及び授業への参加姿勢を重視します。出席回数が全講義回数の3分の2を下回った場合、評価の対象としません。(定期試験が50%、出席状況及び受講姿勢が50%)

教科書・参考書 教科書：特に指定しない。/参考書：江頭憲治郎『商取引法 第四版』(有斐閣、2005年)別冊ジュリスト・江頭=山下編「商法(総則・商行為)判例百選 第四版」(有斐閣、2002年)

開設科目	経済法	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	吉川信将				

授業の概要 資本主義経済は市場参加者による競争により成り立つと考えられていますが、現実には何らかの規制がないと、経済的強者に対して経済的弱者（一般消費者を含む）が被支配的な立場に置かれたり、市場参加者が競争制限的な取り決めを行うなど、競争が歪められ経済的弱者が不利益を被る場合が少なくありません。本講義では自由かつ公正な競争を促進して健全な資本主義経済の発展をはかろうとする経済法について、独占禁止法を中心に解説します。時間が許す限り、独占禁止法の改正や国際経済法についても触れたいと思います。

授業の一般目標 独占禁止法を中心とする経済法の構造及び効果を検討し、経済法が直面している課題と当該課題への対応について理解を深めることを目標とします。

授業の計画（全体） 1 講義項目 経済法の基本理念・体系 / 独占禁止法総論 / カルテルの規制 / 不公正な取引方法の規制 / 私的独占の規制 / 経済力集中の規制 / 下請法・景表法 / 公正取引委員会 / 独占禁止法の改正と国際的調和 / 国際経済法 2 講義方法 教科書、参考書をベースに口述中心で実施します。適宜、具体的事件（談合、不当表示等）に関する資料を配布します。

成績評価方法（総合） 出席状況及び授業への参加姿勢を重視します。出席回数が全講義回数の3分の2を下回った場合、評価の対象としません。（定期試験が50%、出席状況及び受講姿勢が50%）

教科書・参考書 教科書：白石忠志『独禁法講義』（有斐閣、2005年）授業には六法（2006年施行の改正独占禁止法が載っているもの）持参 独占禁止法が改正されたため、シラバス作成段階では改定中と思われる書籍もあるので、教科書については開講時に改めて指示します。 / 参考書：別冊ジュリスト・厚谷＝稗貫編「独禁法審決・判例百選 第六版」（有斐閣、2002年）入門書として、日経文庫・厚谷襄児『独占禁止法入門 第六版』（日本経済新聞社、2005年）

開設科目	社会法 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 日本型雇用慣行が変容しつつあるといわれるわが国においては、年功的処遇が崩れ、成績・成果主義の処遇が拡大しつつある。終身雇用慣行や、人事、福利厚生のある方も大きく変容しつつある。

本講義は、そうしたわが国における雇用関係の変化を視野に入れながら、雇用関係を規律する法的ルールについて、受講者が一定の見識を持つことができるようにすることを目標とする。 / 検索キーワード
労働契約、労働基準法、非典型雇用、雇用保障、労働争訟

授業の一般目標 本講義は、わが国における雇用関係に変化を視野に入れながら、雇用関係を規律する法的ルールについて、受講者が一定の見識を持つことができるようにすることを目標とする。

授業の計画（全体） 労働法とは、労働契約、労働契約の締結と終了、就業規則、賃金・一時金・退職金、労働時間・休暇、人事異動、経営再編と労働契約の変動、就業規律と懲戒、雇用保障政策、安全衛生・災害補償、均等待遇・雇用における平等、非典型雇用、年少労働者・女性労働者、職業生活と家庭生活の両立、労働争訟・紛争処理

成績評価方法（総合） 定期試験と授業時間内に行う小テストの成績による。小テストは2回行うが、いつ行うか分からないので、予習と復習をきちんとしておくこと。

教科書・参考書 教科書：労働法エッセンシャル第4版、清正寛・菊池高志編、有斐閣、2005年 / 参考書：授業中に適宜指示する。

メッセージ 教科書および六法を必ず持参すること。六法は、できるだけ労働法令の多く収録されたものにする。

連絡先・オフィスアワー 講義内容に関する質問は、適宜受ける。ただし、事前に連絡してくること。
noboru@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	社会法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 使用者（会社）を労働組合との集团的労使関係の法的問題を具体的事例をあげながら説明し、日本の労使関係の法的ルールを理解する。

授業の計画（全体）日本の労働法の概要、労使関係とは何か、憲法と労働組合法、労働組合法と法、団体交渉、労働協約、争議行為、不当労働行為、裁判所と労働委員会、個別労働関係紛争と集团的労働関係、労働者像の変化と労働組合、日本の労使紛争解決方法と裁判

教科書・参考書 教科書：労働法エッセンシャル第4版、清正寛・菊池高志編、有斐閣、2005年

開設科目	民事訴訟法	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上田和義				

授業の概要 民法・商法その他私法は、社会生活や事業を営む上での事実上の行為規範となっていますが、最終的には、裁判規範として民事裁判でその内容が実現されます。つまり、実体法が理解できていたとしても、裁判の手続きや仕組みが分かっていなければ、実体法も本当に理解できたことになりません。そこで、本講義では、民事訴訟法の全体的な構造と、社会的に多く利用される実体法の適用を中心に、実際の訴訟などで直面するであろう問題を取り上げていきます。

授業の一般目標 一般社会生活や事業を営む上で必要な民事訴訟制度の全体構造と、訴訟提起時に直面するであろう問題点を理解することを目標とします。

授業の計画（全体） 本講義は後期に週1回で行います。講義のおおまかな項目は以下の通りです。民事訴訟の意義／裁判所・当事者／訴えの提起／訴訟要件／訴訟の審理／証拠調べ・証明／訴訟の終了／複数請求訴訟／多数当事者／上訴・再審 講義は、テキスト・参考文献を参照しながら、板書・口述により行います。また、実務的な資料をできるだけ配布します。

成績評価方法（総合） 出欠は毎回とります。全講義回数の60%未満を欠格とします。成績評価方法の概要は以下の通りです。試験20～40% 出席40～60% 出席：欠格要件

教科書・参考書 教科書：民事訴訟法入門〔第2版〕, 林屋礼二他, 有斐閣双書, 2004年

連絡先・オフィスアワー 上田和義法律事務所 平日 9:00～17:30 TEL0835-26-3630

開設科目	行政法 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 本講義は、「行政」、「行政法」、「法律による行政」というような行政法の基本理念と基本原理を紹介するとともに、現実に行き起きている法的な問題を取り上げながら、行政法の知識を応用してもらおうとするものである。講義では法学入門の気持ちで優しくお話をすることを心がけたいと考えている。教科書や参考書等については、開講時に指示する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 行政法の基礎理論 (1) 内容 行政と行政法の意義
- 第 3 回 項目 行政法の基礎理論 (2) 内容 法律による行政
- 第 4 回 項目 行政組織法 (1) 内容 行政主体：国と地方公共団体
- 第 5 回 項目 行政組織法 (2) 内容 地方公共団体と地方自治
- 第 6 回 項目 行政作用法 (1) 内容 行政目的実現のための手段
- 第 7 回 項目 行政作用法 (2) 内容 情報公開法の原理と構造
- 第 8 回 項目 行政作用法 (3) 内容 行政手続法の原理と構造
- 第 9 回 項目 行政作用法 (4) 内容 行政行為の意義と効力
- 第 10 回 項目 行政作用法 (5) 内容 行政上の強制
- 第 11 回 項目 行政救済法 (1) 内容 国家補償
- 第 12 回 項目 行政救済法 (2) 内容 行政上の不服申立
- 第 13 回 項目 行政救済法 (3) 内容 行政訴訟
- 第 14 回 項目 今後の行政法 内容 行政法の展望
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 筆記試験等による。

メッセージ 一緒に頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。(研究室：経済学部 A 棟 408 室)

開設科目	行政法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 行政救済法について考察する。行政を一方の当事者とする法関係は現代社会において重要な位置を占めている。その際、違法、不当な行政により権利利益を侵害された場合、それら行政の行為を是正し、権利利益を回復することはきわめて重要なことである。それら行政救済に関する法理を、行政不服申立て、行政訴訟、国家補償に関して考えることを目的とする。／検索キーワード 行政不服申立て
行政訴訟 国家賠償 損失補償

授業の一般目標 争訟をとうしての行政統制と国民の権利利益の保護に関して考えること。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 行政不服申立て
- 第 2 回 項目 行政審判、苦情処理、オンブズマン
- 第 3 回 項目 行政事件訴訟－歴史と特色
- 第 4 回 項目 取消訴訟－基本構造、訴訟要件 1
- 第 5 回 項目 同一訴訟要件 2
- 第 6 回 項目 同一審理
- 第 7 回 項目 同一終了
- 第 8 回 項目 同一仮の救済、執行停止、仮命令、義務づけ訴訟、指止め訴訟
- 第 9 回 項目 無効確認訴訟、当事者訴訟
- 第 10 回 項目 民衆訴訟、機関訴訟
- 第 11 回 項目 国家賠償－公権力の行使
- 第 12 回 項目 同一公の営造物の設置管理
- 第 13 回 項目 損失補償
- 第 14 回 項目 補償の谷間
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 期末テストの成績を決定打とする。

教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。／参考書：小早川ほか編、「行政判例百選」などの判例集。
その他参考書については必要に応じてそのつど示す。

メッセージ 行政不服審査や行政訴訟について考えましょう。

連絡先・オフィスアワー 内線 5 5 8 8

開設科目	税法 I	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	青柳 達朗				

授業の概要 この科目は、税法入門講座ですが、難解で分量の多い税法の全体像を俯瞰するためには、進行も早く、講義を受ける側の基礎体力が必要です。民法や簿記等を学習済みか、並行して学習することが必要不可欠です。

授業の一般目標 租税の基本原則の理解と、租税手続法や租税実体法の基礎的知識（基本の基本）の習得を目標にします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：税法用語を確実に習得する。 思考・判断の観点：税法的な思考の枠組みを身につける。 関心・意欲の観点：経済現象と税の関係を意識する。

授業の計画（全体） 租税論、租税体系、国税通則法、所得税法等の実体税法の概略という順序で進みます。

成績評価方法（総合） 出席状況と試験で評価する。出席を重視（35%）します。

教科書・参考書 教科書：税法入門（第5版）、金子宏他、有斐閣、2004年；プリントを配布します。

メッセージ この授業は、税法という難解で巨大な山の麓から歩き始めるところです。一步一步着実に進むことが大切です。

連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	税法 II	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	青柳 達朗				

授業の概要 法人税法を中心に企業課税法の基礎を学んでいきます。判例研究を重視します。

授業の一般目標 法人税の所得の計算構造、益金と損金に関する別段の定めを、理解すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な用語の理解。企業会計と税法の相違。 思考・判断の観点： 税法上何が問題なのかを理解すること。 関心・意欲の観点： 経済現象と税法との結合。

授業の計画（全体） 前半の6回程度迄は、法人税法の概略を講義し、後半は判例等の検討を主体とする。

成績評価方法（総合） 出席状況、提出されたレポートの内容を総合して評価します。

教科書・参考書 教科書： やさしい法人税（平成18年度版），福住豊，大蔵財務協会，2006年；プリント配布 / 参考書： 法人税法精説（平成18年度版），武田隆二，森山書店，2006年；法人税の計算と理論（平成18年度版），井上久弥・平野嘉秋，税務研究会，2006年；租税判例百選（第4版），水野忠恒他編，有斐閣，2005年

メッセージ 授業は、初日から最終日までの積み重ねで構成されます。部分と全体の両方から見ないと理解できません。税法は生きた経済と密接なので、新聞の購読しない人は理解が遅れます。平成17年度の旧税法総論履修者が3年生が受講してください。2年生では理解出来ません。

連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	政治学 I	区分	講義	学年	2～4 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 本講義では、政治学の基本的な問題について、さまざまな観点から考察する。物事の善悪を問う規範的な視点、事象に即してその分析を試みる実証的な視点を織り交ぜながら、政治学（国際関係を含む）のメイン・トピックスについて、複合的なアプローチを試みる。政治学は本来総合的な学問であるから、取り上げる問題に応じて、広く他の学問領域にも言及する。／検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 第一に、さまざまな出来事の中で、それをとくに「政治的」にしている要因は何なのか、すなわち、政治学とは何を扱う学問であるのかを明らかにし、そこに現れるいろいろな概念（キーワード）の意味を理解した上で、それを現実の政治現象に適用できる能力を養う。最終的には、さまざまな政治概念の由来、変容、意義をふまえて、みずからの政治的アイデンティティを問えるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：政治学の基本問題や概念を幅広く理解できる。 思考・判断の観点：さまざまな概念の論理的な関係を述べるができる。 関心・意欲の観点：政治現象についての関心を広げ、問題意識を高めることができる。 態度の観点：規範的な視点から現実の政治現象について判断を下せる。

授業の計画（全体） まず、政治学は何を対象とする学問なのかを明らかにした上で、古代から現代にいたるまで、その変遷をたどってゆく。中盤からは主として20世紀以降の政治理論に焦点を合わせ、受講者が現代の政治現象に広く応答できるように心がける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目【項目】オリエンテーション 内容【内容】担当教員の紹介、政治とは何か、さまざまなアプローチについて 授業外指示 シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 項目【項目】政治とは何か（1） 内容【内容】古代アテナイ、ローマにおける政治 政治的自由と共和主義
- 第 3 回 項目【項目】政治とは何か（2） 内容【内容】中世キリスト教世界における政治 「神の国」とキリスト教国家
- 第 4 回 項目【項目】政治とは何か（3） 内容【内容】近代政治学の誕生 ルネサンスと社会契約説
- 第 5 回 項目【項目】政治とは何か（4） 内容【内容】現代政治理論 リベラリズムと共和主義
- 第 6 回 項目【項目】20世紀の政治学（1） 内容【内容】政治科学の勃興 その時代・哲学的背景を含む
- 第 7 回 項目【項目】20世紀の政治学（2） 内容【内容】政治科学の発展 さまざまな理論展開の紹介
- 第 8 回 項目【項目】20世紀の政治学（3） 内容【内容】規範理論の再生 J・ロールズの正義論を中心に
- 第 9 回 項目【項目】20世紀の政治学（4） 内容【内容】今日の規範的政治学 ロールズ以降の展開を追う
- 第 10 回 項目【項目】ポスト・リベラリズムの政治理論（1） 内容【内容】さまざまなリベラリズム批判
- 第 11 回 項目【項目】ポスト・リベラリズムの政治理論（2） 内容【内容】ポストモダンへの転回
- 第 12 回 項目【項目】国際関係論（1） 内容【内容】国際政治の萌芽 政治史的な考察
- 第 13 回 項目【項目】国際関係論（2） 内容【内容】さまざまな思想と理論 その政策への影響

第 14 回 項目【項目】政治学 全般についての 総括 内容【内容】これま での講義内容の レビューとま
とめ

第 15 回 項目【項目】前期末 試験 内容【内容】論述筆 記試験

成績評価方法 (総合) 期末に行われる試験によって、さまざまな観点から総合的に判定する。

教科書・参考書 教科書： とくに指定しない。 / 参考書： 講義中に適宜指示する。

メッセージ 自分自身の頭で考えることを心がけてください。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部 3 階、オフィスアワー：授業終了後

観光政策学科

開設科目	観光概論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	河村誠治				

授業の概要 今日の観光は大衆観光と言え、産業革命以降の資本主義の発展によるところの大衆の所得や余暇時間の増大などとともに、供給サイドの物的・技術的条件である運輸業、宿泊業などからなる観光産業の発展、および観光活動の商品化によるところが大きい。本講義では、産業革命が大衆観光の醸成に果たした歴史的意義から始め、観光の定義や概念把握が時代や場所により異なることを示し、次に今日観光の主体・客体・媒体の関係、国際観光と国内観光の関係、観光および観光産業の効果などを原理的に説明し、持続可能な観光開発について述べる。以上観光についての原理的な理解ができたあとで、国土交通省の中国運輸局企画振興部より2名をゲスト・スピーカーとしてお招きし、わが国とくに中国地方の観光の現状について観光行政の視点からご講話お願いすることにする。

授業の一般目標 本講義は、観光をする者(観光の需要者)の享楽のために、観光スポットや遊びの方法などを紹介していくというような観光概論ではない。将来的には、(1)観光経済の性質や特徴に関するマクロ経済的研究、(2)観光の需給および観光マーケティングに関するミクロ経済的研究、(3)観光産業の投資や収益性に関する事業化研究(フィージビリティ・スタディー: feasibility study)、(4)観光行政や観光資源開発に関する政策的研究などを視野に入れたもので、そのために必要な観光(経済)の基礎的な概念、専門用語、分析手法を理解するとともに、わが国の経済・社会の現況や動向を観光・サービスという視点から語れるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 大衆観光の基本概念を説明できる。観光分野の基本的な専門用語を識別できる。わが国とくに地元の中国地方の観光の現状と動向に関心を寄せるようになる。思考・判断の観点: 現実の大衆観光を、第一者、第二者、第三者の観点から分析し、それらの関係を総合的に捉えることができるようになる。関心・意欲の観点: 大衆観光をリードする観光産業やそれを指導する政府の経済活動に対する関心を高める。

授業の計画(全体) 基本的にパワーポイントを用いて授業をするが、それそのものを印刷したり、ネットで流すようなサービスは考えていない。ノートやメモを取りながら講義を理解する能力を高めることを狙いとする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 観光の歴史・階級性 内容 観光の主役と目的
- 第2回 項目 産業革命と観光 内容 大衆観光成立への物的(技術的)・価値的条件
- 第3回 項目 観光の諸定義 内容 観光の概念把握-観光の類似用語と定義づけ
- 第4回 項目 大衆観光の主体・客体・媒体 内容 観光客・観光資源・観光産業の関係
- 第5回 項目 観光および観光産業の多重性 内容 観光および観光産業の各種効果
- 第6回 項目 観光産業のスマイル 内容 観光における生産的労働と不生産的労働
- 第7回 項目 国際観光と国内観光 内容 観光の国民経済的把握
- 第8回 項目 国際機関における観光の取扱い 内容 観光の国際的定義
- 第9回 項目 持続可能な観光開発 内容 限界の成長
- 第10回 項目 世界の観光・わが国の観光 内容 観光の位置づけと役割・課題
- 第11回 項目 観光立国への道 内容 わが国の観光政策・観光行政
- 第12回 項目 外客誘致政策 内容 国と地方のインバウンド政策
- 第13回 項目 観光の特色 内容 わが国と中国地方の観光の特色
- 第14回 項目 観光関係の法律 内容 観光関係の法律と機能
- 第15回 項目 地域づくりと観光振興 内容 地域の観光振興支援

成績評価方法(総合) 期末定期試験=80%、出席回数(授業態度などを含む)=20%。欠席3分の1以上=欠格条件。注1.出席の取り扱いについて。出席カードで出席を確認する。欠席率が3分の1以上の

学生については期末試験の受験資格がない。出席カードは授業途中に配布、回収する。配布後に遅刻してきた学生には出席カードを与えない。注2．試験について。テキスト等の持ち込み不可。注3．以上の点について変更があれば、授業時間中に公表するので注意のこと。

教科書・参考書 教科書：観光経済学の原理と応用, 河村誠治, 九州大学出版会, 2004年 / 参考書：観光概論<第4版>, 交通公社教育開発, (財)交通公社教育開発, 1999年; その都度適宜示す。

メッセージ 教科書は、「観光経済学」、「観光経済政策総論」、「観光産業総論」などでも教科書とするので購読されたい。

開設科目	観光経済学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河村誠治				

授業の概要 観光経済学は、経済学の諸理論をベースにしながらも、経済学の周辺領域の学問も織りまぜながら、観光活動に見られる経済的に特有な諸々の現象や矛盾を分析し研究し、観光経済の発展を「観光公害」などの理由から否定するのではなく、その発展のための条件やその法則性を探ろうとする応用経済学である。本講義では、観光経済の細胞とも言える観光商品を分析した後で、観光商品の需給関係、観光商品の価格、観光商品の消費、観光投資、観光収入とその分配と、ミクロからマクロまでの観光経済の領域全般についての原理を説明する。

授業の一般目標 観光経済の研究、具体的には (1) 観光経済の性質や特徴に関するマクロ経済的研究、(2) 観光の需給および観光マーケティングに関するミクロ経済的研究、(3) 観光産業の投資や収益性に関する事業化研究 (フィージビリティ・スタディー: feasibility study)、(4) 観光行政や観光資源開発に関する政策的研究などを行なう上での基本的な知識・理解を教授し、思考・判断、関心・意欲を育む。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 観光経済の基本概念を説明でき、その基本的な専門用語を識別できる。 思考・判断の観点: 観光経済を、主にミクロ経済学、マクロ経済学、および政治経済学などに基づいて分析し、観光経済を多面的にかつ重層的に捉えることができるようになる。 関心・意欲の観点: 大衆観光をリードする観光産業や観光を指導する政府の経済活動、観光による地域経済の振興、ひいては国民経済の発展に対する関心を高める。

授業の計画 (全体) テキストや講義ノートをもとに授業をする。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 観光商品 (1) 内容 観光商品の概念と本質
- 第 2 回 項目 観光商品 (2) 内容 観光商品の特徴
- 第 3 回 項目 観光商品の需要 (1) 内容 観光需要の意義と影響要因
- 第 4 回 項目 観光商品の需要 (2) 内容 観光需要の法則と弾力性
- 第 5 回 項目 観光商品の供給 内容 観光供給の概念と価格弾力性
- 第 6 回 項目 観光商品の需給関係 内容 需給均衡の理論と現実
- 第 7 回 項目 観光価格 (1) 内容 観光価格の概要、決定メカニズム、設定目標
- 第 8 回 項目 観光価格 (2) 内容 観光価格の具体的設定法と観光商品の差別価格戦略
- 第 9 回 項目 観光消費 (1) 内容 観光消費の概念と観光消費の構造
- 第 10 回 項目 観光消費 (2) 内容 観光消費者の行動理論
- 第 11 回 項目 観光消費 (3) 内容 観光消費額の推計方法
- 第 12 回 項目 観光収入とその分配 (1) 内容 観光収入の概念と観光の経済波及効果 - 観光乗数理論
- 第 13 回 項目 観光収入とその分配 (2) 内容 観光収入の域外流出 - 漏出と課題
- 第 14 回 項目 予備 内容 予備
- 第 15 回 項目 予備 内容 予備

成績評価方法 (総合) 期末試験 = 80 %、出席回数 (授業態度などを含む) = 20 %、欠席率 3 分の 1 以上 = 欠格条件。注 1 . 出席の取り扱いについて。出席カードで出席を確認する。欠席率が 3 分の 1 以上の学生については期末試験の受験資格がない。出席カードは授業途中に配布し、回収する。配布後に遅刻してきた学生には出席カードを与えない。注 2 . テキスト等の持ち込み不可。注 3 . 以上の点について変更があれば、授業時間中に公表するので注意のこと。

教科書・参考書 教科書: 観光経済学の原理と応用, 河村誠治, 九州大学出版会, 2004 年 / 参考書: その都度適宜示す。

メッセージ 教科書は「観光産業総論」、「観光経済政策総論」などでも教科書とするので購読されたい。

開設科目	観光のための経済統計学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 観光のための経済政策立案には、観光産業活動の実態やそれを取り巻く経済の状況、新たな観光産業への取り組みを定量的に評価することが重要である。ここでは、観光関連データや地域経済データの特性と統計学的分析手法を学ぶことによって、観光のための経済政策に提供できる数値情報の作成する能力を育成することを目的としている。国、都道府県、市町村で公表されている数値情報を扱うだけでなく、アンケート調査の実施方法も取り上げる。この講義は実習形式で行う。

授業の一般目標 代表的な経済、観光のデータの特徴、統計的処理について理解している。実際にそれらのデータを入手し、分析に活用できる。アンケート調査を行う方法、取りまとめ方、さらにアンケート調査結果に対し、正しく理解している。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 公表されている経済データ、観光データにどのようなものがあるかを知っている。経済データ、観光データの特徴、データの取り方を理解している。 **思考・判断の観点：** 実際の経済や観光に関するテーマにそった統計データを選択することができる。 **関心・意欲の観点：** 自らが関心のあるテーマについて、本講義の内容から得られた統計的な知識を活用できる。 **態度の観点：** 実習授業に積極的に、粘り強く参加する。 **技能・表現の観点：** コンピュータ操作、特にマイクロソフト Excel を利用して、講義で出された課題を即座に作業を進めることができる。

授業の計画（全体） 観光関連データやマクロおよび地域経済データの種類や特性等を紹介する。統計学的分析手法を用いているもので、広く利用されているをとりあげ、解説する。都道府県、市町村で公表されているデータ、分析に広く活用できるデータについても取り扱う。最後にアンケート調査の実施方法とその取りまとめ方も講義で取り上げる。受講生にはアンケート調査を各自が行い、最終的に取りまとめ方を真なんでもらう予定である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN 観光と経済の統計 内容 SNA 統計、サテライトアカウント
- 第 2 回 項目 SNA 統計の概要
- 第 3 回 項目 観光データ 1 内容 国内観光旅行の現状を示すデータ
- 第 4 回 項目 観光データ 2 内容 国内観光旅行の現状を示すデータ
- 第 5 回 項目 地域観光データ 1 内容 山口県内の観光客数
- 第 6 回 項目 地域観光データ 2
- 第 7 回 項目 海外の観光データ 1 内容 米国の観光サテライトアカウント
- 第 8 回 項目 海外の観光データ 2
- 第 9 回 項目 観光と経済のデータを用いた分析事例
- 第 10 回 項目 アンケート調査の概要
- 第 11 回 項目 アンケート調査の集計
- 第 12 回 項目 アンケート調査の解析
- 第 13 回 項目 アンケート調査の解析 まとめ方
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 講義中に何回か出す課題のレポート（評価比率 40％）と定期的に講義時間以外を用いて作成していただくレポート（評価比率 60％）によって評価する

教科書・参考書 教科書：必要なテキストは適宜、受講生に指示をする。 / 参考書：参考にしたい書物は、適宜指示をする。

メッセージ マイクロソフト EXCEL を頻繁に利用している経験をもっていることが望ましい。この講義は実習講義ですので、積極的に課題に取り組んでいただきたいと思います。また欠席をすると、次回の講義に参加しても、作業内容が理解できないまたは、当日の作業にすぐ参加できなことも極めて多いことから、出席を必ずお願いします。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	観光サテライト・アカウンティング	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 観光産業の経済波及効果は広範囲な部門に影響を与えるため、観光資源の有効利用が国・地域経済を活性化させるものとして位置付けることができる。これらの効果を多産業部門間の相互依存関係を通して経済の循環構造を定量的に分析できるツールの1つに産業連関分析がある。またその他の計量経済学的手法で時系列の経済影響を分析することも可能である。ここでは産業連関分析を含めた計量経済学的手法を学び、実証分析を行いながら、地域経済における観光産業活動とその役割、観光政策の有効性についての評価を考察できる分析能力を養う。この講義はコンピュータールームにおいて実習形式で行うものである。

授業の一般目標 SNAにおけるサテライトアカウントの位置付けを理解し、観光データの現状と問題点を具体的に解説することができる。観光データとその他の経済データを用いて観光サテライトアカウントを計測する方法を解説ができ、課題問題として提示されたデータにおいて計測することができる。また、産業連関分析を理解し、産業連関表を用いた観光消費と観光関連施設の建設等の波及効果の分析を行うことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：観光データの問題点を理解している。サテライトアカウントと観光サテライトアカウントを説明できる。産業連関分析の理論を習得し、実際の分析の仕方を理解している。思考・判断の観点：観光データや経済データを扱う際に、それぞれのデータの特徴を検討し、用いることができる。講義で取り上げる内容について、どのような意味があるのかを思考しながら、実習講義に取り組むことができる。態度の観点：課題に積極的に、ねばりよく取り組むことができる。技能・表現の観点：マイクロソフトエクセルの機能を理解し、必要な作業を短時間で行うことができる。

授業の計画(全体) SNAにおけるサテライトアカウントの位置付けを解説し、観光データの現状と問題点を取り上げる。観光データとその他の経済データを用いて観光サテライトアカウントを計測する方法を解説し、課題問題を利用して計測する。次に、産業連関分析の理論を詳細に解説する。この分析手法を用いることによって具体的にどのようなことができるかということも提示する。実際に、産業連関表を用いた観光消費と観光関連施設の建設等の波及効果の分析を行う。さらに、環境への負荷の試算方法についても取り上げる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 データの統計的利用 観光データの概要
- 第 2 回 項目 93SNA とサテライトアカウント 内容 環境サテライトアカウント、観光サテライトアカウント
- 第 3 回 項目 観光サテライトアカウントの計測事例
- 第 4 回 項目 産業連関表の概要 1 内容 歴史、表の構成、データの入手方法
- 第 5 回 項目 産業連関表の概要 2 内容 地域産業連関表について、データの入手方法
- 第 6 回 項目 産業連関表から得られた分析のためのデータ 内容 投入係数、均衡産出モデル、レオンチェフ逆行列
- 第 7 回 項目 波及効果試算(1) 内容 消費の影響 公共投資による影響
- 第 8 回 項目 波及効果試算(2) 内容 復習
- 第 9 回 項目 観光における経済効果 事例分析 内容 観光施設建設の効果
- 第 10 回 項目 観光における経済効果 内容 雇用の影響
- 第 11 回 項目 観光における経済効果 内容 環境負荷への影響
- 第 12 回 項目 観光における経済効果の実践(1)
- 第 13 回 項目 観光における経済効果の実践(2)
- 第 14 回 項目 予備

第 15 回 項目 予備

成績評価方法 (総合) 講義中に何回か出す課題のレポート (評価比率 60%) と定期的に講義時間以外を用いて作成していただくレポート (評価比率 40%) によって評価する。

教科書・参考書 教科書: 必要なテキストは適宜、受講生に指示をする。 / 参考書: 観光経済学入門, ジェームズ・マック, 日本評論社, 2005 年; 参考にしていきたい書物は、適宜指示をする。

メッセージ マイクロソフト EXCEL を頻繁に利用している経験をもっていることが望ましい。この講義は実習講義ですので、積極的に課題に取り組んでいただきたいと思います。また欠席をすると、次回の講義に参加しても、作業内容が理解できないことも極めて多いことから、出席を必ずお願いします。講義中に前回欠席者の個別指導は他の学生さんの迷惑になるので行いません。忌引きや病気で欠席した受講生は講義の前日までに研究室へ相談に来てください。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	観光産業総論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	河村誠治				

授業の概要 観光産業総論では、「観光概論」に立ち戻り、観光における観光産業の意義・役割を示すとともに、その、全般的な特徴を説明し、そしてその具体像をより鮮明にするために、観光産業を構成する旅行業、ホテル・旅館業、旅客輸送業、テーマパークなど、それぞれの事業内容などを取り上げる。個々の観光企業への投資とその経営努力がどのような具体的内容となって反映され、観光収入として実現していくのかを知る上で、個々の観光産業への理解は不可欠である。とくに、今日わが国観光産業で最も話題を提供し、世界最大の観光企業主体である東京ディズニーランドなどのテーマパークへの理解は、個別の観光産業の経営状態だけでなく、観光による地域振興の重要性と限界を考える上からも不可欠となる。 / 検索キーワード 観光産業

授業の一般目標 観光客の視点からだけの観光の理解ではなく、大衆観光をリードしてきた観光産業の視点からの観光の把握・意義と特徴、および国民経済や地域経済とのかかわりなど、複眼的視点からの観光の理解を促す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：観光産業および観光産業主要6業種の概要。 思考・判断の観点：効率と効果の違いを個別産業に当ては理解できる。 関心・意欲の観点：大衆観光をリードする観光産業の経営・労働面に興味を抱く。

授業の計画(全体) テキストや参考書をもとに講義内容を作成し、パワーポイントにて講義を進める。授業計画としては2-3回分を観光産業およびサービス業の概要をまとめ、残りを観光産業の6業種の内容に当てる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 観光における観光産業の位置づけ 内容 観光と観光産業
- 第2回 項目 観光産業の概要 内容 観光産業の役割
- 第3回 項目 観光産業の特徴 内容 労働集約的なサービス業
- 第4回 項目 旅行(斡旋)業(1) 内容 旅行会社
- 第5回 項目 旅行(斡旋)業(2) 内容 わが国各社の観光(旅行)商品
- 第6回 項目 宿泊業・レストラン業(1) 内容 ホテル・旅館
- 第7回 項目 宿泊業・レストラン業(2) 内容 レストラン
- 第8回 項目 旅客運輸業(1)-鉄道 内容 現状と課題
- 第9回 項目 旅客運輸業(2)-道路 内容 現状と課題
- 第10回 項目 旅客運輸業(3)-航空 内容 航空産業と空港建設
- 第11回 項目 テーマパーク概論 内容 テーマやショーを伴った遊園地
- 第12回 項目 世界のディズニーランドと東京ディズニーランド 内容 ホスピタリティ産業とエンターテインメント産業
- 第13回 項目 東京ディズニーランド 内容 東京ディズニーランド一人勝ちの秘訣
- 第14回 項目 予備
- 第15回 項目 予備

成績評価方法(総合) 期末試験:80%、出席:20%、欠格条件:3分の1以上の欠席。

教科書・参考書 教科書：観光経済学の原理と応用, 河村誠治, 九州大学出版会, 2004年 / 参考書：観光概論<第4版>, 交通公社教育開発, 交通公社教育開発, 1999年

メッセージ 参考書の『観光概論<第4版>』は多くの私立大学の観光関係の学科で用いられているもので、できるだけ購入して読んでもらいたい。

開設科目	実践情報技術	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	武本ティモシー				

授業の概要 観光情報を発信・収集するためのウェブサイトを作成します。ウェブサイトの一部は英語で書いてもらいます。

授業の一般目標 HTMLの基礎を学習してから、HTMLなどのコードを知らずに、GUIでマウスを使ってHP（ホームページ・ウェブサイト）が作成管理できるブログ・CMS（コンテンツ管理システム）の使い方を紹介の使い方を習得し、訪問者とのコミュニケーションを可能にするフォーラム・チャット・メーリングリストの管理仕方を身に付けてネット参加することです。 山口の名所・名産物などを紹介し

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：HTML

開設科目	観光と環境	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 観光資源は、自然環境を基盤とした自然資本、長い歴史を含む文化によって人間が作りだした文化資本、近年の社会的ニーズによって作りだされた民間資本などがあり、様々な形成過程や特徴がある。これら資本に対する経済学理論による捉え方を講義する。さらに自然環境および環境問題の保全政策や環境評価、観光資源となる文化資本の価値を理解する内容を提示した上で、日本国内および海外の観光資源として環境政策や環境への取り組みを利用した事例を紹介する。講義は講義ノートのプリントと資料によってすすめる予定である。

授業の一般目標 観光資源の属する様々な資本を理解し、経済学の外部性の観点で環境を捉えること、さらに環境政策の観光への適用を学ぶことにより、観光資源を多様な側面を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：外部性を理解し、環境問題を説明できる。また、文化資源や自然環境資源を理解する。環境政策の観光への適用事例を説明できる。思考・判断の観点：環境問題の解決策や観光政策で必要とされる要素について自分の意見を述べることができる。関心・意欲の観点：日常生活の環境問題や環境政策、さらに現在の観光の状況、環境政策に関心をもつ。

授業の計画（全体） 経済活動と資源および資本の定義と役割を解説した上で、外部性の考え方を示す。次に文化資本と環境について個々に解説した上で、環境資源としての考え方やコンセプトを示し、近年のエコツーリズムなどの事例を紹介する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経済活動と資源 内容 経済と環境の関係
- 第 2 回 項目 資本の定義と役割 内容 観光資源と環境資源
- 第 3 回 項目 外部性の考え方（1）
- 第 4 回 項目 外部性の考え方（2）
- 第 5 回 項目 環境と経済の持続可能性
- 第 6 回 項目 環境政策の考え方（1） 内容 直接規制
- 第 7 回 項目 環境政策の考え方（2） 内容 四日市公害の事例紹介
- 第 8 回 項目 環境評価方法
- 第 9 回 項目 エコツーリズム 内容 ドイツのフライブルクの事例、オーストラリア環境研修
- 第 10 回 項目 文化的な財・サービスの経済的評価 内容 美術館の事例
- 第 11 回 項目 文化資本と持続可能性
- 第 12 回 項目 文化遺産の経済的側面
- 第 13 回 項目 観光資源の考え方
- 第 14 回 項目 観光デザインの要素 新しい観光のコンセプト 内容 環境保全型の観光
- 第 15 回 項目 環境再生における新たな発展 内容 水俣公害の負の遺産をプラスにする戦略

成績評価方法（総合） 期末試験または期末試験にかわるレポート試験 = 70～100% 未満 小テスト / 授業内レポート = 30% 未満 宿題 / 授業外レポート = 30% 未満 授業態度や授業への参加度 = 30% 未満

教科書・参考書 参考書：観光マーケティング - 理論と実際 - , 長谷政弘, 同文館, 1998年; 都市再生を考える, 植田和弘他, 岩波書店, 2004年; 公共経済学入門, 西垣泰幸 編著, 八千代出版, 2003年; 文化経済学入門, デイビット・スロスピー, 日本経済新聞社, 2003年

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	エコ・ツーリズム論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 エコツーリズムとは、自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかたである。自然の成り立ちや歴史・文化が持つ深い意味をわかりやすく解説し、来訪者に大きな感動をもたらす。それが経済行為として成り立つ。そのことが、地域の自然環境や歴史文化を尊重し、守っていく行動にもつながり、成功すれば、環境と経済の好循環の一例となる。もともと途上国の自然保護のための資金調達手法として取り入れられたエコツーリズムの考え方は、持続可能な観光の一つの領域として先進国でも展開されており、2002年を国連がエコツーリズム年とするなど、国際的にも定着した用語（ecotourism）となっている。エコツーリズムの実現のためには、旅行者や観光事業者だけでなく、地元住民や地域の様々な産業を含む、地域における包括的、横断的な取り組みが必要である。エコツーリズムの推進は「環境」「観光」「地域」が深い関わりをもちながら取り組む社会のしくみづくりである。

授業の一般目標 エコツーリズムにおける実務と最新情報の把握を意図する。多岐にわたるテーマに関して事例を通じた理解を試みる。基本的問題から現代的な課題にも考察をしていきたい。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 エコツーリズム論概論
- 第 2 回 項目 エコツーリズムアセスメント
- 第 3 回 項目 資源保護とアセスメントのための実務管理ツールと手法
- 第 4 回 項目 エコリズム目的地のための指標とリスク管理
- 第 5 回 項目 エコツーリズム政策
- 第 6 回 項目 島国におけるエコツーリズム管理
- 第 7 回 項目 事例研究（1）：日本
- 第 8 回 項目 事例研究（2）：韓国
- 第 9 回 項目 事例研究（3）：アメリカ
- 第 10 回 項目 事例研究（4）：カナダ
- 第 11 回 項目 事例研究（5）：南アフリカ
- 第 12 回 項目 事例研究（6）：オーストラリア
- 第 13 回 項目 エコツーリズムのマーケティング
- 第 14 回 項目 エコツーリズム資源の保護と持続的利用
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と期末試験（30%）で行う。

教科書・参考書 参考書：“Ecotourism: Management and Assessment”, Dimitrios Diamantis, Thomson Learning, 2004年；『エコツーリズム推進マニュアル』, エコツーリズム推進会議, 環境省, 2004年

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	観光コミュニケーション	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	宮崎充保				

授業の概要 この科目の基本は「コミュニケーション」です。それに「観光」が冠されています。この授業では、コミュニケーションの基本と実践を学習して、それが、観光に関するコミュニケーションであることを学びます。「観光」は物見遊山で見聞を広めたり日常から脱却して非日常を経験するなかで自己回復を図ることを考えがちですが、これは「観光する＝訪れる」側の論理です。楽しく思い出深く、土地の人情まで触れることができれば満点でしょう。しかし、「観光させる＝受け容れる」側の論理を考えなければなりません。そこには学科の理念にあるとおり、“自国文化(＝地元文化)と異文化理解、まちづくり、景観や環境、観光産業(ホスピタリティ)”など、考えたら際限なく、言語コミュニケーションを支えとして人と文化が出会うことが基本になります。/検索キーワード 観光、コミュニケーション、プレゼンテーション

授業の一般目標 ・キャッチボールにたとえられる“コミュニケーション”することは何か、その基本と基礎を学び、それを実践へ向ける。 ・この“コミュニケーション”に観光を加えたとき、コミュニケーションの形態はどうなるか、それを学び実践へ向ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：言語に関する諸相を理解し、実践態勢へ向ける 地域文化に関する知識の収集をして理解する 思考・判断の観点：異文化(外国文化とは限らない)の人間と、ある設定された状況のもとで、どのようなコミュニケーション運営をしたらよいかの判断力をつける 関心・意欲の観点：自分にはないもの、自分が知らないものへの高い関心を持つ 自分にあるもの、自分が知っているものへの愛着と尊敬を持つ 態度の観点：関心、愛着、尊敬の次元をさらに高める そのために、調査や探求を日常から心がける 技能・表現の観点：要領を得た、まとまりのある言語表現ができるようになる その他の観点：人間、土地にまつわる諸相を好きになる

授業の計画(全体) 授業ではまず、コミュニケーションについて学びます。コミュニケーションは伝えようとする相手を相手に伝えることです。相手には理解あるいは何らかの反応が生まれるようになることです。これに観光をかぶせて、観光地の発掘、発掘した観光地の歴史文化、観光企画、現地における観光産業(ホテル、土産店など) 観光ガイドに必要なコミュニケーションをプレゼンテーションによって進めます。この科目の授業は初めて行われます。受講者のやりたいこと、やらなければならないことをリサーチしながら、上記の項目を取り入れながら、人に伝えるだけの話の種を持つような授業を考えています。したがって、週配当は未定とします。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション1 内容 コミュニケーションについて
- 第2回 項目 イントロダクション2 内容 コミュニケーションについて
- 第3回 項目 イントロダクション3 内容 コミュニケーションについて 今後の授業について
- 第4回 項目 プレゼンテーションに向けて1 内容 プレゼンテーションの仕方 ハンドアウトの書き方
- 第5回 項目 プレゼンテーションに向けて2 内容 同上
- 第6回 項目 プレゼンテーション1 内容 テーマ別
- 第7回 項目 プレゼンテーション2 内容 テーマ別
- 第8回 項目 プレゼンテーション3 内容 テーマ別
- 第9回 項目 プレゼンテーション4 内容 テーマ別
- 第10回 項目 プレゼンテーション5 内容 テーマ別
- 第11回 項目 プレゼンテーション6 内容 テーマ別
- 第12回 項目 プレゼンテーション7 内容 テーマ別
- 第13回 項目 プレゼンテーション8 内容 テーマ別
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回 項目 予備

成績評価方法(総合)・出席を重視する。欠席を3回以上すると不合格になる。以下の4点を最も重視して評価する。・プレゼンテーションのためのフィールドワークの報告書(レポート)・プレゼンテーションのための必要な形式のハンドアウト・プレゼンテーション・プレゼンテーションに対するアセスメント

教科書・参考書 教科書: 当面、用いる予定はないが、必要となったときはそのとき知らせる。/ 参考書: コミュニケーション力, 斎藤孝, 岩波新書, 2004年

メッセージ 想像力をぎりぎりまで働かせてください。そして、それをどのように形にして表現するかを考えてください。また、言葉に大きな興味を持ってください。これらが億劫な人は初めからこの授業は履修しないでください。

連絡先・オフィスアワー mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	異文化コミュニケーション論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	鴨川 啓信・武本 ティモシー				

授業の概要 この授業は、二名の教員により、主としてコミュニケーション理論と異文化表象について講義・演習を行う。武本担当の授業の狙いは、他文化との言語的や非言語的コミュニケーション方式の違いや、その結果生じてくるコミュニケーションの問題について考えることである。30分以内の講義の後、他の学生と組んで日本語や英語で話しあうことによって、示されている文化差の実感を図る。ロールプレイングのような実験によって、異文化体験をさせる。インターネットを通して、オンライン実験や異文化人と交流する。鴨川担当は、旅行記やエッセイ等、異文化との接触を描いた文章や映像を受容し、そこから異文化理解に関する問題を考察する。

授業の一般目標 武本担当授業の目標： 1) 対人コミュニケーションにおける文化の差をより意識する。 2) 日本文化や他文化の世界観の違いを意識する。 3) 日本人のアイデンティティーやコミュニケーションの特徴を意識する。 鴨川担当授業の目標： 異文化理解やその障害の例を知ること。また、妨げの要因を自分なりに特定し、障害を抑える術を考案することを通して、この主題についての理解を深めること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 異文化コミュニケーションの諸理論についての知識 (武本担当分)
技能・表現の観点： 文化の違いや異文化コミュニケーション問題について英語で話せる能力 (武本担当分)

授業の計画 (全体) 武本担当分 1. 文化とコミュニケーションの定義 2. 非言語的コミュニケーション (表情) 3. 自己主張の違い：遠慮と謙遜と自己高揚 4. ヴィジュアル文化の解読 5. 文化と空間とコミュニケーション 6. 文化と時間とコミュニケーション 7. 異文化コミュニケーション壁：差別 鴨川担当分 7週で、異文化理解/誤解の事例を幾つか見ていき、それぞれについて受講者自身の意見形成の演習を行う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回
- 第 2 回
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回

- 第 10 回 項目 文化の定義 内容 文化がどのように定義されているか、または文化の影響がいかに深いかについて考察する。 授業外指示 100字ほどの章レポートか復習テスト
- 第 11 回 項目 コミュニケーションの定義と非言語コミュニケーション 内容 コミュニケーションについての定義 (4つほど) とコミュニケーションの定義から見た日言語コミュニケーション (特にジェスチャー) 授業外指示 "
- 第 12 回 項目 自己表現の媒体 内容 どのような媒体で自分の意志を伝えようとするのかは文化によって違います。 授業外指示 "
- 第 13 回 項目 時間観 内容 時間の概念や時間に価値観 授業外指示 "
- 第 14 回 項目 空間観 内容 空間とは何か。それが重要なのか 授業外指示 "
- 第 15 回 項目 差別とコミュニケーション 内容 異文化コミュニケーションの最大の妨げとなる潜在的差別・偏見の存在を自覚する 授業外指示 試験の準備

成績評価方法 (総合) 武本担当授業では、学期末試験 50%、カード得点評価法による平常点 50% 鴨川担当授業では、発表等での授業参加状況・課題の提出状況 (1/2)、レポート (1/2) で評価する。授業全体では、上記の評価を総合して成績を出す。

メッセージ 「異文化コミュニケーション論」は実習的な科目でもあるので、出席は重要。(武本)

連絡先・オフィスアワー 武本：コースHPは yufoe.com から。いつでもチャットルーム chattoru-mu.com や timothy@nihonbunka.com まで 鴨川：研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	情報メディア論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	吉本秀子				

授業の概要 情報社会の中で、ニュースの役割とは何か。情報メディアの役割とは何か。それを探るために、マスメディアの特徴、ニュース的な価値、機能、影響などの諸問題を概観しつつ、今日におけるジャーナリズムの問題点を考える。 / 検索キーワード メディア、マスメディア、新聞、テレビ、ニュース、

授業の一般目標 マスメディアからの情報を読み解く能力(=メディア・リテラシー)の育成を目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: マスメディアの特徴と仕組みを理解する。 思考・判断の観点: マスメディアからの情報を批判的に読み解くことができる。 関心・意欲の観点: マスメディアの特徴を調べ、ニュースの内容を比較分析してみる。 態度の観点: 日常的に読んでいる新聞、テレビなどのマスメディアからの情報を、批判的に読み解き、そこに潜んでいる問題点を指摘できる。 技能・表現の観点: マスメディアからの情報に関する特徴や役割を批判的に論評できる。

授業の計画(全体) 情報メディアに関する過去の研究を土台にし、ニュースの特徴、機能、効果、制約などを理解し、新聞・雑誌などの印刷メディア、テレビ・ラジオなどの放送メディア、インターネットなどのニューメディアに、それぞれどのような特色があるのかを理解する。さらに、国際化の中で情報メディアの果たす今日的な役割と問題点を考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業の紹介 内容 情報メディア論への招待。メディア論とはどんな学問か。
- 第2回 項目 作られるニュース 内容 ニュースの製造過程。送り手と受け手の関係について。
- 第3回 項目 ニュースの機能と効果 内容 ニュースはどんな社会的役割を持ち、どんな効果があるのか。
- 第4回 項目 ニュースの制約 内容 ニュース・メディアにはどんな限界があるのか。
- 第5回 項目 前半のまとめ
- 第6回 項目 印刷メディア 内容 新聞を中心とした印刷メディアとの特徴を理解する。
- 第7回 項目 放送メディア 内容 テレビを中心とした放送メディアの特徴を理解する。
- 第8回 項目 インターネット 内容 インターネットを中心とした新しい情報メディアの特徴を理解する。
- 第9回 項目 中盤のまとめ
- 第10回 項目 ニュースの表現と客観報道 内容 ニュースの表現にはどんな特徴があるか。
- 第11回 項目 ニュースの内容分析 内容 メディア論では、ニュースの内容をどう分析しているのか。
- 第12回 項目 グローバル化の問題点 内容 ニュースが国際化する現代の問題点は何か。
- 第13回 項目 政治とメディア 内容 政治とメディアはどう関わっているか。
- 第14回 項目 後半のまとめ
- 第15回 項目 レポート提出

成績評価方法(総合) 参加点 30% 小テスト 20% 期末レポート 50%

教科書・参考書 教科書: 現代ニュース論, 大石裕他, 有斐閣, 2004年

連絡先・オフィスアワー yoshimoto@fis.yamaguchi-pu.ac.jp

開設科目	文化心理学	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	武本ティモシー				

授業の概要 文化が心理に対して及ぼす影響の大きさは、次第に理解されつつある。あなたは、自分が「上手」だといわれると頑張るか、それとも「下手」だといわれるともっと頑張るか。ホラー映画に出てくる《怖い人》は女性か男性か？これらの問いはどれも文化差があることが最近の研究によって証明されている。 / 検索キーワード 文化・心理学・社会心理学・人の心・びっくり・実験・調査

授業の一般目標 この授業の目的は、文化と心理の関わりを学習することである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文化心理学の研究 思考・判断の観点：文化心理学の方法論 関心・意欲の観点：文化心理学が示す文化差に興味を示すか、その差を否定することに興味を示すか 態度の観点：結局的に聞き、オンライン討論に参加し、

授業の計画（全体） 文化心理の定義から始まり方法論を取り入れ文化心理の重要性をアピールしてから、体系的な研究・実験を紹介し、これらがどのように今までの社会心理学や教育・経営・経済の理論にまで影響を与えるかについて考察を加え、観光業務における異文化の理解のための道具として文化心理学を位置付ける。

成績評価方法（総合） 授業の参加・小レポートと試験を評価の対象にします。

教科書・参考書 参考書：自己と感情, 北山忍, 共立出版, 1997年；木を見る西洋人 森を見る東洋人, R・E・ニスベット, ダイヤモンド社, 2004年；文化心理学, 柏木恵子他編, 東京大学, 1997年；心でっかちな日本人 集団主義文化という幻想, 山岸俊男, 日本経済新聞社, 2002年；社会心理学：アジア的視点から, 山口勸, 放送大学教育振興会, 1998年；読まなくても合格できますが、読めば理解が深くなり試験が簡単になります。

メッセージ いつでも質問してください。

連絡先・オフィスアワー コースホームページは YUFOE.com から入れます。メール tim@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文化論	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	鴨川 啓信				

授業の概要 英米の文化で、「旅」がどのようにとらえられているかを見ていく。 イギリスとアメリカ、またはこれらに影響を与えた他の文化における「旅」の概念を、旅行記・小説・映像での描かれ方を実際に検証し学習する。

授業の一般目標 英米における「旅」の概念について、またその背景となる英米(あるいは西洋)文化全般について理解を深める。

授業の計画(全体) 各週、検証する題材を用いて講義形式で学習する。受講生には、学期中・学期末に数度レポートの提出を求める予定。詳細については、初回の授業で説明する。

成績評価方法(総合) 出席+レポート+ 詳細については、初回の授業で説明する。

教科書・参考書 教科書：教材はプリントにて配布 / 参考書：必要に応じて授業内で提示する。

連絡先・オフィスアワー e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207

開設科目	リーディング(英語基礎強化)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	正宗 聡				

授業の概要 大学生向けに編纂されたテキストを用い、そこに書かれていることを理解するとともに、リーディングの作業に必要な基本的なメソッドを紹介する。

授業の一般目標 いままでとは違ったリーディング教材に対するアプローチが取れるようにする。具体的には授業で提示する。

授業の到達目標 / 関心・意欲の観点：プレゼンテーションの形式を取りながら授業を進めるが、発表者も意欲的に準備し、またそれを聞いている者も積極的に参加して欲しい。 技能・表現の観点：プレゼンテーションがうまくなされているかどうか。特に聞いている者の立場になって用意・発表がなされているかどうか。

授業の計画(全体) 2週間で1章分(2ページから3ページ分)ずつ進む。各回の授業では、最初にプレゼンテーション、質疑応答、そして講師のコメントの順序で進めていく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 イントロダクション プレゼンテーションへ その1
- 第2回 項目 第1章(1)
- 第3回 項目 第1章(2)
- 第4回 項目 第2章(1)
- 第5回 項目 第2章(2)
- 第6回 項目 第3章(1)
- 第7回 項目 第3章(2)
- 第8回 項目 第4章(1)
- 第9回 項目 第4章(2)
- 第10回 項目 第5章(1)
- 第11回 項目 第5章(2)
- 第12回 項目 第6章(1)
- 第13回 項目 第6章(2)
- 第14回 項目 まとめ、あるいは予備
- 第15回 項目 まとめ、あるいは予備

成績評価方法(総合) プレゼンテーション・質疑応答の出来による。

教科書・参考書 教科書：毎回コピー配布。

開設科目	ライティング(英語基礎強化)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	宮崎 充保				

授業の概要 この授業では、自分の考え等まとまった内容を英語で表現するために、ただ単文を完成させるだけではなく、複数の文を繋げ、並べて段落を、また段落を並べて文章を作成するやり方を学ぶ。必要なのは、文章の「まとまり」であり、それは英語では coherence と呼ばれている。 / 検索キーワード coherence, cohesive, article, connecting words

授業の一般目標 文の繋げ方、段落の構成、論の展開等を学び、まとまった内容を英語で表現できるようになることを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: Coherence を作る、cohesive elements を知識に蓄えながら、その使用を学習する。 思考・判断の観点: 何を、どう考え、それを言語によってどう表現するかを学習する。 関心・意欲の観点: 身近な話題から、世界の話まで関心を持ち、そのことを英語を用いて自分の意見として表現する。 技能・表現の観点: 少々の文法ミスはあっても、伝えたい内容が伝えられる英語を書くこと。

授業の計画(全体) ・ coherence とは何か。それを生み出す cohesive elements とは何か。 ・ 論旨の流れを coherent にするために、outline を書く。 ・ outline に従って本文を書く。 ・ 本文の summary を書く。 ・ 以上のことを、いくつかの話題に関して行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introduction 1 内容 Coherence とは何
- 第 2 回 項目 Introduction 2 内容 Cohesion のための言葉とは
- 第 3 回 項目 Introduction 3 内容 文章構成
- 第 4 回 項目 Praxis 内容 以下、実践しながら、委細には踏み込む
- 第 5 回 項目 Praxis
- 第 6 回 項目 Praxis
- 第 7 回 項目 Praxis
- 第 8 回 項目 Praxis
- 第 9 回 項目 Praxis
- 第 10 回 項目 Praxis
- 第 11 回 項目 Praxis
- 第 12 回 項目 Praxis
- 第 13 回 項目 Praxis
- 第 14 回 項目 Praxis
- 第 15 回 項目 Praxis

成績評価方法(総合) 授業参加度 + 課題提出状況 + 学期末課題、で評価する。

メッセージ 時間内に書くものと、じっくり思考をめぐらせて書くものがある。気力の充実と細かい調べものを厭わないことが必要。

連絡先・オフィスアワー 研究室: 経済 A323 / e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	リスニング（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	正宗聡				

授業の概要 ストーリーのある教材を毎回部分に分けて用いて、リスニング力の強化を目指す。 / 検索キーワード 音

授業の一般目標 実際の音の崩れについて、多少なりとも慣れる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：音の崩れ方のパターンを少しでも多く習得する。

授業の計画（全体） どの回も、ただただ教材を聞き続ける。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イン트로ダクション

第 2 回 項目 演習 1

第 3 回 項目 演習 2（以下、最後の回まで演習を続ける。）

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 授業中の参加度と、（これは筆記試験になるかと思われるが）定期試験の点数。

教科書・参考書 教科書：プリント配布する。 / 参考書：なし。

メッセージ 出席をきちんとしてください。

連絡先・オフィスアワー 未定

開設科目	文法（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	正宗 聡				

授業の概要 英語を学習する際に、学習の進度のひとつの目安となるのが、文法の諸項目である。一般的な文法項目にしたがって、その知識を復習、使えるように学習し、さらにもう一つ上のレベルへと発展させてみたい。

授業の一般目標 英文法だけでなく、そもそも言語というものについても考えたい。

授業の計画（全体） 前述した文法の諸項目とは以下のとおりです。「不定詞」「関係詞」「冠詞」「仮定法」「相関語句」「間投詞」の6つです。

成績評価方法（総合） 定期テストで判断します。

教科書・参考書 教科書：教材は授業時にプリントで配布する。

開設科目	会話（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Alan Christ				

授業の概要 General ways and means of English communication will be studied. This class will be geared to students who have a low level of English and wish to improve upon their spoken English.

授業の一般目標 In this class it is expected that the students will improve upon their spoken English skills using their latent English knowledge as well as new vocabulary and speaking strategies.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： Students must be able to explain terms in easy to understand English **関心・意欲の観点：** Students must want to communicate with others in English. **態度の観点：** Students must be able to work in groups of students and not be shy about expressing themselves.

授業の計画（全体） Every week different topics of conversation will be covered.

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Greetings and Talking about oneself 内容 WH-Questions and simple present tense
- 第 2 回 項目 Describing things 内容 Simple Present Yes/No questions
- 第 3 回 項目 Asking for and Giving Directions 内容 Prepositions of Location
- 第 4 回 項目 Expressing thanks and Shopping 内容 Numbers and Ordinal Numbers
- 第 5 回 項目 Offering help; making requests 内容 Counters
- 第 6 回 項目 Talking about Routines 内容 Adverbs of Frequency
- 第 7 回 項目 Interviewing Someone 内容 Simple present; WH-Questions
- 第 8 回 項目 Telling time 内容 WH-Questions; "usually"
- 第 9 回 項目 Describing people 内容 Present Progressive Tense
- 第 10 回 項目 Describing present states 内容 Simple present and Adjectives
- 第 11 回 項目 Asking for opinions 内容 "better than"; singular and plural nouns
- 第 12 回 項目 Giving Reasons and Opinions 内容 Likes and dislikes; preferences
- 第 13 回 項目 Talking about past events 内容 Simple past and present perfect tenses
- 第 14 回 項目 Making comparisons 内容 Comparatives
- 第 15 回 項目 Talking about the weather 内容 more work with adjectives

成績評価方法（総合） Class participation 40 % Homework 20 % Periodic Quizzes 20 % Final test 20 % Students who are absent for 5 class periods will automatically fail.

教科書・参考書 教科書：Speaking First, by N. Brinks,

開設科目	会話（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本ティモシー				

授業の概要 留学を目指している学生や観光学科の学生にお薦めするこの授業は、共通教育のイングリッシュスピーキングに似ていてより進んだレベルの英語コミュニケーション・コースです。授業内ではひたすら英語で話し聞き、授業の外では教科書を読んでおいてもらったり、単語を覚えてもらったり、自分自身についての短いレポートを書いてもらいます。テーマは山口大学での生活です。履修の条件には、同じ教科書を使っていないことです。/ 検索キーワード 英語コミュニケーション・発信・技能・英語脳・習得・流暢性

授業の一般目標 この授業の目標は、発信型の英語コミュニケーション能力を身に付けることです。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分自身の性格・嗜好や山口での生活を説明できるための簡単な文法表現を理解すること 自分自身の性格・嗜好や山口での生活を説明できるための簡単な英単語を覚えること 態度の観点：自分がわからないことをはっきり「分からない」という表現する潔い態度 間違った英語でも自己表現すること 技能・表現の観点：簡単な構造や単語でも、即座に英文を作り発話すること 自分自身や自分の生活について文章を書くこと

授業の計画（全体） 教科書は山口大学での学生生活について書かれています。できるだけ学生が興味をもっている話題を選びました。最初のは4つのテキストを読み、ペアになって相手のテキストについての質問とさらに突っ込んで質問します。次に相手自身についての二つのアンケートを使って質問します。自分自身について話している場合は、本当のことを言う必要はまったくありません。重要なのは正しい表現をするのではなく、はったりをきかし、ウソを言い、間違えろ！英語をたくさん話すことです。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 English is Baseball & Real Classroom English 内容 授業の規則と授業の英語：突っ込みの質問の訊き方・理想的な授業 授業外指示 教科書を読んでおくこと・単語を覚えてくること 授業記録 担当教員の体力限り授業内容についてのレポート（100～200語）
- 第 2 回 項目 How to use a PC and yueigocom 内容 パソコンと講座HPの使い方：インターネットの使い方・英語の勉強方法 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 3 回 項目 Student Recipes 内容 学生のレシピ：料理・食べ物 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 4 回 項目 Part-time Jobs 内容 山口でのアルバイト：学生のアルバイト・職業当て子ゲーム 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 5 回 項目 Student Health 内容 学生の健康：自分の健康・お医者さんごっこ 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 6 回 項目 Yamaguchi Festivals 内容 山口のお祭り：自分の祭り・先週末の行動 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 7 回 項目 Student Apartments 内容 山口での学生アパート：自分の部屋・自分の部屋の配置 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 8 回 項目 Your Yamaguchi 内容 山口のお奨め：自分の山口のお奨め・自分の故郷 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 9 回 項目 Japanese Culture 内容 日本の文化：日本の慣習 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 10 回 項目 Courses and Credits 内容 授業と単位：自分にとっての単位・週間スケジュール 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 11 回 項目 Yamaguchi Nature 内容 山口の自然：自分と山口の自然・環境保全 授業外指示 " 授業記録 "
- 第 12 回 項目 Cell Phones and Cars 内容 携帯電話と車：いと悪い携帯電話・車とドライブについて 授業外指示 " 授業記録 "

第 13 回 項目 Music and Movies 内容 音楽と映画：音楽について・映画について 授業外指示 " 授業記録 "

第 14 回 項目 Getting a Job 内容 就職活動：理想的な仕事・自分の未来 授業外指示 " 授業記録 "

第 15 回 項目 Your Taste in Guys and Girls 内容 異性の趣味:学生の異性の趣味(空想な話でも結構です・男女の違い 授業外指示 " 授業記録 "

成績評価方法(総合) 授業中に発言する学生に得点カードを渡し話し聞き能力を授業参加を、オンラインテストで教科書の復習を、短い文章を書いてもらい文章能力を測って4つの技能を評価の対象とします。

教科書・参考書 教科書: English Speaking (第1版・紺色・カラー写真), Timothy Takemoto, Timothy Takemoto; この教科書を使った授業はアランキリストの英会話クラスを履修してください。これは浅い紫色の「English for Students」という教科書ではありません。

メッセージ 英語はスポーツのようなものだと思います。ファイト!

連絡先・オフィスアワー 授業時間以外にいつでもよいです。不在ならば timothy@nihonbunka.com (携帯にも転送されます) で呼び出してください。また、オンラインチャットルームである chattorru-mu.com を尋ねてください。ホームページは Yufoe.com から入ります。

開設科目	ビジネス英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古賀武陽				

授業の概要 国際ビジネスの現場で使用される英語を、特に「読む」「書く」に重点を置いて学習する。/
 検索キーワード ビジネス英語、国際ビジネス、e-mail

授業の一般目標 国際ビジネスの現場で使用される英語を、特に「読む」「書く」に重点を置いて学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ビジネス文書を正しく理解し、書けるようになること。 思考・判断の観点： ビジネス文書の背後（ビジネス環境、社内事情など）を正しく理解する。 関心・意欲の観点： 国際ビジネスへの関心を高める。 態度の観点： 国際理解力を高める。 技能・表現の観点： 英語発想に基づく英語の文書作成能力をつける。

授業の計画（全体） 教科書のビジネスシーンの進行に沿って、特に「読む」「書く」スキルを重点的に学ぶ。また、適宜タイムリーな記事をプリントで読み最新のビジネス情報を学ぶ。

成績評価方法（総合） 発想力および表現力の両面でスキルが着床しているかどうかの評価のポイントとなる。

教科書・参考書 教科書：“ Business as Usual ”(成美堂) / 参考書： Japan Times などの英字紙企業の英語版 Home page

メッセージ グローバル・マインドをもって世界を見よう！

連絡先・オフィスアワー kogatake@c-able.ne.jp

開設科目	ビジネス英語会話	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古賀武陽				

授業の概要 グローバル化時代に活躍するビジネス・パーソンが、将来のビジネス・シーンにおいて求められるコミュニケーション能力を養成するために会話に主力を置いたトレーニングをおこなう。 / 検索キーワード コミュニケーション能力、国際ビジネス、プレゼンテーション

授業の一般目標 日本企業の国際関連部門で働く、外資系企業を目指す、海外駐在ををしたい、などといった将来の夢を実現するためには異文化理解力、コミュニケーション能力、国際マナー、グローバルな発想などが求められる。授業では、グループ毎に設立した仮想企業をベースにそれぞれの役職を決め、事業内容に応じたテレフォン・カンパセ - ション、プレゼンテーションなどをおこない、リアルな会話能力を取得することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ビジネス社会で使用される語彙、会社の組織や基本的な行動に対して理解する。 思考・判断の観点： 英語的な発話を日本語発想との違いについて理解できる。自己紹介ができる。 関心・意欲の観点： 実際に使われる英語会話を学習することにより英語に対する関心を高め、興味を刺激する。 態度の観点： 大きな声で明瞭に話すというトレーニングを通じて、コミュニケーション能力の高度化を目指す。日本人同士で英語を話すことに慣れるようになる。 技能・表現の観点： 必要なことを臆せず英語にして話せる習慣を形成する。 その他の観点： 日常的に英語に触れる習慣を身につける。

授業の計画（全体） 授業では、毎回 chain practice により相互の会話をおこなうことからスタートする。次に5名のグループにより仮想企業を設立し、self-introduction, corporate presentation, product representation, telephone conversation, business negotiation などを行なう。

教科書・参考書 教科書： 適宜 print を配布する。 / 参考書： Japan Times, , Japan Times ; Wall Street Journal, , Dow Jones ; Japan Times, Wall Street Journal などのビジネス関連記事をできるだけ読むように。

メッセージ 毎回の授業が成績評価の土俵であることを認識していただきたい。

連絡先・オフィスアワー kogatake@c-able.ne.jp

開設科目	ビジネス・ライティング	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	アラン・クリスト				

授業の概要 Writing in English and other forms of English within a business context will be emphasized.

授業の一般目標 By placing themselves in hypothetical business situations, students will be able to write using E-mail in English appropriate to various office situations.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: The forms and conventions of business correspondence, mainly by Email will be studied. **態度の観点:** The more that students are willing to stretch their knowledge of English and unburden themselves of the fear of making mistakes, the better their English will progress.

技能・表現の観点: Personal expression in differing business situations will be maximized.

授業の計画 (全体) Each week different types of business correspondence will be covered and students will submit weekly their weekly homework via E-mail.

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Introducing business E-Mail 内容 Class introduction 授業外指示 About Yourself
- 第 2 回 項目 Letter of Application 内容 Email at Work: chapters 1 and 2 授業外指示 Cover Letter 授業記録 (describing jobs)
- 第 3 回 項目 Requesting Information 内容 Email at Work: chapter 3 授業外指示 Letter of Inquiry 授業記録 (conference talk)
- 第 4 回 項目 Requesting Information cont. 内容 Email at Work: chapter 3 授業外指示 Second Letter of Inquiry 授業記録 (facts and figures)
- 第 5 回 項目 In house correspondances 内容 Email at Work: chapter 4 授業外指示 Short Memo 授業記録 (personal profiles)
- 第 6 回 項目 In house correspondances cont. 内容 Email at Work: chapter 4 授業外指示 Long memo 授業記録 (company overview)
- 第 7 回 項目 Negotiating 内容 Email at Work: chapter 5 授業外指示 Counter Offer 授業記録 (telephoning)
- 第 8 回 項目 Giving information 内容 Email at Work: chapter 6 授業外指示 Sales Letter 授業記録 (product detail)
- 第 9 回 項目 Giving Information cont. 内容 Email at Work: chapter 6 授業外指示 Second Sales Letter 授業記録 (organizing an event)
- 第 10 回 項目 Expressing dissatisfaction 内容 Email at Work: chapter 7 授業外指示 Complaint Letter 授業記録 (checking progress)
- 第 11 回 項目 Dissatisfied Customers 内容 Email at Work: chapter 8 授業外指示 Apology Letter 授業記録 (dealing with complaints)
- 第 12 回 項目 Delinquent Accounts 内容 Email at Work: chapter 9 授業外指示 Collection Letter 授業記録 (solving a problem)
- 第 13 回 項目 Sales letters and responses 内容 Email at Work: chapter 10 授業外指示 Answering a Letter of Inquiry 授業記録 (making predictions)
- 第 14 回 項目 Written letter form 内容 handout 授業記録 (arrangements)
- 第 15 回 項目 Comprehensive Review

成績評価方法 (総合) Grades will be based on the following: Weekly Homework 40 % Final Test 40 % Class Participation 20 %

教科書・参考書 教科書: Email at Work, Schmeer, MacMillan ; Quick Work, ,

開設科目	現代経済英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	正宗聡				

授業の概要 担当講師は経済学の専門ではないため、いくらかでも経済に関係した本を読み進めることによって、経済そのものではなく、経済を取り巻く文化的な、思想的な状況について知識を深めることを大きな目標にし、同時に英語で書かれた文章の読解力も少しでもアップさせる。 / 検索キーワード なし

授業の一般目標 1 ポストモダニズムについて学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 今後、経済学を専門的に勉強する際にも（わずかにせよ）役立つ知識の習得。

授業の計画（全体） 毎回、共通して、1 ページ分を取り扱う。必ず予習をしてきてください。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イン트로ダクション

第 2 回 項目 演習 1（以下、最後の回まで同様に演習を続ける。）

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 授業態度 + 定期試験

教科書・参考書 教科書： なし（毎回、プリントを配布します） / 参考書： なし

メッセージ やや難解な文章を扱いますが、ゆっくり読み進めていきましょう。

連絡先・オフィスアワー 未定

開設科目	時事英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古賀武陽				

授業の概要 2005年度は、時事英語に対する知識と能力を高め、あわせて国際的視野を広げる。 / 検索キーワード 時事英語、時事問題、国際問題、メディア

授業の一般目標 英字新聞、英文雑誌などからタイムリーな記事を選び、政治・経済・社会など種々のニュース記事の構造、特性、語彙などを学習することにより、時事問題への関心と理解を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：見出しの文法、用語などを学び、英字紙誌を正確に読めるようになる。 思考・判断の観点：英語発想の特徴をつかむ。 関心・意欲の観点：時事問題、国際問題などに対する関心を高める。 態度の観点：英字紙に教材として親しむことにより日本語新聞を読む習慣を身につけたい。 技能・表現の観点：独特な記事表現を理解できるようにする。

授業の計画（全体） 政治、社会、ビジネスなどの各種記事を読む。英語としての解釈にとどまらず、それぞれの時事問題の内容について理解するために、記事を要約できるようにトレーニングする。また、授業ではグループ毎に分かれてテーマに関して意見交換を行なう。

成績評価方法（総合） 英文記事を正しく理解し、内容を確実に自分のものにできているかどうかの評価のポイントになる。

教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。 / 参考書：日本語新聞をよく読み、時事問題の基本を理解しておくこと。

メッセージ 新聞を日常的に読む習慣をつけること。

連絡先・オフィスアワー kogatake@c-able.ne.jp

開設科目	原書講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鴨川 啓信				

授業の概要 アメリカの作家 Ray Bradbury の ”Fahrenheit 451”(『華氏 451 度』)を原書で読む。この物語は、幻想的な SF の古典としてと同時に、鋭い社会風刺としても読まれてきた。そして、提起されている問題は、現在の我々の社会に当てはまるものである。物語を読み、内容を理解することに加え、それが英米でこれまでどのように受け取られてきたのかも見ていき、自分達の現在の状況を考える手掛かりとしたい。 / 検索キーワード SF

授業の一般目標 英語の読解力を向上させる。内容理解の能力を高める。批評的思考を鍛える。物語を楽しむ。

授業の計画(全体) まず、12-13 週かけて物語を読む。各週ペーパーバックで 13-14 ページを読み進めていく。その後、物語に対する批評を読み、それがどう受容されたかを見る。

成績評価方法(総合) 授業参加度 + レポート + 定期試験、で評価する。それぞれの点数配分の詳細は、授業内で提示する。

教科書・参考書 教科書: Fahrenheit 451, Ray Bradbury, Ballantine Books, 1991 年 / 参考書: 華氏 451 度, レイ・ブラッドベリ, 早川書房, 1975 年

連絡先・オフィスアワー e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207

開設科目	観光英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮崎充保・鴨川啓信・武本ティモシー				

授業の概要 この授業では、観光に関連する様々な英語の運用法を学習する。特に観光旅行のための情報収集、観光スポットの宣伝、観光客の受け入れの3つの状況を設定し、それぞれ局面で必要とされる英語表現や用法を学ぶ。具体的には、1) 英語で提示されている既存の観光地の情報に実際に触れ、その表現上の特徴を検証する。2) 特定の土地(今年度は「山口」)の歴史や自然から、より身近な事物まで観光地としての魅力を(再)発見し、それを宣伝する演習を行う。3) 観光客を迎えて、観光地の案内やホテル等での対応にふさわしい英語を学習・訓練する。

授業の一般目標 特定の土地の観光資源を開発・宣伝し、観光客の受け入れ・案内を英語で行うことができるようになるのが、最終的な目標である。そのために、1) 英語による情報収集力の向上、2) 対象を適切に説明できる英語力の訓練、3) 観光客に「歓待の心(hospitality)」を伝える英語、好感を与える英語の修得を目指す。

授業の計画(全体) この授業は開講初年度であるため、クラスの状況や学生の要望等により、以下の計画が変更されることもある。1) 観光地の情報収集と表現法の学習、2) 観光地の魅力の(再)認識と宣伝の実習、3) 客を迎えるのにふさわしい英語の運用実習、を4・5回ずつ行う。(上記の3つの内容は、それぞれ別の教員が担当する。)

成績評価方法(総合) 発表等の授業参加状況・授業中の態度による評価(1/3)、宿題・自習課題(WBT形式で提示されることもある)での評価(1/3)、小テストやレポートでの評価(1/3)、を合わせて成績を出す。尚、この授業全体を通して4回以上の欠席をした者には単位を出すことはできない。

連絡先・オフィスアワー 宮崎 e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp 武本 e-mail: tim@yamaguchi-u.ac.jp 鴨川 e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	TOEIC 400	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山根和明				

授業の概要 経済学部は TOEIC400 点が卒業要件となっている。従って現時点で 400 点に満たない学生は全員受講することを義務づけたい。そのうち何回か受ければ 400 取れるだろうと考えるのは甘い。年が過ぎるほど使わない英語能力は落ちる一方なので、下がって来る確率の方が高い。この授業でノウハウを学んですっきりボーダーを突破しよう。すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導(発音矯正をする)プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特徴である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる!

授業の計画(全体) 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第1週～第2週: TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第3週～第4週: TOEIC part5,6,7 演習、解説 第5週～第6週: TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第7週～第8週: 各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第9週～第10週: 前週まで学んだものの復習 第11週～第12週、13週: 模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ(応用)による指導 4 英語の歌のプリント(ビートルズ初期の作品中心など配布)ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト)-1実施 7 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト)-2実施

成績評価方法(総合) 日常点重視。期末テスト(50%)

教科書・参考書 教科書: 手作りプリント主体/ 参考書: TOEIC TEST オールラウンド英文法, 山根和明著, 文英堂, 2002 年; 基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」(文英堂刊)を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第1歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない!」自分に勝つ! 毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった!」と言ってもらえる授業をする。

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 400	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山根和明				

授業の概要 経済学部は TOEIC400 点が卒業要件となっている。従って現時点で 400 点に満たない学生は全員受講することを義務づけたい。そのうち何回か受ければ 400 取れるだろうと考えるのは甘い。年が過ぎるほど使わない英語能力は落ちる一方なので、下がって来る確率の方が高い。この授業でノウハウを学んですっきりボーダーを突破しよう。すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導(発音矯正をする)プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え競い合えるのもこのクラスの特色である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる!

授業の計画(全体) 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第1週～第2週: TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第3週～第4週: TOEIC part5,6,7 演習、解説 第5週～第6週: TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第7週～第8週: 各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第9週～第10週: 前週まで学んだものの復習 第11週～第12週、13週: 模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ(応用)による指導 4 英語の歌のプリント(ビートルズ初期の作品中心など配布)ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 2 実施

成績評価方法(総合) 日常点重視。期末テスト(50%)

教科書・参考書 教科書: 手作りプリント主体/ 参考書: TOEIC TEST オールラウンド英文法, 山根和明著, 文英堂, 2002 年; 基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」(文英堂刊)を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第1歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおよそ、この世にはない!」自分に勝つ!

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 5 0 0	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山根和明				

授業の概要 TOEIC400 点以上が受講要件。原則としては 500 点未満の学生だが、受講日、時間の関係で受講できない 600～700 めざす学生の受講も可能。500 点は履歴書にかけるとの最低ラインだ。がんばろう！すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特色である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週～第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週～第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週～第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週～第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週～第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週～第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初、中級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）- 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）- 2 実施

成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50％）

教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体 / 参考書：TOEIC TEST オールラウンド英文法、山根和明著、文英堂、2002 年；基本文法力を短期間で身につけるためには拙著「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」（文英堂刊）を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 5 0 0	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山根和明				

授業の概要 TOEIC400 点以上が受講要件。原則としては 500 点未満の学生だが、受講日、時間の関係で受講できない 600～700 めざす学生の受講も可能。500 点は履歴書にかけるとの最低ラインだ。がんばろう！すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特色である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週～第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週～第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週～第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週～第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週～第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週～第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初、中級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）- 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト）- 2 実施

成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50％）

教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体 / 参考書：TOEIC TEST オールラウンド英文法、山根和明著、文英堂、2002 年；基本文法力を短期間で身につけるためには拙著「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」（文英堂刊）を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 600	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山根和明				

授業の概要 TOEIC500 点以上が受講要件。受講日、時間の関係で受講できない 400 ~ 500 レベルの学生の受講も可能。十分役立つこと保証。600 点は一流企業の必須要件だ。がんばろう。すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特色である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週 ~ 第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週 ~ 第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週 ~ 第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週 ~ 第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週 ~ 第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週 ~ 第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント + テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント + テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント + テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト） - 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト） - 2 実施

成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50 %）

教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体 / 参考書：TOEIC TEST オールラウンド英文法, 山根和明著, 文英堂, 2002 年；基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」(文英堂刊) を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	TOEIC 600	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山根和明				

授業の概要 TOEIC500 点以上が受講要件。受講日、時間の関係で受講できない 400 ~ 500 レベルの学生の受講も可能。十分役立つこと保証。600 点は一流企業の必須要件だ。がんばろう。すべて手作りの教材で行う。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。また、ギターによる英語ポップスの弾き語り指導（発音矯正をする）プログラムもこの講座の特徴だ。学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特色である。/ 検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる！

授業の計画（全体） 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第 1 週 ~ 第 2 週：TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第 3 週 ~ 第 4 週：TOEIC part5,6,7 演習、解説 第 5 週 ~ 第 6 週：TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第 7 週 ~ 第 8 週：各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第 9 週 ~ 第 10 週：前週まで学んだものの復習 第 11 週 ~ 第 12 週、13 週：模擬テストとしてハーフテスト実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント + テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント + テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント + テープ（応用）による指導 4 英語の歌のプリント（ビートルズ初期の作品中心など配布）ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト） - 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト（ハーフテスト） - 2 実施

成績評価方法（総合） 日常点重視。期末テスト（50 %）

教科書・参考書 教科書：手作りプリント主体 / 参考書：TOEIC TEST オールラウンド英文法, 山根和明著, 文英堂, 2002 年；基本文法力を短期間で身につけるためには拙者「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」(文英堂刊) を利用すると効率良く文法が学べる。

メッセージ 夢を持とう。そして夢の実現の第 1 歩に TOEIC テストを位置づけよう。「やる気になってやれないことなどおおよそ、この世にはない！」自分に勝つ！毎回出席したくなる授業を目指している。学期が終わって「本当に良かった！」と言ってもらえる授業をする。

連絡先・オフィスアワー yamane@mx5.tiki.ne.jp

開設科目	韓国語 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	李文相				

授業の概要 まず、ハングルの仕組みを理解し、読み書きの練習をしながら基本文型を身につける。視聴覚機材を活用し、韓国語の読み・書き・ヒアリングの早期達成を目指す。

授業の一般目標 韓国語の固有文字であるハングルを正確に発音し、読み書きの力を養う。また、韓国人の身近な話題・風習などを取り上げ韓国人の考え方や文化について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：表音文字ハングルの成立要件と音韻規則を理解すること 思考・判断の観点：韓国語と日本語の類似点及び相違点を知ること 関心・意欲の観点：韓国文化に関心がもてること 態度の観点：出席および積極的な授業参加が必要 技能・表現の観点：ハングルが書け、読みができること

授業の計画(全体) 1. ハングルを理解する 2. ハングルの読み書き反復練習 3. 映像と歌による韓国文化の理解 4. 音韻規則の理解 5. やさしい文型での作文

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業全体の進め方、参考文献等の案内
- 第 2 回 項目 ハングルの成立と概念 内容 ハングルの仕組みと基本母音(1)
- 第 3 回 項目 韓国語の発音 内容 発音練習と基本母音(2)
- 第 4 回 項目 韓国を知る 内容 映像による異文化体験、基本子音(1)
- 第 5 回 項目 韓国文化 内容 歌で学ぶ韓国語、基本子音(2)と有声音化
- 第 6 回 項目 日本語にない発音 内容 激音と濃音の発音練習
- 第 7 回 項目 複合母音 内容 名前のハングル表記、基本母音と基本子音の再確認
- 第 8 回 項目 音韻規則(1) 内容 パッチム(1)、漢数字(1)
- 第 9 回 項目 音韻規則(2) 内容 パッチム(2)、漢数字(2)
- 第 10 回 項目 助詞(1) 内容 「名詞+です/か」文型とよく用いられる助詞(1)
- 第 11 回 項目 用言の現在丁寧形 内容 動詞と形容詞の「です/ます」文型と助詞(2)
- 第 12 回 項目 助詞(2) 内容 「名詞+ではありません/か」文型と指示代名詞
- 第 13 回 項目 否定形 内容 用言の否定文と固有数字
- 第 14 回 項目 前期授業の総括 内容 質問に応じ、やさしい文型の練習をする
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 授業時に行う小テストおよびレポート 60%、期末試験 40%

教科書・参考書 教科書：一回目の授業時に示す / 参考書：『ハングル読本 基礎から読解まで - 』, 李文相(共著), 明石書店, 2004年; その他, ; 随時プリントを配布

メッセージ 連携した授業を行うので関連科目「韓国語会話 I」を合わせて受講することが望ましい。韓流に乗り遅れないように。韓国語と韓国文化に触れるチャンスをつかみましょう。

開設科目	韓国語 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	李文相				

授業の概要 ・前期で習った韓国語の読み書きを再確認し、やさしい文型へと進む。 ・視聴覚機材を活用し、スピーチ・ヒアリングを養う。 ・基本文法を使い、作文の練習をする。

授業の一般目標 韓国固有の文字であるハングルを正確に発音し、読む力を養う。 韓国人の身近な話題・風習などを取り上げ、韓国人の考え方や韓国文化について理解を深める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基礎文法を理解し、簡単な文章が書けること 思考・判断の観点：韓国語と日本語の類似点および相違点を理解すること 関心・意欲の観点：韓国文化を理解しようとし、ハングルでレポート・小テストを提出すること 態度の観点：出席および積極的な授業参加が必要 技能・表現の観点：ハングルが書け、正確な発音で読めること

授業の計画(全体) 1. 会話体の文型に慣れる 2. 過去形 3. 尊敬語 4. 連体形 5. 伝聞・引用

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 前期学習の確認と後期授業ガイダンス 内容 やさしい構文の輪読
- 第 2 回 項目 「～ヘヨ」体会話文(1) 内容 「～ヘヨ」体会話文と漢数字・固有数字の応用
- 第 3 回 項目 「～ヘヨ」体会話文(2) 内容 好き嫌いを尋ねる、数詞の学習
- 第 4 回 項目 過去形および変則活用 内容 基本文型を用いた短文練習
- 第 5 回 項目 「-ゲッ-」会話文 内容 意思・推量を表す会話文
- 第 6 回 項目 尊敬語(1) 内容 尊敬語の概念を理解し、尊敬語を覚える
- 第 7 回 項目 尊敬語(2) 内容 尊敬語の言い替え形を覚える
- 第 8 回 項目 短文練習 内容 やさしい文型を用いた短文練習
- 第 9 回 項目 用言の連体形(1) 内容 短文練習
- 第 10 回 項目 用言の連体形(2) 内容 短文練習
- 第 11 回 項目 用言の連体形(3) 内容 色や形などを表すことばを中心に
- 第 12 回 項目 ヒアリング 内容 映像による異文化体験と発音練習
- 第 13 回 項目 伝聞・引用形 内容 直接話法と間接話法の使い方
- 第 14 回 項目 後期授業の総括 内容 手紙・はがきを書き、質問に応じる。
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 授業時に行う小テストおよびレポート 60%、期末試験 40%

教科書・参考書 教科書：一回目の授業時に示す、 / 参考書：『ハングル読本 基礎から読解まで - 』, 李文相(共著), 明石書店, 2004年; その他、

メッセージ 連携的に授業を行うので関連科目「韓国語会話 II」を合わせて受講することが望ましい。韓流に乗り、韓国語と韓国文化に触れてみましょう。

開設科目	韓国語会話 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	李 文相				

授業の概要 まず、自己紹介からはじめ、日常生活に役立つやさしい韓国語が使えるようにする。授業では現在ソウルで使われている標準語会話を学び、ビデオ等の映像を活用して韓国の日常生活や風習なども理解できるようにする。

授業の一般目標 韓国語で自己紹介ができ、日常生活に役立つやさしい韓国語会話ができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：よく使われる語彙を覚えてすぐに使えること 思考・判断の観点：日韓両国の風習や文化の違いを言葉で感ずること 関心・意欲の観点：韓国語や韓国人の考え方について興味をもつこと 態度の観点：出席・復習を怠らないこと 技能・表現の観点：自己紹介ができ、よく使われる単語で韓国語会話ができること

授業の計画(全体) 1. 自己紹介と挨拶言葉ができる 2. 韓国の文化を理解する 3. ハングルで読み書きができる 4. ネイティブの韓国人の発音とヒアリングに慣れる 5. 韓国語会話に親しむ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業全体の進め方、参考文献の案内
- 第 2 回 項目 自己紹介 内容 自己紹介の仕方、ハングルの仕組みと基本母音(1)の発音
- 第 3 回 項目 自己紹介と挨拶ことば 内容 挨拶・謝礼・謝罪の仕方、基本母音(2)の発音
- 第 4 回 項目 映像による異文化体験 内容 映像で韓国文化を理解する、基本子音(1)の発音
- 第 5 回 項目 ネイティブの韓国人と話す(1) 内容 はじめて会ったときの会話(1)、基本子音(2)の発音
- 第 6 回 項目 ネイティブの韓国人と話す(2) 内容 はじめて会ったときの会話(2)、激音と濃音の発音
- 第 7 回 項目 ネイティブの韓国人と話す(3) 内容 仕事や家族について尋ね合う、複合母音の発音と名前のハングル表記
- 第 8 回 項目 歌で学ぶ韓国語 内容 歌詞の意味を知り歌を覚える、パッチム(1)
- 第 9 回 項目 誕生日を尋ねる 内容 漢数字を覚え年月日を尋ねる、音韻規則(1)
- 第 10 回 項目 食事の時の会話 内容 食事の時の会話とマナー、パッチム(2)、音韻規則(2)
- 第 11 回 項目 韓国文化の紹介 内容 映像により韓国文化を紹介、パッチムに慣れる
- 第 12 回 項目 時刻の表現 内容 固有数字を覚える、漢数字を使って時刻を言う
- 第 13 回 項目 疑問詞 内容 5W1Hの表現に慣れる、否定形の練習、ヒアリングの練習
- 第 14 回 項目 前期授業の総括 内容 ヒアリングや発音の留意点、質問に応じる
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 授業時の小テストおよびレポート提出 60%、授業参加の積極性および発音・ヒアリング力 40%

教科書・参考書 教科書：一回目の授業時に示す、 / 参考書：『ハングル読本-基礎から読解まで-』, 李文相(共著), 明石書店, 2004年; その他, ; プリントを配布

メッセージ 連携して授業を行うので関連科目である「韓国語1」を合わせて受講することが望ましい。韓流に乗って、韓国語を話せるようになりましょう。

開設科目	韓国語会話 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	李 文相				

授業の概要 いろんな出会いを想定し、楽しい雰囲気の中で韓国語が自然にしゃべれるような授業にしたい。ビデオなどの視聴覚機材を活用し、年中行事や韓国の習慣、歌など韓国文化に慣れ親しみながら授業を進める。

授業の一般目標 韓国語で日常の簡単な会話ができるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：語彙を増やし、すぐに使えること 思考・判断の観点：日韓両国の風習や文化の違いを理解できること 関心・意欲の観点：韓国語や韓国人の考え方について理解しようとする事 態度の観点：出席・復習を怠らないこと 技能・表現の観点：日常生活や旅行に役立つ韓国語会話ができること

授業の計画(全体) 1. 自己紹介・挨拶ことばに慣れる 2. 韓国の文化や日常生活に触れる 3. ハングルで読み書きができる 4. ネイティブの韓国人と話すチャンスをつくる 5. 視聴覚機器を活用し、韓国語会話に慣れ親しむ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 前期授業の確認と後期授業ガイダンス 内容 自己紹介・挨拶言葉の実践
- 第 2 回 項目 「～へヨ」体会話文 内容 日常生活を話題に、数詞(1)を覚える
- 第 3 回 項目 「「～へヨ」」体会話文 内容 一日の日課を尋ね合う、数詞(2)を覚える
- 第 4 回 項目 過去形での会話 内容 夏季休暇のことを話題に、変則活用の練習
- 第 5 回 項目 ネイティブの韓国人と会話 内容 趣味や家族関係を中心に、意思・推量の「ゲッ」会話文に慣れる
- 第 6 回 項目 過去形の応用 内容 夏期休暇を話題に、「～へヨ」体会話文と過去形の応用
- 第 7 回 項目 尊敬語(1) 内容 尊敬語の概念の違いを認識し、実践
- 第 8 回 項目 尊敬語(2) 内容 バスや地下鉄でのお年上や目上に対する尊敬語の使い方
- 第 9 回 項目 連体形の会話(1) 内容 薬局や病院での会話
- 第 10 回 項目 連体形の会話(2) 内容 勉強やサークル活動などを話題に
- 第 11 回 項目 連体形の会話(3) 内容 映像を用いてヒアリング練習
- 第 12 回 項目 郵便局での会話 内容 「～ねばなりませんか」「～しましょうか」の会話文
- 第 13 回 項目 航空機内での表現 内容 原因・理由「～のために」、「～なので」会話文を中心に
- 第 14 回 項目 短いスピーチ 内容 授業の仕上げとして実践
- 第 15 回 項目 定期試験

成績評価方法(総合) 授業時の小テストおよびレポート提出 60%、授業参加の積極性および発音・ヒアリング力 40%

教科書・参考書 教科書：一回目の授業時に示す、 / 参考書：『ハングル読本-基礎から読解まで-』, 李文相(共著), 明石書店, 2004年; その他、; プリントを配布

メッセージ 連携して授業を行なうので関連科目である「韓国語 II」を合わせて受講することが望ましい。韓流に乗って、韓国語をしゃべり、韓国文化に触れてみませんか。

開設科目	ビジネス韓国語 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	桂林春				

授業の概要 本講義では、韓国語による「ビジネス会話」(いわゆる日常会話とは一味違う内容で構成されている)を中心に進めていきます。また韓国の経済・企業経営に関する時事問題の関連記事も読みながら、韓国語ビジネスレターや文化にも触れていきます。/検索キーワード 韓国語・ビジネス・コミュニケーション

授業の一般目標 韓国語でビジネス・コミュニケーション能力を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: ビジネス会話(韓国語)が理解できる。 思考・判断の観点: 日本語と異なる表現に触れ、物事に複眼的な考察ができる。 関心・意欲の観点: ハングルを通じ韓国への関心を抱く。 態度の観点: 隣国への興味が実践行動に寄与できる(旅行・語学研修など)。 技能・表現の観点: 韓国語によるビジネス会話の表現やビジネスレターの短文が作られる。

授業の計画(全体) 授業の進行状況によっては、音楽・映像・伝統遊び等を取り入れる。(ハングル初級履修者又は韓国語学習経験者の受講が望ましい)

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション(基礎語学力テスト含む)

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) 定期試験・小テスト・出席による総合評価。

教科書・参考書 教科書: 資料配布 / 参考書: 授業中紹介

メッセージ 一段高いレベルの韓国語に挑戦できる絶好のチャンスです!

開設科目	ビジネス韓国語 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	桂林春				

授業の概要 ビジネスハングル I のシラバスをご覧ください。

授業の一般目標 ビジネスハングル I のシラバスをご覧ください。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ビジネスハングル I のシラバスをご覧ください。 思考・判断の観点： ビジネスハングル I のシラバスをご覧ください。 関心・意欲の観点： ビジネスハングル I のシラバスをご覧ください。 態度の観点： ビジネスハングル I のシラバスをご覧ください。 技能・表現の観点： ビジネスハングル I のシラバスをご覧ください。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 後期ガイダンス

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

教科書・参考書 教科書： 資料配布 / 参考書： 授業中紹介

開設科目	中国語(口語 I)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田梅				

開設科目	中国語(口語 II)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田梅				

開設科目	中国語 (閲読 I)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	齊藤匡史				

授業の概要 共通教育で習得した中国語能力を基礎に、読解能力を養成する。中国語文の構成、語法を再確認しながら、より複雑な表現、まとまった文章を読みこなし、内容を理解する能力を向上させることを目的とする。合わせて現代中国事情、社会、文化についての理解も深めていく。

授業の一般目標 基本的語法、文型、語彙を習得し、一般的な文章を読みこなす力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な語法を習得する。 思考・判断の観点： 中国語の語彙、表現に慣れる。 関心・意欲の観点： 中国に関心を持つ。 態度の観点： 与えられた課題に積極的に取り組む。

授業の計画 (全体) ・平易な短文の読解練習により、語法の基礎、文型、基本語彙を再確認する。 ・比較的まとまった文章を読みこなす力を養成する。 ・中国の社会、文化について理解を深める。

成績評価方法 (総合) 出席、理解の進捗度、定期試験の成績により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： プリント配布 / 参考書： 中国語辞書 (電子辞書の使用は望ましくない)

連絡先・オフィスアワー 商品資料館 2F 研究室、内線 5590、 saito@yamaguchi-u.ac.jp 随時

開設科目	中国語 (閲読 II)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	齊藤匡史				

授業の概要 中国語 (閲読 I) の続き科目、文章読解能力をさらに向上させ、中国理解を進める。

授業の一般目標 基本的語法、文型、語彙を習得し、一般的な文章を読みこなす力をつける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基本的な語法を完全に理解する。 思考・判断の観点： 中国語の語彙、表現に慣れる。 関心・意欲の観点： 中国に関心を持つ。 態度の観点： 与えられた課題に積極的に取り組む。

授業の計画 (全体) ・まとまった文章を読みこなす力を養成する。 ・中国の社会、文化について理解を深める。

成績評価方法 (総合) 出席、理解の進捗度、定期試験の成績により総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書： プリント配布 / 参考書： 中国語辞書 (電子辞書の使用は望ましくない)

連絡先・オフィスアワー 商品資料館 2F 研究室、内線 5590、 saito@yamaguchi-u.ac.jp 随時

開設科目	中国語 (聴力 I)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	梁 蕾				

授業の概要 コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語を基礎に、聞き取る能力、話す能力、読む能力を高め、中国語の総合的な運用能力を養成する科目である。人とコミュニケーションをするとき、相手の話したことを聞き取れないと何を返事すればいいか全く見当もつけない。この聴写 I は、その大事な聞き取り能力を高めるトレーニングを中心に授業を進める。 / 検索キーワード コミュニケーション 中国語

授業の一般目標 共通教育で習得した発音、単語、会話文などを聞き分けできることを目標とする。

授業の計画 (全体) 初回授業で詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。プリントやビデオなどを適当に使う。

成績評価方法 (総合) 定期テスト、小テスト、授業中の発表などによる総合評価。

教科書・参考書 教科書：一回目の授業ガイダンス時に指示。

メッセージ 共通教育の中国語初級 1・2・a/b を修得したものに限る。コミュニケーション中国語 3 科目の I・II は、通年履修が望ましい。

開設科目	中国語 (聴力 II)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	梁 蕾				

授業の概要 コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語を基礎に、聞き取る能力、話す能力、読む能力を高め、中国語の総合的な運用能力を養成する科目である。前期に引き続き、より実用的な教材を使い、より高度な聞き分け能力を身につけるためのトレーニングを行う。言葉の文化的な背景についても適当説明する。

授業の一般目標 共通教育で修得した発音、単語、会話文などを聞き分けできることを目標とする。

授業の計画 (全体) 初回授業で詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。プリントやビデオなどを適当に使う。

成績評価方法 (総合) 定期テスト、小テスト、授業中の発表などによる総合評価。

教科書・参考書 教科書：初回授業で指示する。

メッセージ 共通教育の中国語初級 1・2・を修得したものに限る。コミュニケーション中国語 3 科目の I・II は通年、履修が望ましい。

開設科目	中国語 (作文)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田梅				

開設科目	ビジネス中国語 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	陳鳳展				

授業の概要 引き合いからクレームまでの各商取引の段階で使われる商談について、輸出入の実務の仕組みや手続きを説明しながら解説していく。

授業の一般目標 1. 各商取引の段階で出てくる専門語を覚える。そして各商談の意味、内容を理解できるようにする。 2. 貿易実務の仕組みや手続を知る。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方。成績評価の方法等。
- 第 2 回 内容 引き合いに関する商談。
- 第 3 回 内容 引き合いに関する商談。
- 第 4 回 項目 国際貿易の常用価格用語について。内容 F.O.B 価格 授業記録 ノート講義 (ノートの用意をしてくること)
- 第 5 回 項目 国際貿易の常用価格用語について。内容 CIF 価格、C & F 価格 授業記録 (ノートの用意をしてくること)
- 第 6 回 項目 報価 内容 offer に関する商談。
- 第 7 回 項目 報価 内容 同上
- 第 8 回 項目 価格争議 I 内容 価格の交渉に関する商談。
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 価格争議 II 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 訂貨 内容 商品注文に関する商談。
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 折扣 内容 割引交渉に関する商談。
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 1. 期末試験の成績による。(評価割合 1 0 0 %) 2. 全講義回数の四分の三以上出席しないと試験を受ける資格がない。

教科書・参考書 教科書：ビジネス中国語 5 0 0 (北京外交出版社) (最初の授業の日に教室で販売する)

開設科目	ビジネス中国語 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	陳鳳展				

授業の概要 前期のビジネス中国語 I の続きの授業です。この授業は支払い方式から船積みに到るまでの各商取引の段階で使われる商談について、輸出入の実務の仕組みや手続を説明しながら解説していきます。

授業の一般目標 1. 各商取引の段階で出てくる専門語を覚える。そして各商談の意味・内容を理解できるようにする。2. 貿易実務の仕組みや手続を知る。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 国際貿易における商品代金の決済方式について 内容 送金払いの方法。授業記録 ノート講義があるのでノートの用意をすること。
- 第 2 回 項目 同上 内容 取立て依頼の方法。授業記録 同上
- 第 3 回 項目 同上 内容 信用状決済 授業記録 同上
- 第 4 回 項目 付款方式 (-) 内容 支払いに関する商談。
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 付款方式 (二) 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 交貨日期 内容 荷渡し期日に関する商談。
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 装運条件 内容 船積みに関する商談。
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 試験 内容 期末試験です。

成績評価方法 (総合) 1. 期末試験の成績による。(評価割合 1 0 0 %) 2. 全講義回数の四分の三以上出席しないと試験を受ける資格がない。

教科書・参考書 教科書 : ビジネス中国語 5 0 0 (北京外交出版社)

開設科目	プロジェクト演習	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	河村誠治・武本ティモシー・鴨川啓信				

授業の概要 学生各自が、何らかのプロジェクトを企画し、それを実行し、そしてレポートにまとめ、最後に報告会で複数教員の審査をパスしたのち2単位が修得できるという、観光政策学科の学生に限定したものです。ただそうは言っても、安全性、費用負担、持続可能性そして教育的効果も考えなくてはなりませんので、観光政策学科が、事前に、できるだけ多くの演習(実習)先を指定します。現在、観光政策学科はプロジェクト演習の主たるメニューとして、マス・ツーリズム実務研修、オルタナティブ・ツーリズム研修、観光コミュニケーション基礎研修の3つのテーマを考え、皆さんにはその中から一つ、各自の関心の最も高い項目・演習先を選択してもらうことにしています。現在準備段階にあり、4月以降できるだけ早い時期に説明会を開催します。お楽しみに。

授業の一般目標 観光についての企画力を、社会との接点(実践)において培うとともに、それレポートにまとめ人前で発表できる能力、すなわちプレゼンテーション能力をつける。

メッセージ 学外での活動を伴うので、実習先に迷惑のかからぬよう、事前に提示されるルールを遵守すること、それにもまして事故などにあわないように。学外の学生の教育活動に関する保険(制度)を検討中で、観光政策学科の了解を得てからプロジェクト演習を始めてください。

学部共通科目

開設科目	経済学部入門	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	尹春志				

授業の概要 「経済学部入門」は、本年度から新たに導入された1年生全員の必修科目です。この授業は、それぞれの学科に所属する教員が各学科で学ぶこと、あるいは自らの専門領域のエッセンスをリレー形式で講義してもらいます。それを通じて、1年生の皆さんが、2年生から本格的に行うことになる専門的な学習・研究にスムーズに移行するための下準備をすることがこの講義の目的です。また経済学部には、現在、経済、経営、経済法、国際経済、観光政策の計5つの学科が設置されています。今後、2年生以降皆さんが所属することになる学科の振り分けを、1年生後期に行います。学科の選択は、経済学部において行う学業の内容を左右するものであり、とても重要です。この講義を通じて、それぞれの学科でどのようなことが学べるのかを積極的に知り、皆さんが学科を選択する際の材料にしてもらいたいと考えています。

授業の一般目標 経済学部における専門教育とはどのようなものか、そこでは、いったい何が学べるのかを具体的内容を通じて知り、考えてもらえるようになることがこの講義の目標です。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 経済学部で開講される専門科目の入門的知識を身につける。 関心・意欲の観点： 学科の選択を含めて、自分が経済学部で何を学び研究したいのかを具体的な題材を通じて考える契機を与える。

授業の計画(全体) 経済学科(3)、経営学科(4)、経済法学科(3)、観光政策学科(2)、国際経済学科(2)の順にリレー形式で講義します(カッコ内の数字は各学科の担当講義数)。各講義の内容は、初歩的、入門的なものであり、それぞれの担当者が所属学科、専門領域のエッセンスを盛り込んだバラエティに富んだものとなります。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 経済学科担当科目(1) 経済学科の概観と基礎理論の分野の紹介 内容 経済学科の設置する経済計量・経済政策・経済社会の各講座の特徴と基盤科目以外の経済学科の基礎的理論分野を紹介する。
- 第2回 項目 経済学科担当科目(2) 社会政策と市場・家族・労働 内容 市場・家族・労働の関係を読み解くことによって、私たちの生活と社会政策とのつながりを考える。
- 第3回 項目 経済学科担当科目(3) なぜ大学で学ぶのか? - 経済学・経済史を勉強するわけ 内容 大学で経済学を学ぶことの意義を考えるとともに、「発想」を豊かにする「経済史の効能」を紹介する。
- 第4回 項目 経営学科担当科目(1) 戦略と組織 内容 企業経営において最も重要な要素は「戦略」と「組織」であり、学問としての経営学も「戦略論」と「組織論(もしくは管理論)」の二大看板から成り立っている。この授業では、経営学の学説の流れを紹介しながら、戦略論と組織論が誕生した社会的背景、それぞれの学問分野の基礎的内容を紹介する。
- 第5回 項目 経営学科担当科目(2) 市場とビジネスを支える会計 内容 会計は投資家達に企業の状態や経営成績を伝える手段であり、また、企業がビジネスを遂行するための最も基本的な情報でもある。授業ではこの基本的な考え方や課題について説明する。
- 第6回 項目 経営学科担当科目(3) 商品をめぐる諸問題 内容 流通・マーケティング・戦略・リスクの視点から商品をめぐる諸問題を説明する。
- 第7回 項目 経営学科担当科目(4) 経営・数理・情報 内容 経営問題を理解し解決するための数理的アプローチと情報技術の利用方法とについて概説する。
- 第8回 項目 経済法学科担当科目(1) 法と日常生活：平等あるいは差別とはなにか 内容 社会における平等と差別の問題(人種、姓、思想、信条、年齢など)について、法の立場から(法という眼、法というメガネを通して)身近に具体的な問題をとともに考えてみたい。具体的にどのような差別が法の問題となっているのか、差別の中で大きな問題となっているのは何か、差別と区別の

違いはなにか。性差別とは、どのような問題としてとらえられ、どのような法的な解決がおこなわれているのか、その解決方法・考え方（法論理）は妥当かどうか。

第 9 回 項目 経済法学科担当科目 (2) 犯罪と刑罰について考える 内容 新聞、テレビ、ラジオから日々種々の事件が報道されています。それらの事件を知る度、痛ましく思いますが、犯罪はどうして無くならないのでしょうか。全く残念でなりません。ところで、犯罪は法律上その定義があり、また成立要件があります。一定の犯罪行為に対して一定の刑罰が科せられますが、法律に犯罪と刑罰が規定されているからこそ一定の犯罪行為を処罰することができることとなります。犯罪と刑罰を規定する法律が刑法です。この講義では、刑法とはどういう法律であるかを見ながら、犯罪と刑罰について考えて行きたいと思います。

第 10 回 項目 経済法学科担当科目 (3) 法と正義について 内容 法とは何か、法によい/悪いはあるのか、について平明に講義する。

第 11 回 項目 観光政策学科担当科目 (1) 観光の経済学的分析 内容 観光経済の持続可能な発展のために、観光活動に見られる特有な現象や矛盾を分析し、観光資源の維持や有効利用などを含めた観光政策を検討する。そのために経済学、経営学、産業論、環境学、統計学などの学問を学ぶ。

第 12 回 項目 観光政策学科担当科目 (2) 観光とコミュニケーション 内容 非居住者である観光客との人的交流は観光に不可欠である。グローバルな発想と語学力をベースにし、観光交流の発展を視野に入れた人的交流能力、すなわち観光コミュニケーション能力の向上のための学問とスキルを学ぶ。

第 13 回 項目 国際経済学科担当科目 (2) 東アジア地域社会経済入門：組立型工業化と東アジアの生産ネットワークを中心に 内容 東アジアの地域社会経済を勉強するための入門編です。地域社会経済の勉強は、これまで皆さんが学んできた経済学を初めとする社会科学の理論を、実体経済に当てはめて考える格好の材料です。これを通じて、経済活動と、それによって生まれた東アジア地域の生活を具体的にイメージできるようにします。とくに、この授業では、「組立型工業化」と「東アジアの生産ネットワーク」という言葉を軸に、1960年代以降の東アジア地域の連続的な経済発展をわかりやすく説明していきたいと思います。

第 14 回 項目 国際経済学科担当科目 (1) 国際経済理論の基礎 内容 なぜ貿易が生じるのだろうか。途上国が発展していくには何が必要なのだろうか。国際的な経済活動に関連する疑問に対して答えを与えてくれる科目が、国際経済学科には用意されている。今回の講義では、国際経済理論の基礎について講義する。

第 15 回

成績評価方法 (総合) 1年生全員の必修科目であり、専門教育への橋渡しという位置づけから、成績評価については、授業の出席は必須です。出席に加えて、学科ごとにレポート課題を出してもらいます。したがって、5つの課題が出されることとなりますが、そのうちの2つを選択し、レポートを採点して評価を行います。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない/ 参考書：必要に応じて指示する

開設科目	特殊講義 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有村貞則				

授業の概要 特殊講義 A :「地域と産業」 三位一体の改革、道州制の導入検討など、今後の日本経済は地域経済の活性化を抜きにして語ることはできません。また高齢化社会において人々が真に豊かな生活を送れるようにするためにも地域経済の活性化は重要です。この特殊講義 副題『地域と産業』では、山口県アクティブシニア協会 (AYSA) の会員メンバーとその賛同者を特別講師 (ゲストスピーカー) にお迎えして、山口県を中心とした地域経済と産業の関連性、当該地域経済を支えている諸産業の概要や今後の展望などについて、オムニバス方式で講義を進めていきます。山口県アクティブシニア協会とは「ボランティア精神に富み、各分野において長年職場で培った豊富な専門技術・技能や経営の経験を持ち、生涯現役として夢のある人生を送りたいと思っている、シニア専門家の集団」(同協会の HP より、詳細は <http://www.joho-yamaguchi.or.jp/aysa/index0.html> を参照) のことです。こうした緒先輩方の実務体験と人生の教訓についてお話を聞くことは学生諸君 (特に民間企業への就職希望者) の今後の社会生活にとって非常に有益なものだと思います。ぜひ、この貴重な機会を利用して「仕事とは何か」、「企業は地域経済にどのように貢献しているのか」を学習してほしいと思います。

授業の一般目標 1. 実体験にもとづいた講義を通して、山口県を中心とした地域経済を支えている諸産業の概要と重要性、および今後の展望について学習する。2. シニア専門家のお話を通して、学生諸君自身の今後の展望や指針、理想とする仕事、などについて自己イメージを形成する。

授業の計画 (全体) 毎回、異なるゲストスピーカーによるオムニバス方式の講義。最初に周南および宇部地域の産業発展史について学習し、次に鉄鋼やステンレス、アルミホイール、ソーダ、セメント、医薬品、食品などの諸産業について学習する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 『周南地域産業の発展史』(講師: 稲葉和也、徳山大学経済学部教授) 内容 戦後の化学産業の発展は、海外からの技術導入から始まり、国内技術の確立及び大規模装置操業のノウハウの蓄積に至る。このような日本の化学産業の足跡を周南コンビナートの事例を取り上げながら解説する。併せて周南地域に立地する新日本製鐵、日新製鋼、日立製作所、武田薬品工業、東洋鋼鋳等を取り上げ、周南コンビナートのみならず周南工業地帯の発展史や特色を講義する。また、消費地から離れた中国地方に工場を立地させるという不利な条件をどのように克服していったのかについて説明する。
- 第 2 回 項目 『宇部地域産業の発展史』(講師: 野田隆太郎、AYSA 会員、宇部商工会議所、元宇部興産(株)) 内容 宇部地域は江戸期に石炭掘削の記録が認められる。石炭産業は幕末期毛利藩の重要産業のひとつとされ、明治維新を迎えた。その後も隆盛を極めたが、宇部独自の匿名組合と明確な経営理念、優れたリーダーにより、近代産業への転換を果たした。大戦後日本の経済発展とともに宇部地域も発展したが、更に将来への模索が今多くの企業や機関で努力されている。
- 第 3 回 項目 『鉄鋼およびステンレス』(講師: 仕幸三郎、AYSA 会員、仕幸技術士事務所、元新日本製鐵(株)) 内容 鉄はわれわれの生活文化のなかで、道具・武器・機械を供給し、人類をこれを利用して現在のよう地位を築いてきた。錆びにくく美しい鋼として日常生活に定着してきたステンレスは山口県が量・質ともに世界のトップレベルにある。(1) 日本の鉄鋼業の現状と将来、(2) ステンレスの特徴と造り方、使い方、(3) ご当地生まれの高付加価値特産品 PIC (コイル状超長尺鋼管) が夢を育む。
- 第 4 回 項目 『鉄道車両製造』(講師: 大原守、技術士 (総合技術監理部門、機械部門、日立笠戸エンジニアリング(株)、元(株)日立製作所) 内容 鉄道車両は、1872 年に新橋・横浜間開通してから我々の生活文化に大きな影響をきずいてきた。今後は環境・効率・快適さ等を求められる反面、短時間に目的地につくため高速化と安全性・信頼性が求められる。この山口の地に、この最先端の車両を製作している。(1) 鉄道業、鉄道車両の概要、(2) 鉄道車両メーカーの事業戦略、(3) 今後の鉄道車両の戦略 (高速化)。

- 第 5 回 項目『鋼板の表面処理』（講師：工学博士・神田勝美、(株)光洋金属防蝕、元東洋鋼板(株) A Y S A 会員) 内容 我々の身の回りには鋼材を素材とした製品が数多くみられる。例えば、自動車の内外材、石油ストーブ、家電製品、建材、容器用材料などがある。これらは、いずれも耐食性や意匠性を改善するために表面処理(めっき、塗装)が施されている。本講では、東洋鋼板において世界に先駆けて開発・実用化された缶材、建材、弱電器材について概説する。(1) 表面処理鋼板とは、(2) 表面処理鋼板の用途および生産量、(3) 製造法、(4) 表面処理鋼板の今後の動向。
- 第 6 回 項目『アルミホイール物語』（講師：藤野清、(有)藤野技術コンサルタント代表、A Y S A 会員、元宇部興産(株)、前(株)ユーモールド社長) 内容 石炭産業機会から自動車産業機械へ、そしてアルミホイール生産へ。(1) 産業は時代とともに変化する(工作機械の変遷を通じて)、(2) 伸びる企業の無理と思われる技術的要求は、開発の糧である。
- 第 7 回 項目『ソーダ工業(塩とソーダ灰)』（講師：溝上俊治、A Y S A 相談役、溝上技術士事務所代表、元(株)トクヤマ理事、特品事業部副事業部長) 内容 化学薬品の中で我々の生活に最も身近な「塩とソーダ灰」の話。塩田はみたことはあるが今はない。何故か。ソーブはどこから来たのか。古代のなりわいから始まり、変遷を遂げつつある製法と時代の波にもまれ続ける経営の話。(1) 塩の歴史、(2) 塩の製法の変遷(ビデオ使用)、(3) ソーダ灰の歴史、(4) ソーダ灰の製法の変遷。
- 第 8 回 項目『ソーダ工業(塩素と苛性ソーダ)』（講師：高橋堅二、東ソー株式会社、南陽事業所、ソーダ製造部長) 内容 塩素、苛性ソーダ工業は地味な化学産業ではあるが、世の中になくなくてはならないものでもある。特に山口県の周南地域は日本の生産量の約 1/3 を占める大きな生産基地である。その工業の存在価値の一端を紹介したい。(1) 塩素・苛性ソーダ工業の歴史、(2) 塩素・苛性ソーダの製法、用途、(3) 世界の塩素・苛性ソーダ工業と日本の現状、(4) 日本での周南地区の貢献、(5) 塩素・苛性ソーダ工業の将来。
- 第 9 回 項目『セメント産業』（講師：立畑節郎、A Y S A 会員、元(株)トクヤマ) 内容 土木・建築工事に欠かせないセメントについて発明の歴史と現在の製造法およびセメント業界の現状を説明。(1) 発明の歴史、(2) セメントの製造法(ビデオ使用)、(3) セメント業界の変遷、(4) セメント産業の位置付け。
- 第 10 回 項目『石油と石油化学』（講師：野崎勝美、A Y S A 会員、元出光興産(株)) 内容 エネルギーと素材の主要産業である石油と石油化学産業について。(1) 石油と石油化学の基礎知識、(2) 日本の石油と石油化学工業、(3) 山口県の石油と石油化学工業、(4) 今後の石油と石油化学の課題と展望、の概要を説明し、山口県の強み・発展性を紹介する。
- 第 11 回 項目『塩化ビニル樹脂と環境』（講師：加計博志、徳山積水工業株式会社代表取締役社長) 内容 環境に優しい製品である「塩化ビニル樹脂」をいかに環境に優しく生産しているか。(1) 徳山積水の概要、(2) 塩化ビニル樹脂とは、(3) 塩ビと環境。
- 第 12 回 項目『医薬品産業』（講師：色摩哲二、元武田薬品工業(株)) 内容 平均寿命が世界第 1 位のわが国における医薬品産業は国民皆保険という医療保険制度と密接な係りを持って発展してきた。山口県は医薬品生産高が全国第 9 位であり、特に原薬の生産が盛んであることに特徴がある。(1) 医薬品産業の現状について、(2) 新薬の開発について、(3) 課題について。
- 第 13 回 項目『建設業(ゼネコン)』（講師：薩本猛夫、洋林建設株式会社、取締役社長、株式会社大林組より出向) 内容 経済社会発展のために社会資本を整備していくことは必要不可欠である。この社会資本整備を担っているのが建設業である。しかるに近年国や地方の財政赤字の原因が公共事業であるとされ、建設業と公共事業の執行が批判の矢面に立たされている。財政再建も大切であるが社会資本を適切に整備していかないと国力は衰退する。公共事業の執行について国民の科学的な思考と判断が求められている。
- 第 14 回 項目『食品工業(調味料)』（講師：信田宏、A Y S A 会員、信實経営サポート、元協発酵工業(株)、元(株)シマヤ) 内容 周南の地に誕生した風味調味料「だしの素」が、どのようにしてナショナルブランドの商品に成長していったかをたどります。さらに最近の食品を取り巻

く環境の変化を整理して、これからの食品産業の成長の機会を考えるヒントを提示します。(1) 味噌、醤油と地域性、(2) 風味調味料「だしの素」の開発、上市 (3) 日本農林規格 (J A S) への取組み、(4) 食品の安全を求めて、(5) 食の環境変化と課題。

第 15 回

成績評価方法 (総合) 出席、およびレポートの提出

教科書・参考書 教科書：石油化学産業と地域経済 周南コンピナートを中心として、徳山大学総合経済研究所, 山川, 2002 年

開設科目	特殊講義 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	行本康文				

授業の概要 特殊講義 B：中小企業再生論 バブル崩壊後、日本の企業は構造的な疲弊状態に陥っている。企業は、過去の財務的な清算を余儀なくされている。ただし、現行の制度や法律の内だけでは処理しきれない問題がいくつも発生することになった。まず、民事再生法、破産法などによる法的整理に到達するには忍びない案件も出始めた。そこで、法的整理にかえて私的整理の手法が導入された。一方で、金融機関は不良債権処理を求められている。メガバンクはおおむねそれを終えたが、地方の金融機関は今後の問題となっている。そこで、不良債権のオフバランス化が地方の金融機関にとって急がれている。

さらに、この不良債権処理は債務免除を伴うもので、企業側から言えば債務免除益を発生する。通常では、この債務免除益は課税所得となりうるものであるが、企業再生税制が整備され、債務免除益課税による更なる疲弊を避ける手法がとられた。これらを、各論的にまとめたものである。/ 検索キーワード 企業再生

授業の一般目標 現在実施されている企業再生の手法は、従来のそれとはまったく次元が違ったものである。それは、究極のところ金融機関による債権放棄がキーになっているからである。債権放棄を中核とする企業再生の手法は過去に存在しないものであるから、新たな仕組みが構築されることとなった。それが、公的整理にかわる私的整理であり、債務免除益に課税を避ける企業再生税制である。つまり、これまでにない社会的仕組みの構築が、今後の企業再生の手法となったことを理解させる。

授業の計画（全体） 総論的解説 3 回、金融情勢 4 回、私的整理 1 回、企業再生税制 2 回、その他周辺のテーマ 5 回の計 15 回

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 総論
- 第 2 回 項目 企業再生スキーム（農業・学校・病院などを含む）
- 第 3 回 項目 企業格付けの仕組み（金利決定のメカニズム）
- 第 4 回 項目 B I S 規制と貸し渋り（資産再評価・繰延税金資産）
- 第 5 回 項目 地域密着型金融推進計画（リレーションシップバンキング）
- 第 6 回 項目 リスケジュール（体力のある銀行・体力のない銀行）
- 第 7 回 項目 法的整理と私的整理（それぞれの意味）
- 第 8 回 項目 企業再生税制 (1)（債権放棄関連）
- 第 9 回 項目 企業再生税制 (2)（その他、税務上の諸問題）
- 第 10 回 項目 中小企業の財務デューデリジェンス（E B I T D A）
- 第 11 回 項目 中小企業の M & A（営業権譲渡）
- 第 12 回 項目 中小企業の会社分割（税制適格分割と適格合併）
- 第 13 回 項目 経営計画 (1)（中期〔5 年～10 年〕経営計画）
- 第 14 回 項目 経営計画 (2)（単年度〔1 年〕経営計画）
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） テスト 50%、出席 50%

教科書・参考書 教科書：毎回 20～30 枚程度のレジメを作成 / 参考書：特になし

メッセージ 日本経済新聞がよくわかるようになります。

連絡先・オフィスアワー 行本会計事務所・TEL 083-925-1383

開設科目	外国書講読	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古賀大介				

授業の概要 英文を訳してみても、意味はなんとなくわかるのに、うまく日本語で表現することができないという経験ありませんか？ また、英字新聞の見出しをみても、意味がよくわからない、ましては英語の論文なんて、全然読めないと思ったことはありませんか？ 本講義では、こうした経験のある人向けに、英文を読む、簡単なコツを実践的に勉強していきます。

授業の一般目標 1. 文法上、訳しにくい英文を、自然な日本語に訳すコツを身につける 2. 英字新聞の読み方のコツを身につける 3. 初級～中級レベルの経済・社会科学系の論文が読めるようになる

授業の計画（全体） 前半は、英文を自然で正確な日本語に訳すためのテクニックを毎回1テーマごと、実践的に勉強していきます。後半は、英字新聞の読み方のコツや、初級～中級レベルの英語論文を、毎回1テーマごと勉強していきます。

成績評価方法（総合） 出席・講義中の態度・期末試験の総合評価

メッセージ 1. 前半期は基本的に予習等の必要ありません。後半期には若干の課題が出される場合もあります。2. この講義は、これからゼミで英語の論文を読む方や、大学院に進学する方の補習として最適です。もちろんそれ以外の方も大歓迎です。3. 英語のレベルとしては、センター試験100点以上だった方、英検準2級レベル以上の方、向けになっています。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A208（古賀研究室）

開設科目	外国書講読	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 「経営戦略」に関する英語文献の一部を読む。

授業の一般目標 経営戦略に関する英文を読み解く力の基礎を、身に付ける。

授業の計画(全体) 授業の前半は、配布したプリントの英文和訳等をやってもらいます。その際、辞書や参考書等、自由に利用して構いません。後半は、担当教員による解説を行います。毎回、英和辞典、英英辞典等を持参すること。

成績評価方法(総合) 小テスト、期末試験を総合して評価します。

教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。

メッセージ 毎回、英和辞典、英英辞典等を持参すること。電子辞書可。

開設科目	外国書講読	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	豊嘉哲				

授業の概要 英語文献の内容を理解し、その内容を日本語で発表する。

授業の一般目標 英語文献の内容を理解し、その内容を日本語で発表すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：英語文献を理解すること。 思考・判断の観点：英語文献を理解した上で、それに関する自分の意見を述べること。

授業の計画（全体） 英語文献の輪読。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 輪読

第 3 回 項目 同上

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 授業中の発表内容とレポート。 欠席が多い場合は単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：第 1 回授業で配布

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	外国書講読	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 受講者の学力に応じて、平易な英語の文献を輪読する。

演習

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	塚田広人				

授業の概要 演習の研究対象は、(1) 現実の経済状況、経済政策を知る (景気、労働問題、社会保障・福祉の問題、戦争の問題など) (2) 考えるための基礎である古典に親しむ (スミス、マルクス、ケインズ) (3) 卒業論文を書くの三つとする。演習 I では (1) と (2) を中心とする。 / 検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性 福祉国家

授業の一般目標 日本の経済社会の進路を考える力を身につける。

授業の計画 (全体) 上記課題を毎週行う。 (1) はグループによる発表、 (2) は輪読形式 (ゼミの時間に少しずつ、教員からの説明を加えながら順番に読み進める方法) をとる予定である。 夏には合宿を行う。

成績評価方法 (総合) 出席、レポート、討論への参加、を総合する。

メッセージ 楽しく、しっかり、学びましょう。

連絡先・オフィスアワー 933 - 5558 ht@yamaguchi-u.ac.jp A 棟 424 号室 水曜日 1 時半 - 3 時 (在室時はそれ以外でも可)

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	植村高久				

授業の概要 テーマ：現代日本の経済と社会 ゼミの目標は、この現代の日本の社会経済の特質を学び、多面的な関心を持てるようにすることである。1) 大学生生活に主体的に取り組んでゆける「テーマ」(何でも良い)を各自が見つけ、それに全力投入できるようにして、アクティブな大学生生活を送るよう支援する。2) 学習の面では、関心のあるテーマを自分で選び、継続して観察しつづけるようになることが重要である。/ 検索キーワード 日本経済、グローバル化、雇用不安、少子高齢化

授業の一般目標 日本経済だけでなく、現在の日本で生起している諸問題に対し、積極的に関心を持ち、問題を理解し、解決策を模索することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(知識・理解の水準) 日本経済新聞を読める。新書本レベルの経済書が読める。経済・社会の様々な問題について一般的な了解ができる。思考・判断の観点：経済学的な思考法、社会科学の思考法を駆使できる。関心・意欲の観点：様々な事件や問題を自ら積極的に理解・解明しようとする。一つのテーマを継続的に追跡できる。態度の観点：自力で考える習慣が身に付く。

授業の計画(全体) 1) 1年間を通して資料(新聞等)を素材にした基礎知識の習得に努める。2) 前期は「テーマ報告」(テーマ自由)を中心とする。後期は「テーマプレゼンテーション」に移行する。3) 後期は、グループ分けを行い、6冊の新書本を分担してグループで報告を行ってもらう。

成績評価方法(総合) ゼミへの参加度と報告の内容による。

教科書・参考書 教科書：別途指示する。

メッセージ 1) モットーは「能力は求めないが、努力は求める」である。最初は難しいが、そのうち面白みが分かってくる。そこまで「努力」できる人を求める。2) 自分でテーマを持って大学時代を過ごしたい人(まだテーマが見つからない人も含めて)向けである。3) 相談等には出来る限り応じるから、気軽に研究室に来て欲しい。

連絡先・オフィスアワー Phone:083-933-5593 e-mail;uemura@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワーは掲示してあるが、常時来室可。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 パソコンと数式処理システム Mathematica を用いて経済学の基礎であるミクロ経済学，マクロ経済学を勉強する。本来ミクロ経済学，マクロ経済学では数式がかなり出てくる。その数式を取り扱うのに数式処理システム Mathematica を使い，グラフなどを書かせて目で見て理解の助けとする。学部の講義とは異なった趣のミクロ経済学，マクロ経済学の勉強の仕方である。また，LaTeX という数式が多い原稿を書くのに適したソフトウェアを身につけてもらい，各学期の最後にその学期のまとめを LaTeX を用いて作成してもらおう。最終的には卒論を LaTeX で作成する。ゼミは，テキストの内容をレポーターが説明し，プログラムを全員で実行するするという形式です。メディア基盤センターのパソコンを使うのでパソコンを持っていない人でも受講には問題はない。/ 検索キーワード Mathematica, LaTeX, ミクロ経済学, マクロ経済学, 数理経済学

授業の一般目標 数式処理システム Mathematica の助けを借りて経済現象を理解すること。また，自分で理解し，その内容を人に話す (プレゼンテーション) の訓練も重要な目標である。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. Mathematica の基本的機能を説明できる。 2. LaTeX の基本的なコマンドを使える。 関心・意欲の観点： 1. 経済現象を数理的にとらえることができる。 2. 他人のプレゼンテーションを評価できる。 態度の観点： 1. ゼミに積極的に参加する。

授業の計画 (全体) 通常の授業とは異なり，各人が順番でレポーターとなって話が進む。レポーターのときは，まず前回の復習をし，その日の全体的な話の概略を説明し，次にテキストの個々の内容の説明をしながら全員でパソコンへの入力を行なう。テキストにはない自分で試したもの (テキストの例を少し変えたものなど) があると非常によい。全員がうまく入力できているかよく確認すること。発表の最後にまとめを行い質問または評価を受ける。レポーターでない人は，レポーターの指示に従い作業をし，最後に質問またはレポーターの評価をする。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Mathematica 1 内容 基礎 1
- 第 2 回 項目 Mathematica 2 内容 基礎 2
- 第 3 回 項目 Mathematica 3 内容 関数とグラフ 1
- 第 4 回 項目 Mathematica 4 内容 関数とグラフ 2
- 第 5 回 項目 Mathematica 5 内容 関数とグラフ 3
- 第 6 回 項目 Mathematica 6 内容 関数とグラフ 4
- 第 7 回 項目 Mathematica 7 内容 関数とグラフ 5
- 第 8 回 項目 Mathematica 8 内容 微分と積分 1
- 第 9 回 項目 Mathematica 9 内容 微分と積分 2
- 第 10 回 項目 Mathematica 10 内容 微分と積分 3
- 第 11 回 項目 Mathematica 11 内容 微分と積分 4
- 第 12 回 項目 Mathematica 12 内容 最適化とその応用 1
- 第 13 回 項目 Mathematica 13 内容 最適化とその応用 2
- 第 14 回 項目 Mathematica 14 内容 最適化とその応用 3
- 第 15 回 項目 Mathematica 15 内容 最適化とその応用 4
- 第 16 回 項目 LaTeX 1 内容 LaTeX の体験，諸注意
- 第 17 回 項目 LaTeX 2 内容 セクションなどの基本構造 1
- 第 18 回 項目 LaTeX 3 内容 セクションなどの基本構造 2
- 第 19 回 項目 LaTeX 4 内容 数式の入力 1
- 第 20 回 項目 LaTeX 5 内容 数式の入力 2
- 第 21 回 項目 LaTeX 6 内容 数式の入力 3

- 第 22 回 項目 LaTeX 7 内容 環境
- 第 23 回 項目 LaTeX 8 内容 参照
- 第 24 回 項目 LaTeX 9 内容 参考文献, 目次, 印刷
- 第 25 回 項目 LaTeX 10 内容 空白の制御
- 第 26 回 項目 LaTeX 11 内容 AMS LaTeX 1
- 第 27 回 項目 LaTeX 12 内容 AMS LaTeX 2
- 第 28 回 項目 LaTeX 13 内容 AMS LaTeX 3
- 第 29 回 項目 LaTeX 14 内容 EWinTeX の使い方 1
- 第 30 回 項目 LaTeX 15 内容 EWinTeX の使い方 2

成績評価方法 (総合) 発表 60 ~ 80 % , 出席 20 ~ 40 % , 他人のプレゼンテーションに対する評価 10 %。

教科書・参考書 教科書: はじめよう経済学のための Mathematica, 浅利一郎他, 日本評論社, 1997 年; 教科書は品切れなのでこちらで対応する。

メッセージ 遅刻欠席をしないように心懸けること。無断欠席には厳しく対処する。楽しくやりましょう。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp , 電話:933-5595 , 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 金融経済に関する基礎的な理論を学習しながら、デフレや不況からの脱却のために何を成すべきかを論理的に考察する。 / 検索キーワード 金融、ゼミ、演習、プレゼンテーション、ディベート

授業の一般目標 金融システムの変貌とデフレ脱却のための手段について研究し、そのための情報収集やディベートの方法について学習する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 教科書の指定も
- 第 2 回 項目 新聞記事の読み方
- 第 3 回 項目 教科書の読み方とまとめ方
- 第 4 回 項目 プレゼンテーションのやり方
- 第 5 回 項目 プレゼンテーションの技術向上のために
- 第 6 回 項目 情報処理機器 (PC) の使用について
- 第 7 回 項目 メールアドレスの取得
- 第 8 回 項目 ホームページの閲覧、情報収集のやり方
- 第 9 回 項目 ワープロ、表計算、プレゼンアプリケーションの使い方
- 第 10 回 項目 メーリングリストへの参加
- 第 11 回 項目 討論大会のためのテーマ設定
- 第 12 回 項目 討論大会のための論文作成準備
- 第 13 回 項目 討論大会のためのディベート訓練
- 第 14 回 項目 プロジェクト応募のための企画書づくり
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 演習中のパフォーマンス、アピール、ディベート能力などを評価する。

メッセージ ゼミに関する詳しい活動内容は当ゼミのホームページ (<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/thyodo>) を参照のこと。できるだけ、受動的に「教わる」のではなく、自ら「学ぶ」意欲のある学生の参加を望む。

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	寺地伸二				

授業の概要 経済および社会の問題に対して、関心を持ち、自分なりの意見が言えるようになる。

授業の一般目標 1 , 経済や社会のさまざまな問題に対して興味をもってもらうと同時に、問題点の整理の仕方、発表の仕方なども学習していきます。 2 , グループ学習を通じて、自分なりの、ものの見方・考え方を身につけてもらいたいと思っています。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	木部和昭				

授業の概要 近代日本経済史研究 ~ 明治・大正・昭和期の日本経済の分析~ 本演習では、明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を目指す。内容としては特に、各人の身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析してもらおう。主な対象としては、山口県の地域経済を歴史的に分析する事を考えているが、各人の興味関心に応じて、必ずしもこれに限定するわけではない。最終的には、資料を用いて具体的な分析を行い、教科書に出てくる経済史とは異なった新たな歴史像を自ら発見してもらいたい。大学で勉強する歴史は高校までの日本史・世界史と異なり、単に知識を暗記するだけの学問ではない。自らが歴史を解明し、分析するという点に興味を持つ学生の受講を歓迎する。 / 検索キーワード 日本経済史、日本史、近代史

授業の一般目標 (1) 明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を目指す。(2) 身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析する能力を身につける。(3) 史資料を用いた歴史の実証が行えるようにする。

授業の計画 (全体) (1) 前半は下記のテキストの輪読を通じて、近代日本経済史の基礎知識、論点を学習する。(2) 後半は、各人の興味関心に基づいた研究論文を読み、各人の研究課題設定の一助としたい。また、論文講読を通じて、経済史研究の手法、論文の書き方などについても学習する。(3) 日本経済史の実証的研究に必要不可欠なものに、資料の調査・分析がある。本演習では、上記と平行して、戦前期の資料講読を行い、調査・分析の基本的手法を習得する。戦前の文献・法令・新聞などは、現在とは全く異なる文語・旧字体で書かれているが、慣れれば同じ日本語なのでそんなに難しくはない。また、興味のある学生がいれば、江戸～明治時代の古文書(筆で書かれた史料)解読も行いたい。その際、なるべく多くの原史料に触れる機会を得るため、山口県文書館などの資料保存機関へ調査に出かける。(4) 夏休みには、卒業論文への前段階として、レポートを課す。これは、自分の研究課題についての模索の第一歩となる。後半には、このレポートをもとにした報告も行ってもらおう。2年次には特に(1)(3)を重点的に学習する。

成績評価方法 (総合) 順番に担当してもらった報告、夏休みレポートの内容によって評価する。報告者以外は、報告内容をまとめたノート提出させるが、これも評価の対象となる。報告 45%、授業内小レポート 15%、夏休みレポート 30%、授業態度 10% 欠席が多い者は不合格となる。

教科書・参考書 教科書：『近代日本経済史要覧(第2版)』、安藤良雄 編、東京大学出版会、1979年；『概説近代日本経済史(第2版)』、三和良一、東京大学出版会、2002年 / 参考書：テキスト以外の参考文献は適宜紹介する。授業で使用する場合は、コピーを配布する。

メッセージ ・3年後の卒業論文に向けて、自分なりの興味関心を養って欲しい。 ・きちんと出席しないと単位が出ないで注意。 ・自分の割り当てられた報告を放棄した場合は、別に数倍の課題を出させるので、一生懸命に取り組むこと。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	野村淳一				

授業の概要 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学(計量経済学)を用いることを必要とします。演習 I ではブランチャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。3 年次にはマクロ経済学を応用して日本経済の問題について分析し、全国ゼミナール討論大会に参加するので、その準備として、教科書で修得した経済モデルを現実のマクロ経済データを用いて検証し、報告をしてもらいます。そうした作業を通して、自分の研究するテーマを絞ってもらいます。

授業の一般目標 ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：標準的なマクロ経済理論を理解できている。基本的な統計学の手法を修得している。 思考・判断の観点：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 関心・意欲の観点：現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。 態度の観点：事前の準備を十分に行い、他者の発表に対しても真摯に議論できる。 技能・表現の観点：発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画(全体) 演習 I ではブランチャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。3 年次にはマクロ経済学を応用して日本経済の問題について分析し、全国ゼミナール討論大会に参加します。2 年生は全国大会へは参加しませんが、学内の討論大会に参加してもらいます。これには、(1) 経済学の応用された論文を理解する、(2) 論理的に議論する、(3) 次年度のための予行演習、という目的があります。2 年生では論文作成は出来ませんが、質問書の作成や理解が不十分な点の勉強などを行ってもらいます。卒業論文のテーマについては、こうした活動を通して自由に選んでもらいます。早く決めれば個別に指導を始めますが、基本的には卒業後の進路も踏まえて 3 年次の 10 月頃には具体的にイメージを固めて下さい。パソコンの知識は必須です。各自でパソコンを購入することを強く推奨します。卒業論文作成前に、経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学、計量経済学の単位を取得することを期待します。一見非常に多くを学習するようですが、これらは互いに関連しており、ステップを省略しなければ、基本的な範囲の内容については、無理なく修得することが可能です。希望者には、サブゼミとして経済数学や経済学の輪読をしています(パソコンは個別に指導します)。初歩から積み上げていきますので、気軽な気持ちで臨んで下さい。

成績評価方法(総合) 授業における態度(発表、質問等)と参加意欲により判定する(評価割合 100%)

教科書・参考書 教科書：『マクロ経済学』(上)(下), ブランチャール, 東洋経済, 1999 年 / 参考書：『ミクロ経済学』, 武隈慎一, 新世社, 1999 年

メッセージ 経済学を学ぶ一番のメリットは、数学を用いて論理的に社会事象を考察することができるようになることだと思います。数学が苦手でもこの機会に少しでも自分のモノにしておこうという意欲を持った学生を希望します。私自身も数学が得意とは言えませんが、初歩の初歩から指導しますので、恐れず立ち向かって下さい。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山田正雄				

授業の概要 経済理論に関する研究

授業の一般目標 経済学における分析手法を学ぶ。

授業の計画 (全体) 基本的文献の輪読を通して、経済学における分析手法を学ぶ。

成績評価方法 (総合) ゼミにおける報告、参加姿勢などによって評価する。

教科書・参考書 教科書：ゼミ生と相談の上で決める。

メッセージ ゼミは学生の主導で進めていくものだと思っているので、積極的に参加できる学生を望みます。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	濱島清史				

授業の概要 キャリア形成 (人材育成) ならびに社会政策論 (特に年金・介護問題) を中心に進めていく。またそれと関連するように、就職内定率が低迷する中、産業・企業・職能 (職業) 研究を進めていきたい。これは2年生から就職対策をするというよりも、キャリア形成論や産業・企業・職能 (職業) 研究は本格的にやろうとすれば数年は要し、そして就職活動においても、それ以上に社会に出てから有益だからである。学問研究と就職活動との相乗効果を狙う。 / 検索キーワード キャリア形成、社会政策論、産業・企業・職業研究、プレゼンテーション・ディスカッション・ディベート、社会貢献。

授業の一般目標 第一に、ゼミでの研究を通して充実した学生生活を送ること。即ち、何らかの困難に遭遇した時に、それを克服するストーリーを語れるようにすること。第二に、将来のキャリア・ビジョンを描けるようにすること。第三に、社会に出てから有益な知識と思考力を養うこと。以上を一般的な目標とする。より具体的には、キャリア形成ならびに社会政策論の基礎知識を習得し、自ら主体的に関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して調べて、論理的な文章展開能力をレポートによって涵養する。さらにプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート能力を磨いていきたい。なお、労働経済論を履修すること。専門性を深めるためには、ゼミだけでは不十分で、関連する講義科目によって補強しなければならないからである。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 教養を広め、専門知識を深めること。新聞やテレビ・ドキュメンタリーなども日常的にみること。 **思考・判断の観点:** 論理的思考能力を養うこと。変化に応じて、的確に判断を下せるようになること。総じて、課題・問題を発見し、原因を分析し、改善できるようにすること。 **関心・意欲の観点:** 自ら主体的に関心のある産業・企業・職能を調べ、その知識をゼミ生相互でシェアし合い、専門領域を確保しつつあらゆる産業に関心を抱いて互いに啓発し合えるようにしたい。 **態度の観点:** 人間の記憶力は曖昧である。単に聴いているのではなく、糧となると思われるところはメモを取ること。さらに、積極的に自己アピールをしてもらいたい。ゼミで活発に討論して、自己主張してもらいたい。また各自、それぞれの担当領域でリーダーシップを発揮してもらいたい。 **技能・表現の観点:** プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてもらいたい。 **その他の観点:** 特に今年は、社会貢献や人道的観点も養いたい。そうでないと、個人的な狭い利害関係でしか、考えられないような人間になってしまうからである。将来、社会に出てから、大きく活躍するためにも、社会に貢献するという大望が必要である。具体的には、第三世界の貧困問題などに関するボランティア活動などへの参画である。(勿論、強制はしない。)

授業の計画 (全体) 前期からゼミナール大会にかけては、社会政策論 (特に少子高齢化あるいは介護保険改正) に関してテキストを輪読形式で進めていきたい。秋のゼミナール大会は一つの山場なので必ず出席してもらおう。後期は各自の関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して研究を進めていきたい。その成果をレポートとして、春休み明け、夏休み明け、冬休み明けにそれぞれ提出してもらおう。

成績評価方法 (総合) 主にレポートとレジュメ・発表による。プレゼン、討論能力も期待するが、成績評価よりも各自の努力に委ねるべきだろう。講義形式とゼミとでは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。

教科書・参考書 教科書: 日本の官僚人事システム, 稲継裕昭, 東洋経済新報社, 1996年; 大卒ホワイトカラーの人材開発, 小池和男編著, 東洋経済新報社, 1991年 / 参考書: マテリアル人事労務管理, 佐藤博樹他, 有斐閣, 2000年; 日本企業 理論と現実, 上井喜彦・野村正實, ミネルヴァ書房, 2001年

メッセージ 何はともあれ、明るく楽しくやってみましょう。

連絡先・オフィスアワー tel: 083 - 933 - 5521. Eメール・アドレス: hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 私たちが日頃考えていることや興味を持っていること、逆に納得がいかないことって、実は立派な「学問」につながっていたりする。せっかく大学生をやっているんだから、自分と学問とのつながりについて、じっくり考える機会があってもいいんじゃない？ 私がもっとも重視するのは、この「内発的な問題意識」です。演習 I の進め方は、4 年次までの長期計画のもとに組み立てられています。まず 2 年次 (演習 I) には、できるだけ多くの社会問題の存在にふれ、何故それが社会問題として取り上げられているのか、という背景についての理解を深めます (社会学的思考の習得)。3 年次 (演習 II) には、KJ 法を活用してゼミ員全体による「問題意識の地図」を描いた後、個々人の問題意識を文献・資料研究によって各自が追求し、ゼミでの報告・議論をおこないます。そして、4 年次には「自分なりの卒論」をまとめ上げます。こうしてできた卒論は大学時代、あるいは今までの人生の集大成になることでしょう。

本ゼミに求められる姿勢は、ゼミ内で「自分をさらけ出す勇氣」と「自分がゼミを創っていくという当事者意識」です。最後に、参考までに私の研究領域をキーワードで述べると、高齢社会・社会政策・ケア論・地域福祉・労働と家族的責任との両立 (ワークライフバランス)・ジェンダー・福祉国家論・NPO・アイデンティティなどです。

授業の一般目標 1. 「学問」と「自分の生活」との結びつきを意識化すること。(社会学的思考の習得) 2. レジューメ作成・文献資料検索・レポート作成・議論の方法を習得すること。(学習技術の習得) 3. 日常生活のなかにある「自分なりのこだわり」を明確化すること。(研究テーマの探求)

授業の計画 (全体) 上記の目標 1・2 を達成するため、前期・後期を通じて、できるだけ多くの文献を読み合わせます。方法としては、毎回、決められた文献についてのグループによるレジューメ作成と報告をしてもらい、その後、報告内容についてゼミ全員での議論をおこないます。また、期末には、上記目標 3 についてのレポート提出を予定しています。

成績評価方法 (総合) 1. 授業内討論への参画度合 (出席は欠格条件) 2. グループ課題の遂行 3. レポート評価を総合的に判断します。

教科書・参考書 教科書：授業のはじめに数冊の文献を提示し、ゼミ員の希望を優先し決定します。

メッセージ 私からは研究テーマを与えませんので、自分で追求したいテーマを探するという困難に挑む積極的態度が不可欠です。活発で率直な意見交換ができるような、楽しい雰囲気のできるゼミでありたいと思っています。

連絡先・オフィスアワー E-mail: nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火・水曜日 10:00-11:00

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	古賀大介				

授業の概要 世界・社会経済を様々な歴史的観点から勉強していきます。この演習では、例えば、お茶の歴史、学校の歴史、お金の歴史、ファッションの歴史など、私たちにとって身近なトピックスを取り上げ、その歴史を学ぶことを通じて、世の中をより深い次元から把握する眼、本質を見る眼を養っていききたいと思います。

授業の一般目標 1 . 発表に必要なスキルを身につける 2 . 経済史の基礎知識をマスターする 3 . 歴史を通じて、世の中をより深い次元から把握する眼、本質を見る眼を養う

授業の計画 (全体) 前期は、世界経済の発展の歴史について学びます。後期は、「概要」にあげた個別テーマについて学びます。

成績評価方法 (総合) 出席・発表の総合評価。特段の理由がない限り、遅刻・欠席は認めない。

教科書・参考書 教科書：あなたが歴史と出会うとき、堺憲一、名古屋大学出版会、1989 年

メッセージ 一緒に楽しく勉強していきましょう。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	橋本寛				

授業の概要 意思決定の基礎理論について考察を行う。

授業の一般目標 意思決定理論の初歩的概念、手法、モデルなどについて学ぶ。

授業の計画 (全体) はじめに少し準備をして、下記のテキストを各人に割り当てて読む。テキストの内容は、意思決定とは、決定分析、線形計画法、階層分析法 (AHP)、社会的意思決定手法、多目的線形計画法と目標計画法、階層構造化モデル (ISM)、Dematel 法、マルコフ連鎖、ファジィ理論となっている。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 説明
- 第 2 回 項目 準備
- 第 3 回 項目 準備
- 第 4 回 項目 準備
- 第 5 回 項目 準備
- 第 6 回 項目 第 1 章
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 出席、発表、レポートなどによる。

教科書・参考書 教科書：わかりやすい意思決定論入門, 木下, 近代科学社 ; 定価 2700 円

メッセージ 出席を重視します。なお、高校程度の数学が必要です。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設ける予定

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	古川澄明				

授業の概要 ゼミ 2 年生：前期、中小企業診断士資格取得勉強に取り組む。後期、有資格者を含めて、同資格知識をベースにして、企業調査・研究を開始する。目標は、4 年生卒業論文研究として企業のケーススタディをまとめることである。研究分野としては、酒造業界と、フグ・ビジネス業界を取り上げる。研究内容・方法 (1) フグ・ビジネスの調査 3 年生の先輩が下関唐戸魚市場 (株) や、萩、徳山の養殖業者のヒアリング調査に取り組んでいますが、そうした調査活動に取り組んでみたい方は、次のようなテーマ設定はいかがでしょうか： (a) 中国沿海地域のふぐ養殖業の実態調査 (今、中国産フグが下関養殖フグ取扱高の 3 割) (b) フグ漁従事者の激減と業界の国際的構造変化 - 輸入フグの増大化傾向、(c) フグ・ビジネスの国際化とアジア - 香港、上海のフグ料理店、(d) 養殖フグの急増と産地間競争 - 相場リーダーとしての下関の挑戦、(e) 韓国でのフグ・ビジネスの実態 - フグを食べているのか？ (f) 食生活の変化とフグ・ビジネス - 養殖魚で育った世代の味覚が示すものは、何か。(2) 山口の酒蔵の調査、3 年生の先輩が県内の酒蔵メーカーの個別企業調査を行っていますが、まだまだ、残っています。日本人と酒と社会生活の変化について関心があり、調査活動に取り組んでみた方は、例えば、次のようなテーマ設定はどうでしょうか： (a) 山口県内の酒蔵メーカーを訪ねる (現在、五橋、男山、和可娘の 3 社を調査中) (b) 山口の「杜氏」を訪ねて、歴史を聞くゼミ運営方法： 3 年生までは、チームで調査研究。4 年生で卒業論文を作成。論文は自費製本し、「1 冊の本 (作品)」にする。自主的に、私的に会社を訪問することを厭わない人はよい成果を生み出せるでしょう。調査研究の成果は、報告集にまとめます。 / 検索キーワード 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。

授業の一般目標 (1) 卒業論文作成に向けて、調査研究のテーマ設定、問題の分析の仕方、プレゼンテーションでの説得力などを身に付ける。(2) 企業調査を通じて、社会人としての自覚をもって、経営の現場やビジネスの動態を捉える独自の分析視角を開発する。(3) 大学卒業後に企業人、あるいは公務員として活躍することを意識して、ゼミ活動に取り組む。最終的目標：企業社会や公務員社会に入った役立つ能力を身につけること、すなわち何ら何の課題を分析し、取りまとめてプレゼンテーションできる能力、報告書をまとめる能力、自分の知識・認識のレベルと限界を知り、そのような実力を高めるべきかを認識する能力、PC を自在に取り扱える能力、流行な人間関係を構築する能力、指揮統率の能力などを養うことにあります。積極的に自分を育てましょう。自分の器を大きくしましょう。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。その基礎知識習得として、中小企業診断士資格受験にチャレンジする。 思考・判断の観点：独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。 関心・意欲の観点：ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。 態度の観点：研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。礼儀と節度を守り、指揮統率能力を身につけることを課題とする。礼節を重んじ、ゼミ生としての品位と相互尊敬には、立場や性別に関係なく、お互いに厳格でありたいものです。 技能・表現の観点：PC の利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプロクラムを利用することを勧める。インターネットの活用、メールを利用した添付ファイル情報の交換などは、日常的に行うので、4 年生までには、習熟することになる。また情報収集・整理能力、情報を一つの方向で報告書にまとめる能力を養う。 その他の観点：ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるといのが、ゼミの原則である。

授業の計画（全体） 大きくは、前期と後期にわけて、2年生は研究のための基礎勉強を行う。とくにケーススタディを行いながら、実践的に経営学の知識を学ぶ。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 経営学基礎学習
- 第 2 回 項目 経営学基礎学習
- 第 3 回 項目 経営学基礎学習
- 第 4 回 項目 経営学基礎学習
- 第 5 回 項目 経営学基礎学習
- 第 6 回 項目 経営学基礎学習
- 第 7 回 項目 経営学基礎学習
- 第 8 回 項目 経営学基礎学習
- 第 9 回 項目 経営学基礎学習
- 第 10 回 項目 経営学基礎学習
- 第 11 回 項目 経営学基礎学習
- 第 12 回 項目 経営学基礎学習
- 第 13 回 項目 経営学基礎学習
- 第 14 回 項目 経営学基礎学習
- 第 15 回 項目 経営学基礎学習
- 第 16 回 項目 企業事例研究
- 第 17 回 項目 企業事例研究
- 第 18 回 項目 企業事例研究
- 第 19 回 項目 企業事例研究
- 第 20 回 項目 企業事例研究
- 第 21 回 項目 企業事例研究
- 第 22 回 項目 企業事例研究
- 第 23 回 項目 企業事例研究
- 第 24 回 項目 企業事例研究
- 第 25 回 項目 企業事例研究
- 第 26 回 項目 企業事例研究
- 第 27 回 項目 企業事例研究
- 第 28 回 項目 企業事例研究
- 第 29 回 項目 企業事例研究
- 第 30 回 項目 企業事例研究

成績評価方法（総合） 総合的に評価する。全員が最高評価を得られるように指導を行うので、結果として、最高評価となるように、参加者の努力に期待する。

教科書・参考書 教科書： 必要に応じて、あらゆる経営学書を利用する。 / 参考書： 必要に応じて、あらゆる経営学書を利用する。

メッセージ 古川ゼミは、人材育成の場と位置づけている。企画・立案能力、文書能力、報告書をまとめる能力、プレゼンテーション能力、コンピュータ活用能力などを養うことを目標として、2年生の段階から自分たちで自主的に共同研究テーマと取り組む。それらの能力は、大学卒業後に民間企業や公務員に就職すれば当然にも求められる能力である。企業研究では、これまでに習得した、あるいは習得しつつある経営学や会計学の知識を投入することになり、必要ならば自主的に経営学の知識を学ぶことが重要である。3年間を費やして、独創的な卒論をまとめ、ハードカバー書に製本し、大学4年間の総決算とする。またゼミ独自のアルバムを編集しているのので、楽しいゼミを全員参加で作らしましょう。

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に、面会可能。日常的に、メールで相互連絡を行うので、メールアドレスを変更したら、必ず、連絡してください。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 演習 I の受講対象者は、2 年生で、経営学の基礎知識が不足している。

そこで、「経営学をやさしく学ぶ」のテキストを活用して、各自の分担報告と意見交換を義務付けたい。また、その意義は、体系的思考を養うことにある。 / 検索キーワード 経営学の基礎理論、体系的理解、個別事例を参照、最近のトピックスに注目

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：経営学の基礎知識を習得し、経営思考を身に付ける。 関心・意欲の観点：マスメディアの経営問題に、関心を示し、思考と判断をするようにする。 態度の観点：演習では、積極的に意見をだし、議論になれる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業経営とは何か
- 第 2 回 項目 経営理論史の方法
- 第 3 回 項目 経営組織
- 第 4 回 項目 経営戦略
- 第 5 回 項目 国際経営
- 第 6 回 項目 人事管理
- 第 7 回 項目 マーケティング
- 第 8 回 項目 財務管理
- 第 9 回 項目 情報管理
- 第 10 回 項目 経営計画
- 第 11 回 項目 財務報告
- 第 12 回 項目 規費監査
- 第 13 回 項目 リスク管理
- 第 14 回 項目 企業の社会的責任
- 第 15 回 項目 企業ガバナンス

教科書・参考書 教科書：経営学をやさしく学ぶ, 山大経済学部経営学科編, 中央経済社, 2005 年 / 参考書：その都度、紹介する。,,

メッセージ 出席は、100 % であること、報告は、周到にすることである。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 ファイナンスならびに証券分析に関する基礎知識の習得

授業の一般目標 専門知識の習得、企業分析ならびにゼミナール間のコミュニケーションをはかる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：専門知識の習得 関心・意欲の観点：講義への積極的参加 技能・表現の観点：レポートの作成ならびにプレゼンテーション

成績評価方法 (総合) 発表、ゼミへの積極的参加

教科書・参考書 教科書：入門証券論, 榊原, 有斐閣, 2005 年 ; その他テキストは未定

連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	石田成則				

授業の概要 21 世紀の新時代に入り、わが国経済社会は大きな転換期を迎えている。長期にわたる不況と高齢社会への突入により、雇用不安や老後生活への不安感も醸成されている。こうした現況を打破するための構造改革そして財政再建のなかで、国家財政による社会保障は縮小または見直しの機運にある。また、企業経営においても、国際競争力の強化のために、財務のスリム化そして人員の削減が断行されており、退職給付による老後保障の役割は縮小傾向にある。そこで、自助努力による資金形成のための、保険、年金そして投資商品などについて幅広く勉強する。

授業の一般目標 保険・社会保険の基本的仕組みと構造、そして役割を理解する。 1) 生活上のリスクとその管理の具体的手法を学ぶ。 2) 生活保障に果たす公私の役割分担を考える。 3) 保険商品や各種の社会保険制度を知って、それを旨く活用する。 4) 保険によるマクロ的機能、労働生産性効果と効率的資本形成を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 保険・社会保険の仕組みの理解 思考・判断の観点： リスクの計量的・確率的な把握 関心・意欲の観点： 現実社会の保険現象に対する関心を高める

授業の計画 (全体) 教科書の輪読

成績評価方法 (総合) 授業態度と授業内プレゼン

メッセージ 欠席する際には、必ず事前にその旨を連絡すること。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	成富敬				

授業の概要 「情報技術の新しい応用可能性」というテーマ、あるいは、各自が興味を持つテーマについて、関連する文献の紹介や研究内容の発表をおこなう。

授業の一般目標 各自が興味を持つテーマについて、基礎的な知識を習得するとともに、関連する文献の紹介や研究内容の発表をおこなう。文献紹介や発表をとおして、文献を調査し、文献を批判的に読むことで問題点を発見する能力を養い、さらに問題点を解決し、得た成果をまとめ、人に理解してもらう能力を身につけることが目標です。

成績評価方法 (総合) 出席状況、発表状況などをもとに、評価します。なお、欠席の多い場合や発表回数が少ない場合、あるいは、発表時に無断欠席をした場合はペナルティを課します。

メッセージ 発表中心の授業であり、発表の順番はかなり頻繁にまわって来ます。したがって、一回の発表が終わったら、次の発表の準備を始める必要があるでしょう。発表を重ねるなかから自分の研究テーマを見つけ、そのテーマについて深く掘り下げることが大切です。どこまで掘り下げられるかはみなさん次第です。いろいろなことを知っている“頭のいい人”よりは、粘り強く考えられる“頭の強い人”を目指しましょう。現在考えられている情報技術の応用に“問題はないのか”、問題があるとすれば“そのための解決策は何か”、あるいは“新しい応用は考えられないか”について、じっくり考えてください。また、演習の場で人の発表を聞き、発表のポイントを理解し、さらに疑問点を見つけて、発表者に分かるように質問を組み立てる姿勢も大切です。

開設科目	会計学演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	吉水佐知子・山下訓・田中秀博				

授業の概要 この授業は、職業会計人コース生を対象に新設されたものです。大学は、正解がない問題に対し、様々な意見があることを踏まえ、何通りもの答えを探るところです。一方、資格試験は、正解を答えることが要求されます。この相反する二つのことに挑戦していきたいと思います。

授業の一般目標 疑問点に関して、どのように質問したらよいのか、問題解決の糸口はどのように探したらよいのか等を学習することにより、問題解決能力を高めること。

成績評価方法 (総合) 評価は、出席 50 %と発表 50 %で行います。

教科書・参考書 教科書：後日連絡します。 / 参考書：授業の中で必要に応じお知らせします。

メッセージ 経済学部の学生として当然求められるべき行動は要求します。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	篠原淳				

授業の概要 本演習では、企業会計分野について学ぶ。会計フレームワーク、財務諸表の構造を理解し、会計がなぜ必要とされるかについて検討していく。 / 検索キーワード 企業会計、会計原則、会計基準

授業の一般目標 企業会計に関する全般的な知識の習得と会計情報と利害関係者の意思決定支援機能に焦点をあてて各課題を検討していく。

授業の計画 (全体) テキストにあわせて進めていく。

成績評価方法 (総合) 授業への出席、報告、ゼミ行事への参加等を総合的に評価する

教科書・参考書 教科書：後日決定する。 / 参考書：必要があればその都度指示。

メッセージ 積極的に参加してください。

連絡先・オフィスアワー a.shino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	会計学演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山下訓				

授業の概要 職業会計人コースの2年生を対象とした演習です。自ら疑問点を探し、自ら解決していく方法を学びます。

授業の一般目標 職業会計人コースの実習により、多くのことを学ぶこととなりますが、多くの疑問を積み残したまま、実習は進行していきます。そこで、この演習形式の授業を、何が疑問点かを探し、調べて解決していく良い機会と捉えてください。分からない所が何処かを発見すれば、実は半分以上問題は解決しています。ものを問うときに、既に答え方が決まっているからです。是非、自ら問題を設定する訓練をしましょう。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 参加者と相談して設定する。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤田健				

授業の概要 マーケティングの研究対象は、製品・広告・価格・流通と幅広い。これらのマーケティング活動に加えて、経営戦略や組織構造・組織能力とも関連してくる。そのため、マーケティングに関する広範かつ体系的な知識と研究対象へのアプローチ方法の習得が必須となる。そこで本演習では、(1) 経営学とマーケティングの基礎知識を修得したうえで、(2) マーケティング・リサーチのプロジェクト演習をおこない、応用力を高める。 / 検索キーワード マーケティング, 経営学, 戦略的マーケティング, マーケティング・リサーチ

授業の一般目標 1. 経営学, マーケティングの基礎知識を体系的に修得し、活用できるようになる。 2. ケース・スタディを通して実践的なマーケティングの知識を身につける。 3. マーケティング・リサーチを実施し、マーケティング戦略を立案できるようになる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 経営学の基礎知識 (1)
- 第 3 回 項目 経営学の基礎知識 (2)
- 第 4 回 項目 経営学の基礎知識 (3)
- 第 5 回 項目 マーケティングの基礎知識, 市場をつくり出す企業活動
- 第 6 回 項目 価値形成のマネジメント, 価値実現のマネジメント
- 第 7 回 項目 マーケティング組織のデザイン, マーケティング資源の配分
- 第 8 回 項目 事業の定義, 消費者行動の理解
- 第 9 回 項目 競争構造の理解, 取引関係の理解
- 第 10 回 項目 プロセスとしての競争
- 第 11 回 項目 産業のライフサイクル
- 第 12 回 項目 チャネル資産のマネジメント
- 第 13 回 項目 顧客関係のマネジメント
- 第 14 回 項目 ブランドのマネジメント
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 前期は、発表時のレジュメ、プレゼンテーション、レポート、各回のディスカッションへの参加度および最終レポートで評価する (50%)。後期は、マーケティング・リサーチの経過レポート、グループ活動への貢献度、最終レポートで評価する (50%)。

教科書・参考書 教科書：経営学入門 [上], 榊原清則, 日経文庫, 2002 年; ゼミナール マーケティング入門, 石井淳蔵・嶋口充輝・栗木契・余田拓郎, 日本経済新聞社, 2004 年; マーケティング・クリエイティブ (第 1 巻), 石井淳蔵・大西潔編著, 碩学舎 (中央経済社), 2005 年

メッセージ ゼミには必ず出席すること。無断欠席は厳禁である。

連絡先・オフィスアワー A 棟 3 階 306 研究室

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	武居奈緒子				

授業の概要 本演習では、現代におけるマーケティングのイノベーションを多面的な視角から考察することを目的とする。イノベーションに関しては、古くは、シュンペーターに始まり、ロジャースの革新的普及理論、最近では、クリステンセンのマーケティング戦略的な議論が、注目を集めている。特に、経営における革新、マーケティングの革新に関する企業家の関心は、高いものがある。企業の革新的行動は、製品レベルのみで引き起こされるものではない。それは、組織レベルでも生じるものである、イノベーションについて考察するためには、その全体像を把握する必要がある。そのため、下記に掲げる基本的文献の輪読を通じて、イノベーションに関する知識と理解を深めていきたい。さらに、イノベーションの理論のみならず、具体的な事例も取り上げつつ、接近していきたい。事例研究として、イノベーションを絶えず起こす企業として注目されている 3 M, 大企業の中で、イノベーションを起こすことで生き残っている企業といわれている GM, 呉服商のイノベーションによって百貨店化を実現した三越を取り上げて、マネジメントの過程でどのような試行錯誤があったのか、何が革新促進要因で、何が革新阻害要因であったのかについて、皆でディスカッションしていきたい。

授業の一般目標 1. マーケティングに関する基礎的知識、研究方法を修得する。 2. マーケティング現象を引き起こす要因間の因果関係を分析できる能力を養う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 マーケティングの概要 (1)
- 第 3 回 項目 マーケティングの概要 (2)
- 第 4 回 項目 マーケティングの概要 (3)
- 第 5 回 項目 マーケティングの概要 (4)
- 第 6 回 項目 マーケティングの概要 (5)
- 第 7 回 項目 イノベーション・マネジメントの主要な課題
- 第 8 回 項目 市場のマネジメント
- 第 9 回 項目 技術のマネジメント
- 第 10 回 項目 組織のマネジメント
- 第 11 回 項目 イノベーション・マネジメントの統合的アプローチ
- 第 12 回 項目 事例研究 三越のイノベーション
- 第 13 回 項目 事例研究 三越のイノベーション
- 第 14 回 項目 事例研究 3 M のイノベーション
- 第 15 回 項目 事例研究 GM のイノベーション

教科書・参考書 教科書：イノベーションの経営学, ジョー・ティッド/ジョン・ベサント/キース・パビット, NTT 出版, 2004 年; 消費行動, 武居 奈緒子, 晃洋書房, 2000 年

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 観光と旅行をテーマに研究をします。 観光・旅行の意義については、以下のように言えます。私たちは日常さまざまな機会に旅行に出かけ、生活の潤いを体験しています。日帰りレクリエーション、国内の宿泊観光旅行、海外旅行等は今や国民生活に欠かせないものとして定着し、その重要性も増加しています。このことは、今後の生活の中で特に重点を置きたい分野として「レジャー・余暇活動」をあげている国民が多いことから明らかです。 また、観光は国民一人一人が充実した時間を過ごし、「ゆとり」と「潤い」を実感できる生活を実現する上で大きな役割を果たすとともに、自然・歴史・文化等に関してさまざまな体験や地域との交流がなされる過程で地域の文化、経済活動を活性化させ、地域振興に大きく寄与するといわれています。さらに、国際観光は国民レベルでの直接の見聞による国際交流を通して諸外国との相互理解を増進し、友好と信頼に基づく国際社会を実現する上で大きな意義を有しています。

授業の一般目標 観光と旅行に関する基礎知識の習得と、観光と旅行の現状について理解します。

授業の計画 (全体) 観光と旅行に関しての理論研究や実証研究などを行います。 前期には下記の書物等を輪読し、観光と旅行に関する基礎知識の習得と、観光・旅行の現状について学びます。後期には、各自の興味あるテーマを一つ選び、それについての文献調査などを行い、その成果を報告します。 また、観光と旅行というテーマは、非常に多くの領域を含みますので、グループ研究として数人が共同で同じテーマに取り組み、役割分担を行って研究することも可能です。研究テーマとしては、交通や旅行はもちろん、地域および郷土の文化、歴史、神話、芸能、祭り、食文化(グルメ)、遺跡、神社仏閣、温泉、自然・環境、民族(県民)性、人工構築物なども研究テーマになります。

成績評価方法 (総合) 成績評価は、出席 (30 点)、報告 (70 点) によって行います。

教科書・参考書 教科書：『観光白書』(平成 17 年版)、国土交通省編、国立印刷局、2005 年

メッセージ 国内や海外への調査旅行に出かけますので、少々の旅行費用が必要になりますが、観光と旅行を研究するゼミですから、知恵を出し合って安価な調査旅行を実現します。また、ゼミ参加者は 4 月までにパスポートを取得しておいて下さい。 旅行の好きな人、乗り物の好きな人、温泉の好きな人、食べることが大好きな人、グルメな人、勉強の好きな人を大歓迎します。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	河野眞治				

授業の概要 多国籍企業に関する理論、行動、受入国とホーム・カントリーへの影響等を勉強する。基本文献を読むとともに、個人による研究テーマを決め、文献を探し、調査し、レポートにまとめ、発表する一を重視する。また可能なら、国内外の企業訪問調査を実施する。 / 検索キーワード 多国籍企業

授業の一般目標 直接投資に関する基礎理論を理解する。日本企業の多国籍化について、学生自身が調査し、実際の多国籍企業について学ぶ。

授業の計画 (全体) 学生のレポート発表を中心に行う。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 ゼミの運営方法について説明
- 第 2 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 3 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 4 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 5 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 6 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 7 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 8 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 9 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 10 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 11 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 12 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 13 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 14 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論
- 第 15 回 項目 学生レポート発表 内容 発表と討論

成績評価方法 (総合) レポートと討論で評価する。

教科書・参考書 教科書：なし / 参考書：なし

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	田淵太一				

授業の概要 この10年間は、米国発グローバリズムが世界の政治経済を席卷し、これまで別の秩序のもとに運営されてきた各地域の社会に浸透した時代でした。今後、このグローバリズムが勢いを増し、世界経済はますます市場原理に一元化されるのか、あるいはグローバリズムに対抗する原理が現れるのかは、私たちの経済や生活を大きく左右する重要な問題です。このゼミナールでは、世界経済全体から各国・各地域、さらには身近な問題まで、グローバリズムとそれへの対抗という視点から考察してゆきます。

授業の一般目標 2年次には、ディベート(討論)と読書能力・調査能力の養成に集中します。

授業の計画(全体) 5月いっぱいをめどに教科書を読了します。その後、希望するテーマごとに3名ずつのグループを作ります。このゼミでは、グループで調査したり考えたりした内容を報告してもらい、それにもとづいて討論を行うことに主眼を置きます。

成績評価方法(総合) 報告・討論等、ゼミナールにおける日常的な活動により評価します。授業への参加度50%、受講者の発表50%。

教科書・参考書 教科書：世界経済論, 本山美彦編著, ミネルヴァ書房, 2006年

メッセージ 授業を聞いたり練習問題を解いたりするばかりが大学の勉強ではありません。このゼミでは、グループで調査したり考えたりした内容を報告してもらい、それにもとづいて討論を行うことに主眼を置きます。「勉強」のイメージを変えてください。2, 3年次に、ゼミナール大会(学内・全国)に参加します。年に1~2回の合宿を行うことも考えています。ゼミを学生生活の中心にすえて積極参加して下さい。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは前期開始後に発表します。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	今津武				

授業の概要 グローバル化が進んだ現代、世界経済の主要な要因として開発途上国発展の視点が欠かせなくなっている。アフリカを中心とする途上国支援が、国連やG8サミットの主要議題となるのもこうした時代背景を反映しているものと考えられる。本演習では途上国の抱えるもっとも深刻な課題である「貧困」の状況を理解し、先進工業国を含めたグローバル経済の持続的発展のために、途上国支援が果たすべき役割とそうした支援を効果的に推進するための方策について考える。 / 検索キーワード 世界の貧困、国際協力、政府開発援助 (ODA)

授業の一般目標 (1) 世界の「貧困問題」について、その現状を理解する。(2) 世界の貧困の原因を議論し、そのことが私たち日本をはじめとする先進国に及ぼす影響を学習する。(3) 世界の貧困に対する地球規模での取り組みについて、国連ミレニアム開発目標 (MDGs) を中心に議論する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: グローバル社会における貧困の現状とその世界的意味を把握し、説明できる。 思考・判断の観点: 教科書の内容を整理し、その要旨に自らの考えを加え説明できる。

関心・意欲の観点: 途上国を含めた 21 世紀世界の課題につき関心を持つ。 態度の観点: 教科書を中心とした討議に、積極的に参加し的確な意見を表明出来る。国際交流や国際協力に関する活動への参加意欲を高める。 技能・表現の観点: コンピュータ等を活用し、自らの意見を解りやすく発表できる。

授業の計画 (全体) 世界銀行が「世界開発報告 2000/2001 年版: 貧困との闘い」のために実施した途上国に住む人々のインタビューをまとめた「Voice of the Poor」の翻訳である「貧しい人たちの声: 私たちの声が聞こえますか?」を教材として使用し、各学生が担当部分を読んだ上で、そこに書かれた貧困の現状やその原因、更にはどのような支援が有効かについて考え方をまとめクラスで発表し、その発表をもとに参加学生全員で議論することで授業を進めます。希望者があれば、日本のODA実施機関である国際協力機構 (JICA) の中国国際センター (東広島市) 視察を計画し、途上国からの研修員や JICA 職員との意見交換を行い、途上国の実状を身近に感じる機会を提供します

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 本講座の目標と実施方法・スケジュール説明。教科書についての説明。
- 第 2 回 項目 途上国の貧困 内容 貧困の現状とその原因につき、ミレニアム開発目標をもとに説明。
- 第 3 回 項目 途上国援助の歴史と仕組み 内容 第 2 次世界大戦後に、海外からの援助を受けた日本の経験も含め、途上国援助の歴史と世界的な枠組みについて説明。
- 第 4 回 項目 日本の国際貢献 内容 日本の政府開発援助 (ODA) の現状を説明。
- 第 5 回 項目 21 世紀の課題 内容 途上国の貧困を中心に、環境、感染症、国際犯罪等多くの課題への国際社会の取り組みを説明する。
- 第 6 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 7 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 8 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 9 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 10 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 11 回 項目 まとめ 内容 学生の発表や議論の中から重要な点について教官が補足説明を行う。
- 第 12 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。

- 第 13 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 14 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 15 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 16 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 17 回 項目 まとめ 内容 学生の発表や議論の中から重要な点について教官が補足説明を行う。
- 第 18 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 19 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 20 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 21 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 22 回 項目 学生による発表 内容 教科書の担当部分を読み、その概要と自らの意見を順次学生が発表し、その発表をもとに議論する。
- 第 23 回 項目 まとめ 内容 学生の発表や議論の中から重要な点について教官が補足説明を行う。
- 第 24 回 項目 グループ研究 内容 グループごとに途上国問題の中から課題を選び、グループで資料収集、議論等を行う。
- 第 25 回 項目 グループ研究 内容 グループごとに途上国問題の中から課題を選び、グループで資料収集、議論等を行う。
- 第 26 回 項目 グループ研究 内容 グループごとに途上国問題の中から課題を選び、グループで資料収集、議論等を行う。
- 第 27 回 項目 グループ研究発表 内容 グループ研究の結果を発表し、それぞれの課題について発表する。
- 第 28 回 項目 グループ研究発表 内容 グループ研究の結果を発表し、それぞれの課題について発表する。
- 第 29 回 項目 グループ研究発表 内容 グループ研究の結果を発表し、それぞれの課題について発表する。
- 第 30 回 項目 総括 内容 1 年間の演習の内容を教官が総括し、途上国支援の必要性を確認する。

成績評価方法 (総合) (1) 教科書の担当分野について、その概要と各自の意見をレポート (2000 字程度) にまとめ、その内容を授業で発表する。(2) グループに分かれ、貧困を中心とする 21 世紀世界の課題とその対応について議論し、その結果を発表する。(3) 出席が所定の回数に満たない場合は、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：貧しい人々の声 私たちの声が聞こえますか？、ディーパ・ナラヤン著 ("Voice of the Poor " 翻訳グループ訳), 世界銀行, 2000 年; 教科書は教官より各自に貸与します。/ 参考書：国際協力用語集 (第 3 版), 国際開発ジャーナル社, 2004 年; エコノミスト南の貧困と闘う, ウイリアム・イースタリー/小浜裕久他訳, 東洋経済新報社, 2004 年; 開発援助の経済学 (第 3 版), 西垣昭・下村恭民・辻一人, 有斐閣, 2003 年; 援助の潮流がわかる本, 国際協力機構編著, 国際協力出版会, 2003 年; 海外援助の転機, 緒方貞子編, NHK 出版, 2005 年

メッセージ 教科書は世界銀行のレポートを大学生有志が共同翻訳したものです。通常の報告書でなく、多くの貧しい人々の声を紹介した興味深い本です。この演習を通じて受講生の途上国問題への考え方の変化、理解の深まり等を世界銀行東京事務所のホームページに掲載することも計画しています。

連絡先・オフィスアワー E-mail:imazu@yamaguchi-u.ac.jp 研究室:経済学部C棟2階(C-218) オフィスアワー:金曜日 午後1時30分~4時30分

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官					

教科書・参考書 教科書：中国経済入門 目覚めた巨龍はどこへ行く, 南亮進・牧野文夫編, 日本評論社, 2001 年 ; 日本人のための中国経済再入門, 関 志雄, 東洋経済新報社, 2002 年

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	尹春志				

授業の概要 グローバリゼーションと開発にかかわる諸問題を取り上げ、世界及び日本の現状についての理解を深めることを目的とする。また、そのなかでプレゼンテーション能力やディベートの技法について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 開発・援助に関する基礎知識を身につける 思考・判断の観点： 固定観念の批判的に再考する視点を養う 技能・表現の観点： レジюме作成、プレゼンテーションの技法を身につける

授業の計画 (全体) テキストについて担当者がレジюме作成・報告を行い、それを基に討論を行うという形式で授業を進める。 また他大学ゼミとディベート大会なども開催し、報告の技法や討論の仕方について学ぶ機会も設ける。 内容は、グローバル化と呼ばれる世界経済の現状についての理解からはじめ、開発、援助、国際金融、通貨、農業といった個別テーマに進む予定。具体的な対象地域としては、日本、アジアを中心として、さらに欧米にも視野を広げること考えている。

成績評価方法 (総合) 出席と討論への参加、課題に対する取り組みを評価の基準とする

教科書・参考書 教科書： 開発援助の経済学 (第三版), 西垣昭ほか, 有斐閣, 2003 年

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	豊嘉哲				

授業の概要 国際的な貿易交渉が行われる際、農業は常に対立要因となってきた。その構図は、途上国が先進国に対して農業部門の貿易障壁撤廃を要求するが、先進国はそれを拒否するというものである。なぜ先進国は農業の保護を継続するのかといった論点を中心に、農業と世界経済の関係について考えることが、この演習の目的である。

授業の一般目標 農業という観点から、経済や貿易について自分の意見を述べるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：農業に関連する経済や貿易がどのように行われているかを理解すること。 思考・判断の観点：農業という観点から、経済や貿易について自分の意見を述べるようになること。 関心・意欲の観点：積極的に演習に参加し、自分の意見を発表すること。

授業の計画 (全体) 教科書の輪読と、グループでの研究発表。毎週、教科書に沿って、輪読と研究発表を進めていく。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 戦後の貿易体制と GATT
- 第 2 回 項目 農産物をめぐる戦後の国際関係
- 第 3 回 項目 WTO における農産物貿易体制 1
- 第 4 回 項目 WTO における農産物貿易体制 2
- 第 5 回 項目 先進国の農政転換 1
- 第 6 回 項目 先進国の農政転換 2
- 第 7 回 項目 第 7 週以降の内容は、学生の関心を参考に決定する。
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 出席が 50 % , 授業中の発表が 50 %。

教科書・参考書 教科書：WTO と世界農業, 村田武, 筑波書房, 2003 年

メッセージ 積極的に自分の意見を述べる学生を歓迎します。

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	李海峰				

授業の概要 中国経済と日本および他のアジア諸国経済との関連を中心に分析し、将来を展望する。 / 検索キーワード 中国社会経済と日本、東アジア社会経済、国際化、

授業の一般目標 中国の社会経済と国際化の実態分析を通して、中国と日本および他の東アジア諸国との経済、ビジネスにおける競争・協力関係を検討し、国際的に活躍できる人材の育成をめざす。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 計画経済から市場経済への転換
- 第 2 回 項目 中国経済の発展と東アジアの社会経済
- 第 3 回 項目 中国と ASEAN
- 第 4 回 項目 中国と香港・台湾
- 第 5 回 項目 中国の情報技術産業の育成
- 第 6 回 項目 中国の自動車産業
- 第 7 回 項目 社会主義市場経済と国有企業の改革
- 第 8 回 項目 中国の金融システムの変革と現状
- 第 9 回 項目 中国の株式市場
- 第 10 回 項目 世界市場環境と中国
- 第 11 回 項目 欧米、日本企業の中国への進出、競争
- 第 12 回 項目 消費生活から見た中国の社会経済変化
- 第 13 回 項目 地域的、階層的格差の拡大
- 第 14 回 項目 開発と環境汚染
- 第 15 回 項目 社会経済についての調査を考える

教科書・参考書 教科書：第一回目の演習の際に指示する / 参考書：第一回目の演習の際に指示する

メッセージ 充実しておもしろい知的な道を探求しましょう、

連絡先・オフィスアワー 研究室

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 日々の新聞記事の法律関係記事をみてその内容が理解できるようにする。

授業の一般目標 新聞記事の法律関係記事がどのような法律に関わり、どのような問題があるのか理解する。

授業の計画 (全体) 新聞記事の法律関係に記事を見て、法律的出来事を六法に照らして理解できるようにする。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 法律記事の見方 内容 実際の法律関係記事が理解できること 授業外指示 新聞記事を読みスクラップする
- 第 2 回 項目 憲法関係 内容 以下、同様 授業外指示 以下、同様
- 第 3 回 項目 憲法関係
- 第 4 回 項目 民法関係
- 第 5 回 項目 民法関係
- 第 6 回 項目 民法関係
- 第 7 回 項目 刑法関係
- 第 8 回 項目 刑法関係
- 第 9 回 項目 労働法関係
- 第 10 回 項目 労働法関係
- 第 11 回 項目 社会保障法関係
- 第 12 回 項目 社会保障法関係
- 第 13 回 項目 行政法関係
- 第 14 回 項目 訴訟法関係
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 日頃の学習における報告、討論をなによりも重視し、レポート等の表現力をみる。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	立山紘毅				

授業の概要 憲法を通じて社会現象を分析し、法的な思考とともに社会全体を鳥瞰する視野を養うことを目的とする。素材としては、近時の裁判例や学説の動向といった問題をきっかけとする場合もあれば、直近の事件や話題から議論を展開する場合もある。国の最高法規というだけあって、間口も広ければ奥行きも深い演習としたい。

授業の一般目標 上記の概要を、共同作業や講義以上に密な討論を通じて達成する。

授業の計画 (全体) 参加者全員の討議によって決定する。

成績評価方法 (総合) 出席および報告を通じて評価する。

教科書・参考書 教科書：特に定めないが、講義で使用する芦部信喜『憲法』(岩波書店)を指定する。/
参考書：特に定めないが、近時「法科大学院向け」と称して発行されている教科書は、最高裁判決の解釈に終わるものがほとんどで水準が低いため、使用しない。むしろ、従来から出版されている体系書や研究書を指定することが多い。しいて一冊あげれば、浦部法穂『憲法学教室』(日本評論社)をあげておく。なお、小六法または模範六法は必携である(コンパクト六法クラスのものでは不十分)。

メッセージ ゼミ専用のメーリングリストを作るので、携帯以外のメール・アドレス(大学から一つずつ発行されているはず)を準備しておくこと。

連絡先・オフィスアワー tateyama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	青 達朗				

授業の概要 税法の基礎知識の習得と問題処理能力の向上が目的です。難解な税法に取り組むための第一段階です。自分で考えることが重要です。

授業の一般目標 税法全般の概略的知識と社会現象への応用のための分析能力の醸成を目標とします。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：租税手続法と租税実体法の用語を理解し使用できる。 思考・判断の観点：社会事象に対して、税務上の問題点を抽出できる。 関心・意欲の観点：経済活動に関心を持ち、理解できる。

授業の計画 (全体) 前期は、税法総論の補完的授業を中心として、後期は所得税及び法人税の判例等の事例を中心に授業を進めていきます。

成績評価方法 (総合) ゼミへの参加状況、発言、理解度等を総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：ケースブック租税法, 金子宏他, 弘文堂, 2005 年; プリント配布

メッセージ 税法は難解ですが、この社会が難解であり、それを反映しているからです。学習の素材は無限です。それを拾えるか否かです。

連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	安里全勝				

授業の概要 刑法総論、各論の重要問題を考察していく。判例を考察しながら、刑法理論が具体的事案の解決にどのように適用されているかを見ていく。

授業の一般目標 刑法がどのような法律であるかを理解して貰う。その為に、刑法総論と各論の重要問題を考察していく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 刑法がどのような法律であることを理解してもらおう。 思考・判断の観点： 法的思考の考察ということから、判例を考察し、刑法理論が具体的事案にどのように適用されているかを見ていく。

授業の計画 (全体) 前期は刑法総論、後期は各論の重要問題を考察していく。

成績評価方法 (総合) レポートと出席状況を総合して成績の評価を行う。

教科書・参考書 教科書： 刑法総論講義案, 安里全勝, 成文堂, 2005 年 ; 演習ノート刑法総論, 斉藤誠二編, 法学書院, 2005 年 ; 演習ノート刑法各論, 岡野光男編, 法学書院, 2003 年

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	三間地光宏				

授業の概要 「演習 I」と「演習 II」とを履修することで民法全体をしっかりと理解できるようにする。学習の順序など詳細については受講者と相談のうえで決めたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：民法の基礎知識を身に付ける。 思考・判断の観点：法的思考を身につける。 関心・意欲の観点：毎回のテーマについて予習・復習をする。わからないことについては積極的に質問する。 態度の観点：毎回のテーマについて予習・復習をする。積極的に発言する。 技能・表現の観点：報告・質疑応答を適切に行う。

授業の計画 (全体) 演習 1 (および演習 2 の前半) ではテキストを中心に民法全体を学習する。学習の順序については受講生と相談して決める。

成績評価方法 (総合) 平常点による。

教科書・参考書 教科書：未定。 / 参考書：適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは未定。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 現代リベラリズムの再検討 / 検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

授業の一般目標 リベラリズムについての総合的な理解。

授業の計画 (全体) 主要なテキストを輪読しつつ、報告者にハンドアウトを作成してもらって議論する。

成績評価方法 (総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度を考慮して、総合的に評価する。

連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	一ノ澤直人				

授業の概要 テーマ 商法の現代的な諸問題を研究する

授業の一般目標 商法の現代的な諸問題を通して法的な思考方法を身につけることを目的とする。

授業の計画 (全体) 演習の目標を達成するため、前半は、商法とくに手形・小切手法、会社法の基礎的な事項を最初に確認し、演習後半で裁判例を素材にして討論研究を進めていきたい。演習の進め方は対話形式で基礎的な事項を確認していき、法的な思考が身に付いた段階で裁判例を素材に報告、討論を進めていく。対話形式、報告、討論を原則とすることで、自分で積極的に法的思考ができるようにしていきたい。この点期末に自ら積極的に法的に問題を探求できるようにするため、各自に小論文 (ゼミ論) をまとめる機会をつくりたい。受講生の状況をみて演習の進度を調整する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 報告準備について
- 第 3 回 項目 演習
- 第 4 回 項目 演習
- 第 5 回 項目 演習
- 第 6 回 項目 演習
- 第 7 回 項目 演習
- 第 8 回 項目 演習
- 第 9 回 項目 演習
- 第 10 回 項目 演習
- 第 11 回 項目 演習
- 第 12 回 項目 演習
- 第 13 回 項目 演習
- 第 14 回 項目 演習
- 第 15 回 項目 演習
- 第 16 回 項目 演習
- 第 17 回 項目 演習
- 第 18 回 項目 演習
- 第 19 回 項目 演習
- 第 20 回 項目 演習
- 第 21 回 項目 演習
- 第 22 回 項目 演習
- 第 23 回 項目 演習
- 第 24 回 項目 演習
- 第 25 回 項目 演習
- 第 26 回 項目 ゼミ論について
- 第 27 回 項目 ゼミ論検討
- 第 28 回 項目 ゼミ論検討
- 第 29 回 項目 ゼミ論検討
- 第 30 回 項目 ゼミ論報告

成績評価方法 (総合) 日常の演習への参加の積極度、ゼミ論等によって評価する。自ら積極的に研究して問題点を見つけ、他者と討論ができるような法的思考が身につけられれば、問題がない。なお演習において発言をせず、もっぱら受け身の場合は、欠席扱いとする。

教科書・参考書 教科書：ブリッジブック商法, 永井和之編, 信山社, 2002年；六法必携、『有斐閣判例六法』等、自分にあつたものを持参すること。/ 参考書：他の参考書等は適宜演習において連絡する。

メッセージ 自分で問題意識をもって、商法を通じて法的な思考を身につけたいという人を希望する。なお、一方通行の講義を希望する場合は、本演習は向かない。積極的に研究し、討論に参加することが条件である。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 この授業では、主に具体的問題(判例)の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、授業への主体的な参加が要求される。

授業の一般目標 具体的には、行政関係の判例を取り上げて、判例研究を行う。取り上げる判例は、参加者が教官と相談の上、決定する(特に勉強してみたい領域、トピックがあれば、それを優先する)。報告には次の内容を含めるものとする。(1) 事実の概要 (2) 判決の要旨 (3) 簡単な評釈(学説、私見など) 授業の進め方や使用教材などの詳細は初回に説明するが、いずれにせよ、ただ聴くのではなく、レジュメ作成という作業を負担する(受講人数にもよるが、1人1回程度を目標としている)。しかし、負担は、自分の力を伸ばす絶好の機会でもある。

教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。 / 参考書：開講時に指示する。

メッセージ 一緒に頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。(経済学部 A 棟 408 室)

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	鴨川啓信				

授業の概要 文化の諸相を批評的に読み解く演習を行う。 広義でとらえると、人の精神の働きに基づく全ての事象は「文化」と定義できる。従って、この演習で取り上げられる題材は、評価の高い芸術作品から通俗的な娯楽作品まで、または新しい価値観を生み出すような活動から既製品の消費活動まで、非常に広範囲にわたる可能性がある。むしろこの演習は、取り上げた題材を自分なりの考えで分析する練習の場、そしてその分析に対する他人の考えを聞くことで「自分なりの考え」自体にも分析の光を当ててみる思考訓練を行う場としたい。

授業の一般目標 批評的思考法を身に付ける。

授業の計画 (全体) 年間計画: 最初は、題材の選び方と分析方法の基本を学習する。その後、分析と発表の実践 (及び他演習参加者の発表の聴講) を繰り返して、各人の手法を身に付けてもらう。 年度末には、演習で発表した分析の 1 つを最終レポートとしてまとめてもらう。 各回の進め方: 前もって 1・2 人の発表担当者を決め、発表担当者は自分の興味に応じて自由に題材を選び、その題材に関して問題設定・分析を行い、その成果を他の演習参加者に対して発表する。発表を聞いた者達は、その発表について質問やコメントを加える。このやりとりを通して、発表者・聴講者共に文化事象を批評的に見る目を鍛え、分析や発表の技術に磨きをかけてもらう。

成績評価方法 (総合) 自分の発表及び他参加者の発表に対する質問等の演習参加度 + 最終レポート、で評価する。

連絡先・オフィスアワー e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 経済 A207

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 今日では、人類の生産力（対自然支配力）はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。

授業の一般目標 本演習は、環境経済学の分野において、それに関わる文献を輪読し、ゼミ参加者における理解、分析能力を高め、行うべき政策に関して自ら評価できるような水準まで、必要な知識を身に付けることを目標にしている。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画（全体） 経済学は環境問題の解決に役に立つのか。環境問題とは何か。環境問題はなぜ発生するか。値段のない環境には価値がないのか。環境の価値をどのようにとらえるべきか。環境の変化に対し、消費者はどのように行動するか。環境を保全するためにはどうしたらよいのか。これまでどのような環境政策が実施され、現在どのような政策が検討されているのか。政策手段を評価する基準は何か。また、地球規模の環境問題とは何か。その特徴は。地球環境保全の取り組みは、どこまで進んでいるか。いかなる仕組みをつくるべきか。これらの問題について、以下の視点から考察する。（1）環境、自然資源と経済（2）経済主体間の関係としての環境問題（3）公共財としての環境（4）環境価値の計測手法（5）公害裁判 - 賠償責任の経済学（6）日本の環境政策（7）環境政策の評価基準（8）環境課徴金、環境税及び排出許可証取引（9）地球規模の環境問題（10）地球環境保全の取り組み

成績評価方法（総合） 成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と報告（30%）で行う。

教科書・参考書 教科書：環境経済学、植田和弘、岩波書店、1996年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年；アジア環境白書、日本環境会議「アジア環境白書編集委員会」、東洋経済新報社、2000年 / 参考書：演習の進捗状況を考慮しその都度指示する。

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	武本ティモシー				

授業の概要 文化心理はある文化の中での考え方を調べる。文化が心理に対して及ぼす影響の大きさは、次第に理解されつつある。「能力主義」、「オンリーワン教育」、「自己主張」、「ホラー映画」、これらの現象はどれも文化心理に影響されていることが最近実証されてきた。文化心理学・異文化コミュニケーションという分野を紹介しながら、文化の心理と観光の関係を考察する。最終的にはゼミ生には、卒論として学生を相手にした調査・実験を行ってもらおう。/ 検索キーワード 文化心理学・英語能力・パソコン技術・自己主張能力

授業の一般目標 1) 日本文化心理の特徴、を文化心理学的な観点から考え、調査・実験によって実証的に調べること。 2) 自己表現と発表の能力向上 3) 英語とインターネットの技能を身に付けること

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 文化心理学の概要を理解すること。 2. 怖いもの・面白いもの・嫌いなものの文化依存性についての理論を説明できること。 思考・判断の観点: 実証的研究の方法を取得すること。 関心・意欲の観点: 文化心理学に関心を示すようになること。 態度の観点: 自己開示・自己表現・自他の批判・討論への抵抗を取り除き、日本語及び英語で英語でより積極的に言語的コミュニケーションの心を育つこと。 技能・表現の観点: 発表・議論・自己表現・英語コミュニケーションとしてインターネットによるコミュニケーションのスキルを高める。

授業の計画 (全体) 学生が (最初は) 教科書 (後は) 研究について発表し議論することです。ご要望があれば英語でも話し合います。

成績評価方法 (総合) 最終的には面白い卒論を書いてもらうとよいですが、そのためにはある程度研究について読まなければなりません。そのために、発表の資料 (普通は本の一章) を読んできていただきたいです。読んだかどうか大きなポイントになります。

教科書・参考書 参考書: 社会心理学: アジア的視点から (放送大学教材; 58672-1-9811) 三訂版, 山口勸 編著, 放送大学教育振興会, 1998 年; 木を見る西洋人 森を見る東洋人, ニスベット, R. E., ダイヤモンド社, 2004 年

メッセージ 発表・議論・研究・調査ができるように頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー メール tim@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室: 経済 4 階経済学部玄関上 ゼミホームページ <http://timtak.com>

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	2 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	朝日幸代				

授業の概要 本授業の目的は、観光および地域経済に関する知識を増やすことによって、現在直面する多様な問題を解決のために必要な考え方・そのための能力を養うことである。そのために、観光および地域経済に関する現状と地域経済政策の基礎となる理論を講義するとともに、観光および経済に対する数量分析を行える能力を養うためのコンピュータ実習を行う。各地で行われているイベントの経済波及効果の分析や観光および経済における環境問題についても逐次取り扱う。また、学生が興味を持つテーマにあわせて、レポート作成やプレゼンテーション技術のサポートを行う他、学生が観光を研究するために必要な体験をしていただける場の提供を検討し、進めていく予定である。

授業の一般目標 ・現実の観光、社会や経済問題について理解をし、それについての情報および関連するデータを収集することができる。 ・授業で取り扱うデータや様々な統計データの特徴や問題点を理解し、経済分析に適切に利用することができる。 ・観光や経済に関するレポートを作成する中で、レポートのテーマに合わせた統計データと分析ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： ・観光および社会や経済の問題について、経済学的な観点で理解することができる。 ・授業で取り扱った統計および計量経済学的手法を理解し、レポート作成時に活用することができる。 思考・判断の観点： ・現実の観光や社会、経済の問題について、経済学的な観点から理解したことを、それがどのような意味をもっているのかを思考し、判断できる。 関心・意欲の観点： ・観光および社会や経済の問題について、高い関心を持ち、それについて自ら情報収集する。 ・自ら情報収集をしたり、授業で取り扱った内容を用いて、レポート作成に取り組むことができる。 ・ゼミのメンバーの考え方や意見に関心をもつとともに、自らの考え方や意見も積極的に述べるができる。 態度の観点： ・学ぶことに積極的かつ真摯に向うことができること。 ・ゼミのメンバーの考え方等も尊重する中で、自分の考えや意見を述べるができる。 技能・表現の観点： ・レポートや輪読のレジメ作成において、適切な情報およびデータを用いながら分かりやすく作成することができる。 ・レポートや輪読のレジメの発表において、聞き手の立場に立って分かりやすくプレゼンテーションをすることができる

授業の計画 (全体) 1 . 観光、地域経済に関する文献の輪読 (観光経済入門をはじめ、その他の観光経済および地域経済の文献を読み、その内容について報告、さらにディスカッションを行う。) 2 . 計量経済手法を学ぶための実習授業 (エクセルや計量経済分析用アプリケーションを用いた計量経済分析および産業連関分析を学ぶために、コンピュータ講義室で実習する。自らがデータ分析を経験し、分析結果としてとりまとめる。) 3 . 学生が関心のあるテーマに対するレポート報告 (文献の輪読および実習で学んだことを利用し、学生はレポートを作成し、講義中に発表する。レポート作成に必要な文献、コンピュータ操作に対するアドバイスをするとともに、パワーポイントを利用したプレゼンテーション方法も講義中に提供する。) 4 . 観光地域への訪問研修 (教員と学生が観光地域への訪問を行うことを相談した上で、最終的に本研修の有無を決めるが、可能であれば、集客に成功している観光地域や学生が興味を持っている観光地への訪問研修を行う予定である。)

成績評価方法 (総合) レジメやレポートの作成内容やそれぞれのプレゼンテーションへの取組み、実習講義やゼミで行う観光研修をはじめとする観光を学ぶための活動への積極的かつ意欲的な参加について評価する。

教科書・参考書 教科書：観光経済学入門, ジェームズ・マック, 日本評論社, 2005 年; 産業連関分析入門, 宮沢健一, 日本経済新聞社, 2002 年; 入手すべきその他のテキストは演習所属学生に対して別途紹介する。 / 参考書：産業連関分析入門, 藤川清史, 日本評論社, 2005 年; Excel による産業連関分析入門, 井出眞弘, 産業能率大学出版部, 2004 年; 実践計量経済学入門, 山澤成康, 日本評論社, 2005 年; その他の参考文献は演習所属学生に対して別途紹介する。

メッセージ 経済学科、観光政策学科における経済に関する数多くの授業を積極的に履修して下さい。特に関連科目の履修は演習1で学ぶ内容をより充実することにつながるため、ぜひ履修をお願いしたいと思います。また、演習Iは毎週授業に参加することによって学べる内容も多いため必ず出席をして下さい。このゼミは、学生の皆さんが主役です。学生同士が協力しながら、学ぶことで刺激し合える仲間のゼミになれば、ゼミを担当する者として大変うれしく思います。

連絡先・オフィスアワー asahi@yamaguchi-u.ac.jp

演習

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤井大司郎				

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 公共選択 内容 資源配分の公的メカニズム、公共財水準を決定する代替的機構
- 第 2 回 項目 公共選択 内容 政治学と経済学
- 第 3 回 項目 公的生産と官僚制度 内容 自然独占：私的財の公的生産、公共部門と民間部門での効率性の比較
- 第 4 回 項目 公的生産と官僚制度 内容 公共部門での非効率性の原因、法人化、生産面における政府の役割に関するコンセンサスの形成
- 第 5 回 項目 外部性と環境問題 内容 外部性の問題、外部性の私的解決策
- 第 6 回 項目 外部性と環境問題 内容 外部性の公的解決策、環境保護と政府の役割の実際
- 第 7 回 項目 租税：入門 内容 背景、どのような租税制度にも望まれる五つの特徴
- 第 8 回 項目 租税：入門 内容 租税制度を選択するための一般的フレームワーク
- 第 9 回 項目 租税の帰着 内容 競争市場における租税の帰着、完全競争ではない場合の租税の帰着
- 第 10 回 項目 租税の帰着 内容 同等な租税、租税の帰着の分析に影響を及ぼすその他の諸要因
- 第 11 回 項目 租税と経済効率 内容 消費者によって負担される税の効果、資源配分上のゆがみの数量化
- 第 12 回 項目 租税と経済効率 内容 生産者によって負担される税の効果、貯蓄に対する課税
- 第 13 回 項目 租税と経済効率 内容 労働所得に対する課税、租税が労働供給に及ぼす効果の測定
- 第 14 回 項目 最適課税 内容 最適課税の二つの誤謬、最適課税とパレート効率的な課税
- 第 15 回 項目 最適課税 内容 差別的課税、生産者に対する課税

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	塚田広人				

授業の概要 卒業論文の作成 / 検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性 福祉国家

授業の一般目標 卒業論文の作成

メッセージ 楽しく、しっかり、学びましょう

連絡先・オフィスアワー 933 - 5558 ht@yamaguchi-u.ac.jp A 棟 424 号室 水曜日 1 時半 - 3 時 (在室時はいつでも可)

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	植村高久				

授業の概要 I. テーマ 現代日本経済の歴史的考察 1.1980 年から 2006 年までの日本経済の現状を経済、産業、消費生活の面から分担して研究し、実状を把握することに努める。2. 各自が興味を持つ個別テーマを決めて、意識的に研究を進めていくことを中心にする。/ 検索キーワード 現代日本経済論、グローバル化、少子高齢化、雇用不安

授業の一般目標 現在の日本経済の状況について、概略説明できる。日本経済の問題点とその原因について、説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：日本経済の現状とさまざまな問題・解決法を簡潔に述べるができる。 思考・判断の観点： 様々な社会的選択肢の結果と意味を理解し、自己責任で選択肢を選ぶことができる。 関心・意欲の観点： 日本経済の特定の焦点的課題や特徴のうち 1 つまたは複数について、様々な主張や論点を積極的に理解しようとする。 態度の観点： 様々な問題を自力で理解し、自分の言葉で説明しようとする積極性を身につけること。

授業の計画 (全体) 1. 日経新聞を継続的に購読し、その中から継続的に 1 テーマを追跡して報告する「日経新聞を読む」を 1 年間行う。2. 前期は大きなテーマを扱うグループ学習を行い、輪番で報告してもらう。3. 後期は就職準備期にあたるので、進路等に関して各人の考えを述べてもらう「3 分間スピーチ」を行い、意見を交換する。

教科書・参考書 教科書： 授業内で指示する。

メッセージ テーマを持って大学生活を送ることが、中心的な課題です。それに向けて、精一杯頑張ること。

連絡先・オフィスアワー Phone:083-933-5593 e-mail:uemura@yamaguchi-u.ac.jp 随時来室可です。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 1. 毎週読書レポートを提出する。 2. 各自月に 1 度、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。 3. TOEIC で 500 点以上取る。

授業の一般目標 研究テーマは、個人の自由です。各自のテーマを深く追求するとともに、幅広い知識を持った T 型スペシャリストを目指します。具体的には、以下の能力を身につけることを目標とします。

1. 幅広い教養を身に付けること。
2. 問題解決能力、分析能力を高めること。
3. 企画力・創造力を高めること。
4. プレゼンテーション能力を高めること。
5. コミュニケーション能力 (英語を含む) を高めること。
6. データ処理能力、事務処理能力を高めること。
7. 判断力を高める。

授業の計画 (全体) 1. 毎週発表者を決めて、順にプレゼンテーションを行う。 2. 半期に数回ディベートを行う。

成績評価方法 (総合) 出席と演習時間の発表、提出レポート、TOEIC のスコア等で総合的に判断する。

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 わが国の金融システムの今後について / 検索キーワード 金融、ゼミ、演習、プレゼンテーション、ディベート

授業の一般目標 演習の総仕上げとして、より一層のプレゼンテーション能力、およびディベート能力を高めることを目標とする。また、経済事象について、より理論的な考察ができるようにする。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 金融システムの現状把握
- 第 3 回 項目 わが国の金融システムの問題点を探る
- 第 4 回 項目 変わり行く金融システムの将来展望
- 第 5 回 項目 基礎金融理論の理解
- 第 6 回 項目 基礎貨幣理論の理解
- 第 7 回 項目 グローバルな視点からみた金融システム
- 第 8 回 項目 世界各国の金融システムの特徴
- 第 9 回 項目 討論大会参加のためのテーマ設定
- 第 10 回 項目 討論大会参加のための論文作成
- 第 11 回 項目 論文作成のための資料収集方法の取得
- 第 12 回 項目 論文作成のための意見の集約
- 第 13 回 項目 ディベートの訓練
- 第 14 回 項目 ディベートの実践
- 第 15 回 項目 その他

メッセージ ゼミに関する詳しい活動内容は当ゼミのホームページ (<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/thyodo>) を参照のこと。できるだけ、受動的に「教わる」のではなく、自ら「学ぶ」意欲のある学生の参加を望む。

連絡先・オフィスアワー thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	寺地伸二				

授業の概要 経済や社会の問題について、関心を持ち、自分なりの意見が言えるようになる、

授業の一般目標 1 , 経済や社会のさまざまな問題に対して興味をもってもらうと同時に、問題点の整理の仕方、発表の仕方なども学習していきます。 2 , グループ学習を通じて、自分なりの、ものの見方・考え方を身につけてもらいたいと思っています。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	木部和昭				

授業の概要 演習 I に引き続き、近代日本経済史を学ぶ。具体的には「企業・人物から見た日本経済史」、「地域経済の歴史」を中心に扱う。また、史料の講読および分析も並行して進める。こうした取り組みの中から、次年度の卒業論文作成に向けて、自分なりの課題を見出していく。/ 検索キーワード 日本経済史、日本史、近代史

授業の一般目標 (1) 明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を目指す。(2) 身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析する能力を身につける。(3) 史資料を用いた歴史の実証が行えるようにする。(4) 卒業論文に向けた自分なりの課題を見出す。

授業の計画 (全体) (1) 前期は、昨年度に引き続き「企業・人物から見た日本経済史」の報告を中心に進める。(2) 『防長新聞』や山口県関係の近代行政文書を中心に、史料講読を行う。(3) 今年も夏休みには課題を出す。テーマは「地域経済の歴史」で、各自の身近な地域を取り上げ、その経済・産業などの歴史を掘り起こしてもらおう。(4) 後期は、「地域経済の歴史」に関する各自のレポート報告を中心に進める。(5) 4 年生に向けて自分の取り組むべき課題を模索する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「企業・人物から見た日本経済史」の報告 (前期)
- 第 2 回 項目 『防長新聞』や山口県関係の近代行政文書を中心とした史料講読 (前期)
- 第 3 回 項目 夏休みの課題: レポート「地域経済の歴史」(夏期休業中)
- 第 4 回 項目 「地域経済の歴史」に関するレポート報告 (後期)
- 第 5 回 項目 卒業論文テーマの絞り込み (後期)
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 順番に担当してもらう報告、夏休みレポートの内容によって評価する。報告者以外は、報告内容をまとめたノートを提出させるが、これも評価の対象となる。報告 45 %、授業内小レポート 15 %、夏休みレポート 30 %、授業態度 10 % 欠席が多い者は不合格となる。

教科書・参考書 教科書: 演習 I で使用したテキストを今後も使用する。それ以外は適宜プリントで配布する。/ 参考書: テキスト以外の参考文献は適宜紹介する。授業で使用する場合は、コピーを配布する。

メッセージ ・3 年の終わりには、就職活動等が忙しくなる。その前に、卒業論文に向けて、自分なりの興味関心を養って欲しい。・きちんと出席しないと単位が出ないで注意。・自分の割り当てられた報告を放棄した場合は、別に数倍の課題を出させるので、一生懸命に取り組むこと。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	野村淳一				

授業の概要 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学(計量経済学)を用いることを必要とします。演習 II では、引き続きブランチャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。並行して、卒表論文のテーマを選んだ人については、(1) 先行研究のサーベイ、(2) 関連データの収集、(3) 分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、を行い、適宜進行状況について報告をしてもらいます。また、全国ゼミナール対抗討論大会へ参加するために、日本経済や経済統計に関する論文を作成し、論文作成に必要な知識を包括的に修得します。討論大会では、自分の主張をいかに効果的に発表するかを考えます。上記のような作業を通して、3 年次終了までに卒業論文に必要な準備を全て終えます。

授業の一般目標 ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 標準的なマクロ経済理論を理解できている。 基本的な統計学の手法を修得している。 自分のテーマに関する先行研究、統計データ、分析手法を理解できている。 思考・判断の観点： 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 関心・意欲の観点： 現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。 態度の観点： 事前の準備を十分に行い、他者の発表に対しても真摯に議論できる。 技能・表現の観点： 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。 統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画(全体) 演習 II では、引き続きブランチャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強する。教科書の下巻からは、より複雑で包括的なモデルが展開されており、経済学の思考方法修得のための良い訓練となると考えられる。また、こうしたモデルを用いることによって、現実の経済問題への理解がより深まり、その解決策について考察することが可能となる。演習 II では、知識として得られた経済モデルを現実の経済問題へ適用し、その解決策について議論を深める。その際、出来るだけ現実の経済データに基づいた客観的で定量的な分析を心がける。また、演習 I の終わりに選んだテーマについて、(1) 先行研究のサーベイ、(2) 関連データの収集、(3) 分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、を行い、適宜進行状況について報告をしてもらい、3 年次終了までに卒業論文に必要な準備を全て終える。

成績評価方法(総合) 授業における態度(発表、質問等)と参加意欲により判定する(評価割合 100%)

教科書・参考書 教科書：『マクロ経済学』(上)(下)、ブランチャール、東洋経済、1999 年 / 参考書：『ミクロ経済学』、武隈慎一、新世社、1999 年

メッセージ 数学を用いた厳密な論理構成は慣れないうちはかえって分かり難いという印象を持つと思いますが、前提条件や仮定を明示し、分析の限界を明らかにしながら論理を展開するという技能は、あらゆる分野で有効なものだと思います。自分の関心のあるテーマの先行研究を参考に、まずは慣れることから始めましょう。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける(講義中に指示)

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 ただ現状を批判するだけのプレゼン、評論家風で他人事のようなプレゼンをすること、これが上手いプレゼンだと思いきっているプレゼンターがいます。しかし誰もそんなプレゼンを聞きたくありません。「だから何なの?」と感じるだけです。そこでこの演習では前向きな提案型プレゼンを出来るように、提案型プレゼンに必要な時事経済の知識、そしてパソコンを利用した経済分析を勉強します。

授業の一般目標 パソコンを利用した経済分析に慣れること。 時事経済の知識、パソコンによる分析の 2 本柱から、提案をとまなうプレゼンをすること。

授業の計画 (全体) 以下の 1 と 2 を隔週で実施。 1 : 時事経済に関する知識を蓄えるため、テキストを報告。その後質疑応答を受けつけ、長続きするディスカッションテーマによるディスカッションを実施。 2 : パソコンを利用した経済分析に必要な経済分析手法を教員が説明。その後、ゼミ生に実習してもらう。また宿題もやってもらう。

成績評価方法 (総合) 報告・ディスカッション参加度合い、宿題などから総合評価。

教科書・参考書 教科書 : 別途指示する。

メッセージ この演習はハードです。ディスカッションはまごまごしていたら、取り残されます。間違ってもつまずいていいから、とにかく何か話そう。パソコンによる経済分析はマスターすれば、いろんな場面 (卒論や就職後も) で使えます。

連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	濱島清史				

授業の概要 キャリア形成 (人材育成) ならびに社会政策論 (特に年金問題) を中心に進めていく。またそれと関連するように、就職内定率が低迷する中、産業・企業・職能 (職業) 研究を進めていきたい。これは3年生から就職対策をするというよりも、キャリア形成論や産業・企業・職能 (職業) 研究は本格的にやろうとすれば数年は要し、そして就職活動においても、それ以上に社会に出てから有益だからである。学問研究と就職活動との相乗効果を狙う。なお、労働経済論を履修すること。専門性を深めるためには、ゼミだけでは不十分で、関連する講義課題によって補強しなければならないからである。 / 検索キーワード キャリア形成、人材育成、社会政策論、労働経済論、介護保険。

授業の一般目標 第一に、ゼミでの研究を通して充実した学生生活を送ること。即ち、何らかの困難に遭遇した時に、それを克服するストーリーを語れるようにすること。第二に、将来のキャリア・ビジョンを描けるようにすること。第三に、社会に出てから有益な知識と思考力を養うこと。以上を一般的な目標とする。より具体的には、キャリア形成ならびに社会政策論の基礎知識を習得し、自ら主体的に関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して調べて、論理的な文章展開能力をレポートによって涵養し、さらにプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート能力を磨いていきたい。このゼミ生はゼミの時間に結構発言するので、今年はそれよりレポート作成能力等を鍛えられたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 基礎的な知識をまだもっと身につけなければならないが、今年はさらに関連文献を読破していき、専門知識を培ってほしい。 **思考・判断の観点：** レポートによる論理的思考能力をさらに向上させ、とりわけプレゼンテーション、ディベート、ディスカッションによるより実践的なコミュニケーション能力の醸成を重視したい。 **関心・意欲の観点：** 自ら主体的に関心のある産業・企業・職能を調べ、その知識をゼミ生相互でシェアし合い、専門領域を確保しつつあらゆる産業に関心を抱いて互いに啓発し合えるようにしたい。ある程度できてきているが、さらに飛躍的に発展していかなければならない。そのためには格段の努力に向けた意識改革が必要であろう。 **態度の観点：** 人間の記憶力は曖昧である。単に聴いているのではなく、糧となると思われるところはメモを取る。さらに、積極的に自己アピールをしてほしい。ゼミで活発に討論して、自己主張してほしい。また各自、それぞれの担当領域でリーダーシップを発揮してほしい。 **技能・表現の観点：** プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてほしい。 **その他の観点：** 特に今年は、社会貢献や人道的観点も養いたい。そうでないと、個人的な狭い利害関係でしか、考えられないような人間になってしまうからである。将来、社会に出てから、大きく活躍するためにも、社会に貢献するという大望が必要である。具体的には、第三世界の貧困問題などに関するボランティア活動などへの参画である。(勿論、強制はしない。)

授業の計画 (全体) 昨年、前期は民間企業のキャリア形成ならびに人事システムについて、後期は年金・介護保険問題に関してゼミナール大会全国大会を通して論文作成や討論を行ってきた。今年はその成果を踏まえて、まず前期は各自の関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して研究を進めていき、さらに社会政策関連のテキストを輪読していきたい。秋のゼミナール大会全国大会を前半のヤマとし、それ以降は各自の関心に沿って論文集に編集することを目標とする。

成績評価方法 (総合) 主にレポートとレジュメ・発表による。プレゼン、討論能力も期待するが、成績評価よりも各自の努力に委ねるべきだろう。

教科書・参考書 教科書：「福祉政府」への提言, 神野直彦, 金子勝編, 岩波書店, 1999年; 神野直彦・金子勝 (1999) 『「福祉政府」への提言』岩波書店。 / 参考書：適宜指示する。

メッセージ 現場第一主義 さらに活発に議論を交え、活気とガッツのあるゼミにしていこう。

連絡先・オフィスアワー : 083 - 933 - 5521. Eメール・アドレス : hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	鍋山祥子				

授業の概要 私たちが日頃考えていることや興味を持っていること、逆に納得がいけないことって、実は立派な「学問」につながっていたりする。せっかく大学生をやっているんだから、自分と学問とのつながりについて、じっくり考える機会があってもいいんじゃない？ 私がもっとも重視するのは、この「内発的な問題意識」です。 演習 II の進め方は、4 年次までの長期計画のもとに組み立てられています。まず 2 年次 (演習 I) には、できるだけ多くの社会問題の存在にふれ、何故それが社会問題として取り上げられているのか、という背景についての理解を深めます (社会学的思考の習得)。3 年次 (演習 II) には、KJ 法を活用してゼミ員全体による「問題意識の地図」を描いた後、個々人の問題意識を文献・資料研究によって各自が追求し、ゼミでの報告・議論をおこないます。そして、4 年次には「自分なりの卒論」をまとめ上げます。こうしてできた卒論は大学時代、あるいは今までの人生の集大成になることでしょう。

本ゼミに求められる姿勢は、ゼミ内で「自分をさらけ出す勇気」と「自分がゼミを創っていくという当事者意識」です。最後に、参考までに私の研究領域をキーワードで述べると、高齢社会・社会政策・ケア論・地域福祉・労働と家族的責任との両立 (ワークライフバランス)・ジェンダー・福祉国家論・NPO・アイデンティティなどです。

授業の一般目標 1. 「学問」と「自分の生活」との結びつきを意識化すること。(社会学的思考の習得) 2. レジューメ作成・文献資料検索・レポート作成・議論の方法を習得すること。(学習技術の習得) 3. 日常生活のなかにある「自分なりのこだわり」を明確化すること。(研究テーマの探求)

授業の計画 (全体) 演習 I で習得した知識のうえに、自分なりの研究テーマの抽出をおこないます。方法はまず、ゼミ全体での KJ 法による、学問的興味地図を作成します。この際、自分の内発的疑問をより明確にするために、ゼミ全体での討論を重ねます。完成した地図を元に、教員が提示した文献を各自が読むことにより、次のステップである個人による KJ 法の準備を進めます。

成績評価方法 (総合) 1. 授業内討論への参画度合 (出席は欠格条件) 2. グループ課題の遂行 3. レポート評価を総合的に判断します。

メッセージ 私からは研究テーマを与えませんので、自分で追求したいテーマを探するという困難に挑む積極的態度が不可欠です。活発で率直な意見交換ができるような、楽しい雰囲気のあるゼミでありたいと思っています。

連絡先・オフィスアワー E-mail: nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 火・水曜日 10:00-11:00

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	橋本寛				

授業の概要 演習 I に引き続き、意思決定の基礎理論や問題解決法について考察を行う。

授業の一般目標 意思決定に関する基本的概念や基礎知識を学ぶ。

授業の計画 (全体) 意思決定の基礎的事項について以下のテキストを読みながら検討を行っていく。

成績評価方法 (総合) 出席、報告、レポートによる。

教科書・参考書 教科書：意思決定支援とグループウェア, 宇井, 共立出版

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設ける予定

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中田範夫				

授業の概要 演習 1 に引き続き管理会計論の領域を研究する。2 年次に勉強したことを基礎とするので、少し専門的な内容を研究することになる。一般的な製造業やサービス産業では、活動基準原価計算、バランスト・スコア・カード、原価企画などが管理手法として用いられているので、それらの領域を研究することになる。また、最近のテーマとしては、環境会計や病院会計といった領域も研究領域として適切である。

授業の一般目標 4 年次に作成する卒業論文に関するテーマの基礎を作るための授業を行いたい。

授業の計画 (全体) テキストを決め順番に報告してもらおう。必ずしも全ゼミ生が統一的なテーマになる必要はなく、テーマごとに幾つかのグループに分かれて勉強しても構わない。

成績評価方法 (総合) 出席、報告、およびゼミ行事への参加度を見て、総体的に評価する。

教科書・参考書 教科書：現代管理会計論, 古田隆紀, 中央経済社, 1997 年; 現在使用しているテキストを引き続き使用する。次に使用するテキストは、検討中である。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：研究室; 9 3 3 - 5 5 5 6 オフィスアワー：後日指示する。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	古川澄明				

授業の概要 研究内容・方法 (1) フグ・ビジネスの調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が下関唐戸魚市場(株)や、萩、徳山の養殖業者のヒアリング調査に取り組んでいますが、そうした調査活動に取り組んでみたい方 (a) 中国沿海地域のふぐ養殖業の実態調査(今、中国産フグが下関養殖フグ取扱高の3割) (b) フグ漁従事者の激減と業界の国際的構造変化 - 輸入フグの増大化傾向 (c) フグ・ビジネスの国際化とアジア - 香港、上海のフグ料理店 (d) 養殖フグの急増と産地間競争 - 相場リーダーとしての下関の挑戦 (e) 韓国でのフグ・ビジネスの実態 - フグを食べているのか? (f) 食生活の変化とフグ・ビジネス - 養殖魚で育った世代の味覚が示すものは、何か (2) 山口の酒蔵の調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が県内の酒蔵メーカーの個別企業調査を行っていますが、まだまだ、残っています。日本人と酒と社会生活の変化について関心があり、調査活動に取り組んでみたい方。 (a) 山口県内の酒蔵メーカーを訪ねる(現在、五橋、男山、和可娘の3社を調査中) (b) 山口の「杜氏」を訪ねて、歴史を聞く ゼミ運営方法: 3年生までは、チームで調査研究。4年生で卒業論文を作成。論文は自費製本し、「1冊の本(作品)」にする。自主的に、私的に会社を訪問すること(fieldwork)を厭わない人。調査研究の成果は、報告集にまとめる。/ 検索キーワード 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。

授業の一般目標 演習テーマ: 経済のグローバル化とローカル・ビジネスの挑戦 演習の目標: ローカルビジネスの調査研究と取り組むことで、調査研究に必要な経済学や経営学の知識を自主的に積極的に学び、また同時に、そうした知識を調査研究に応用する。そうした調査研究活動を通じて、実践的に、経営学の知識を身に付けることにある。(1) 卒業論文作成に向けて、調査研究のテーマ設定、問題の分析の仕方、プレゼンテーションでの説得力などを身に付ける。(2) 企業調査を通じて、社会人としての自覚をもって、経営の現場やビジネスの動態を捉える独自の分析視角を開発する。(3) 大学卒業後に企業人、あるいは公務員として活躍することを意識して、ゼミ活動に取り組む。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。思考・判断の観点: 独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。関心・意欲の観点: ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。態度の観点: 研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。技能・表現の観点: PCの利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプログラムを利用することを勧める。その他の観点: ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるといのが、ゼミの原則である。

授業の計画(全体) 前期: 上記テーマに関する業界について、広く基礎知識を得る。同時に、業界を捉える経営学の基礎知識を学ぶ。後期: 現実のビジネスの世界に足を運び、インタビューを実施し、業界の方々から実際の経営の実状を学び、それを経営学の知識習得にフィードバックさせる。積極的に経営学的知識を身に付けるために、報告書を作成する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 企業事例研究
- 第2回 項目 企業事例研究

- 第 3 回 項目 企業事例研究
- 第 4 回 項目 企業事例研究
- 第 5 回 項目 企業事例研究
- 第 6 回 項目 企業事例研究
- 第 7 回 項目 企業事例研究
- 第 8 回 項目 企業事例研究
- 第 9 回 項目 企業事例研究
- 第 10 回 項目 企業事例研究
- 第 11 回 項目 企業事例研究
- 第 12 回 項目 企業事例研究
- 第 13 回 項目 企業事例研究
- 第 14 回 項目 企業事例研究
- 第 15 回 項目 企業事例研究
- 第 16 回 項目 企業事例研究
- 第 17 回 項目 企業事例研究
- 第 18 回 項目 企業事例研究
- 第 19 回 項目 企業事例研究
- 第 20 回 項目 企業事例研究
- 第 21 回 項目 企業事例研究
- 第 22 回 項目 企業事例研究
- 第 23 回 項目 企業事例研究
- 第 24 回 項目 企業事例研究
- 第 25 回 項目 企業事例研究
- 第 26 回 項目 企業事例研究
- 第 27 回 項目 企業事例研究
- 第 28 回 項目 企業事例研究
- 第 29 回 項目 企業事例研究
- 第 30 回 項目 企業事例研究

教科書・参考書 教科書：必要に応じて、あらゆる経営学図書を利用する。/ 参考書：必要に応じて、あらゆる経営学図書を利用する。

メッセージ ゼミ活動を通じて、積極性、協調性、組織統率能力、報告書作成能力、自己管理能力、プレゼンテーション能力を養おう。

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に面会可能。常に、メールで相互連絡を行う。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	成富敬				

授業の概要 演習 I に引き続き、各自が興味を持つテーマについて、基礎的な知識を習得するとともに、関連する文献の紹介や研究内容の発表をおこなってまいります。

授業の一般目標 各自が興味を持つテーマについて聞き手にわかるように説明できる。他の人の話を理解し、適切な質問ができる。

成績評価方法 (総合) 発表 (70%) と出席 (30%) で評価する。

メッセージ いろいろなことを知っている“頭のいい人”よりは、粘り強く考えられる“頭の強い人”を目指し、じっくり考えてください。

開設科目	会計学演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	吉水 佐知子				

授業の概要 この授業は、職業会計人コース生を対象とするものです。職業会計人としての専門知識を学ぶと共にコミュニケーション能力を高めることに重点をおいています。授業に対して受身になるのではなく、積極的に参加する姿勢が必要とされます。

授業の一般目標 自分の持っている知識と能力を駆使して、より説得力のある説明ができるようになることとプレゼンテーション能力を高めること。

成績評価方法 (総合) 評価は、出席 50 %、発表 50 %とします。

教科書・参考書 教科書：後日お知らせします。

開設科目	会計学演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山下訓				

授業の概要 職業会計人コースの3年生を対象とした演習です。自ら疑問点を探し、自ら解決していく方法を学びます。

授業の一般目標 職業会計人コースの実習により、多くのことを学びますが、多くの疑問が積み残されたまま、実習は進行していきます。そこで、この演習形式の授業を、何が疑問点かを探し、調べて解決していく良い機会と捉えてください。分からない所が何処かを発見すれば、実は半分以上問題は解決しています。ものを問うときに、既に答え方が決まっているからです。是非、自ら問題を設定する訓練をしましょう。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 参加者と相談して設定する。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	有村貞則				

授業の概要 企業の海外進出の目的・動機、参入モード、親会社と海外子会社の関係など国際経営に関する基礎理論を習得した後に、1990 年代以降に活発化している小売業の国際化について事例調査を進めていく。

授業の一般目標 1 . 国際経営の基礎理論習得。 2 . 小売業の国際化に関する事例研究とディスカッション

授業の計画 (全体) 前半はテキストの輪読を通して国際経営の基礎について学習。後半は小売業の国際化についての調査と発表。

成績評価方法 (総合) 出席、授業に望む態度、および発表

教科書・参考書 参考書： 参考資料や論文を適時配布します

連絡先・オフィスアワー arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 前期は、テキストを利用して、流通・マーケティング、経営に関する著書を読む。後期に関しては、何をするかを、みんなで相談して決める。例年だと、卒業論文の準備に取り掛かっている。前期で学んだことを生かして、自分自身で見つけた卒業論文の「問い」を、他のみんなに理解できるような形のレポートにまとめていく。

授業の一般目標 「問い」を立てるとはどういうことか、を理解する。

授業の計画 (全体) 前期はテキストの輪読形式で、ゼミを進める。後期は、各人の研究発表を予定している。

成績評価方法 (総合) 前期に関しては、担当箇所のレジュメ、報告 (プレゼンテーション)、報告書、等による。後期に関しては、レジュメ、報告 (プレゼンテーション)、レポート、等による。また、出席は、欠格条件である。

教科書・参考書 教科書：コア・コンピタンス経営, G. ハメル & C. K. プラハラード, 日本経済新聞社, 1995 年; わかりやすいマーケティング戦略, 沼上幹, 有斐閣アルマ, 2000 年

メッセージ 昨年度開講の演習 I に引き続いて勉強を進めていきます。去年は、大阪にて、他大学との夏合宿・合同ゼミ (研究発表大会) を行いました。本年度も実施する予定です (場所等の詳細は未定)。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	澤 喜司郎				

授業の概要 文献調査と現地調査等を精力的に行い、データの収集と分析に基づいて、その成果を報告する。

授業の一般目標 データの分析能力を高め、同時に成果の報告に際してはパワーポイント等を使用して、プレゼンテーション能力の向上を図る。

授業の計画 (全体) 各自が設定したテーマについての研究成果の報告と討議を行う。

成績評価方法 (総合) 研究報告 70 %、出席 30 %

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	横田伸子				

授業の概要 東アジア経済という枠組みの中で、韓国経済の発展を見ていきます。具体的には次のテーマに絞られます。 1. 経済危機以降の東アジアにおける社会福祉体制がどのように変わったのか？ 2. 1について、とくにジェンダーの視角も交えて日本と韓国の比較をします 3. トピックとして日本と韓国の若者就業の動向とそれに対する社会政策について見ていきます / 検索キーワード 日韓就業体制、比較ジェンダー分析、社会福祉戦略、東アジア

授業の一般目標 1. 上のテーマに沿って、多くの学術論文を読み、その内容を正確に理解すること。 2. 資料やデータを自分で探し、それを的確に分析すること。 3. 自ら分析・考察した結果を、論理的に自己表現する力を身につけること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 韓国及び日本の社会経済、東アジア社会経済についての文献を読んで理解することができる。 2. 韓国及び日本の社会経済、東アジア社会経済についての資料を探し、それを実証的に分析できる。 思考・判断の観点： 1. 与えられた課題について論理的に報告できる。 2. 他人の報告や・意見を的確に理解し、それに対し自分の意見を論理的に述べる ことができる。 関心・意欲の観点： 1. 授業外においても日常的に韓国及び日本の社会経済・東アジア社会経済について関心を持ち、資料収集、読書などを心がける。 2. 討論に積極的に参加する。 態度の観点： 1. 討論に積極的に参加し、協調的、建設的な議論が行える。 2. 授業に毎回かかさず出席する。 技能・表現の観点： 1. 他人にわかりやすく、自分の言葉で論理的に報告・発表ができる。 2. 他人にわかりやすく、論理的に自分の意見を述べる ことができる。

授業の計画 (全体) 各人の選択したテーマに沿って読むべきテキストを指示し、課題を与える。毎回その課題に対する報告発表を中心に討論を行う。

成績評価方法 (総合) 1. 各人の課題に沿って報告を行い、その内容の論理的構成力、実証性、表現力、創造性などを総合的に評価する。 2. 討論に積極的に参加し、論理的に議論を展開しているかを見る。 3. 学期末に 8,000 字程度のレポート提出する。 4. 内容別評価方法は、レポート 30 %、授業への参加度 30 %、発表 40 %。

教科書・参考書 教科書：東アジアの社会福祉戦略, 大沢真理編著, ミネルヴァ書房, 2004 年; アジアのソーシャル・セーフティネット, 一橋大学経済制度研究センター, 勁草書房, 200 年; 大沢真理編著『東アジアの社会福祉戦略』ミネルヴァ書房, 2004 年 一橋大学経済研究所経済制度研究センター『アジアのソーシャル・セーフティネット』勁草書房, 2003 年 / 参考書：韓国の工業化：発展の構図 (アジア工業化シリーズ; 2), 服部民夫編, アジア経済研究所, 1987 年; 韓国・先進国経済論：成熟過程のミクロ分析, 深川由起子著, 日本経済新聞社, 1997 年; 服部民夫編『韓国の工業化 発展の構図』アジア経済研究所, 1987 年 塚田広人編『雇用構造の変化と政労使の課題』成文堂, 2005 年

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視します。演習では、事前の予習と活発な討論を期待します。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えています。授業だけでなく、コンパやソフトボール大会、合宿、インゼミ、ゼミ旅行などに積極的に取り組む意欲のある人を歓迎します。

連絡先・オフィスアワー ゼミナールの学生についてはとくにオフィスアワーは設けません。電話・メール等で連絡を取って、訪ねてきてください。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	田淵太一				

授業の概要 2 年次で身につけたディベート (討論) 能力・読書能力・調査能力をもとに , 今年度は 中国元 に焦点を絞り , さらなる専門的知識・能力の養成を行います。

授業の一般目標 専門的知識の習得とならんで , ディベート (討論) と読書能力・調査能力の養成に集中します。

授業の計画 (全体) 5 月いっぱいをめどに教科書を読了し , 以後は 3 名ずつのグループに分かれて調査を行います。このゼミでは , グループで調査したり考えたりした内容を報告してもらい , それにもとづいて討論を行うことに主眼を置きます。1 2 月には他大学との討論会を予定しています。

成績評価方法 (総合) 報告・討論等 , ゼミナールにおける日常的な活動により評価します。授業への参加度 50 % , 受講者の発表 50 %。

教科書・参考書 教科書 : 世界経済論, 本山美彦編著, ミネルヴァ書房, 2006 年

メッセージ 3 年生は , ゼミ活動の中心学年です。悔いの残らないように完全燃焼しましょう !

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは前期開始後発表します。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	尹春志				

授業の概要 開発、発展にかかわる理論的な検討を行う。

授業の一般目標 2 年次に学んだ基礎知識をより理論的に昇華することを目指す

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：最新の開発・発展をめぐる理論と実践について学ぶ。 思考・判断の観点：与えられた事実に対して自らの知識を用いて判断する力を養う 技能・表現の観点：レジュメ作成、プレゼンテーションの技法を学ぶ

授業の計画 (全体) テキストを輪読し、討論することを中心に演習を行うが、適宜、個別課題を提示し、研究発表を行う。

成績評価方法 (総合) 出席、討論の態度、課題に対する取り組みで評価する。

教科書・参考書 教科書：追って指示する

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	豊嘉哲				

授業の概要 参加者全員が協力して、1本の論文を書き上げる。論文のテーマは、4~5月に、演習参加者の希望を聞いて決める。

授業の一般目標 参加者全員が協力して、1本の論文を書き上げる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分が扱うテーマについての基礎知識を身につける。 思考・判断の観点：自分が扱うテーマについての基礎知識を身につけた上で、それに対して自分の意見を述べる。

授業の計画 (全体) 前期は基礎知識を身につけるための輪読が中心。後期には、実際に文章を書き、それを授業で発表する。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 論文テーマの設定 内容 論文テーマの設定

第 2 回 項目 文献収集と輪読 内容 文献収集と輪読

第 3 回 項目 同上

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

第 16 回 項目 論文の執筆 内容 論文の執筆

第 17 回 項目 同上

第 18 回

第 19 回

第 20 回

第 21 回

第 22 回

第 23 回

第 24 回

第 25 回

第 26 回

第 27 回

第 28 回

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) 授業への参加 (出席と発表) によって評価する。

メッセージ 積極的に授業に参加して、発現してください。

連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	李 海峰				

授業の概要 「世界の工場」から「世界の市場」へと変化している中国経済について、社会経済理論と実証を通して、検討する。 / 検索キーワード 中国経済、アジア社会経済、国際経済

授業の一般目標 中国経済、経営についての研究分析を通して、中国の市場環境にどう適応していくのか、日本経済の今後の課題、企業の経営戦略を考え、自分の論点を発表してもらう。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 中国社会と経済発展
- 第 2 回 項目 開発政策と開発戦略
- 第 3 回 項目 中国経済の統計分析
- 第 4 回 項目 所得格差と貧困問題
- 第 5 回 項目 開発と環境問題
- 第 6 回 項目 市場経済と消費社会の変動
- 第 7 回 項目 広告と消費者行動
- 第 8 回 項目 実態調査に基づく分析
- 第 9 回 項目 アンケート調査の基本
- 第 10 回 項目 アンケートのデータと集計
- 第 11 回 項目 グラフ表現と比率解析
- 第 12 回 項目 回帰分析
- 第 13 回 項目 数量化理論
- 第 14 回 項目 実習
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：中国経済発展論, 中兼和津次, 有斐閣, 1999 年；アンケートの調査、集計、解析, 内田治, 東京図書, 2003 年；中国の大衆消費社会, 李 海峰, ミネルヴァ書房, 2004 年 / 参考書：初法からの多変量統計, 三土修平, 日本評論社, 2000 年；社会調査, 森岡清志, 日本評論社, 2000 年；例解調査論, 佐井志道, 大学教育出版社, 2001 年；社会経済学入門, 角田修一, 大月書店, 2003 年

メッセージ 一寸光陰一寸金、寸金難買寸光陰、

連絡先・オフィスアワー 研究室

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	平中貫一				

授業の概要 民法判例の学習を継続する。

授業の一般目標 民法に関する体系的知識の修得。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 民法に関する体系的知識の修得。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 社会保障法と労働法の関連を研究する。

授業の一般目標 社会保障法と労働法は共に社会法として共通するものはなにか具体的問題領域ごとに研究する。

教科書・参考書 教科書：エッセンシャル労働法第4版, 菊池・清正編, 有斐閣, 2003年；ジュリスト労働判例百選7版, , 有斐閣, 2003年

メッセージ ゼミの場はしゃべることなので沈黙は欠席していると同様に扱います。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 行政法に関する諸問題について考察する。(1) 昨年度末まで進んだものをさらに継続し、さらに(2) 新たに分野を協議の上設定してさらに拡張し、あるいは深めていく。いずれも協議して決めていく。 / 検索キーワード 行政 行政組織法 行政作用法 行政救済法

成績評価方法 (総合) レポートの報告、出席状況、授業外レポートなどを総合評価する。

教科書・参考書 教科書：内容の協議、決定に際し協議して決める。

メッセージ いよいよ本格的に行政法の学習を進めるときです。さらに気張っていきましょう。

連絡先・オフィスアワー 内線 5 5 8 8

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	青 達朗				

授業の概要 税法の判例を中心に据えて、租税争訟法、租税実体法の具体的な適用場面を学習する。

授業の一般目標 社会現象に対して、税法上の問題がどのように交錯するのかを理解できるようにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：税法の基礎知識は十分か、それを活用できるか。 思考・判断の
 観点：経済事象に対して、税法的な問題意識を働かせるか。 関心・意欲の観点：経済活動全般に
 対する関心は高いか。

授業の計画 (全体) 税法の判例を、主体として、租税実体法と租税手続法の具体的な適用場面を学んで
 いきます。

成績評価方法 (総合) ゼミへの出席状況、受講態度、問題意識などを重視して、総合的に評価します。

教科書・参考書 教科書：租税訴訟実務講座, 大野重国他, ぎょうせい, 2002 年; ケースブック租税法, 金
 子宏他, 弘文堂, 2004 年; プリント配布

メッセージ ゼミには自覚的に参加することが大事です。成長を期待しています。

連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	三間地光宏				

授業の概要 前期はテキストを中心に家族法を学習する。後期は民法全体について判例演習を行う。

授業の一般目標 民法の基礎知識を習得する。判例を分析・検討する能力を身につける。

授業の計画 (全体) 前期はテキストを中心に家族法を学習する。後期は判例演習を行う。

成績評価方法 (総合) 平常点による。

教科書・参考書 教科書：適宜指示する。 / 参考書：適宜指示する。

連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは未定。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中村美紀子				

授業の概要 本演習では、会社法テキストの講読を行います。あらかじめ割り当てられた箇所について、報告者の報告にもとづき質疑応答を行います。 / 検索キーワード 会社法・企業法・企業組織法

授業の一般目標 会社法の基本的事項を理解し、会社法について自らのテーマをもつことを主眼としつつ、卒業論文および就職活動に取り組むための準備として、レジュメ作成、プレゼンテーションおよびディベートの能力に磨きをかけることも目指します。

授業の計画 (全体) 演習開始時にゼミ生と相談して決めたいと思います。

成績評価方法 (総合) (1) 割り当て箇所の報告をどのように工夫して行ったか, (2) レジュメの作成についての工夫および提出期限の遵守, (3) 討論への参加の度合い, について自主性 (各 15 % × 3) と発展性の観点 (各 15 % × 3) から評価し, そこにゼミへの貢献度 (10 %) を加味します。

教科書・参考書 教科書: テキストブック新「会社法」, 末永敏和 [編著], 中央経済社, 2005 年 / 参考書: 参考資料等はその都度配布します。

メッセージ 2006 年六法必携です。欠席が避けられない場合は事前に直接連絡することをルールとします。

連絡先・オフィスアワー 研究室 C 棟 2 0 9、オフィスアワー火曜日 10:20 11:50。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	石 龍潭				

授業の概要 この授業では、主に具体的問題(判例)の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、授業への主体的な参加が要求される。

授業の一般目標 具体的には、行政関係の判例を取り上げて、判例研究を行う。取り上げる判例は、参加者が教官と相談の上、決定する(特に勉強してみたい領域、トピックがあれば、それを優先する)。報告には次の内容を含めるものとする。(1) 事実の概要 (2) 判決の要旨 (3) 簡単な評釈(学説、私見など) 授業の進め方や使用教材などの詳細は初回に説明するが、いずれにせよ、ただ聴くのではなく、レジュメ作成という作業を負担する(受講人数にもよるが、1人1回程度を目標としている)。しかし、負担は、自分の力を伸ばす絶好の機会でもある。

メッセージ 一緒に頑張りましょう。

連絡先・オフィスアワー 質問等のある学生は、気軽に私の研究室にきてください。(研究室: 経済学部 A 棟 408 号室)

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	マルク・レール				

授業の概要 1. 演習 I に引き続、国内外のメディアについて調べる。 2. 研究発表 / 検索キーワード マスメディア

授業の一般目標 1. メディアを分析する。 2. 研究発表によって、研究分野に関する理解度を明らかにする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. メディアの仕組みを理解する。 2. 研究発表の方法を理解する。

思考・判断の観点： 1. メディアの組織やメッセージについて判断力を深める。 2. 自分の研究を深めることについて判断する。 関心・意欲の観点： メディアに対する関心を深めて、日ごろ、もっと積極的にその実態を探る。 態度の観点： メディアをもっと効率的に利用する。

授業の計画 (全体) 毎回、ビデオ制作の打ち合わせと研究発表が行われる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 研究計画と研究発表について
- 第 2 回 項目 研究発表
- 第 3 回 項目 研究発表
- 第 4 回 項目 研究発表
- 第 5 回 項目 研究発表
- 第 6 回 項目 研究発表
- 第 7 回 項目 研究発表
- 第 8 回 項目 研究発表
- 第 9 回 項目 研究発表
- 第 10 回 項目 研究発表
- 第 11 回 項目 研究発表
- 第 12 回 項目 研究発表
- 第 13 回 項目 研究発表
- 第 14 回 項目 研究発表
- 第 15 回 項目 総括

成績評価方法 (総合) 授業参加 (50 %) と期末レポート (50 %)

メッセージ 実験的に遠隔講義を行う。

連絡先・オフィスアワー loehr@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	陳 禮俊				

授業の概要 今日では、人類の生産力（対自然支配力）はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるといよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。

授業の一般目標 演習 I で習得した知識を土台に、より高度な環境経済学に関わる文献を輪読し討議する能力を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画（全体）ゼミ受講者を主体に、関心を持つ議題を討議した上、文献・書籍を選択し授業計画を立てる。

成績評価方法（総合）成績評価は基本的に、出席（40%）、課題レポート（30%）と報告（30%）で行う。

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	松浦良行				

授業の概要 演習 II では、演習 I での学習を踏まえ、統計処理ソフトを利用してさらに進んだ企業分析を行います。また、財務数値の背後にある会計処理についても一通り学習します。

授業の一般目標 財務数値の導出プロセスの理解はもちろんですが、分析力とプレゼンテーション能力のさらなる向上を目標とします。

授業の計画 (全体) 皆さんの理解度や興味に応じて調整します。

成績評価方法 (総合) 出席と発表の準備態度等で評価します。

教科書・参考書 教科書：追って指示します。

メッセージ 今年も頑張りましょう。

卒業論文演習

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	中尾訓生				

授業の概要 演習 II に引き続き、卒業論文を指導する。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	藤井大司郎				

授業の概要 演習 II に引き続き、前期一杯には「公共経済学第二版」を終える。後期に入ると、卒論作成作業の積み重ねで、全員が1月に作成を完了できるよう、毎回、交代で発表及び相互討論を行う。前期の最初までに卒論テーマを各自決定しておくこと。前期中は、自身で作業を進めておくこと。時々、自習進行状況なども報告いただく。

授業の一般目標 経済学部生にふさわしい論文を作成する能力を身につけ、方法を会得することを目標とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：最重要。 思考・判断の観点：重要。 関心・意欲の観点：重要。 態度の観点：普通。 技能・表現の観点：普通。

授業の計画(全体) 「公共経済学」は総論部分の後半である租税論、地方財政論、財政政策論に入る。ミクロ経済学、マクロ経済学の応用という面が非常にはっきりと現れてくるころなので、これまでの学部専門の基礎が身についているか、よく自己検証してほしい。 卒論はとにかく書き進める作業を怠らぬように指導を進める。人によっては、これが最初で最後の本格的論文作成となる。学部教育最大の醍醐味を味わって欲しい。

成績評価方法(総合) 毎回の出席状況、担当報告の回数と内容、討論における意見表明などの貢献度を総合評価する。

教科書・参考書 教科書：公共経済学 第二版, J. E. スティグリッツ, 東洋経済新報社, 2003年

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	塚田広人				

授業の概要 各自、卒業論文の研究をする。2年生の終わりに設定したテーマに沿って行う。3年生時に行った成果を発展させる。/ 検索キーワード 効率性、公正性、慈恵性(友愛性)

授業の一般目標 大学入学までと、それ以降現在まで身につけた多様な知識を使いこなし、自分の設定した問題をできるだけ深く考察する。

成績評価方法(総合) 出席点、レポートの内容・水準、の二つで評価します。(無断欠席は厳禁。)

メッセージ がんばりましょう。

連絡先・オフィスアワー E-mail ht@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5558, 研究室 A424, オフィスアワー 水: 1時半-3時。ほかの時間でも在室時はいつでも可。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	植村高久				

授業の概要 相互に問題意識を交換しながら、卒業論文を作成するためのテーマ設定を行い、次に必要な文献の継続的講読を指導する。最後に、卒論の取りまとめ方についての指導を行い、以後は個別指導を通じて、各自の卒業論文の完成度を高める努力を促す。、問題意識の焦点化と

授業の一般目標 明確なテーマを持ち、首尾一貫して、必要な参考文献や関連領域の調査・検討を含む卒業論文を完成させること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各テーマに必要な不可欠な内容や文献をフォローしていること。

思考・判断の観点：論文として全体が首尾一貫した主張をもつこと。 関心・意欲の観点：各テーマについて、深い関心と積極的な自発的学習によって書かれていること。 技能・表現の観点：文章作法を守っていることと卒業論文としての体裁及び読みやすさに配慮した表現となっていること。

授業の計画(全体) 7月までは適宜、問題関心に従った報告を行って貰い、テーマの確定に努める。夏休み中に基本的な文献や資料を渉猟しておくことは宿題である。10～11月は、草稿段階の論文を輪読検討する。12月は基本的に個別指導に努める。

成績評価方法(総合) 卒業論文としての作品の完成度のみを評価基準とする。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	柏木芳美				

授業の概要 演習 I , 演習 II で調べたことを自分でまとめて卒論とするための指導を行う。

授業の一般目標 卒論作成。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp , 電話:933-5595 , 研究室:C213。 オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	馬田哲次				

授業の概要 各自の卒業論文のテーマに沿って卒論の指導をする。

授業の一般目標 1. 問題設定とそれに対する答えを明確にすること。 2. 設定した問題についての調査を行い、その内容を整理すること。 3. 論理構造をきちんとしたピラミッド構造にすること。 4. 導入部を状況、複雑化、問題、答えの構造にすること。

授業の計画(全体) 原則として、一ヶ月に一度卒論のテーマに沿って発表を行う。4月から5月にかけて問題を設定し、10月までに、先行研究の調査等を行う。11月から12月にかけて、ピラミッド構造をつくり、1月の提出日までに仕上げる。

成績評価方法(総合) 卒論指導の出席、発表と出来上がった卒業論文等を総合的に判断する。

連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	兵藤隆				

授業の概要 卒業論文の作成 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 大学四年間の集大成としてふさわしい卒業論文を仕上げることを目標とする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 テーマ設定
- 第 2 回 項目 動機付け
- 第 3 回 項目 参考資料の収集
- 第 4 回 項目 途中経過報告
- 第 5 回 項目 結論の確認
- 第 6 回 項目 論文構成の発表
- 第 7 回 項目 論文構成の見直し
- 第 8 回 項目 途中経過報告
- 第 9 回 項目 結論の修正、および、確認
- 第 10 回 項目 完成度チェック
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 論文と呼ぶにふさわしい内容かどうかを厳しくチェックする。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	木部和昭				

授業の概要 近代日本経済史に関わる卒業論文作成のための指導を行う。最終的には各人の設定した課題にしたがって卒業論文をまとめる。

授業の一般目標 1, 卒業論文作成のための課題を設定する(論文題目の決定)。2, 課題に関して史資料を収集・分析する。3, 自ら立てたテーマに従って卒業論文を完成させる。

授業の計画(全体) (1)「地域経済の歴史」に関する研究論文、史料の講読を行う。(2) 各自の卒業論文に関する構想報告を行い、論文題目・テーマ等を決定する。(3) 各自の卒業論文の課題に関連した論文・史料等を講読する。(4) 各人の設定した課題に基づいて、卒業論文作成に向けた個別指導を行う。(5) 卒業論文提出後、口頭試問を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の内容および口頭試問(80%)、受講者による報告(15%)、授業への取組(5%)で成績を評価する。出席の悪い学生は、卒業論文指導を受講していない訳であるから、提出しても卒業論文を受理しない。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない。必要な場合は論文等を印刷して配布する。/ 参考書：各人の卒業論文のテーマにより、参考文献は多岐にわたる。これに関しては指導の過程で個別に紹介する。

メッセージ ・就職試験等で忙しくなると思われるため、早めに卒業論文に取り組んで欲しい。 ・欠席が多いと卒業論文を受理しない(=卒業できない)ので注意すること。 ・不十分な卒業論文については書き直しを要求する事がある。 ・就職試験等で休む場合は、事前連絡を忘れないこと。

連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	山田正雄				

授業の概要 卒業論文作成のための報告及び指導

授業の一般目標 卒業論文を仕上げる。

授業の計画(全体) 各自で卒業論文のテーマを決定し、報告を重ねることによって、論文をまとめていく。

成績評価方法(総合) 卒業論文の内容と報告、参加姿勢などにより評価する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	野村淳一				

授業の概要 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学(計量経済学)を用いることを必要とします。卒業論文演習では、演習Ⅱの終わりに選んだテーマについて、(1)先行研究のサーベイ、(2)関連データの収集、(3)分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、を更に深め、適宜進行状況について報告をしてもらいます。論文作成が中心になるので、執筆中に出た疑問については随時質問に来ること。

授業の一般目標 ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：標準的なマクロ経済理論を理解できている。基本的な統計学の手法を修得している。自分のテーマに関する先行研究、統計データ、分析手法を理解できている。思考・判断の観点：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。関心・意欲の観点：現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。態度の観点：事前の準備を十分にいき、他者の発表に対しても真摯に議論できる。技能・表現の観点：発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

授業の計画(全体) 卒業論文演習では、演習Ⅱの終わりに選んだテーマについて、(1)先行研究のサーベイ、(2)関連データの収集、(3)分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、を更に深め、適宜進行状況について報告をしてもらいます。夏休み中に合宿を行い、卒業論文の中間発表をしてもらいますので、不十分な点を自覚し、最終的な論文のイメージを固めましょう。12月までに論文を一通り仕上げ、提出前に必ず一度私のチェックを受けて下さい。必要な訂正・補足などを加え、卒業論文は完成となります。卒業論文提出後、3月前後に卒業論文報告会を行いますので、卒業論文で得られた結論、自分の主張について、効果的な発表が出来るように準備して下さい。

成績評価方法(総合) 授業における態度(発表、質問等)と参加意欲により判定する(評価割合100%)

教科書・参考書 教科書：卒業論文に関連する文献。

メッセージ 演習Ⅱでは、論文を共同作業として書いているので自分が十分に理解していなくても論文は完成しますが、卒業論文では全てを自分で書かなくてはなりません。完成後の全体のイメージを持ち、必要な準備を行って下さい。疑問点が出た場合は、遠慮なく研究室に来ること。卒業論文は大学生生活の集大成ですので、自分の持っている能力を最大限に活かし、納得のできる論文を作成して下さい。

連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週3回、1時間程度設ける(講義中に指示)。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	仲間瑞樹				

授業の概要 3年次に卒論計画発表してもらったテーマに沿った卒論を作成し、途中経過を発表してもらう。また各自テーマ、発表内容について、ゼミ生からの質疑応答を受けつけ、各自の卒論にコメントを活かしてゆく。 / 検索キーワード 卒論作成、文章作成

授業の一般目標 自分が作成した！おれの、わたしの卒論と言えるような卒論を仕上げること。 他のゼミ生が読んでも理解してもらえるような卒論を作成すること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 今まで経済学部で履修した各科目の知識を卒論に反映していること。 思考・判断の観点： 他人の受け売りではない、自分の考えを卒論に反映していること。 技能・表現の観点： わかりやすい文章表現であること。

授業の計画(全体) 毎回、卒論発表者を割り当て、今、自分が何をしているのか発表すること。 また自分が卒論作成で悩んでいること、どうしたらよいかわからないことを含めて話をしてもらう。それら発表をうけて、教員や他のゼミ生が自由にコメントをする。 じっくり発表してもらいたいので、ゼミ1回あたり2から3名の発表者を予定している。

成績評価方法(総合) 卒論発表、資料作成、卒論そのものから評価する。

教科書・参考書 教科書： 各自の卒論テーマに沿った参考文献を紹介する。

メッセージ 皆さんにとって最後の仕上げの年です。いい年にしましょう。なお就職活動で忙しく、ゼミに参加できない場合、必ずメールで連絡を下さい。

連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	濱島清史				

授業の概要 3年次冬休み明けに出すレポートに基づいて、さらに各自の関心分野に基づいて、卒論を仕上げていく。卒論の基本も、これまでのレポートと同様に、各自の関心のある産業・企業・職能あるいは社会政策等について、はじめに(導入)3節ほどの構成 おわりに(結語)と論理展開すること。

授業の一般目標 卒論に関して、十分なレベルの論文をものにする。卒論に関する到達目標は以下のとおりである。まず、先行研究のサーベイとして参考文献を最低50本くらいは読破していけるようになること。次に、テーマに関連する統計データから数値を入力して、数十枚のグラフを作成し、ファクト・ファインディングを行なえること。そういった文献や統計などの情報収集能力を高めること。そして、論文は自分の意見に沿って様々な論者の見解を引用していくように進めていくこと。その際、注釈を用いること。それから、ここは特に丹念に調べた、時間を費やして資料を作成したという'売り'を作れるようにすること。最後に、主張は何なのか、一言で述べられることが望ましい。できれば、オリジナリティも求めたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教養を広め、専門知識を深めること。新聞やテレビ・ドキュメンタリーなども日常的にみる。思考・判断の観点：論理的思考能力を養うこと。変化に応じて、的確に判断を下せるようになること。総じて、課題・問題を発見し、原因を分析し、改善できるようにすること。関心・意欲の観点：主体的に自己の専門を深めながら、あらゆる分野に関心を持つこと。態度の観点：主体性、自己啓発、生涯学習。生涯学習は単に一般教養でなく、自分の仕事、専門に関連することを中軸に据えること。技能・表現の観点：プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてもらいたい。その他の観点：リーダーシップも発揮すること。社会的貢献を志してもらいたい。

授業の計画(全体) 卒論の指導を適宜行なっていく。基本的に、就職活動がなければ、週に一回はゼミに集って、情報交換や団欒をしてもらいたい。

成績評価方法(総合) 主に卒論による。卒論の発表会も評価に入りうる。

メッセージ 自己実現：なりたい自分になれるように。みんな卒業・就職できますように。満足のいく卒論が書けますように。

連絡先・オフィスアワー : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス : hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	橋本寛				

授業の概要 演習 I および演習 II における集団的意思決定の基礎についての考察をもとにして卒業論文の作成に着手する。

授業の一般目標 卒業研究を行うとともに卒業論文の完成をめざす。

授業の計画(全体) 演習 II のときのテキストの残りを読むとともに、卒業論文作成のための準備をして順次作成作業を進める。

成績評価方法(総合) 卒業論文、出席などによる。

教科書・参考書 教科書：意思決定支援とグループウェア, 宇井, 共立出版

連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設ける予定

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	中田範夫				

授業の概要 各自の卒業論文の作成を指導する。学生個々人が選択した卒業論文のテーマに従って報告してもらい、それに対して、内容や文献についてのコメントを行う。

授業の一般目標 卒業論文を作成することによって、自分が選択した領域における知識を深めることが目標である。また、論文を制作する過程で、参考文献や引用文献の示し方、自分の意見と他人の意見の示し方を身につけることも目標の一つである。

授業の計画(全体) 1回の授業で3 - 4人の学生に卒業論文のたたき台を報告してもらい、それに対して議論・コメントする。

成績評価方法(総合) 授業への出席、報告および参加度合いについて評価する。

教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。

メッセージ 授業への出席を重視するので「出席」ができる学生。

連絡先・オフィスアワー 研究室：内線5556

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	古川澄明				

授業の概要 2年、3年の間に研究してきたテーマを卒業論文にまとめる。論文は、テーマ、内容及び方法の独創性を問われる。科学的に説得力のある、ユニークなビジネス・モデルの提案は、高く評価される。/ 検索キーワード 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。

授業の一般目標 オリジナリティのある卒業論文をしあげること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。 思考・判断の観点： 独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。 関心・意欲の観点： ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。 態度の観点： 研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。 技能・表現の観点： PCの利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプログラムを利用することを勧める。 その他の観点： ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるとというのが、ゼミの原則である。

授業の計画(全体) 論文の発表を中心にして、論文作成方法、内容、方法などを指導する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業事例研究
- 第 2 回
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回

- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 全体的に評価する。とくに積極性、プレゼンテーションの善し悪し、独創性を重視する。

教科書・参考書 教科書：必要に応じて、あらゆる経営学図書を利用する。 / 参考書：必要に応じて、あらゆる経営学図書を利用する。

メッセージ ゼミ活動を通じて、積極性、協調性、組織統率能力、報告書作成能力、自己管理能力、プレゼンテーション能力を養おう。

連絡先・オフィスアワー 事前アポにて、常に面会可能。メールを相互連絡で常に使うので、メールアドレスを変更したら、連絡してください。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	長谷川光圀				

授業の概要 卒業論文は、大学生活の総決算となる集大成である。基本的に学生が問題意識をもって、積極的に研究するのであるが、教員はそれを支援することにある。 / 検索キーワード 正しい専門知識の活用、論理性、展開の可能性

授業の一般目標 卒業論文は、専門知識と論理の展開、思考力の深さ、さらに展開の可能性で評価されるが、本学部は伝統的に論文の水準が高いので、この水準を上回るように指導したい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：専門知識の正しい理解と活用によって、論文が展開されているか。

思考・判断の観点：研究問題について、論理的で深い思考を示しているか。 関心・意欲の観点：必読文献を十分にこなし、先達の研究を正しく理解し、自己の視点を展開しているか。

授業の計画(全体) 各学生の卒業論文のテーマに沿って発表してもらう。二

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 2 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 3 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 4 回 項目 各学生の論卒論テーマに沿った発表
- 第 5 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 6 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 7 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 8 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 9 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 10 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 11 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 12 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 13 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 14 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表
- 第 15 回 項目 各学生の卒論テーマに沿った発表

メッセージ 必読文献を十分に読む

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	城下賢吾				

授業の概要 これまでに蓄積した専門知識などを最大限活用して卒業論文の作成を行います。

授業の一般目標 子、孫、おい、めいなどに自慢できるような卒業論文の完成を目指します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：正しい知識に基づいて論文を作成しているか 技能・表現の観点：論文をわかりやすく、正しい書式に基づいて作成しているか。

成績評価方法 (総合) 論文の内容、積極的態度

連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	石田成則				

授業の概要 卒業論文の作成指導

授業の一般目標 プレゼンテーション能力の向上と卒業論文の取り纏め

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：仮説の設定とその検定手法 技能・表現の観点：プレゼンテーション能力

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	山下訓				

授業の概要 演習2に続いて、卒業論文を作成する。

授業の一般目標 演習2で設定した課題をこなしながら、卒業論文作成の訓練を行う。

連絡先・オフィスアワー yamasita@yamaguchi-u.ac.jp 5518 参加者と相談して設定する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	有村貞則				

授業の概要 卒業論文の完成に向けて各自が各自の卒論を章ごとに発表し、ディスカッションを行う。

授業の一般目標 1. 卒業論文テーマと構成を考える。 2. 卒論の書き方、表記方法などについて学習する。 3. プレゼンと質疑応答に慣れる。

授業の計画(全体) 卒業論文作成のための指導と発表

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 卒業論文テーマの発表
- 第 2 回 項目 卒業論文テーマの発表
- 第 3 回 項目 個人発表
- 第 4 回 項目 個人発表
- 第 5 回 項目 個人発表
- 第 6 回 項目 個人発表
- 第 7 回 項目 個人発表
- 第 8 回 項目 個人発表
- 第 9 回 項目 個人発表
- 第 10 回 項目 個人発表
- 第 11 回 項目 個人発表
- 第 12 回 項目 個人発表
- 第 13 回 項目 個人発表
- 第 14 回 項目 個人発表
- 第 15 回 項目 個人発表
- 第 16 回 項目 個人発表
- 第 17 回 項目 個人発表
- 第 18 回 項目 個人発表
- 第 19 回 項目 個人発表
- 第 20 回 項目 個人発表
- 第 21 回 項目 個人発表
- 第 22 回 項目 個人発表
- 第 23 回 項目 個人発表
- 第 24 回 項目 個人発表
- 第 25 回 項目 個人発表
- 第 26 回 項目 個人発表
- 第 27 回 項目 個人発表
- 第 28 回 項目 個人発表
- 第 29 回 項目 個人発表
- 第 30 回 項目 個人発表

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	柳田卓爾				

授業の概要 卒業論文指導を行う。

授業の一般目標 卒業論文を完成させる。

授業の計画(全体) 卒業論文の指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文、プレゼンテーションによる。

メッセージ 卒業論文は、3年間のゼミ活動の集大成です。がんばりましょう。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	藤田健				

授業の概要 卒業論文の完成に向けて、研究指導を行う。

授業の一般目標 1 . 卒業論文を完成させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：自分の研究対象について知識を深める。 思考・判断の観点：問いに対して、論理的かつ説得的に説明する。 技能・表現の観点：論理的で読みやすい文章を作成する。

授業の計画(全体) 基本的に毎回、卒業論文の完成に向けた研究指導を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文(60%) , 研究報告(20%) , ディスカッションへの参加度(20%)

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	澤喜司郎				

授業の概要 卒業論文の完成を目指して研究報告を行う。

授業の一般目標 卒業論文を完成する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	河野真治				

授業の概要 卒業論文を書き上げるために、テーマ設定、論文の書き方、資料の収集方法、などについて指導する。

授業の一般目標 立派な卒業論文を書くこと。

授業の計画(全体) 毎回卒業論文の中間報告を行う。

成績評価方法(総合) 卒業論文の内容で評価する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	田淵太一				

授業の概要 卒業論文を完成させるまでの、テーマ設定、資料調査、執筆、修正の各段階を個別に指導する。

授業の一般目標 4年間の大学生活の集大成である卒業論文を完成させること。

授業の計画(全体) 各人の進路決定状況に合わせて個別に指導する。

成績評価方法(総合) 卒業論文で評価する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	陳建平				

授業の概要 卒業論文の作成とそれに関連する学習

授業の一般目標 卒業論文の完成

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：卒業論文の作成法、卒業論文のテーマに関わる知識を有すること。

思考・判断の観点：資料の収集、整理ができ、論理的思考能力を有すること。 態度の観点：授業の出席、議論に積極的に参加すること。

授業の計画(全体) 卒業論文の完成を目標に研究や報告、討論を行う。

成績評価方法(総合) 授業態度や授業への参加度 = 40% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 60%

教科書・参考書 教科書：必要に応じて別途指定する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	松井範惇				

授業の概要 これまでに、各自が決めた卒業論文の題目、章立て、節、文献研究、調査事項に沿って、それぞれ、研究、執筆を進めていく。全体で、または、個別に指導教員との懇談、発表、討論を通じて論文を完成させていく。

授業の一般目標 論理一貫した、面白い研究をし、新しい発見、その整理を通じて、論文を書くこと、発表することの楽しさを学んでいく。

授業の計画(全体) 毎週の討論。

成績評価方法(総合) 論文の完成度、論理一貫性、表現の明確さ。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	李海峰				

授業の概要 ・1年間をかけて卒業論文を作成する。 ・卒業論文の作成基本方法から論文の構成、まとめ方について指導する。 テーマ選定、参考文献資料の収集、論文の仮説、データの収集、分析、結論、今後の課題/検索キーワード 卒業論文の作成、

授業の一般目標 研究課題、参考文献資料の収集、論文の仮説、データの収集、分析、結論、今後の課題などについて指導し、優秀な卒論を書かせることを目標にしている。

教科書・参考書 参考書：参考書リストは配布します

メッセージ おもしろい知的な道を探求しましょう！

連絡先・オフィスアワー 研究室

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	平中貫一				

授業の概要 卒業論文の完成を目標に発表等の指導を行う。

授業の一般目標 卒業論文の完成。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：民法に関する専門的知識の修得。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	柳澤旭				

授業の概要 各自、論文テーマを決め、文献を収集し進捗状況を順に毎週報告する。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	上杉信敬				

授業の概要 行政法に関する諸問題。すでに2年間行政法に関して学習してきた。その上に立って、その中から各自自分の興味を引くテーマを絞り込んでそれに関して深めていく。さらにそれと平行して、胸中の問題領域に関してさらに学習を深めていく。どのようなものに行うかは協議して決める。

授業の一般目標 4年間の学習を総括するつもりで、行政と法に関して、あるテーマに関して卒論にまとめ上げる。さらに他に人のテーマやその他行政法に関して一定の理解をもつ。ゼミ生間の交流も行う。

成績評価方法(総合) 年度末の提出論文の評価が大部分である。その他演習時の発表や出席状況。

教科書・参考書 教科書：ゼミの開始の際に相談して決める。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	立山紘毅				

授業の概要 演習 I 及び演習 II での研究を基礎として、そこですくいきれなかった問題や、さらに発展させた課題について、個別に、あるいは演習参加社との討論を通じて卒業論文の執筆につなげます。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	青柳 達朗				

授業の概要 卒業論文の作成について必要な助言を行う。

授業の一般目標 学生の一本立ちを期待する、

メッセージ 就職活動で大変でしょうが頑張ってください。

連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	渡邊幹雄				

授業の概要 前年度までの成果を受けて、卒論を作成する。また、作成の指導をする。

授業の一般目標 卒論を完成させる。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	中村美紀子				

授業の概要 本演習では、前期において演習Ⅱに引き続き会社法判例を扱います。あらかじめ割り当てられた判例について、報告者の報告にもとづいて討論を行います。後期からは、ゼミ生各々の卒業論文作成に入ります。／検索キーワード 会社法・企業法・企業組織法

授業の一般目標 会社法について自らのテーマをもったゼミ生が卒業論文を作成します。

授業の計画(全体) 演習開始時にゼミ生と相談して決めたいと思います。

成績評価方法(総合) (1) 割り当て箇所の記事をどのように工夫して行ったか、(2) レジユメの作成についての工夫および提出期限の遵守、(3) 討論への参加の度合い、について自主性(各15%×3)と発展性の観点(各15%×3)から評価し、そこにゼミへの貢献度(10%)を加味します。

教科書・参考書 教科書：テキストブック新「会社法」、末永敏和[編著]、中央経済社、2005年 / 参考書：最新重要判例200商法、弥永真生、弘文堂、2004年

メッセージ 2006年六法必携です。欠席が避けられない場合は事前に直接連絡することをルールとします。

連絡先・オフィスアワー 研究室C棟209、オフィスアワー火曜日 10:20 11:50。

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	陳禮俊				

授業の概要 今日では、人類の生産力(対自然支配力)はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるというよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。

授業の一般目標 演習Ⅰ・演習Ⅱで習得した知識を土台に、より高度な環境経済学に関わる文献を輪読・討議しながら、独創的な研究論文を執筆する能力を高める。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。 思考・判断の観点：環境問題を解決するための方策を考える。 関心・意欲の観点：環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。 態度の観点：積極的に出席し討議する。 技能・表現の観点：経済学知識を応用する。 その他の観点：他分野の知識との関連を探る。

授業の計画(全体) ゼミ受講者を主体に、関心を持つ議題を討議した上、文献・書籍を選択し執筆計画を立てる。

メッセージ 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。

連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 A302室 電話:083-933-5526 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	TIMOTHYROLAND SCOTT TAKEMOTO				

授業の概要 (文化) 心理学的な論文を書くように頑張りましょう。皆さんが心理学専攻ではないことを考慮いたします。また、皆さんが発表者の本や心理学の入門書を読んできたら問題なく卒論がかけると思います。

授業の一般目標 卒論の完成に尽きる。

メッセージ いつでも質問してください。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	有田謙司				

授業の概要 卒業論文の作成へ向けて、各自がその準備として、論文のテーマに関する報告を行う。 / 検索キーワード 卒業論文

授業の一般目標 卒業論文の完成。

教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。 / 参考書：開講時に指示する。

メッセージ 卒論の完成に向けてしっかりと準備を進めること。

開設科目	卒業論文演習	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	松浦良行				

教職に関する科目等

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝沢 潤				

授業の概要 教員免許状の取得を希望する者に対して、教師をとりまく状況、教職の意義、魅力、教員の役割、職務内容、組織としての学校、教職観の変遷等について講義する。/ 検索キーワード 教師、教育職員、学校教育、教員免許状

授業の一般目標 (1) 教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解し、教員の役割、職務内容等についての基礎的な知識を習得する。(2) 自己の教師としての適性を考えさせるとともに、教職への意欲や一体感の形成を促す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解する。教員の役割、職務内容を説明できる。思考・判断の観点：教師をとりまく状況、教職の役割等について検討することができる。関心・意欲の観点：教職について関心をもち、その意義と役割を主体的に考えることができる。様々な観点から自己の教師としての適正を考えることができる。態度の観点：教師を巡る諸問題について、論理的、協調的な議論ができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 授業の目的・概要の説明、教師とは誰か？ 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 教師－生徒関係
- 第 3 回 項目 教科等の指導
- 第 4 回 項目 子どもの学ぶ意欲を伸ばす
- 第 5 回 項目 学級経営と教師
- 第 6 回 項目 生徒指導
- 第 7 回 項目 家庭・地域社会と学校
- 第 8 回 項目 教師の問題行動とメンタルヘルス
- 第 9 回 項目 学校の管理・運営と教師(1)
- 第 10 回 項目 学校の管理・運営と教師(2)
- 第 11 回 項目 教員の身分と服務(1)
- 第 12 回 項目 教員の身分と服務(2)
- 第 13 回 項目 教師の資質向上
- 第 14 回 項目 学校像の再構築
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) (1) 授業の中で小テストを行う。(2) 期末試験の論述問題をあらかじめ提示し、解答案を作成させる。(3) 最終回に期末試験を行う。

教科書・参考書 参考書：適宜指示する。

開設科目	教育原論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝沢 潤				

授業の概要 公教育の歴史的展開を中心に、教育の思想・方法、教育の機能、教育制度、現代の教育改革の意義と課題について講義する。

授業の一般目標 教育・学校の思想、歴史、制度について、複眼的かつ論理的に考察する能力、意欲・関心を喚起することを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：公教育の歴史、思想、機能および制度に関する基本的な知識を習得する。思考・判断の観点：公教育の歴史、思想、機能および制度について、複眼的かつ論理的に考えることができる。

授業の計画（全体） 公教育の歴史的展開について、その理念、主要な教育方法、制度の側面から説明する。それらを踏まえ、現代の教育行政の原理や組織、教育財政、教育改革について講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakション 内容 義務教育とは何か
- 第 2 回 項目 イニシエーションとしての教育と学校の成立
- 第 3 回 項目 西洋の学校の歴史（1）
- 第 4 回 項目 西洋の学校の歴史（2）
- 第 5 回 項目 近代教育の思想と方法
- 第 6 回 項目 日本の学校の歴史
- 第 7 回 項目 教育の機能 / 階級・階層の再生産（1）
- 第 8 回 項目 教育の機能 / 階級・階層の再生産（2）
- 第 9 回 項目 教育の機能 / ジェンダーの再生産
- 第 10 回 項目 教育行政の基本原則と組織（1）
- 第 11 回 項目 教育行政の基本原則と組織（2）
- 第 12 回 項目 教育財政
- 第 13 回 項目 生涯学習
- 第 14 回 項目 現代の教育改革 / 教育の自由化と学校選択
- 第 15 回 項目 期末テスト

教科書・参考書 参考書：教育のゆくえ，秋山弥・作田良三，北大路書房，2003 年

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田 権一				

授業の概要 「教育の目標は倫理学で、方法は心理学で体系づけられる」としたヘルバルトの考えがある。受講者が、将来、教育現場で教育実践効率化のために活かせるような、心理学の実証的知見や具体例を挙げて説明する。授業外レポートとして、当日指名された受講者は、その時間のテーマについて、ノートを作成させ、考察した内容（ノートレポート）を提出することになる。 / 検索キーワード 教育, 心理学, 発達, 学習, 人格, 学級経営, 評価

授業の一般目標 (1) 受講者が、教職を目指す者として教育心理学的問題への関心や理解を深めることを目指す。(2) 身近かな問題として理解するだけでなく、専門としての立場から具体的に考える契機、文書表現の契機となることを目指す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 教育心理学各領域の基礎知識を説明できる。 思考・判断の観点：1. 生徒の立場を把握し、教師の立場から適切な判断できる。 関心・意欲の観点：1. 問題意識を高めることができる。 態度の観点：1. 日常生活の中で主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：1. 身近な問題を文書表現できる。

授業の計画（全体）教育と心理学、教育心理学研究法、被教育者としての生徒の発達、家庭教育、認知と学習、人格と防衛機制、学級経営とリーダーシップ、教育評価の種類と方法、について、順に、各テーマを1～3回に分けて、説明する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 教育と心理学 < BR > 教育心理学の定義 授業外指示 ノートレポートの書き方
- 第 2 回 項目 心理学研究法
- 第 3 回 項目 被教育者について 内容 発達段階 ほか
- 第 4 回 項目 家庭教育 内容 親子関係 ほか
- 第 5 回 項目 学習 内容 学習の原理
- 第 6 回 項目 学習 内容 VTR (学習の原理)
- 第 7 回 項目 学習 内容 授業理論
- 第 8 回 項目 人格 内容 生徒指導と人格理論
- 第 9 回 項目 人格 内容 適応と防衛機制
- 第 10 回 項目 人格 内容 VTR (スクールカウンセラー)
- 第 11 回 項目 学級経営 内容 集団の理解
- 第 12 回 項目 学級経営 内容 リーダーシップ
- 第 13 回 項目 教育評価 内容 評価の意味と種類
- 第 14 回 項目 教育評価 内容 指導要録
- 第 15 回 項目 討論

成績評価方法（総合）(1) 所定以上の出席状況（欠格条件）、(2) レポート課題（電子メールによる提出も可）、(3) 授業最後に実施するテスト結果。 これらを資料として評価する。

教科書・参考書 教科書：心理学から見た教育の世界, 藤土圭三（監修）, 北大路書房, 1994 年

連絡先・オフィスアワー E-mail: tasaki@frontier-u.jp

備考 集中授業

開設科目	教育法規	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝沢 潤				

授業の概要 日本の教育制度を規定する法令・規則について講義する。日本の教育・学習体系の基礎となっている生涯学習の概念と、学校教育制度について概観したあと、教育を受ける権利、教育課程、児童生徒の在学管理と懲戒、教育職員、教育行政、社会教育に関する法規について説明する。/ 検索キーワード 教育法規，生涯学習，教育制度，学校教育

授業の一般目標 (1) 日本の教育制度を規定する法規について基本的な知識を修得し、教育の各領域における法的な課題を理解する。(2) 教育に関わる諸問題について法的な観点から主体的に考えることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生涯学習，学校制度の要点を説明できる。教育制度を規定する様々な法令・規則について説明できる。思考・判断の観点：教育問題について法的な観点から検討することができる。関心・意欲の観点：教育問題について関心をもち、法的な観点から主体的に考えることができる。態度の観点：教育問題について法的な観点から、論理的、協調的な議論ができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 教育と法律 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 生涯学習の概念と意義 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 3 回 項目 日本の学校教育制度 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 4 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系(1) 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 5 回 項目 教育を受ける権利の保障と法体系(2) 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 6 回 項目 教育課程の編成と法規(1) 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 7 回 項目 教育課程の編成と法規(2) 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 8 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規(1) 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 9 回 項目 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規(2) 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 10 回 項目 <小テスト>
教育職員の職務と法規(1) 授業外指示 小テストを実施するので、前回までの内容を復習しておくこと。教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 11 回 項目 教育職員の職務と法規(2) 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 12 回 項目 教育行政の推進と法規(1) 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 13 回 項目 教育行政の推進と法規(2) 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 14 回 項目 社会教育の推進と法規 授業外指示 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) 最終回に期末試験を行う。

教科書・参考書 教科書：生涯学習時代の教育と法規，田代直人編，ミネルヴァ書房，2003年 / 参考書：適宜指示する。

メッセージ 教科書を必ず購入すること。

開設科目	教育方法学(教育課程, 情報機器及び教材を含む。)	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岸 光城				
<p>授業の概要 高等学校・中学校における「各教科」、「総合的な学習の時間」の授業実践を視野にいれて、その教育作用の全体構造を概観しつつ、授業における教育方法を具体的に説明する。 / 検索キーワード 教育方法, 授業, 教育課程</p> <p>授業の一般目標 (1) 学校における「授業」の意義・役割を理解する。 (2) 授業における指導方法の基本を具体例を通して学ぶ。 (3) 現代教育方法理論を理解する。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 各指導方法がイメージできる。 思考・判断の観点: 本授業内容を自己の過去の授業体験と結びつけて考えることができる。 関心・意欲の観点: 学校の授業に対する問題意識と興味関心を高めることができる。 態度の観点: 将来の授業実践を意識して大学生生活・学習への取り組み姿勢を高めることができる。</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目「教育」とはなにか 内容 林竹二「授業巡礼」の視聴 第 2 回 項目 学校教育作用の構造 内容「教授」と「教育」のバランスと協同 第 3 回 項目 高等学校教育課程の基本 第 4 回 項目 授業設計の方法 内容「学習指導案」の基本と実例 第 5 回 項目 授業形態と指導方法 I 内容 一斉授業 第 6 回 項目 授業形態と指導方法 II 内容 小集団指導 第 7 回 項目 授業形態と指導方法 III 内容 個別指導 第 8 回 項目 授業形態と指導方法 IV 内容 録画授業の視聴 第 9 回 項目「総合的な学習の時間」の意義、実践事例 第 10 回 項目 教育機器の活用 第 11 回 項目 現代教育方法理論 I 内容 デューイの問題 解決思考論 第 12 回 項目 現代教育方法理論 II 内容 デューイの教育方法論 第 13 回 項目 現代教育方法理論 III 内容 ブルーナーの教育方法論 第 14 回 項目 現代教育方法理論 IV 内容 ブルーナーの教育課程論、学習意欲論 第 15 回 項目 試験</p> <p>成績評価方法(総合) 1. 毎回の出欠確認 2. 授業内レポート(数回) 3. 録画授業感想文 4. 最終定期試験</p> <p>教科書・参考書 教科書: なし / 参考書: 随時紹介する</p> <p>メッセージ 少なくとも受講中は、間もなく高等学校(中学校)の教師として授業するのだという姿勢で、聞き考えて欲しい。</p> <p>連絡先・オフィスアワー Tel. 090-1189-8047 (携帯)</p>					

開設科目	中等公民教育論 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

授業の概要 憲法改正問題をとりあげ、9.11以降の公民教育・平和教育の課題を、生徒の世界認識、平和認識と関わらせて探る。/ 検索キーワード 平和教育 国際平和 イラク戦争 日本の役割 憲法9条

授業の一般目標 1. 9.11以降の公民教育・平和教育の課題について意見を持ち、討論することができる。2. 独自の立場から、憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和に関する社会科・公民教育の課題を提案できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 憲法前文・9条を中心に憲法改正問題を取り上げ、日本および世界の平和について、テーマを選び教材研究をすることができる。 思考・判断の観点： 憲法改正問題について独自の意見をまとめ、討論することができる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 1
- 第 3 回 項目 憲法改正問題をどう捉えるか 2
- 第 4 回 項目 憲法改正に対する生徒の意識
- 第 5 回 項目 教材研究レポート課題の設定
- 第 6 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 7 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 8 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 1
- 第 9 回 項目 自衛隊の役割をどう考えるか 2
- 第 10 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 1
- 第 11 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 2
- 第 12 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 3
- 第 13 回 項目 中・高生の意識実態と平和教育の課題
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 授業態度や授業への参加度 = 20 ~ 40 % 受講者の発表 (プレゼンテーション) や授業内での制作作業 (作品) = 40 ~ 60 %

教科書・参考書 教科書： なし 適宜プリント配布する。 / 参考書： 当面なし

連絡先・オフィスアワー 外山英昭： E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	商業科教育法	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古堤一三				

授業の概要 「商業科教育法」という言葉の中の「商業科」の「科」は「教科」を意味する言葉です。学校教育の中で「教科」とは何か、教科「商業」はどのような分野を対象とし、またそれはどのような内容を含むのか。教科「商業」の各分野について、主として、明治期以降の我が国の社会性や歴史性をも考慮の上に、高等学校における教科「商業」教育の専門性の意味するところを踏まえながら、その内容とあわせて教師に求められる指導のあり方を学習する。 / 検索キーワード 学習指導要領、教科、科目、学科、教科「商業」、教科「商業」の各分野及び専門性

授業の一般目標 1. 学校教育改善の動きの中で、その目指すところを的確に把握し、教育の現場にも幅広く対応できるよう配慮しながら、教科教育のあり方についての認識を深め、あわせて人格の向上への意欲を涵養する。 2. 平成11年3月告示の「高等学校学習指導要領」は、教科「商業」の目標について、前年7月の教育課程審議会によって示された「経済の国際化やサービス化の進展に対応する観点から、ビジネス教育の視点を明確にする」とした「商業の改善の基本方針」を踏まえ、「商業教育のねらいを、継続教育を視野に置いた専門性の基礎・基本の教育に重点を移す」とした大幅な改定を見たが、生涯学習の視点を踏まえた「将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本」の理解とあわせて教職の使命と特殊性についての自覚を促す。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 適切な判断を導く上で必要な基礎・基本の知識を身に付けている。 思考・判断の観点： 1. 異なる社会や時代の与件のもとでの適切な推論ができる。 関心・意欲の観点： 1. 新たな未経験・未知の分野の学習に対し積極的な取り組みの姿勢がある。 態度の観点： 1. 不十分な分野を自覚し、姿勢を変えようとする柔軟性を持つ。 技能・表現の観点： 1. 課題のまとめに際して、適切・有効な図表などの作成・挿入ができる。

授業の計画(全体) 主として、1. 学校教育と教科 2. 教科「商業」の目標の変遷に見る内容の捉え方に対する視点やその表現方法の変化と、商業科目の変遷及びその背景 3. 現行教科「商業」の目標の改善点と留意点 4. 教科教育と教育法 5. 学習指導計画と教育実践及び評価 6. 学習指導案の作成 7. 教科「商業」の学習と生涯学習 8. 教員の使命と教職の特殊性・専門性 などの内容を取り上げて授業を進めるが、この他に宿題・授業外レポートとして「ビジネス基礎」、「簿記」、「情報処理」などの学習指導案を作成し、提出する。 なお、指導案の作成に際して教科書の内容などについての理解に不安がある場合には申し出てください。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 1. 学校教育と教科 内容 (1) 教育の目的と学校教育 (2) 高等学校の目的・目標と各教科の目標 (3) 教科「商業」の目標とビジネス教育
- 第2回 項目 同上 内容 (4) 教科「商業」の組織 (5) 教科「商業」の各科目の目標と内容
- 第3回 項目 2. 教科「商業」の目標の変遷に見る内容の捉え方に対する視点やその表現方法の変化と、商業科目の変遷及びその背景 内容 (1) 戦後の復興期 (昭和20年代) (2) 自立期 (昭和30年代)
- 第4回 項目 同上 内容 (3) 高度成長期 (昭和40年代) (4) 転換期 (昭和50～平成元年代)
- 第5回 項目 同上 内容 (5) 変革期 (平成10年代)
- 第6回 項目 3. 現行教科「商業」の目標の改善点と留意点 内容 (1) ビジネス教育の視点 (2) 全般的改善点と留意点
- 第7回 項目 4. 教科教育と教育法 内容 (1) 教科教育と教育法 (2) 学習指導方法論 1
- 第8回 項目 同上 内容 (2) 学習指導方法論 2 (3) 「知」の教育の中で人間性重視の学習指導
- 第9回 項目 5. 学習指導計画と教育実践及び評価 内容 (1) 学習指導計画の意義と種類 (2) 学習内容と指導目標の設定並びに評価の観点と留意事項

- 第10回 項目 6. 学習指導案の作成 内容 (1)「ビジネス基礎」の内容についてのガイダンスと学習指導案の作成 授業外指示 学習指導案の作成 (「ビジネス基礎」)
- 第11回 項目 同上 内容 (2)「簿記」の内容についてのガイダンスと学習指導案の作成 授業外指示 学習指導案の作成 (「簿記」)
- 第12回 項目 同上 内容 (3)「情報処理」の内容についてのガイダンスと学習指導案の作成 授業外指示 学習指導案の作成 (「情報処理」)
- 第13回 項目 7. 教科「商業」の学習と生涯学習 内容 (1) 完成教育と継続教育 (2) 商業教育における専門性 (3) ビジネス活動と人格の陶冶
- 第14回 項目 8. 教員の使命と教職の特殊性・専門性 内容 (1) 教員の使命 (2) 教職の特殊性・専門性
- 第15回 項目 期末テスト

成績評価方法 (総合) 1. 学期末試験・提出物で評価する (定期試験: 100 x 2/3, 宿題・授業外レポート: 100 x 1/3)。授業への参加度は出席率を加味して、一定の基準により約 3%以内での加減調整を行う。

教科書・参考書 教科書: 特定の教科書は使用しないが、講義への手引きを配布する。/ 参考書: 高等学校学習指導要領, 文部省, 大蔵省印刷局, 1999年; 同解説総則編, 文部省, 東山書房, 1999年; 同解説商業編, 文部省, 実教出版, 2000年; 文部省検定教科書「ビジネス基礎」, 片岡寛他, 実教出版, 2002年; 同上「高校簿記」, 同上「最新情報処理 21」, 新井清光他, 中沢興起他, 実教出版, 2002年; プリント類は必要に応じて随時配布する。他に、参考書としては、吉野 弘一著『商業科教育法』2003年、実教出版

メッセージ 教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢を示して欲しい。履修については、2年次以降がのぞましい。

開設科目	特別活動	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	杉山 直子				

授業の概要 本授業では、学校教育で教科外活動に位置する特別活動について、その意義と実践のあり方について考察する。意義を考える中で、教育・子どもに関する現代的問題、子どもの発達と教育の関係について理解を深め、教育の機能・構造について、学ぶ。そして、その中の訓育について理解を深め、学校教育における特別活動の目標・内容・方法を考察する。 / 検索キーワード 訓育, 教科外活動, 学校行事, 生徒会活動, 学級活動

授業の一般目標 (1) 人間の発達における教育の必要性、目的、方法を理解する。 (2) 教育の機能と領域について理解する。 (3) 学校教育における特別活動の意義、方法を理解し、望ましい指導のあり方について考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教育、その機能、目的、方法と特別活動について説明できる。

思考・判断の観点： 1. 自己の教育体験を客観化できる。 2. 理論をもとに思考・判断できる。 関心・意欲の観点： 1. 講義をもとに教育に関心を持ち、問題意識を持つことができる。 態度の観点： 1. 講義に集中し思考する態度がとれる。 2. 集団活動に参加できる。 技能・表現の観点： 1. 集団活動で、他者と自分、集団と自分を意識し行動できる。

授業の計画(全体) 第1章 人間の発達と教育 1、人間の発達と教育の関係 2、教育の構造 3、学校教育における陶冶と訓育 第2章 学校教育における「特別活動」の意義 1、学校教育における「特別活動」の変遷 2、現学習指導要領における「特別活動」 第3章 「特別活動」の指導のあり方 1、個の受容と教育的要求 2、望ましい集団のあり方 3、子どもの自己活動を引き起こす指導のあり方

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 本授業の概要と注意事項
- 第 2 回 項目 人間の発達と教育(1) 内容 人間の発達と教育の関係ーヒトと人間ー 授業外指示 これまでの教育に関する授業を思い起こす。
- 第 3 回 項目 人間の発達と教育(2) 内容 人間とは 授業外指示 人間らしさ、人間の独自性について、様々な領域で考えてみる。
- 第 4 回 項目 人間の発達と教育(3) 内容 環境と子どもたちの発達の問題 授業外指示 現在の子どもたちの環境を知る。
- 第 5 回 項目 「話し合い」活動 内容 現代の子どもたちについて気づくことを話し合う。 授業外指示 意見を出すための情報収集
- 第 6 回 項目 教育の構造(1) 内容 教育に関する歴史的把握と構造 授業外指示 陶冶と訓育について、具体的にイメージする。
- 第 7 回 項目 教育の構造(2) 内容 陶冶と訓育
- 第 8 回 項目 学校教育の構造 内容 教科と教科外活動 授業外指示 学習指導要領に目を通す。
- 第 9 回 項目 学校教育における特別活動の意義(1) 内容 特別活動の歴史的変遷
- 第 10 回 項目 学校教育における特別活動の意義(2) 内容 現学習指導要領における教育課程の基準 授業外指示 「生きる力」について考えてみる。
- 第 11 回 項目 学校教育における特別活動の意義(3) 内容 現学習指導要領における特別活動の目標・内容 授業外指示 自己の特別活動としての教育体験を思い起こす。
- 第 12 回 項目 特別活動の指導のあり方(1) 内容 個の受容と教育的要求
- 第 13 回 項目 特別活動の指導のあり方(2) 内容 方法原理である望ましい集団の組織方法 授業外指示 集団遊び、討議などについて思い起こす。
- 第 14 回 項目 特別活動の指導のあり方(3) 内容 子どもの自己活動を引き起こす指導のあり方
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) (1) 授業の中で、授業内レポートを数回行う。(2) 最後に試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：中学校学習指導要領, 文部科学省, ; 高等学校学習指導要領, 文部科学省, ; 上記の書物は、主に第2章で使用。第1章・第3章はプリントを配布。 / 参考書：プリントを資料として使用する。その他参考文献は、授業中に指示。

メッセージ 子どもに関する情報に関心を持って欲しい。

開設科目	生徒指導概論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	赤羽潔				

授業の概要 今日、学校の児童生徒をめぐる現状は日々大きく変化している。その中で、中学・高校生の思春期から青年期にかけての発達課題に、教師は、また学校はどのように向かい合えばよいのかを探る。一方では、理論的にその視点や方法、原理的構造を学ぶ。他方で、実践記録の分析を通してそれらを探る。可能な限り、グループ学習、グループ間討論を組み立ててその内容を共同で探ると共に、対話・討論・討議の実践的力をも養うことを課題とする。/ 検索キーワード 生徒指導、生活指導、発達、文化、子ども、教師

授業の一般目標 1 「生徒指導」「生活指導」概念の問いなおしをする。 2 学びを通して、コミュニケーションの実践的能力を培う。 3 子どもとともに拓く「生徒指導・生活指導実践」とは何かを考えていく。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：生徒指導の基本理念・基本概念・基本方略を理解すること。 思考・判断の観点：自らの言葉で「生徒指導・生活指導」について発言・論述できること。 関心・意欲の観点：授業中に様々な課題に積極的に呼応できること。 発言・記述・グループ討議等。 態度の観点：積極的に考え、交流、発表すべく行動表現すること。 技能・表現の観点：発言・記述・討論への参加。 その他の観点：「探求的授業を共同で創る」という視点から、遅刻せず出席すること。

授業の計画(全体) 1 今日学校の現状 (1)「生徒指導・生活指導」で連想すること、その体験。 (2)現代の小学校の現状 その課題 (3)現代の中学校の現状とその課題 (4)現代の高等学校の現状とその課題 2 思春期のころとからだ…実践記録から 3 生徒指導の苦悩と可能性 4 生徒指導の基本理念の理解とその問い直し 5 生徒指導の実際 - 子どもと話す、子どもの声を聞く 6 学校教育相談 - スクールカウンセリングから見えてくるもの

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 基礎概念を問う 内容 「生徒指導」と「生活指導」のちがいを授業外指示 テキスト p 97-103 の通読
- 第 2 回 項目 概念の基本を問う 内容 体験世界にこめられた基本とズレ 授業外指示 以下、適宜、予め読んでおく部分についての指示を出す
- 第 3 回 項目 「教育」の本質と「生徒指導」 内容 集団の教育力について考える 授業外指示 以下、適宜、小論/小レポートを課す
- 第 4 回 項目 子どもの発達の筋道と教育の課題 内容 個人の発達と集団の発展の関係について考える
- 第 5 回 項目 人格形成過程を支える社会的なちから 内容 集団の教育力の再生の道を考える
- 第 6 回 項目 リーダーとは何か 内容 リーダーとフォロアーの関係について考える
- 第 7 回 項目 私的集団；共感と同調 内容 互いに認め合う関係の中に込められた未来への可能性と閉塞性について考える
- 第 8 回 項目 対話・討論・討議と自分づくりの道 内容 対話・討論・討議のような言語的關係にこめられた可能性と限界性を考える
- 第 9 回 項目 中学校 1 年生の実践記録を読む 内容 発達段階・問題状況・文化的背景・生育史的背景を押さえた上での指導/支援の妥当性・適切性を問う。
- 第 10 回 項目 中学校 2 年生の実践記録を読む 内容 発達段階・問題状況・文化的背景・生育史的背景を押さえた上での指導/支援の妥当性・適切性を問う。
- 第 11 回 項目 中学校 3 年生の実践記録を読む 内容 発達段階・問題状況・文化的背景・生育史的背景を押さえた上での指導/支援の妥当性・適切性を問う。
- 第 12 回 項目 高校 1 年生の実践記録を読む 内容 発達段階・問題状況・文化的背景・生育史的背景を押さえた上での指導/支援の妥当性・適切性を問う。

- 第 13 回 項目 高校 2 年生の実践記録を読む 内容 発達段階・問題状況・文化的背景・生育史的背景を押し
さえた上での指導/支援の妥当性・適切性を問う。
- 第 14 回 項目 高校 3 年生の実践記録を読む 内容 発達段階・問題状況・文化的背景・生育史的背景を押し
さえた上での指導/支援の妥当性・適切性を問う。
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 授業内容にかかわる論述試験を行う
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) (1) 講義中に小論課題等を課す。(2) グループ討論のまとめをの提出を求める。(3) 特定テーマについて、A-4 一枚のレポートを課す。(4) 最後に試験を実施する。(5) 場合によっては、口述試験を行う。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位は与えない。

教科書・参考書 教科書：教育学を学ぶ, 柴田義松, 学文社, 2000 年; テキストに加えて、適宜プリントを配布する。/ 参考書：少年期不在, 竹内常一, 青木書店, 1998 年; 20 歳の精神に, 赤羽潔, 川島書店, 2002 年

メッセージ 教師の仕事は、生徒の可能性と対話すること。そこを目指して学ぶということは、自己の可能性と対話すること。それは、楽しいチャレンジである。その過程を、限られた時間ではあるが共同創造したい。

連絡先・オフィスアワー akabane@yamaguchi-pu.ac.jp

開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

授業の概要 現在の学校は、不登校、いじめ、非行など、さまざまな問題に直面している。その学校に生きる子どもたちに教師やスクールカウンセラーがどのように寄り添えば、彼らの心が育っていくかについて提言し、さらに障害児を含めた子どもたちの望ましい進路選択のあり方をさぐっていく。/ 検索キーワード 子どもに対する「支え」と「引き上げ」

授業の一般目標 学校にうまく適応できなかつたり、どのような進路を選べばよいか迷っている子どもたちに対し、教師としてどのようにサポートしていけばよいだろうか。学生自身の指針が描けるような講義にしたい。さらにそれぞれの子どもは、もっている問題も置かれている状況も違うので、そのケースに対応しうるような教育相談のセンスを養いたい。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：子どものもつ問題には、いろいろな見方ができることを学ぶ。特に個性の伸張と社会の成員としての資質の向上という相矛盾する課題を、子どもにいかにか克服させていくかが基本となる。そのためには、子どもを「支え」かつ「引き上げる」のせめぎ合いについて、教師自らが苦しみみだしていくことが大切である。さらに基本的な心理療法の知識についても修得したい。

思考・判断の観点：個々のケースにおいて、どのようなサポートの仕方があるかが判断できるような力を養いたい。 関心・意欲の観点：評論家的に子どもを評価するのではなく、個々のケースに沿った深い見方ができるようになりたい。 態度の観点：今までの見方をあえて変えてみるような勇気を求めたい。

授業の計画（全体）子どもの個性の伸張と、社会の成員としての資格をいかに融合させていくことが、結局子どもの成長を促していく。それをサポートする教師にはどのような姿勢が求められるかを詳しく解説していく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育相談と進路指導ガイダンス
- 第 2 回 項目 現代の子どもたちの特徴 - 問題となっていること -
- 第 3 回 項目 適応障害の診断と基準
- 第 4 回 項目 教育相談における - 「支え」と「引き上げ」およびそのせめぎ合い -
- 第 5 回 項目 子育てにおける「抱える」ということ
- 第 6 回 項目 スクールカウンセリングのあり方 - 小学校編 -
- 第 7 回 項目 スクールカウンセリングのあり方 - 中学校編 -
- 第 8 回 項目 現代の子どもにおける「キレル」ということ
- 第 9 回 項目 スクールカウンセリングのあり方 - 高等学校編 -
- 第 10 回 項目 学校における相談事例 1 - 不登校 -
- 第 11 回 項目 学校における相談事例 2 - 非行 -
- 第 12 回 項目 学校における相談事例 3 - 軽度発達障害 -
- 第 13 回 項目 教育相談における心理検査 1 - 検査とは -
- 第 14 回 項目 教育相談における心理検査 2 - 検査の用い方 -
- 第 15 回 項目 自己実現と進路相談

成績評価方法（総合）基本的には期末試験を重視するが、授業の途中で行う小テストや課題提出および出席も加えて総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：自作のテキストを配布します。（一冊 500 円） / 参考書：教室で生かすカウンセリングマインド - 教師の立場でできるカウンセリングとは、桑原知子、日本評論社、1999 年；生徒指導の知と心、山下一夫、日本評論社、1999 年

メッセージ 授業内容を理解しているかをチェックする小テスト、レポート課題を数回実施します。期末試験と同様に準備を怠らないこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 火曜日 18:00 ~ 19:00

開設科目	総合演習	区分	その他	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官	上杉信敬他 6 名				

授業の概要 現代社会におけるさまざまな法律問題を取り上げ、講義を行うとともに参加者のディスカッションを行うことにより授業を進めていきます。

授業の一般目標 さまざまな法律問題について、特に生活と関連のある問題を諸法領域においてみていくことにより、理解し、議論する能力を身に着けること。

授業の計画(全体) 講義の概要(授業計画)は以下のとおりですが、場合により、一部変更されることがあることをお断りしておきます。また、講義の順序も都合により変更されることがあります。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 担当者 上杉
- 第 2 回 項目 行政法と生活 1 内容 担当者 上杉
- 第 3 回 項目 行政法と生活 2 内容 担当者 上杉
- 第 4 回 項目 憲法と生活 1 内容 担当者 立山
- 第 5 回 項目 憲法と生活 2 内容 担当者 立山
- 第 6 回 項目 民法と生活 1 内容 担当者 油納
- 第 7 回 項目 民法と生活 2 内容 担当者 油納
- 第 8 回 項目 商法と生活 1 内容 担当者 中村
- 第 9 回 項目 商法と生活 2 内容 担当者 中村
- 第 10 回 項目 商法、経済法と生活 1 内容 担当者 吉川
- 第 11 回 項目 商法、経済法と生活 2 内容 担当者 吉川
- 第 12 回 項目 刑法と生活 1 内容 担当者 安里
- 第 13 回 項目 刑法と生活 2 内容 担当者 安里
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 担当者 上杉
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 毎時間の小レポートにより評価します。ただし 4 回以上欠席した場合には不合格とします。

教科書・参考書 教科書：特に指定しません。必要に応じてプリントを配布します。

開設科目	事前・事後指導	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	その他
担当教官					

授業の概要 高等学校での教育実習について、教育実習の目標の達成を確かなものとするため、教育実習前、教育実習後に行う指導である。主な内容は、次の通り。 事前指導：教育実習の意義・概要・指導方法等についての講義、レポート 事後指導：教育実習に関する発表やレポート、発表・レポートについての討議

授業の一般目標 1．教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につける。(事前指導) 2．教育実習を総括して、指導力の向上を図る。大学での学習と教育実習で得られた経験とを有機的に結合させ、新しい視点や課題を得る。(事後指導)

授業の計画(全体) 事前指導として、教育実習の意義・概要・指導方法等についての講義が行われる。事後指導は、教育実習後に、各教室、教育実践総合センターで行う。

成績評価方法(総合) 出席状況及びレポート等によって評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	教育実習(高)	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教官					

授業の概要 高等学校教諭免許(公民)に必要な教育実習を、高等学校において行う。

授業の一般目標 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。
3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 出身校等、高等学校において実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を通して、高等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	事前・事後指導	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	その他
担当教官	古堤 一三				

授業の概要 実習校に出向き学校教育を実際に体験する教育実習に備えるために本学の各学部の合同で実施する事前指導の後を受けて、特に教科「商業」免許状取得希望者を対象に日を改めて実施する事前、事後の指導です。 / 検索キーワード 教育職員免許法, 教育職員免許法施行規則

授業の一般目標 教育実習は、教職志望者が実際の現場に出向いて、教員の職務の一部を実際に担当することを通じて教育活動を体験することですが、この実習を通して下に示すようなねらいを認識するとともに、教員の使命及び教職の特殊性・専門性に対する自覚を深め、「教師自身が彼らと共に善さを求めて成長する存在でなくてはならない」ことに目を開かせ、真摯な気持ちで実習に取り組む姿勢を涵養する。

1. 教育理論を実証的に研究し、その深化をはかる。 2. 教員として必要な知識や技術、技能の習得とあわせて具体的な指導方法を習得し、指導力を身につけていく中で、実習生自身が生徒と共に成長する存在であることを認識する。 3. 教育の社会的役割を認識し、公教育に従事する者としての姿勢や態度、心がまえを身につけさせる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 教育実習の意義を理解し、実習生自身が行動の主体者であることを自覚する。 思考・判断の観点： 1. 公教育に従事する者としての自覚の上に適切な判断や行動ができる。 関心・意欲の観点： 1. 新たな未経験・未知の分野に対する積極的な取り組みの姿勢がある。 態度の観点： 1. 研究心を持ち、生徒と共に成長を目指そうとする前向きな姿勢・態度がある。 技能・表現の観点： 1. 教材を分かりやすく、系統立てて提示することができる。

授業の計画(全体) 公教育に従事する者としての責任を自覚し、絶えざる努力の中で実践力を身につけることにより、実習生自身が生徒と共に成長する存在であることを自覚できるよう真剣に取り組む姿勢や態度の涵養に資することをねらいとして、 1. 事前指導では主として、(1) 教育実習の意義 (2) 教員の使命と教職の特殊性・専門性 (3) 教育実習における留意事項 (4) 学習指導案の作成 (5) 教育実習における評価の観点 などを取り上げる。 2. 事後指導では主として、実習生全員による (1) 教育実習の態様 (2) 反省点及び学び考えたこと (3) 将来に向けての抱負 などについての体験発表を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 1. 事前指導 内容 (1) 教育実習の意義 (2) 教員の使命と教職の特殊性・専門性 (3) 教育実習における留意事項 (4) 学習指導案の作成 (5) 教育実習における評価の観点 授業外指示 実習校との打ち合わせ、諸連絡、実習関係提出物の指示

第 2 回 項目 2. 事後指導 内容 教育実習生による体験発表 (1) 教育実習に対する取り組みの姿勢や態度 (2) 反省点及び考えたこと (3) 将来に向けての抱負 (4) その他)

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法 (総合) 事前・事後指導についてのレポート、実習校における教育実習の評価などを中心に
おくが、他に、実習に関する諸提出物等をも参考にして総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書：特定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。 / 参考書：特定
のテキストは使用しないが、プリント類は、必要に応じて適宜配布する。参考書については、一般的なも
のをいくつか掲げる。『教育学入門』上下, 村井実, 講談社学術文庫, 1976年、『教育実習ハンドブック』,
教育技術研究会編, ぎょうせい 1993年、『教育実習の研究』改訂版, 教員養成研究会編著, 学芸図書, 2001
年、『教育実習を考える』, 岩本・浪本編著, 北樹出版, 2003年。

メッセージ 教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢を示してほしい。

備考 集中授業

開設科目	教育実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教官					

授業の概要 高等学校教諭免許(商業)に必要な教育実習を、高等学校において行う。

授業の一般目標 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。
3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。

授業の計画(全体) 出身校等、高等学校において実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を通して、高等教育に対する理解を深めていく。

成績評価方法(総合) 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

備考 集中授業

開設科目	商業教育論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古堤一三				

授業の概要 我が国における近代的商業教育は、我が国が近代国家の一員としてたつことを決意した 明治 期に導入され、その拡充・発展をみたものです。それはまた、経済発展の原動力となった科学的思考方 法とともに「知」の教育を推進するために体系化され組織された学校 制度とも大きな関わりを持っ ています。ここでは、先ず、我が国の歴史的・社会的背景を 考慮の上に我が国の商業教育についてみていき ます。次に、産業の発展著しい現代社会では、人のビジネスに関わる活動範囲の拡大とあわせて、その 専門性への要求が高まる中で「知」の学習だけでは十分でないところが沢山あります。知とあわせて情・ 意の教養が、また行動力と決断力が強く求められることがあった我が国の近代以前の教育を概観する中 に、商業教育における人格の陶冶の問題を考えていきます。 / 検索キーワード 学制、教育令、商業学校 通則、小学校令、中学校令、帝国大学令、高等学校令、実業学校令、専門学校令、教育基本法、学校教 育法、学習指導要領

授業の一般目標 我が国の教育の特質を、各時代が求めた人間像の中に概観するとともに、我が国に商業 教育が出現し、それが置かれてきた位置とあわせて、その背景を認識し把握するとともに、その内容・ 視点・方策などの中に新しい商業教育の方向を探る。とりわけ明治期以降の我が国の近代学校制度の確 立過程の中で、世界及び我が国の政治経済社会の変容と大きく関わりあいながら発展し、位置づけられ てきた我が国の教育制度の特色と、この間に生じたひずみを取り除く上での新しい視点や方策について、 また、専門性を発揮する上での 基盤を形作っている人格の陶冶の問題について考えます。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 適切な判断に導く上で必要な基礎・基本の知識を身につけてい る。 思考・判断の観点： 1. 異なる社会や時代の与件のもとでの適切な推論ができる。 関心・意欲の 観点： 1. 教育と職業生活との関わりに強い関心を抱き、現状での克服策に取り組む。 態度の観点： 1. 不十分な分野を自覚し、姿勢を変えようとする柔軟性を持つ。

授業の計画（全体） 主として、1. 教育の社会性、歴史性と商業教育 2. 近代以前の我が国の教育 3. 近代の我が国の教育と商業教育 4. 近代学校制度の完成と普通教育、専門教育 5. 我が国産業の発展・ 拡大の中での商業教育論 6. 現代の我が国の教育と商業教育 (1) 7. 現代の我が国の教育と商業教育 (2) 8. 商業教育と倫理 9. 商業教育の目指すところ などの内容を取り上げて授業を進めるが、機 械的な暗記ではなく、より長期的な視野に立った、広く高い立場からの思索の上に結論に導いていく態 度を身につけるよう頭の切り替えを望みます。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 教育の社会性、歴 史性と商業教育
- 第 2 回 項目 2. 近代以前の我が国 の教育 内容 (1) 上世の教育 (公家の教育 (2) 中世の教育 (武家の 教育)
- 第 3 回 項目 同上 内容 (3) 近世の教育 (町家の教育)
- 第 4 回 項目 3. 近代の我が国の教 育と商業教育 内容 (1) 国民教育思想の下での教育制度の構想
- 第 5 回 項目 同上 内容 (2) 文部省の設置と「学制」の頒布
- 第 6 回 項目 同上 内容 (3) 「学制」頒布後の我が国の教育 (「 商業学校通則」の制定に至る間の法制と 商業教育)
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 (4) 「 商業学校通則」の制定と商業教育機関の整備、拡充
- 第 9 回 項目 4. 近代学校制度の完 成と普通教育、専 門教育 内容 (1) 「小学校令」と初等教育 (2) 「中 学校令」と中等教育、高等教育 (3) 「帝国大学令」、「高等学校令」と高等教育
- 第 10 回 項目 同上 内容 (4) 「実業学校令」と中等商業教育 (5) 「専門学校令」と高等商業教育

- 第 11 回 項目 5. 我が国産業の発展・拡大の中での 商業教育論 内容 (中等教育における個別的・具体的実務性を中心とする教育内容と高等教育・最高教育における抽象的 (観念的) 論理性を中心とする教育内容との間の乖離の問題)
- 第 12 回 項目 6. 現代の我が国の教育と商業教育 (1) 内容 戦後の教育改革と商業教育: (1) 高等学校における商業教育 (2) 大学における商業教育
- 第 13 回 項目 7. 現代の我が国の教育と商業教育 (2) 内容 高度成長期以後の商業教育: (1) 経済の拡大の中での専門性の深化 (2) 情報化、国際化、サービス化の進展と内容の拡充 (3) ビジネスの発展に伴う経済社会の変容と商業教育 (ア. 商業教育における具体的実務性と抽象的論理性の乖離から融合へ イ. 生涯学習社会の到来と新しい専門性
- 第 14 回 項目 8. 商業教育と倫理 9. 商業教育の目指すところ 内容 (1) 産業社会と人間 (2) 自由主義社会と「社会的価値ないし目標」との関わりの中での商業教育 (1) 生涯学習社会の中での専門性の深化と人格の陶冶
- 第 15 回 項目 期末テスト

成績評価方法 (総合) 1. 学期末試験を中心に評価する。授業への参加度は出席率を加味して、一定の基準により約 3 % 以内での加減調整を行う。

教科書・参考書 教科書: 特定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。他に、プリント類は必要に応じて随時配布する。 / 参考書: 一般的なものとしては、河合・雲英・岡田・山田編著『新商業教育論』(第 7 版) 1997 年 多賀出版、石井・大橋・岡田・沢田編著『現代商業教育論』1991 年 税務経理協会。

メッセージ 教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢を示して欲しい。履修については、2 年次以降にするのが望ましい。

開設科目	職業指導	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	永田萬亨				

授業の概要 「労働」あるいは「職業」について意識化させていく活動をともなう職業指導の発展と、技術・職業教育の充実、整備の問題は密接不可分に結びついている重要な課題である。これまでの職業指導は、職業適性検査や個性の発見とかもっぱら心理学的な側面からのみ行われてきたきらいがあるが、それだけでは不十分と思われる。経済社会の発展・成長について職業生活はどうなるのか、技術革新の進展に伴って労働は、どのようにへんびうするのか、さらに職業や雇用はどのようになるのか等々、社会経済的側面も合わせて認識する必要がある。そのことを通し / 検索キーワード 学校から職業への移行、職業教育、生涯教育

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教育と貧困
- 第 2 回 項目 文部省の進路指導調査
- 第 3 回 項目 経済政策と進路指導
- 第 4 回 項目 職業指導運動の始まり
- 第 5 回 項目 日本の職業指導運動の体質
- 第 6 回 項目 労働時間
- 第 7 回 項目 賃金
- 第 8 回 項目 企業社会における能力主義管理
- 第 9 回 項目 職業高校
- 第 10 回 項目 各種・専修学校
- 第 11 回 項目 公共職業訓練
- 第 12 回 項目 企業内教育と熟練形成
- 第 13 回 項目 デマケーション
- 第 14 回 項目 職業教育と生涯学習
- 第 15 回 項目 まとめと試験

メッセージ 講義では、ビデオなど視聴覚教材を多用したいと考えているが、受講生は各種ルポタージュを読んでおくことが望ましい。教師側からの一方的な講義にならないように、受講生の主体的参加を希望している。

備考 集中授業